

収蔵史料目録五

かつらぎ町天野 丹生家文書目録

海南市黒江 尾崎家文書目録

総目次

凡例

和歌山県下郡市町村区画図

丹生家文書（かつらぎ町天野）

解題

目録

編年目録

尾崎家文書（海南市黒江）

解題

尾崎林太郎家文書目録

尾崎重光家文書目録

尾崎彌太郎家文書目録

人名索引

目録項目・整理番号対照索引

262 238 217 215 153 133

93 22 1

凡例

- 本目録は、収蔵史料目録の第五集『かつらぎ町大野 丹生家文書・海南市黒江 尾崎家文書目録』である。
- 本目録には、丹生家文書、尾崎家文書（尾崎林太郎家文書、尾崎重光家文書、尾崎彌太郎家文書）をおさめた。
- 本目録では、それぞれの資料群の内容と構造を考慮して項目を設定し、編成した。また、利用の便に供するために丹生家文書には編年目録、尾崎家文書には索引を付した。
- 各項目内の資料の配列順序は、原則として年月日順とし、年代が明記されているもの、干支・月・日等のみ記されているもの、年代不明のもの順に記載し、同年同日や年代不明の資料については資料番号順とした。なお、年代を推定した場合は該当する時期に掲載した。
- 目録は、原則として資料ごとに資料番号・標題・年月日・作成者・宛名・形態を記載し、必要に応じて備考を付した。
- 資料番号は整理時に付した番号で、閲覧申請等はこの番号で行う。
- 標題は、原則として原題を採り、原題のみでは内容が類推できない場合については内容にしたがって（ ）内に補足した。また、原題がない資料については、内容にしたがって（ ）内に記した。
- 標題欄中の「」は、編者が必要に応じて一括や綴りに与えた総称で、次行以降に枝番号等により詳細目録を付けている。
- 年月日は、原則として資料が作成された年月日とし、推定した場合は（ ）に記した。
- 作成者・宛名が多数であり欄内に全員を記入できない場合は、原則として適当と思われる名前を記し、それ以外は「外〇名」とした。
- 本目録掲載資料には同一文書の原本・写・案等が多数存在する。それらを区別するために、作成者の印がある場合は（印）、花押がある場合は（花）と記した。また、複数の作成者全てに印・花押のある場合には、（全印）（全花）と示したところもある。
- 形態は次のとおり記した。

状 …………… 折紙以外の一紙文書（継紙、切紙などを含む）

折紙

罫紙

縦帳

横帳

綴り …… こより等により複数の文書が綴られたもの

そのほか、必要に応じて封紙、封筒などと記した。

・備考については、特に欄を設けず標題欄中に*を付して記入した。

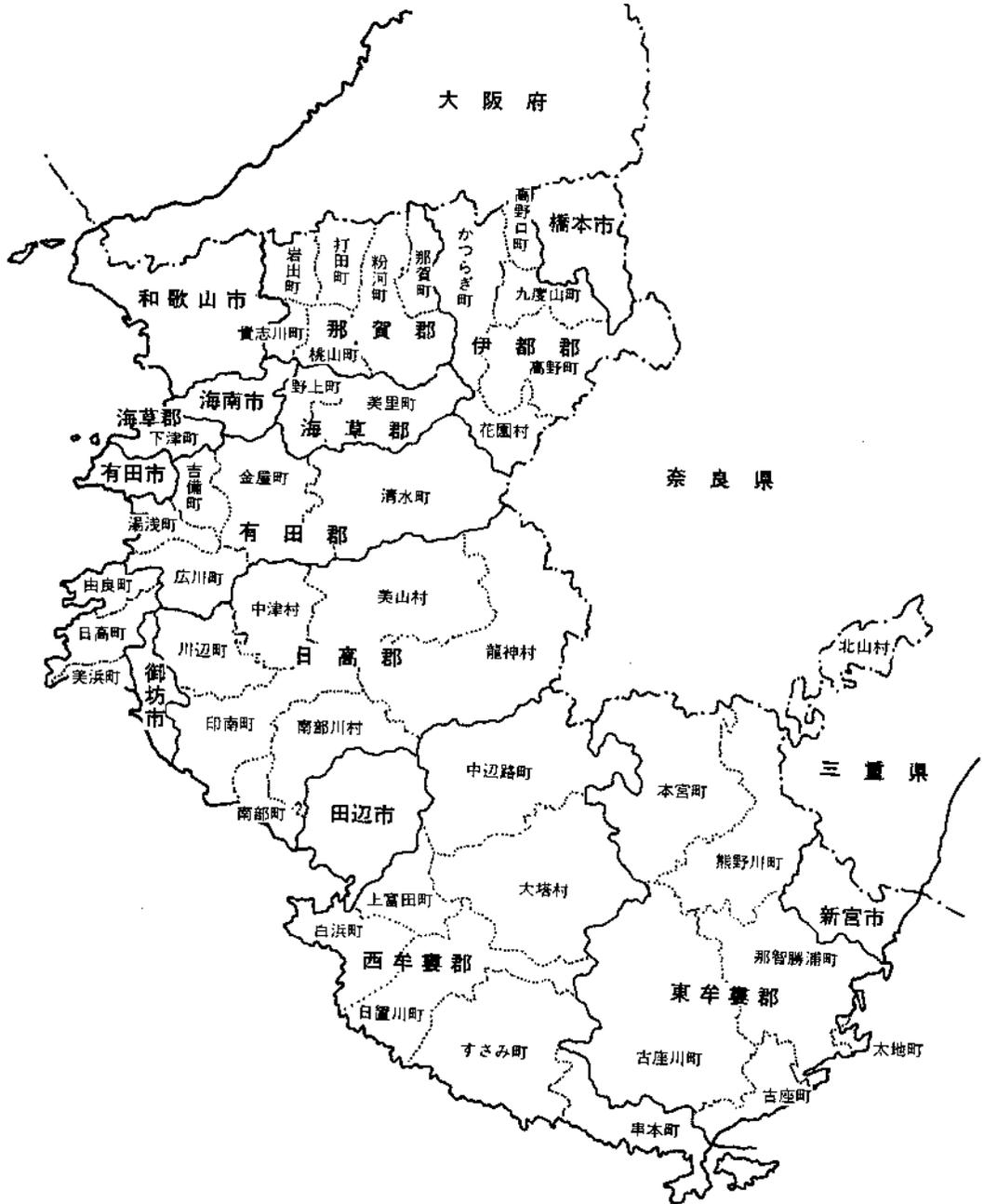
本目録においては、所蔵者名等を除き、原則として常用漢字を使用し、かな文字についても変体がななどはひらがなに改めた。

虫損などにより判読できない文字がある場合、字数を確定できるものは字数分を□で表し、字数不明のものは□□とした。

本目録に収録した資料は、未撮影の一部のものを除き、当文書館においてマイクロフィルム等の複製物による閲覧・複写が可能である。

本目録では、原本の記載にもとづいて職業・身分などに関する差別偏見を表現する用語をそのまま使用している場合もあるが、歴史的事実にもとづく客観的な研究をすすめるためであり、もとより不当な差別を容認するものではない。

和歌山県下郡市町村区画図



かつらぎ町天野 丹生家文書目録

目次

丹生家文書目録解題

一 伝来と受け入れの経緯	1
二 丹生都比売神社について	1
三 丹生家について	3
四 天野村について	6
五 資料群の概要と調査・整理について	7
六 目録編成について	8
七 保存箱について	18
八 関連物品資料について	18
九 その他の利用資料と参考文献	20

丹生家文書目録

卷子	22
丹生都比売神社	
由緒	33
宝物	33
年中行事	33
祭祀・祈禱	34
遷宮	35
社領支配・配当	36

丹生家

社領収納・下行	37
社家	38
日記	39
争論	40
高野山	41
旧記写	42
二之宮祝子	
祭祀	45
祈禱	46
惣神主代勤	46
祝詞	47
講	48
檀那	48
補任・社役入	49
配当米	49
日御供料	49
高室院御恩金	51
神道説	
吉田神道	51
三輪神道・御流神道	51
伊勢神道	53
その他	55
他社奉仕	

丹生家

下天野八幡宮.....

上天野岡村天満宮.....

下天野子聖権現.....

救良寺大明神.....

古佐布大明神.....

その他.....

争論.....

吉田家裁許状一件.....

相統願書・木祭神役ほか一件.....

二之宮代勤一件.....

社役滞り一件.....

南院様御供調進一件.....

久留里藩黒田家.....

書状.....

近代資料.....

丹生相見家

系図.....

資料目録.....

相続.....

婚姻.....

勤進・合力.....

年預拝借金.....

学侶行人相對勸化.....

76 75 75 74 74 73 72 71 66 66 65 65 63 60

装束・神事道具等勤進.....

明神講.....

売買貸借.....

頼母子.....

普請.....

水汲・道通し請書.....

争論.....

高野山御用

安楽川荘奥家尼岡争論.....

上州清水寺.....

巡検・登山.....

藪庄屋.....

差紙.....

年貢.....

大念仏講.....

書状.....

近代資料.....

天野村.....

その他.....

写本・版本.....

丹生家文書目録 編年.....

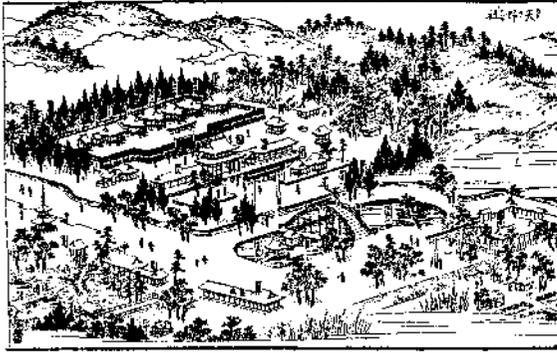
93 91 90 89 88 86 86 84 84 84 83 82 82 81 80 79 78 77 77

丹生家文書目録解題

一 伝来と受け入れの経緯

丹生家文書は、和歌山市東高松在住の丹生廣良氏所蔵資料六五五点（視番号による）の総称である。

丹生家は、伊都郡かつらぎ町天野に鎮座する丹生都比売神社の社家を勤めた家である。明治以前は丹生相見とも称し、丹生都比売神社第二殿の高野神子大神（高野明神）を祭る神職として代々丹生都比売神社に奉仕してきた。明治以降も丹生都比売神社・隅田八幡神社の神職を勤め、また一時期、伊都郡書記・天野村長の職にもあった。そのた



境内全景（『紀伊名所図会』より）

め丹生都比売神社の由緒・祭礼・社領や丹生家の神職活動に関する資料、明治以降の神職・官吏の辞令書等が残されている。

丹生家文書は長く天野の丹生家本宅の土蔵におさめられていたが、現当主丹生廣良氏が和歌山市へ転出された後、土蔵の破損や保管上の不安などから和歌山市内の自宅へ移されていた。

平成五年八月、文書館開館

丹生家

と同じくして県指定文化財となっている卷子十巻の寄託を受け、同年十二月には卷子六巻の、さらに平成七年十月には近世近代資料を中心に追加寄託を受けた。

二 丹生都比売神社について

丹生都比売神社は『延喜式神名帳』では名神大社に列し、月次祭・新嘗祭の奉幣に預かり、中世には一宮とも称された大社である。境内の朱塗りの反り橋をわたると、重要文化財に指定された楼門があり（写真1）、その奥に同じく重要文化財の四棟の本殿（写真2）がある。それぞれの本殿には、以下の祭神が祭られている。

第一殿 丹生都比売大神（丹生明神）

第二殿 高野御子大神（高野明神）

第三殿 大食都比売大神（氣比明神）

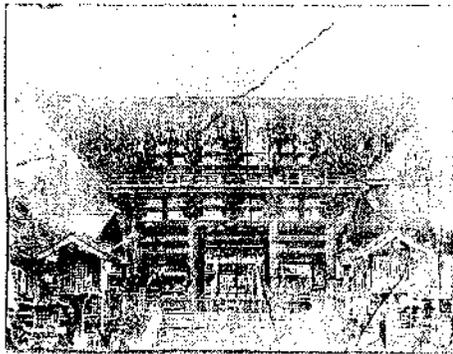


写真1 解体修理前の楼門（丹生廣良氏提供）



写真2 本殿

第四殿 市杵島比売大神（岐島明神）

丹生都比売神社の鎮座については不明な部分が多く（第三・四殿は承元二年八一二〇八V行勝上人の勸請と伝える）、『播磨國風土記』の逸文は、神功皇后の新羅征伐に神威を発し、紀伊國管川藤代峯（現高野町上筒香附近）に鎮座したと伝える。また丹生都比売神社に伝わる「丹生大明神告門」では、丹生都比売大神は庵田村の石口（かつらぎ町三谷の丹生酒殿神社といわれる）に降臨し、大和國紀伊國巡幸の後、天野の地に鎮座したと伝える。これらの伝承をもとに丹生都比売神社の創建について、丹生II水銀に注目し、水銀の発掘・生産にかかわる氏族との関係を指摘する説や、日前・国懸宮の司祭者であった紀氏とのかかわりを重視し、源祭祀の狩狐信仰に海神的性格を持つ丹生明神が習合し創建されたとする説等がある。

空海より弘仁七年（八一六）に金剛峰寺が開かれて以降は、丹生都比売神社と高野山は不可分の関係にあった。それは「御手印縁起」や『今昔物語』に見える丹生明神から弘法大師が神城を譲り受けたという伝承の存在からも明らかである。大きな流れを見れば、高野山は丹生都比売神社を支配下に組み込むことによって、自己の勢力の拡大をはかっていったのである。

天正十三年（一五八五）の豊臣秀吉の紀州攻めにさいしては、高野山はいち早く恭順の意を示し、また木食庇其の働きもあって戦火を免れた。天正十九年（一五九二）の高野山の検地の後、寺領として二万一千石が与えられ、慶安二年（一六四九）にさらに三百石が寄進され、二万一千三百石の石高が所領として確定する。丹生都比売神社に与えられていた種々の祭祀料や、弘安七年（一二八四）に元寇の恩賞とし

て寄進された近木荘（現大阪府貝塚市）は没収され、丹生都比売神社は高野山寺領からの配分を受けることになった。『紀伊続風土記』によれば、学侶方より一六五石五斗の、行人方より三六石一斗二升の配分を受けていた。

明治元年（一八六八）の一連の神仏分離令により境内の仏教施設は一掃され、丹生都比売神社は高野山から独立することになったが、相互の関係は今日まで続いている。明治六年（一八七三）に県社に列し、大正十三年（一九二四）には官幣大社に昇格した。

江戸時代には年五十三度の祭祀が執行されていたが、現在は祈年祭（二月十七日）花盛祭（四月第三日曜日）神遷祭（七月十八日）など年九度の祭祀が行われ、一月第三日曜（もと十四日）の「御田祭」（写真3）は県の無形民俗文化財に指定されている。

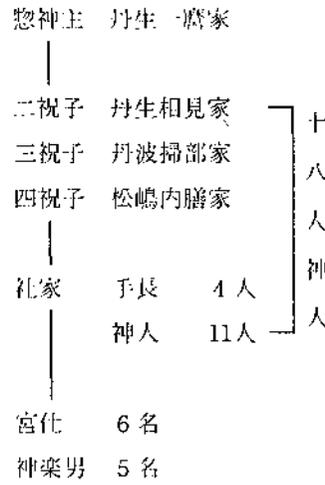
○

『日本書紀』神功紀に見える「天野祝」は丹生都比売神社にかかわる「ハフリ」（神職）と考えられるが、具体的な存在状況は分からない。応永三十二年（一四二五）の「和泉國近木庄相折帳」（『宝簡集十九』）になってようやく祭祀組織の一端を知ることができる。同資料によれ



写真3 御田祭 稲刈りの場面

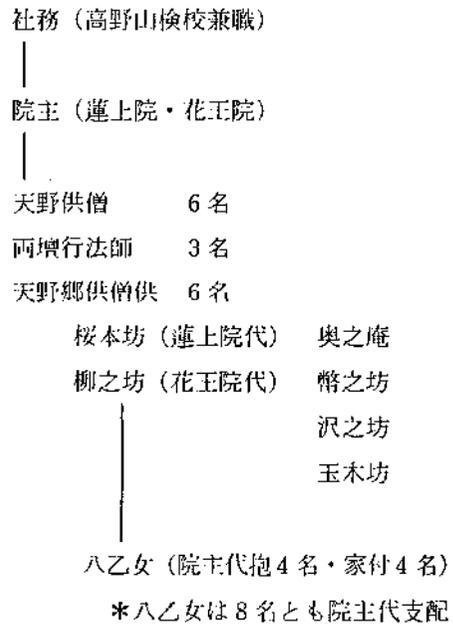
ば院主・供僧・惣神主・二宮祝・三宮祝・四宮祝・禰宜等の社僧神職がいたことが分かる。『紀伊統風土記』には惣神主を筆頭に以下のよ
うな神職がいたと記す。



惣神主（丹生一磨家）は第一殿の祭祀を預かり、社事を司る立場にもあった。二祝子（丹生相見家）三祝子（丹波掃部家）四祝子（松嶋内膳家）はそれぞれ第二殿・第三殿・第四殿の祭祀を預かった。社家十五軒の内手長四名はお供え取次役、神人十一人はお供え調進役を勤める。二祝子以下の十八名を十八人神人といった。宮仕は剃髪で駄仕役を勤め拝殿を預かった。

丹生都比元神社の社務を総括する社務職は、高野山検校の兼務であった。社務の下に院主（蓮上院・花王院）がおかれていた。社務・院主以下の諸職を『紀伊統風土記』は以下のように記している。

丹生家



三 丹生家について

丹生家の系譜にかんしては、延暦十九年（八〇〇）の年紀をもつ『丹生祝氏本系帳』（写真4）があり、田中卓氏による考証がある。豊耳命の子が小牟久君で、小牟久君の子が丹生麻呂首と麻布良首（丹生祝姓を賜う）の二家に分かれる。丹生麻呂首の子、小佐非直の子孫が丹生相見家の祖となり、麻布良首の子孫が惣神主丹生一磨家の祖となるという。豊耳命までは口前・国懸宮の神職である紀国造家の系図と同一であり、両家の連携の存在をうかがわせる。

今回目録におさめた丹生家文書に深くかわる義久以降の系図を、か一十一二「丹生氏系図」、つ一二五「丹生神主系図」から復元すると以下のようになる。

義久・義継・廣真の代は、吉田家裁許状取得に始まる惣神主家との

丹生家系図

始祖 天魂命

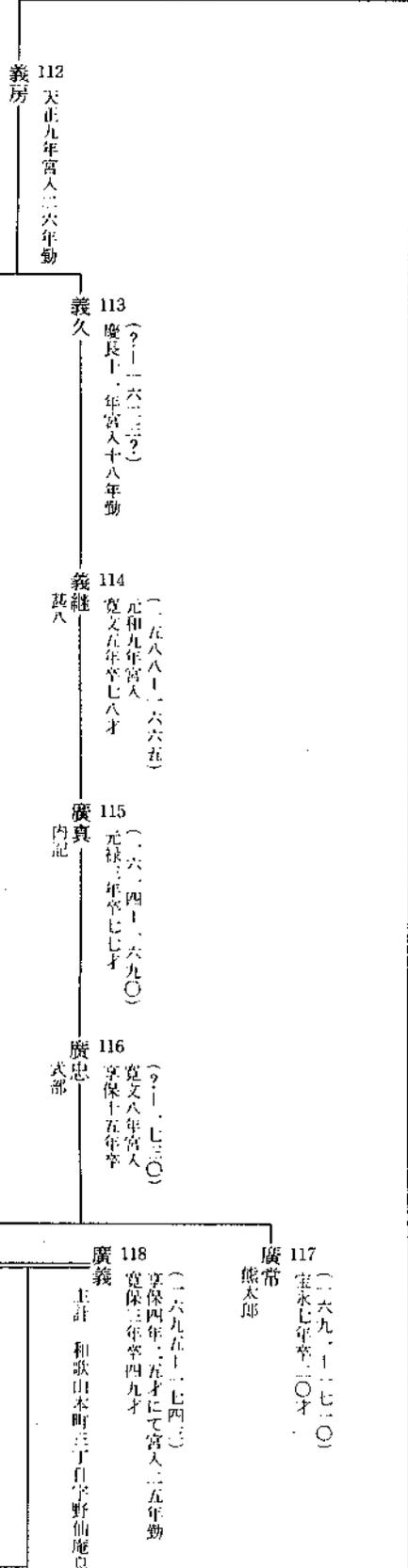
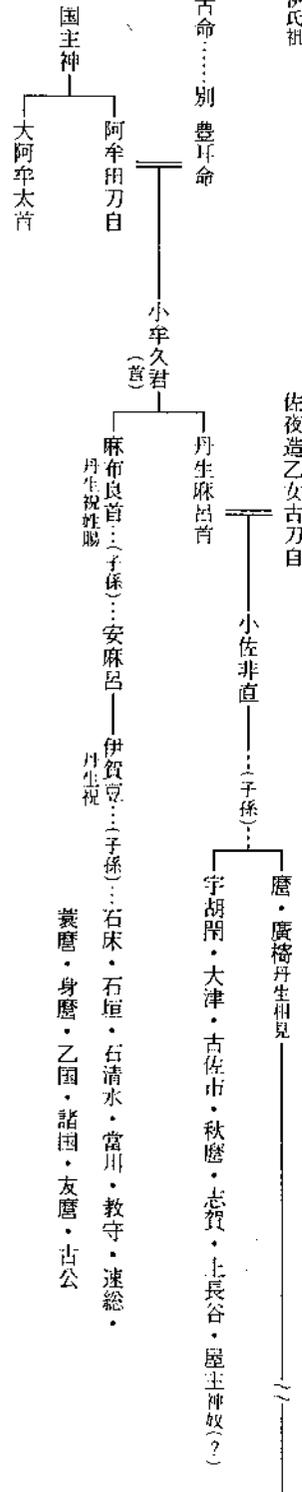
次 高御魂命 大伴氏之祖

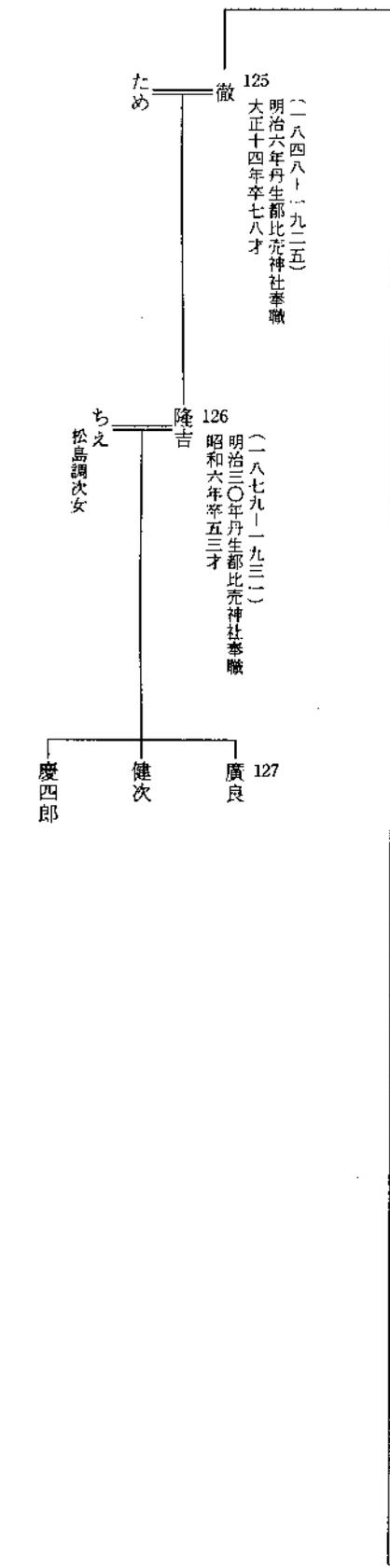
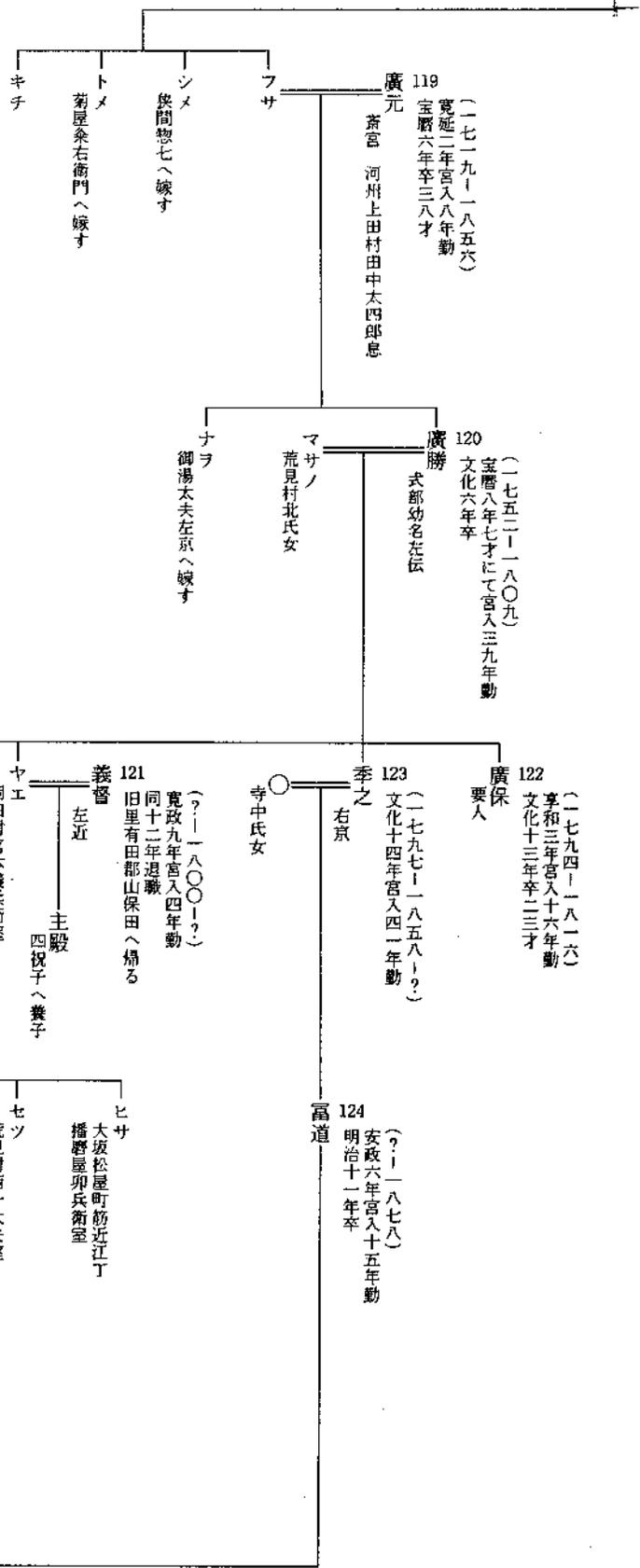
次 血速魂命 中臣氏之祖

次 安魂命 門部連等祖

次 神魂命 紀伊氏祖

次 岐兄 宇邈比古命……別 豊耳命





争論があった。争論決着後、廣真
は寛文二年（一六六二）に宮入の
沙汰がだされた様であるが、結局
寛文八年（一六六八）になって廣
真嫡子の廣忠が二之宮祝子として
宮入をしている。廣忠の代には、
安楽川莊公文與家と庄中の争論の
仲裁を高野山から命じられている。
享保三年（一七一八）には廣忠か
ら廣義への相続にともない、また
木祭神役等をめぐって惣神主家と
の争論が起こっている。

廣勝・義賢・廣保・季之の代は
家督が短期間で相続されていた。
宝暦八年（一七五八）に宮入した
廣勝は、寛政八年（一七九六）右
田郡山保田（現有田郡清水町）か
ら迎えた娘やえの婿、義督に家督
を譲った。しかし義督は寛政十二
年（一八〇〇）十二月職を辞し、
旧里へ帰った。そのうち廣勝の長
子である廣保（要人）が七才で家
督を継ぎ、享和三年（一八一三）
に宮入するが、廣保は文化十三年



写真4 丹生祝氏本系帳

（一八一六）に二十三才で死去した。廣保妻は父寺中庄藏と相談し、
大谷村（現かつらぎ町大谷か）岸田平安のもとで医者として働いてい
た、廣保弟の季之（右京）に家督を継がせることにしたのである。

丹生家文書の伝来を考える上で、この季之は重要な立場にある。丹
生家文書中には季之の書写にかかる資料が散見し、現在伝わる丹生家
文書保存箱は、季之によって天保七年（一八三六）に調整されている
のである。

現当主廣良氏も家職である丹生都比売神社の神職を勤め、伝来の丹
生家文書の保存に尽力されてきた。廣良氏の働きにより、丹生家文書
の内、卷子十巻が「丹生廣良氏所藏天野文書」として、和歌山県指定
文化財に指定されている。また同氏は丹生神社史・丹生一族氏の研究
者として丹生家文書を詳細に調査・研究され、多くの成果を発表され
ている。それらは、著書『丹生神社と丹生氏の研究』や『式内社調査
報告』第二十三巻（丹生都比売神社の項）にまとめられている。廣良
氏の実弟慶四郎氏も、分野は異なるが研究者として活躍しておられる。
慶四郎氏は計算機シミュレーションによる慣性核融合の物理学の権威
として東京工業大学、帝京平成大学で研究を続け、平成六年には英国
ケンブリッジの国際人名センターより国際功績勲章を贈られている。

四 天野村について

丹生都比売神社の鎮座するかつらぎ町天野は、高野山中腹にひらけ
た小盆地である。中世は天野社領六ヶ七郷の内、天野郷に属していた。
近世には高野山学侶領となり、上天野村・神田村・下天野村の三村が
天野荘と呼ばれていた。丹生都比売神社の社家は上天野村に居住し、

沖田村は丹生都比売神社の御供田として社家の領であった。村の下部組織として「カイト（垣内）」があり、その枠組みは現在も機能している。

『紀伊統風土記』によれば、上天野村は石高二八石三斗七升六合、家数七四軒、人数三〇三人、沖田村は石高一六石二斗五升三合、家数人数上天野村の内、下天野村は石高二五六石八斗六合、家数七五軒、人数三三七人とある。

明治以降は、高野山寺領の所属移転にともない明治二年（一八六九）に堺県、明治三年（一八七〇）に五条県に属し、明治四年（一八七二）に和歌山県に属する。明治二十二年（一八八九）に上天野村・沖田村・下天野村の三村が合併して天野村となり、旧三村は大字となった。昭和三十年（一九五五）に見好村と合併し見好村と称し、昭和三十三年（一九五八）からはかつらぎ町に属することとなった。

五 資料群の概要と調査・整理について

丹生家文書の現状は大きく五つの群に分かれている。一は和歌山県文化財指定にともない成巻された資料、卷子全十六巻である。二は、近世資料を中心とした資料群で、合板製のタンスに収納されていた。三は文箱におさめられていた近世の書状類。四は封筒に一括されていた近代の辞令・証書等。五は丹生氏の自宅の書齋・応接間に額に入れて飾られていた資料群である。

整理にあたって、卷子には「か」の、タンス収納資料には「た」の、文箱入り書状類には「ふ」の、追加寄託で受け入れた近代の辞令証書等には「つ」の記号を与え整理を行った。自宅保管分は「し」の記号

を与え、目録作成のため一時寄託を受け整理を行った。後述するように、丹生家文書はたびたびの調査・閲覧利用により、原状は留めていないと判断された。そのため、寄託を受けた段階での状態を尊重し整理を行った。また、写真が残されていたり先行論文等に引用されながらも、丹生家文書中に原本を見いだせない資料も若干ではあるが存在した。

○

丹生家文書は当館にて整理を行う以前にたびたび調査・整理が行われている。

資料に「○」というように番号をふられた資料があり、これは近世のある段階での整理の痕跡と思われる。また季之による天保七年（一八三六）の保存箱調整のさいも評価選別が行われているだろう。

金剛峰寺編「高野山文書」全十二巻（出版は内七巻）の内の一として、丹生家文書の収録が企画されていた。そのため中田法寿氏により調査が行われている。赤ラベルが添付された資料があるが、これがこの時の調査によるものだという。

昭和三十七年には東京大学史料編纂所により、影写本が作成されている（かー四一―一三、かー一―一）。史料編纂所はこの後、平成八年にも調査を行っている。昭和三十九年の県文化財指定にともない、中世資料と近世資料の一部が成巻された。昭和五十一年から開始された『かつらぎ町史』編纂にともない、町史編集室によって初めて丹生家文書の全点が調査された。この調査後、分類項目ごとに資料を一括

し合板製タンスに収納された。

また、丹生廣良氏ご自身が自らの研究に利用され、閲覧を申し出た研究者には広く公開しておられた。

六 目録編成について

資料群の現状と内容を考慮して、まず以下の四項目をもうけた。

卷子

丹生都比売神社

二之宮祝子

丹生相見家

「卷子」は和歌山県指定文化財への指定にあわせて成巻されたものである。全部で十六巻あり、そのうち巻一巻から十巻までが昭和三十九年五月二十八日付で「丹生廣良氏所蔵天野文書」として和歌山県指定文化財（有第六十一号）の指定を受けている。簡単な解説は『和歌山県の文化財』第二巻にある。指定を受けた第一巻から十巻までは、中世・近世初期の資料が、第十一巻から第十六巻は高野山文書の写しが主である。卷子所載の資料目録はすでに丹生廣良氏自身によって公刊されているが、ここに再掲する。卷子所載資料の中には、関連資料が未成巻資料内に残されているものもあるので、以下の項に重複させた資料もある。

「丹生都比売神社」は神社全般にかかわる資料、社家の一員としての活動により残された資料を集めた。

「二之宮祝子」は丹生相見家の神職としての活動により残された資料を集めた。丹生都比売神社だけでなく、他神社への奉仕にかかわる

資料もここへおさめた。

「丹生相見家」は丹生家の家に関する資料である。

この四項目の下にさらに左表のような項目を設定した。以下各項目ごとの資料の概要を記す。

卷子

第一巻 丹生祝氏本系帳

延暦十九年（八〇〇）の年号をもつ「丹生祝氏本系帳」とその注釈書である。「本系帳」は田中卓氏による校訂と論考があり、『新撰姓氏録』編纂のため各氏から提出された本系帳の一であろうとされている。（写真は「三 丹生家について」を参照）

第二巻 承安四年解状并弘安四年補任状等

栗栖家に関する資料である。栗栖家は栗栖荘（現和歌山市栗栖）を本領とする荘官の系譜を引き、平安末期・鎌倉時代は在庁官人・西国御家人、近世は地土の家柄であった。栗栖家文書では、直川保久重名内松門名の開発に関する資料が著名であるが、か―二―一の三点の資料がこれにあたる。目録作成にあたり、高野山大学に寄託されている物神主家伝来の資料である「丹生輝代磨家文書」を調査した。その中に以下のような資料があった。

覚

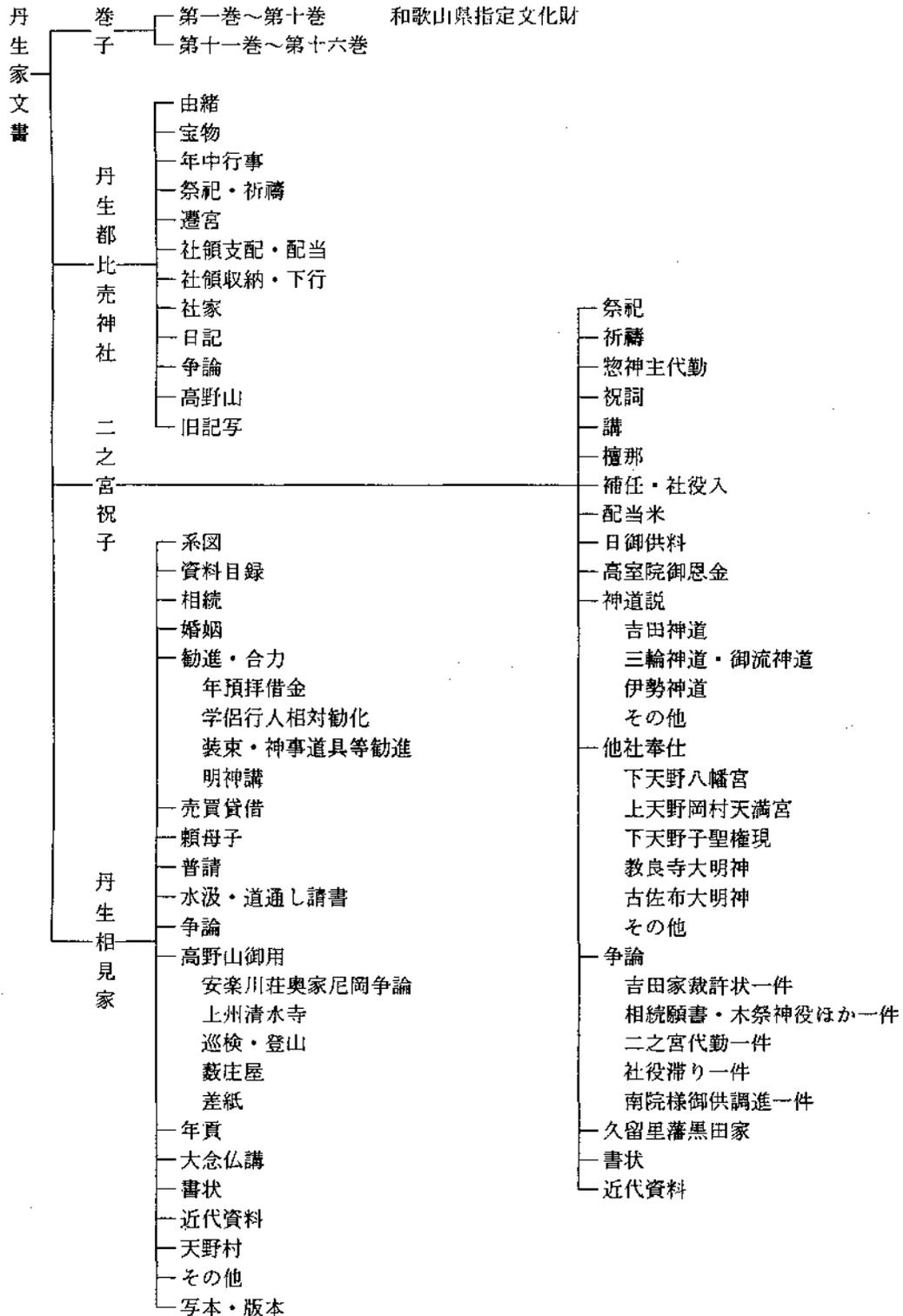
直義公御教書 一通

両六原 地頭代へ之書物 同断

基胤 神保次郎左衛門へ書物 同断

橋本新三郎請文 同断

丹生家文書目録項目



- 祭祀
- 祈禱
- 惣神主代勤
- 祝詞
- 講
- 檀那
- 補任・社役入
- 配当米
- 日御供料
- 高室院御恩金
- 神道説
 - 吉田神道
 - 三輪神道・御流神道
 - 伊勢神道
 - その他
- 他社奉仕
 - 下天野八幡宮
 - 上天野岡村天満宮
 - 下天野子聖権現
 - 教良寺大明神
 - 古佐布大明神
 - その他
- 争論
 - 吉田家裁許状一件
 - 相続願書・木祭神役ほか一件
 - 二之宮代勤一件
 - 社役滞り一件
 - 南院様御供調進一件
- 久留里藩黒田家
- 書状
- 近代資料

丹生家

千代桶丸連状

同断

小倉十郎左衛門請文

同断

六十谷四郎入道請文

同断

和佐雅楽入道請文

同断

合八通

右之通拙者家先祖より持来り候へ共其元御家筋之古請文故此度任

御望還シ遣申候此外ニ右之筋之書物一通も無之候為念書付差添申

候已上

寛延四庚午八月晦日

天野富

丹生相見廣元

栗栖六郎殿

参ル

丹生家が代々所持していた栗栖家にかかわる八通の資料を、望みによ
り返却したということであるが、この八通の資料は現在栗栖家にあり、
『和歌山県史』中世史料二「栗栖家文書」に、以下の資料番号で翻刻
されている。

一四 足利義詮御判御教書（？）

一一 六波羅御教書

一三 基胤奉書

六 清原頼長請文

九 松嶋村文書紛失状案（？）

四 小倉兼綱請文

七 沙弥淨妙請文

五 沙弥定宗請文

いつの頃からか丹生家には、さきの解状等と合わせて現在栗栖家文書
として伝わる資料の内の半数近くが伝来していたことになる。また現
在は所在不明で写真のみが残されているが、丹生家には以下のような
資料も伝えられていた。

二通書
四之祝子手願

紀伊国松嶋松門名地頭職事如元知行不可有相違之状如件

応永七年五月十一日

（花押）（花押）

松嶋美濃守殿

端裏書は四祝子松嶋家の存在に影響されたための間違いであろう。
「松門名地頭職」に関する資料であるからこれも一連の栗栖家関係資
料である。

こうしてみると、卷子第一巻はすべて栗栖家にかかわる資料で
あった可能性がある。か一二二で地頭に補任された「中務丞為実」
は「栗栖家系図」（東京大学史料編纂所影写本「栗栖文書」の内、
文書館蔵の写真版による）に見える「松嶋中務為実」であると思われ
る。栗栖荘は粉河寺の荘園であったことから、か一二三の粉河寺の
にかかわる資料が残されたとしても不思議ではあるまい。そして、か
二一四は栗栖家の所領のあったとされる「池田荘」の資料なのである。
丹生家と栗栖家は、義房次男義重が栗栖家を継いだと「丹生神主系
図」（ついで五）には記されており、まったくの無関係ではなかった
ようである。

第三卷 天野造替日記

丹生都比売神社の遷宮に関する資料である。か―三―五のみ天野社の氏神であった八幡神社に関する資料であると思われる。関連資料が「丹生都比売神社／遷宮」にもある。

第四卷 天野庄知行定置状

定置のほか、売券がおさめられている。売券のほとんどは『かつらぎ町史』古代・中世資料編に翻刻されている。

第五卷 丹生神社恒例勸請神明帳

第六卷 丹生明神御位階記 附丹生大明神告門

高野山文書の写しと丹生大明神告門（吉門とも記す）である。丹生大明神告門は丹生都比売神社に伝わる祝詞で、菅田（庇神）天皇勅筆祭文とも称されている。告門には丹生大明神が天降り、天野の地に鎮座するまでの大和紀伊国巡幸の次第と、天皇から寄進された神領、封戸が書き上げられている。

第七卷 神道管領吉田裁許状

京都吉田家の発給した神道裁許状と、吉田兼英ほかの書状である。この裁許状をめぐり争論が起こっており、関連資料が「二之宮祝子／争論―吉田家裁許状一件」の項にある。

第八卷 天和二年開発新田寄進状等

八幡宮神主職にあった丹生相見家への八幡宮御供山の寄附状、新開田作人へ遺わした定め書きと、新開田への引水についての一札である。

第九卷 慶長六年御立願状

第十卷 慶長十五年起請文

第十一卷 丹生祝氏籍記 并丹生神主家代々継系図

丹生家

第十二卷 享保三年公儀江差上願書

享保三年（一七一八）の相統願書・木祭神役等に関する争論の訴状と、嘉永六年（一八五三）の日御供料お下げの願書である。それぞれ関連資料が「二之宮祝子／争論」と「二之宮祝子／日御供料」にある。

第十三卷 正応六年太政官符 及御手印綴起・官符案文

か―十三―の「高野山文書写」四点は本来、「丹生四所明神画像」（写真5）に付属していたものである。この掛け軸は現在県立博物館に寄託されており、裏書には以下のようにある

奉納置天野宮四所大明神異賊降伏尊影新補并正応六年太政官符直写一卷以附与丹生相見家擬後世之龟鏡是併倍增四社神威冀望人法隆盛者也檀主修禪院僧都法印懷英大阿闍梨開眼導師前檢校大和尚有乘

画師防州産三宅後雪筆

表具師京都大経師吉右衛門尉

宝永六己丑年三月吉祥日



写真5 丹生四所明神画像

この裏書によれば、修禪院懷英が願主となり尊影と正応六年（一二九三）太政官符写しを丹生相見家に付与したとのことである。か一十三一二・三は、ともに広い意味で「御手印縁起」と呼ばれる資料である。

第十四卷 天野社参記 附皮張大明神縁起

か一十四―一は寛文十一年（一六七二）三月八日、検校宥専により再興された天野社参に関する記録である。か一十四―二「皮張大明神之縁起并祭礼由来記」は現在のかつらぎ町宮本の丹生神社の縁起である。

第十五卷 嘉元三年信日記 附論旨院宣寄進状

か一十五―一「天野明神口伝抄」は丹生都比売神社に関する口伝を集めたものであるが、これに懷英の私考が添えられている。か一十五―二「惣神主家文書写」は大半が加地宏江氏が紹介された「丹生古文書集」と同資料である。

第十六卷 丹生高野両大明神御位階記等

高野山文書の写しである。

丹生都比売神社

由緒 五点。丹生都比売神社の縁起・口伝・吉門（祝詞）をおさめた。

宝物 二点。

年中行事 十四点。年中行事書五点と、その添付資料。

祭祀 七点。丹生都比売神社の祭礼にかかわって残されたと思われる資料をおさめた。た一四五七「籠中入用帳」は二月と十一月の長谷宮行にさいしてのお籠もりの入用帳である。

遷宮 九点。遷宮記・遷宮日記に類する資料。

社領支配・配当 十五点。神田村を惣神主の進退とする旨の書付（た一〇五）と、社領の配分についての資料。

社領収納・下行 五点。社領からの納入と、惣神主から社家への下げ米の記録である。十一月十三日下げ渡し分を八月分下行、十二月二十三日下げ渡し分を中蔵下行という。長谷宮下行は二月十一月の長谷宮行にかかわる下行である。

社家 十六点。社家全般にかかわる資料をおさめた。た一一二・

一九一には、享保三年の丹生相見家と惣神主の相続願書・木祭神役ほか争論裁許請書（た一二一五ほか）と、享保四年の惣神主家と学侶方の支配に関する争論裁許請書（た一九四）を享保四年四月十二日に社家を残らず召し寄せ読み聞かせたこと、享保七年の社職入り破料減少の一札についての裁許状（た一九三）、元和六年と承応三年の神田村に関する書付（た一〇五）がまとめて記されている。ほか社家の夫役免許に関する資料がある。

日記 十点。留め書き・社家日記を集めた。帳面の字面を見ると、日々書き継いでいたのではなく、元本があつて、必要箇所のある時期まとめて写したと思われる。

争論 二十点。た一一八六・一九四は享保四年（一一七一九）に丹生相見家と惣神主家の争論に引き続いて起こった、惣神主家の学侶方支配か否か等についての争論の裁許請書である。「二之宮祝子／争論」も参照のこと。た一二四一以下は、親死去の節の惣神主への届け出、御膳洗い、神役の代人差し出し等についての惣神主と社家中との争論資料である。た一一九二はこの争論の年預坊による裁許状である。

高野山 十五点。主として高野山にかかわる種々の資料を集めた。

学侶行人争論により行人方の大処分を行った元禄五年（一六九二）の高野聖断、検校の天野社参再興に関する資料などがある。弘法大師空海に関する資料もここにおさめておいた。

旧記写 十四点。豊臣秀吉・徳川家康等の朱印状写し、宝簡集の写し等、文書の写しを集めた。

二之宮祝子

祭祀 四点。祭祀に関する備忘録、伝授書など。

祈禱 十点。たゞ一五以下は、元禄五年（一六九二）の高野聖断にいたる学侶と行人の争論において学侶方の勝利を願った祭文で、しーはその祈禱料の下げ渡し状である。ほか祈禱の依頼状等をおさめた。

惣神主代勤 五点。惣神主家督相続者の年少や職の取り上げにより、丹生相見家が惣神主職を兼務したさいの記録である。

祝詞 九点。たゞ一四七・八七は丹生相見家家伝の祭文である。

『高野春秋編年輯録』延久二年（一〇七〇）二月二十一日条に、「天王（後三条天皇）詔賜祝文於天野丹生相見（祝文震筆板札）と記されている。（伝来子相見家）

県立博物館寄託の笏（八、関連物品資料について）を参照）がこの「祝文震筆板札」である。

講 九点。参宮講・御破講・月参講など、丹生都比売神社参詣にかかわる資料。

檀那 二点。丹生都比売神社のお札を配布する家々を書き上げた

資料。

丹生家

補任・社役入 七点。主として丹生都比売神社への奉職に関する

資料。

配当米 二点。丹生相見家に下げ渡される配当米の受け取りに関する資料。

日御供料 十六点。嘉永元年（一八四八）十一月に丹生相見右京季之が発意した、日御供料の寄附に関する資料。願いの結果、御供料の替わりとして冥加百両を差し出し、新田開発の許可がだされた。そして「大伽藍再建成就」のため、丹生相見家影向殿へ現米七石二斗の寄附状が発給された。

高室院御恩金 四点。慶応三年（一八六七）に高室院より拝借した金五十兩が、明治二年（一八六九）に丹生相見家に譲渡された。この金子にさらに十兩を加え田地を購入し、作徳米を相見家影向殿灯明料、先住玉智様御正当月四講料、門主現定長寿祈禱の布施とした一件に関する資料。

神道説

吉田神道 三点。京都吉田家の発給した神道裁許状である。この裁許状をめぐって争論が起こっている。「二之宮祝子／争論」も参照のこと。

三輪神道・御流神道 十七点。三輪神道・御流神道とも、真言密教系の両部神道に属する神道説である。三輪神道は奈良県大神神社の神宮寺であった平等寺・大御輪寺を中心に成立展開した神道説である。御流神道は奈良県室生寺の円海により十四世紀ごろ組織化されたと考えられ、近世に入り高野山の日光院英仙によって、集成され伝えられていった神道説である。たゞ四四七のみ三輪神道に関する資料で

ある。た一三〇・四二三も両部神道にかかわる資料と思われるが詳細は分からない。

伊勢神道 二十七点。伊勢神道書の写本。

その他 四点。御幣雛形、神道説の抜き書きである。詳細は不明であるが何らかの神道説にかかわる資料と思われるのでここにおさめた。

他社奉仕

下天野八幡宮 十八点。下天野八幡宮は天野荘三村（上天野村・

神田村・下天野村）の氏神で、日々の社務は神宮寺である延命寺の僧が執行していた。丹生相見家は八幡神社主職を所持し、遷宮のさいに奉仕していた。か一八一には八幡宮神主にあった丹生相見家への八幡宮御供田の寄附状である。下天野村字折芝の新開田の内一反二畝を寄附し、神主を交代しても田地は相見家が所持することと記されている。ほか遷宮祭祝詞、遷宮執行をめぐる延命寺との争論、御供田の小作に関する資料がある。

上天野岡村天満宮 十一點。現在の北村垣内に合併した旧岡村垣内の氏神と思われる。上天野村字吐朱瀉にあった。遷宮祝詞、遷宮記がある。

下天野子聖権現 四点。子聖権現は寛政十年（一七九八）に南院唯仁を導師として下天野に勧請された。寛政十二年（一八〇〇）三月には丹生相見家は子聖権現の鍵預かりとなった。その後、四月九日に南院ほかに相談し子聖権現を般若大権現と名を改め、丹生家屋敷内に遷宮した。これが新規のこととされ年預からの料間を受けることになった。この四点はこの一件にかかわる資料である。

教良寺大明神 五点。教良寺村は現在のかつらぎ町字教良寺で、八幡神社が氏神である。遷宮祝詞がある。

古佐布大明神 十五点。古佐布大明神は古佐布荘（現九度山町

上古沢・中古沢・下古沢）の氏神で、現在の上古沢にある古沢殿鳥神社のことである。遷宮祝詞と、遷宮執行についての丹生相見家と神宮寺との争論に関する資料がある。

その他 六点。た一五〇は現在の高野町東富貴、丹生神社の遷

宮祝詞である。た一五二は下天野村、現在のかつらぎ町天野の下居（おおり）垣内の氏神柳沢明神の、た一五八も同じく下天野村、現在のかつらぎ町天野の峯垣内の氏神八王子神社に関する資料である。た一六七・四六五は現在のかつらぎ町星川の八王子神社の遷宮祝詞である。た一三一は現在のかつらぎ町東浜田の蟻通神社である。

争論

吉田家裁許状一件 三十二点。慶長十六年（一六一一）の丹生相見義久の吉田家裁許状取得に始まる惣神主家との争論に関する資料をおさめた。丹生相見家が吉田家裁許状により装束を着用したこと、祝詞奏上・奉幣、社家初出仕の戒いに関することが争点となった。

相統願書・木祭神役ほか一件 二十五点。惣神主が丹生相見家の相統にともない、新規に相統願書差し出しを求め争論となった。ほか丹生相見家の役であった木祭神役を三祝子に申し付けたこと、神前玉垣の鍵を開けなかったこと、丹生氏の名乗りと左巴紋の使用を停止させたこと、惣神主が塗木履・朱唐立を用いていること等が争点となった。木（鬼）祭は毎年二月十一月の十三日に丹生相見家が執行する祭礼で、本殿西側、御供所内の竈殿で丹生相見による祝詞奏上の後、丹

生相見が四・五人の社人を引き連れ神社近辺を巡拝するという祭礼である。

二之宮代勤一件 一点。

社役滞り一件 四点。廣義の隠居、廣元の養子相続にともない起こった争論に関する資料である。廣義が自らの隠居の旨を惣神主方へ届けていなかったため惣神主より異議が出、延享五年（一七四八）に隠居の節はその旨を惣神主へも届けることでひとまず解決した。その後、惣神主は廣元の宮入を認めなかったため寛延二年（一七四九）にさらに裁許がだされている。

南院様御供調進一件 五点。惣神主他行中、権檢校南院よりのお供えを相見が一宮二宮へ供えたことへ惣神主より異議が出、争論となった一件に関する資料である。

久留里藩黒田家 六十三点。寛保二年（一七四二）、上州沼田（群馬県沼田市）三万石の城主であった黒田直純が久留里藩主として移封される。久留里藩は現在の千葉県君津市にあり、黒田家は廃藩置県まで久留里藩主として存続した。残された資料の大部分は、藩主の命を受けた御用人連署による年賀の礼状である。たゞ一五五「社家諸事日記」に「同年（享保十七年ハ一七三二Vカ）十月下旬神主江戸より帰り被申候、黒田豊前守様より祈念料并中山備前殿より祈念料此時より付キ申候」とあり、黒田家と中山家の二家が丹生都比売神社に祈念料（祈禱料か）を奉納していた。「中山備前」は水戸藩の家老であった中山家である。黒田家・中山家とも武蔵七党の丹治氏の流れを汲む。「丹生系図」を見ると、丹生真人、照元と続き、次の代の丹生家信が「宣化天皇九代之後從三位宮内卿丹治家義之男也」とあり、

丹生家

丹治家から丹生家へ養子として入ったと伝えている。かゝる十四二「皮張大明神之縁起并祭礼由来記」ではこの家信は「犬山師宮内太郎家信」と号し、高野大神が高皇産神の娘袴幡千々姫をめとり産んだ子で、弘法大師空海を高野山へ案内した狩人であるという。このような丹生家との養子縁組や、高野山とかかわる伝承があったため、丹生都比売神社を信仰することになったようであり、黒田家は久留里城中に丹生神社を祭っていた。

書状 十二点。丹生相見家の神職としての活動により残されたと思われる書状を集めた。

近代資料 十點。明治・大正期の社職任命書、俸給証書等を集めた。

丹生相見家

系図 十一點。

資料目録 二點。

相続 九點。相続にともなう祝儀の遣わし状、丹生家へ養子に入つた齋宮の宗旨送り状の写し、遺書等である。家督の相続は当然、家職である二之宮祝子の職をも相続することになるが、丹生都比売神社への奉職に関する資料は「二之宮祝子／補任・社役入」を参照のこと。

婚姻 六點。和歌山の藤井唯三郎を養子として迎えた一件に関する資料と、丹生恵十郎の婚礼祝儀帳。

勸進・合力

年預拝借金 四點。父廣勝死去にともなり借財整理のため、家督を継いだ廣保が年預より二十両を拝借した一件にかかわる資料であ

る。

— 学侶行人相對勸化 十二点。文化十四年（一八一七）の季之宮入にさいして行われた学侶行人への勸化に関する資料を集めた。この勸化の経緯は、「高野勸化日並」（た一三七四）に詳しい。文化十三年（一九一六）閏八月十二日に廣保（要人）が死去し、医師であった弟の季之（右京）に跡を継がすことになった。まず拝借金の年賦を願ひ出（た一五八一—）、次に過去の勸進帳（た一三七二・三五六）を証拠書類として添付し、学侶方に勸化願（た一五八一—）を提出、相對勸化御免となる。そこで西重太夫、菊谷栄助に頼み、二月二十一日から七月二十四日にかけて学侶方を勸化して廻った（た一四一七一—）。行人方は勸化の先例がないため一度は断られたが、再願し（た一五八一—）相對勸化御免となったのである。

装束・神事道具等勸進 八点。装束・神事道具の勸進に関する資料である。た一三七八は、季之宮入にさいしての勸化である。

明神講 六点。相見家窮乏助成のために企てられた「明神講」に関する資料である。

売買貸借 二十一点。

頼母子 七点。

普請 十点。丹生相見家の屋根・建具・家屋の普請に関する資料である。た一四八六一の「水船」は飲用水をたたえて置く大きな箱また桶のことである（『広辞苑』）。た一三七・四三八は丹生相見家の屋敷内に祭られていた狩場明神の普請に関する資料である。

水汲・道通し請書 十一点。丹生相見家が所持する井の利用許可と、所有地への道通し許可に対する請書である。

争論 八点。丹生相見家所持の藪所と潮谷山にかかわる争論資料

である。た一八四以下の四点は、相見所持の藪の伐採に関するものである。藪下の田地主が藪の陰になるので藪の伐採を願ひ出たが、相見は藪を伐採すると高所にある自宅の風当たりが強くなるので困る旨を申し出る。この件は伐採の方向で内済がはかられている。

高野山御用

安楽川荘奥家尼岡争論

五点。天野丹生相見、慈尊院中橋勘之

丞、志富田金川清兵衛の三名が年預坊より命じられた、安楽川荘（現桃山町）公文奥家と庄中の争論日記と、後年この争論についてのお尋ねに関する資料である。尼岡は奥家所有地であったが、上野村入会地としての利用慣行があり、数年にわたり争論が続いていた。噺の結果、尼岡を庄中持ちとし、替え地として平尾の地を奥家に提供することになった。

上州清水寺

十点。現在の群馬県高崎市石原町にある真言宗豊

山派清水寺に関する資料である。『群馬県史』史料編10近世2に翻刻された「嘉永二年正月 片岡郡石原村華蔵山中興略記」を見ると、これら資料が高野山へもたらされた経緯を知ることができる。

清水寺は高崎市八幡町にある大聖寺（大聖護国寺）の末寺で、住職も大聖寺の兼帯であった。元禄七年（一六九四）に江戸護国寺僧正賢広の弟子賢隆が清水寺住職となり、別住となった。賢隆は享保二年（一七一七）七月までの二十四年間清水寺住職を勤め、弟子智海に後住を任す旨遺書を残し死去した。石原村の檀家中は智海後住の旨を願ひ出たが、大聖寺広阿は住職兼帯をいい、願書を取り上げなかったため、享保二年九月、智海は寺社奉行に願ひ出た。その結果、智海は修

行が未熟であり住職を申し付けがたいので、五年間修行し許状取得の上後住を申し付けること、修業期間中の費用は清水寺領から年十五両送ること、この間は大聖寺が住職を兼帯することで内済した。内済後、ほどなく智海は高野山へ登り修行を開始したようであるが、病氣となり、神谷村（現高野町西郷字神谷か）の親族が引き取り介抱することになった。しかしその甲斐なく客死したのである。

清水寺に関する資料は、修行のため訪れた智海によりもたらされたもので、おそらくは事後処理を行ったことにより丹生家に残されたと思われる。た―四四五は高崎城主であった大河内（松平）輝貞の御供料寄進状で、た―四四四・ふ―四二は宝永七年（二七一〇）、輝貞の越後村上転封後も御供料の寄進と祈禱継続を確認した資料である。た―四四・四五は「華藏山中興略記」にその写しがのせられている。これらの寄進状と、た―四六二の賢隆の遺書は、智海が清水寺住持職の後継者であることを示す証文であり、肌身離さず所持していたのであろう。た―四〇〇・四〇一・四九五は、智海が高野山に向かうにあたってのものである。

た―一八九「〔社家諸事日記〕」に寛延二年（一七四九）四月二十五日に上州片岡郡石原村の山口兵四郎・高橋七郎次が立ち寄り、清水寺智海房所持の賢広僧正の譲り状を申し受けたい由、申し出たが、後で返事をするに伝え取り合わなかったと記されている。

巡見・登山 三点。幕府巡見等の対応に関する資料である。

敷庄屋 一点。文政五年から文政九年（一八二二～一八二六）まで丹生相見家は千蔵院敷庄屋を勤めている。

差紙 二点。

丹生家

年貢 二十点。皆済状、歳年貢受取証と荒地地年貢納に関する一札。

大念仏講 四点。上天野に伝承されていた大念仏講に関する資料である。この大念仏講は講員の家を廻り宿として二月十五日と盆の十四日に涅槃図をかけて念仏を唱えていたという。

書状 二十一点。丹生相見家の家政に関して残されたと判断される書状を集めた。

近代資料 十八点。明治・大正・昭和期の辞令、各種証書等を集めた。

天野村 十一点。村にかかわる資料を集めた。季之の筆写によるものが多い。

その他 十二点。詳細、経緯不明の資料である。

写本・版本 十四点。た―二六六～二六八の「高野山説物語」は寛永十五年から元禄五年（一六三八～一六九二）までの学侶方と行人方の争論についての記録である。「統真言宗全書」第四十一巻に十巻本が翻刻されている。丹生家所蔵本は五巻本の写本である。た―三二二「六十騎組分姓名録」は、本目録に掲載した尾崎家文書お―一五七の写しである。

編年目録

丹生家文書は総点数六五五点（親番号による）に比べて、目録の項目数が多くなってしまった。そのため資料の全体像が分かりにくくなっている。そこでその欠を多少とも補うため編年目録を添付することにした。しかしページ数の制約から、全点を編年目録に掲載できない

め、資料総点数の大半を占める「た」記号の近世資料を中心とした。年月日不詳資料・宝簡集写し・写本・版本、また年号不詳で一月・二月に大半が集中することになる久留里藩黒田家関係資料は省略させていただきます。

この編年日録と解説に添付した丹生家系図を対照することにより、近世期における丹生家の動向がより明確になると思われる。

七 保存箱について

文書資料と同時に、旧来の保存箱二点も寄託された。

・長持 縦五六・二×横九〇・八×高七〇・八 (cm) (写真6)

もともとは資料全点がこの長持に収納されていた。移動のための駒が付いている。底に墨書がある。(写真7)

「旧記長持破損ニ付此度新造之者也 天保七丙中年二月 丹生相見 右京季之」

・被せ箱 縦三九・六×横一五・五×高一〇・三 (cm) (写真8)

「重宝の古文書」として特に重視されていた卷子七点がおさめられていた。この七点の卷子は、県文化財指定にともない現状のように成巻された。しかし「管家御真筆 一巻」は所在不明である。これは紺紙金泥の「妙法蓮華経普門品第二十五」で菅原道真が太宰府配流前に丹生都比売神社に奉納したものという。

上書「管家御真筆 一巻、御手印縁起 同、案文 同、延暦卷系図本

紙 同、同雲石堂自筆註 同、太政官符懐英筆 同、弘安十年之書 同」

・文箱 縦二九・〇×横二一・二×高一〇・四 (cm) (写真9)
「ふ」の記号を与えた書状がおさめられている。

八 関連物品資料について

県立博物館に丹生相見家伝来の四点の資料が寄託されている。丹生家文書理解の一助のために概略を記しておく。

①「狩場明神画像」一幅 (写真10)

本紙 縦九二・九×横四一・四 (cm)

弘法大師を高野山へ導いた狩人(狩場明神)の画像である。解説が

『和歌山県の文化財』第二巻にある。昭和四十一年四月十二日、和

歌山県指定文化財に指定(有第一六七号)。

②「丹生四所明神画像」一幅(写真解説は卷子第十三巻参照)

本紙 縦一三〇・四×横五六・四 (cm)

ふた上書「天野明神異国降伏尊像并官符写 丹生相見家什物」

ふた裏「宝永六年己丑三月日 画師三宅後畫筆」

内箱底「奉寄附四社神影并異国靈験降伏瑞相官符写 施主修禪院僧

都懐英」

③笏(伝後三条天皇宸筆) 一握 (写真11)

最長九二・三 最大幅一〇・八 最小幅七・五 (cm)

た「四七「後三条帝勅願ノ還御神人之文」が墨書されている。「二之宮祝子ノ祝詞」も参照のこと。

表「諸請給ヒ詔申大御戸位ニ不物捧無鼻味事位驚給平ク安大御戸仕詔申、請給卜詔申我君ノ宇豆廣前ニ奉レル清幣ヲ平安ニ請令閉給

穴賢詔申」



写真10 狩場明神画像

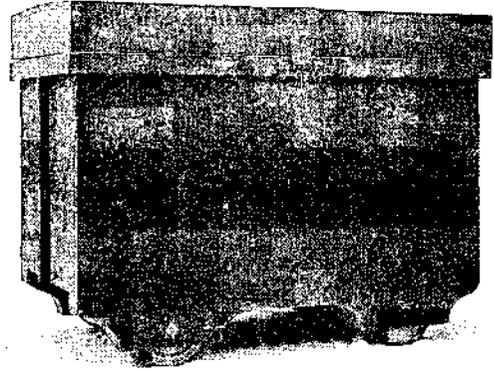


写真6 長持

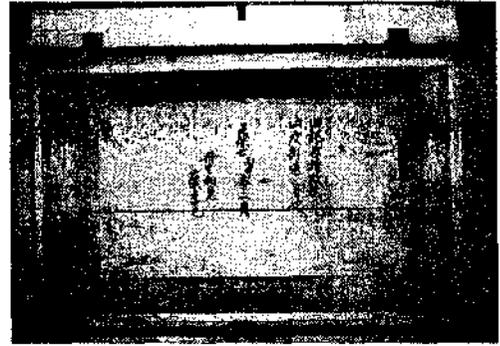


写真7 長持墨書

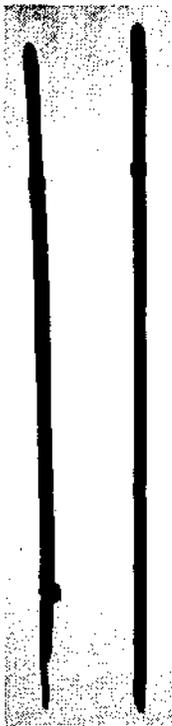


写真12 鉾



写真11 笏



写真8 被せ箱



写真9 文箱

真「延久二年二月廿一日□□□了」

ふた上書「延久帝勅願之祝文 丹生相見」

ふた裏「奉寄進勅願祝言板函 元禄八乙亥年臘月日 修禪院快英 奉附之者也」

④ 鉢（伝平城天皇奉納）二旒（写真12）

1 長さ一七〇・〇 鉢先三四・五（cm）

2 長さ一七〇・三 鉢先三四・三（cm）

九 その他の利用資料と参考文献

丹生輝代廬家文書（高野山大学図書館寄託）

丹生都比売神社惣神主丹生一廬家に伝来した資料である。

慈尊院中橋家文書（国文学研究資料館史料館所蔵）

慈尊院（現伊都郡九度山町）別当を勤めた中橋家に伝来した資料。

一時期惣神主丹生一廬家の後見を勤めたため、丹生都比売神社関係

資料が含まれている。

「丹生系図」（東京大学史料編纂所謄写本）

丹生都比売神社惣神主丹生一廬家の系図である。

松田壽男著『丹生の研究——歴史地理学から見た日本の水銀——』（早稲田大学出版部 昭和四十五年）

五来重編『高野山と真言密教の研究』（『山岳宗教史研究叢書3』名著出版 昭和五十一年）

丹生廣良著『丹生神社と丹生氏の研究——伊都国王の盛衰と丹生氏の

出自についての一考察——』（きのくに古代史研究会 昭和五十二年、

平成六年の第三版による）

海津一朗著『蒙古襲来 対外戦争の社会史』（歴史文化ライブラリー

32 吉川弘文館 一九九八年）

和歌山大学中世荘園調査会編『紀伊国天野郷現地調査報告』（和歌山

中世荘園調査会現地調査報告書① 一九九九年）

『久留里藩政一斑』（千葉県史料近世編 平成二年）

『式内社調査報告』第二十三巻「丹生都比売神社」（丹生廣良氏執筆）

『和歌山県の文化財』（清文堂 昭和五十六年）

『かつらぎ町史』『高野春秋編年輯録』『紀伊統風土記』

岡田荘司「空海以前の丹生都比売神社」（『高野山史研究』第二号 昭

和五十三年）

日野西真定「高野山の神仏分離」（『論集 日本人の生活と信仰』同朋

舎出版 一九七九年）

加地宏江「丹生古文書集について」（『ヒストリア』第一〇二号 一九

八四年）

田中卓「丹生祝氏本系帳」の校訂と研究——新撰姓氏録の撰進につ

いての一考察——（『日本国家の成立と諸氏族』田中卓著作集2 国書

刊行会 昭和六十二年）

武内孝善「高野山の開創をめぐって——弘法大師と丹生津比売命——

（岡田重精編著『日本宗教への視角』東方出版 一九九四年）。

丹生家文書には若干ではあるが活字化されている資料がある。これら

は備考欄に以下のように注記しておいた。

宝簡集 大日本古文書『高野山文書1』

興山寺 金剛峰寺編『高野山文書』所収、興山寺文書

大師全集 『定本弘法大使全集』第七卷

県史 『和歌山県史』中世史料二

町史 『かつらぎ町史』史料編

付記

目録編集にあたって、資料所蔵者の丹生廣良氏から多くの参考資料の提供を受け、聞き取り調査にご協力いただきました。また資料調査等で左の皆様のご高配に預かりました。記して感謝いたします。

奥延之氏（安楽川荘尼岡争論関係資料調査）

海津一朗氏（天野郷現地調査報告のデータ閲覧）

久留里城址資料館（千葉県君津市、久留里藩黒田家について）

高崎市史編さん室（群馬県、上州清水寺について）

高野山大学図書館（丹生輝代麿家文書調査）

かつらぎ町史編集室（町史収集資料調査）

和歌山県立博物館（丹生廣良氏寄託資料調査）

解題・目録 伊藤信明

丹生家

丹生家文書目録

卷子

第一卷 丹生祝氏本系帳

資料番号	標 題	年 月 日	作 成 者	宛 名	状 形 態
か-1-2	丹生祝氏籍記并序 *押紙「雲石掌自筆系図」序「天和癸亥八月十六日」	貞享元年8月16日	寂本		状
か-1-1	〔丹生祝氏本系帳〕 *押紙「延暦卷系図」町史	延暦19年9月16日			状

第二卷 承安四年解状并弘安十年補任状等

資料番号	標 題	年 月 日	作 成 者	宛 名	状 形 態
か-2-1	〔栗栖家文書写〕↓ 3点 以下詳細				状
か-2-1	①紀実俊解状 *裏書あり、後欠、県史	承安4年12月日			
か-2-1	②紀実俊解状 *裏書あり、前欠、県史	承安4年12月日			
か-2-1	③留守所符 *裏書あり、県史	建久3年12月1日			
か-2-2	公文所法橋信筆補任状 *押紙「弘安十年為実代官職」	弘安10年9月3日			状
か-2-3	預所左衛門尉橘宛行状	正応3年8月10日			状
か-2-4	雑訴決断所牒 *裏書あり	建武2年6月3日			状

第三卷 天野造替日記

か-3-5	か-3-4	か-3-4	か-3-3	か-3-2	か-3-1
〔遷宮諸入用米寛〕	⑤〔寛永元年遷宮記〕	④天野大明神上せん宮下せん宮之次第	〔寛永元年遷宮記〕	天野御大明神就御下遷宮相輪事 寛写書也	天野宮造替日記 嘉元三年乙巳始之
*端裏〔遷宮之節社人取米之事〕					*町史
慶長10年11月吉日 元禄3年亨	寛永元年	慶長8年霜月1日	寛永元年	慶長6年9月16日	嘉元3年(10月15日) 4年6月15日)
天野上下年寄				天野諸社家衆中	
状	状	状	状	状	状

第四卷 天野庄知行定置状

か-4-6	か-4-5	か-4-4	か-4-3	か-4-2	か-4-1
売渡申候ちこく谷山事(せい二郎山地売券) *押紙「天正年中山之書物」 町史	売渡申候坊敷之事 *「写し」とあり	ウリわたシ申候タノサクノ事(又太郎作職売券) *町史	〔ハサマエモン五郎売券〕 *町史	天野地堂日記 地下 *町史	紀州いとの郡天野庄領内之事(四至定書)
天正6年12月27日	天正5年5月22日	天文21年2月21日	延徳3年16日	文明8年10月22日	保安4年3月16日
せい二郎(筆軸)	尺迎文院内長春	ウリテマタ太郎(略押)	ハサマエモン五郎(略押)	カンヌシトノ比サ(略押) アサリセントノカイ(花) キヤウゼウハヤシ(花) トウチミ子ハヤシ(略押) スウ春ミ子大(略押) ケウ二子大(略押)	小集会衆
天野如意輪寺之内教順房	かい主成福院	カイヌシセンフクケン	(ニヨイリシ二郎五郎)		天野庄□□
状	状	状	状	状	状

か-8-1	〔八幡宮御供田寄附状〕	天和2年6月5日	学侶年預坊(印)	相見	状
か-7-6	〔裁許状遣わす旨書状〕	(元和9)閏8月25日	吉田内鈴鹿采女正 治忠 (花)	丹生相見大夫	折紙
か-7-5	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕 *136(3)も同	(寛永元)11月18日	吉田兼英	知足院	折紙
か-7-4	〔相見裁許は新義ではない旨四社明神の社家以下へ仰せ聞かせる旨依頼状〕	(元和9)12月11日	吉田兼英(花)	高野山無量寿院 宝性院 碩字之御中 御同宿中	折紙
か-7-3	補任一僧祇事	寛永16年7月16日	法印演永(花)	内記(丹生広真)	状
か-7-2	神道裁許状	元和9年閏8月25日	神道管領長上卜部朝臣兼英 (花)(印)	(丹生義経)	状
か-7-1	神道裁許状	慶長16年12月25日	神道管領長上卜部朝臣(兼治) (花)(印)	(丹生義久)	状
か-6-2	丹生大明神告門 (吉)				状
か-6-1	⑩丹生社神主恒信言上書	(元弘3年)			
か-6-1	⑨関東御教書	永仁2年4月20日			
か-6-1	⑧後醍醐天皇諭旨	建武元年2月12日			
か-6-1	⑦左大史小槻淳方書状	(寛元4か)6月3日			

第七卷 神道管領吉田裁許状

*町吏

か-8-5	か-8-4	か-8-3	か-8-2
申指上一札之事(新開田引水につき)	[折芝大池之書物相見家に預ケ置く旨書付]	[封紙] *上書「天野八幡宮御供田寄附状」	下天野村古屋谷折芝両所新田之定
貞享2年2月19日	乙丑(貞享2)3月日		貞享4年12月5日
同村長右衛門(印)	宝光院 宝泉院		年預坊(印) [奥] 取次宝泉院
法泉院 宝光院			作人又之丞
狀	狀	封紙	狀
第九卷 慶長六年御立願状			
か-9	御立願状之事		
慶長6年6月朔日	三吉太郎左衛門尉元高(花) 同新兵衛尉広高(花)		
狀	高野山天野		
第十卷 慶長十五年起請文			
か-10-1	起請文之事(上天野と下天野喧嘩落着につき)		
慶長15年9月18日	下天野老若中 喜四郎 勝 右衛門 善四郎 甚四郎 甚 郎 惣五郎		
狀	上天野老若中		
か-10-2	〔山役水役出入り和談につき定〕		
慶長16年8月2日	コウタムラ新左衛門 又衛門		
狀	天野庄中		
第十一卷 丹生祝氏籍記 并丹生神主家代々継系図			
か-11-1	丹生祝氏籍記		
貞享元年8月16日	寂本		
元堅帳	狀		
か-11-2	〔丹生氏系図〕		
第十二卷 享保三年公儀江差上願書			
か-12-1	⑧乍恐以口上書申上候覚(相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状) *押紙(公儀江差上願書)		
戊(享保3)9月	(印) 丹生相見(印) 同主計		
狀	神社御奉行所		

か-12 -2	か-12 -1
奉願上口上(御社領米の内七石二斗永代私家影向殿に下し置かれたる旨願書) *押紙「日御膳御聞濟願書」端裏あり	●〔対決につき呼出状〕
嘉永元年11月25日	戊享保3(9)月28日
天野宮丹生相見(印)	伊予 対馬 因幡 修理
年預代	
状	状

第十三卷 正応六年太政官符 及御手印縁起・官符案文

か-13 -1	か-13 -1	か-13 -1	か-13 -1	か-13 -1	か-13 -1	か-13 -1	か-13 -3
〔高野山文書写〕 ↓ 4点 以下詳細 *「天野四社大明神異國降伏之神影」に付属	①太政官牒 *興山寺	②後深草院々宣追而書 *宝簡集18	③沙弥道仏書状 *宝簡集18	③神主常家書状 *宝簡集18	〔太政官符并遺告〕 *押紙「御手印縁起」 絵図・国判を欠く、大師全集	〔御手印縁起〕 *押紙「案文」、大師全集	
宝永6年3月写	正応6年3月28日	正応5年8月4日	弘安7年閏4月22日	弘安7年閏4月23日			
〔前左学頭修禅院僧都快英写〕							
状							

第十四卷 天野社参記 附皮張大明神縁起

か-14 -1	か-14 -2
覚(検校法印天野社参再興につき)	皮張大明神之縁起并祭礼由来記 *丹生廣慶写、町史
寛文11年3月11日	正徳3年5月吉祥日
寺務法印正智院有専	高野山前左学頭修禅院僧都 懐英
状	状

第十五卷 嘉元三年信日記 附繪旨院宣寄進状

か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -1
⑪後村上天皇繪旨	⑩後醍醐天皇繪旨	⑨某下文(仁和寺宮庁下文)	⑧某奉書追而書	⑦東寺長者御教書	⑥法眼某遵行状	⑤足利直義御教書	④長慶天皇口宣案	③後花園天皇口宣案	②正親町天皇口宣案裏書	①正親町天皇口宣案	〔惣神主家文書写〕↓24点 以下詳細 *『ヒストリア』第一〇二号「丹生古文書集」参照(除①④⑤⑥)	天野明神口伝抄 信日記 附奥書秘説 *貞享年中快英追記、享保3年12月相見へ授与
興国2年5月28日	建武元年2月12日	建仁3年8月日		弘和2年閏正月18日	8月4日	暦応元年10月14日	天授元年4月27日	正長元年11月2日	永祿7年8月4日	永祿7年8月4日		嘉元3年12月日
												(野山檢校兼天野社務懷英写)
												元堅帳
												元堅帳

丹生家 卷子(第十五卷)

か-15 -3	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2	か-15 -2
惣神主家二有之候書物写(資料目録)	⑭ 検校明任・道範事書	⑬ (丹生秀澄詠歌) *注記「丹生秀澄五十一歳之時也」	⑫ 法印某奉御教書	⑪ 丹生友家言上状	⑩ 丹生友家讓状	⑨ 丹生則道讓状	⑧ 丹生則道讓状	⑦ 丹生經光申状	⑥ 某追而書	⑤ 定元副状	④ 法眼某奉御教書 *年号欠、古文書集にて補う	③ 日前宮人母頼幸和与状	② 東寺長者御教書
	嘉禄3年11月15日	元和4年	建治3年11月27日	建暦2年	建治2年8月26日	建暦2年正月27日	建暦2年正月18日	正中2年6月14日		8月4日	後10月19日	文保2年6月日	元中2年9月21日
状													

第十六卷 丹生高野両大明神御位階記等

か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1
⑫左衛門少尉源俊清寄進状	⑪後醍醐天皇給旨	⑩関東御教書	⑨丹生社安居供料国司方請文	⑧丹生社安居供料国司方請文	⑦僧鏝阿書状	⑥僧鏝阿天野宮八講米寄進状	⑤小槻淳方書状添状礼紙書	④左大史小槻淳方書状	③左大史小槻淳方書状	②丹生明神位記勳文	①天野社位記勳状案	丹生高野両大明神御位階記 乾 ↓22点 以下詳細 *宝簡集18号(除⑬)
建武元年7月22日	建武元年2月12日	永仁2年4月20日	建治2年8月14日	建治2年3月5日	(建久元か)6月24日	和勝元年6月25日	(寛元4年6月か)	(寛元4か)6月3日	(寛元4か)6月16日	(寛元4年6月16日か)	(寛元4年6月か)	貞享2年秋仲月写
												懐英
												元堅帳

か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -2	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1
③丹生社神主恒信言上状	②丹生明神位階勘定不審事書	①天野社位階注文	□□御社位階并雜記 坤 ↓ 15点 以下詳細 *宝簡集18・19写	⑳紀伊国安楽河庄分田衆評定事書	㉑大伝法院頼齋高野山堅儀料田寄進状	㉒東寺長者御教書	㉓後村上天皇綸旨	㉔東寺長者御教書	㉕後村上天皇綸旨	㉖足利尊氏御教書	㉗足利尊氏御教書	㉘後深草院々宣迫而書	㉙太政官牒
(元弘3年)	寛元4年7月日		貞享2年秋仲月	応永20年7月2日	応永13年3月21日	11月2日	6月21日	(興国2)5月28日	興国2年5月28日	建武3年6月21日	建武3年6月21日	正応5年8月4日	正応6年3月28日
			丹生相見										
			元堅帳										

丹生都比売神社

由緒

た-91	か-6 -2	た-28	た-435	か-15 -1
丹生明神告文	丹生大明神告文 ^(書)	四社明神縁起	天野一切経縁起	天野明神口伝抄 信日記 附奥書秘説 *貞享年中快英追記、享保3年12月相見へ授与
*下とじ部水損破れ	*町史		*小損	
		万延元年4月写	正徳2年5月10日書	嘉元3年12月日
丹生相見季之		高野山南紀高室院内 智定房写之		(野山檢校兼天野社務懐英
堅帳	状	堅帳	巻子元堅帳	元堅帳

宝物

た-421	た-450
惣神主留守間御宝物内置注文 宮々御宝物社内二置注文	〔二宮一宮三宮四宮御宝物書上〕
	*前欠
	享保3年7月7日
状	状

年中行事

た-175 -1	た-176 -2	た-176 -1
年中行事	〔お備え料内訳覚〕	御供所年中行事
*狭込文書以下へ、小損	*狭込文書、中損	*中損
文政7年2月吉辰		文政4年正月日
丹生相見	相見	丹生相見季之
堅帳	状	堅帳

丹生家 丹生都比売神社(由緒/宝物/年中行事)

丹生家 丹生都比売神社（年中行事／祭祀・祈禱）

た-434	た-34	た-428	た-187 -2	た-187 -1	た-427	た-175 -8	た-175 -7	た-175 -6	た-175 -5	た-175 -4	た-175 -3	た-175 -2
明神講式	神祇講秘式 *奥書「延宝九辛酉曆二月上旬南西田木清春進之」 朱書入	〔年中行事〕 *大損	〔鬼祭次第〕 *挟込文書	〔年中行事〕 *表紙はたーい55のもの、書入多数、大損	御神用年中行事 *中損	〔家数改覚〕	覚（日御膳料米神納）	〔米内わけ書上〕	〔祭礼入用割覚〕	〔初穂受納につき書状〕	覚（会式入用品調進頼状）	〔二月十七日祭礼御備覚〕
*中損												
宝曆4年8月如意日	延宝9年2月上旬				元治元年12月	天保14年	明治元年10月28日			2月18日	10月11日	
		丹生相見			輪番丹生相見 安養坊		丹生相見				辺陵院納所	
							興山寺様御蔵奉行					
卷子	卷子	竖帳	状	竖帳	竖帳	状	状	状	状	状	状	状

祭祀・祈禱

丹生家 丹生都比売神社（祭祀・祈禱／遷宮）

た-136	た-136	た-136	か-3-4	か-3-3	か-3-4	か-3-2	か-3-1
⑲〔遷宮につき書状〕	⑳〔遷宮につき書状〕	㉑〔遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二十日頃下向の旨書状〕	㉒〔寛永元年遷宮記〕	〔寛永元年遷宮記〕	㉓天野大明神上せん宮下せん宮之次第	天野御大明神就御下遷宮相輪事 寛写書也	天野宮造替日記 嘉元三年乙巳始之 *町史
(万治3か)11月13日	(万治3か)11月13日	(万治元か) 閏12月23日	寛永元年	寛永元年	慶長8年霜月1日	慶長6年9月16日	嘉元3年(10月15日) 4年6月15日
無量寿院長栄	宝性院朝(朝遍か)	宝性院玄(玄宥か)				天野諸社家衆中	
惣神主	天野惣神主	天野神主					
			状	状	状	状	状

遷宮

た-448	か-5	た-446	た-457	た-430
〔雅楽楽譜〕 *鶏籠、合歌垣	丹生神社恒例勧請神名帳	覚(祈禱依頼状)	籠中入用帳 *上様じ紐に文書くくりつけるがはずせない、小損	雨乞其外何角留帳 *大損
		子3月朔日	文化2年2月・霜月	明和6年7月吉祥日
		正智院 後見(花)	社家中 丹生相見	松嶋氏
		神主 相見 三祝子 四祝子 奥庵御房 御湯大夫		
堅帳	状	折紙	堅帳	堅帳

丹生家 丹生都比売神社（遷宮／社領支配・配当）

た-271	た-458	た-272	た-105-2	た-105-1	た-105-1	た-136	た-136	た-472	た-432	た-36	た-431	た-467
天野宮領支配帳	〔祭礼供物等難相調につき米五石加助の旨達〕	丹生宮領支配帳	承応三年神田村之儀天野庄惣百姓へ申付候年預留	⑧承応三年神田村之儀天野庄惣百姓へ申付候年預留	⑨神主江学侶方より被差遣候地方書付写（神田村の百姓御退あるべきにつき）	⑩〔太鼓料につき書状〕	⑪〔太鼓料につき書状〕	御遷宮代動	舞楽雜記	天野輪橋普請橋供養之事 日記	御宮移舞楽賞帳	御宮移殘記
*不開、大損	*中損	*大損	*奥に貼り継ぎ		*一紙に二点の文書を写す 町史			*大損	*大損	*大損	*大損	*大損
元禄2年11月28日	元禄2年10月19日	元禄2年4月日写	承応3年12月9日	承応3年12月9日	元和6年12月6日	（慶長年中）正月20日	（慶長年中）正月19日	安政2年11月	天保10年9月	文政元年10月吉日	文化11年3月29日	寛文13年3月3日
丹生相見 〔カクレ〕		丹生相見	衆議中年預坊	衆議中年預坊	年預坊質納院実聖	善集院榮旻 宝亀院朝印 大衆院深覚 榮旻	遍照光院頼（頼慶か）	丹生相見右京重治	丹生相見右京季之	丹生相見李之	丹生要人	丹生相見広忠（花）
	天野惣神主并社家中		天野村百姓中	天野村百姓中	天野惣神主	天野惣神主	天野神主					
豎帳	状	豎帳	状	状	状	状	状	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳

社領支配・配当

丹生家 丹生都比売神社(社領支配・配当/社領収納・下行)

た-281	た-278	た-277
御社領収納帳 中蔵下行帳 *不開ヶ所あり、大損	御社領収納帳 中蔵下行帳 *大損	八月分下行帳 長谷宮下行帳 *中損
文化11年霜月13日	享和2年11月13日	天明6年11月13日
社家中	社家中 丹生相見	社家中 丹生相見
堅帳	堅帳	堅帳

社領収納・下行

た-287	た-286	た-285	た-242	た-170	た-456	た-280	た-275	た-273	た-274
配当米員数記撰	〔配当米高書上〕	〔配当米高書上〕	乍恐口上(天野社家供僧方請取米八合判勘違につき)	奉願上口上(お渡し米有り来りの通りに下される旨願) *別紙「例年御渡し米覚」あり、中損	御神用渡方 *中損	勘録之砌渡方覚 御加増之扣帳 *不開ヶ所あり、大損	天野宮惣神主社家供僧辨殿方印鑑 *行人方支配分、大損	行人方より天野宮へ被附置候八木大豆目録(請取雛形) *中損	天野宮領従行人方之帳 *不開ヶ所あり、大損
			酉2月17日	弘化2年5月24日	天保12年正月吉日	文化9年2月28日	元禄5年10月10日	元禄3年10月27日	元禄3年5月24日
			社家方使新之丞 供僧方使 郡七	天野二三四祝子惣代三之祝子	社家中	丹生要人	丹生相見広忠	天野宮社家 同拜殿方 同社僧六人	相見丹生広忠
			検校様御役人中	年預代				代 天野御代官 庫蔵院 行事	
堅帳	状	状	状	状	堅帳	横半帳	堅帳	状	堅帳

丹生家 丹生都比売神社（社領収納・下行／社家）

社家

た-367	た-366	た-437	た-389	た-311	た-444	た-171	た-384	た-191	た-121	た-139	た-307	た-282	
明神講加入御請印差上帳	明神講加入御請印差上帳	御供所賄方輪番定書	御借用仕金子之事	免許中掟書写	免許中掟書	〔昨年の登山の雑用割り方につき覚書〕	〔天野村社家組拾四人之者兩分之追立夫赦免状〕	〔御公儀并高野被仰渡書〕 *享保3・4・7年争論裁許、元和6年承応3年神田村書付、大損	御公儀并高野被仰渡書 下 他見無用 *享保3・4・7年争論裁許、元和6年承応3年神田村書付、大損	〔職人甚七郎一代社人芳免につき書状〕 *端裏「うつし」 136(9)も同、大損	中蔵下行帳	八月分下行 長谷宮下行 御社領収納 中蔵下行	
		*大損	*小損		*町史、大損		*小損				*中損	*大損	
文久3年2月日	文久3年2月日	安政3年11月吉日	天保3年11月日	文政13年霜月 慶応3年写	文政13年霜月14日	〔文政11年5月6日 〕10日〕	寛永12年極月8日	〔元和6年12月6日 〕享保7年2月25日〕	〔元和6年12月6日 〕享保7年2月25日〕	慶長15年9月16日		文政5年霜月13日	
祝子方御湯太夫	供僧方	丹生相見重治写之	借主周之丞（印） 請人三之祝子（印）		幣之坊 三ノ祝子 奥ノ庵 玉本坊 丹生相見 柳之坊 御湯太夫 四ノ祝子 本坊 沢		集議中（印）	〔寺社奉行・衆議中〕	〔寺社奉行・衆議中〕	宝性院政遍		社家中	
明神講御懸中	明神講御懸中		御湯太夫三社ノ祝子□ノ御惣代四之祝子				丹生相見 御湯太夫 三ノ祝子 奥ノ庵 玉本坊 幣之坊 四ノ祝子 本坊 沢	〔相見・神主・学侶・社家中など〕	〔相見・神主・学侶・社家中など〕	神主			
綴り	綴り	堅帳	状	堅帳	堅帳	状2枚	巻	子	堅帳	堅帳	状	堅帳	堅帳

丹生家 丹生都比売神社（社家／日記）

た-168	た-173	た-211	た-189	た-214	た-185	た-155 -2	た-155 -1
諸事記	社領受取彼是留 社家帯刀之事 御巡檢之事 御年預御地方廻 文写 天野輪橋之留記 舞楽之事 御遷宮之事 *要經手れ 中損	社家諸事日記 *中損	〔社家諸事日記〕 *前欠、大損	〔社家諸事日記〕 *前後欠、中損	〔社家諸事日記〕 *た-155の抄本	覚〔神子入供料物争論につき評議留書遺状〕 *袋綴内へ挟込、中損	社家諸事日記 *た-187の表紙がつく、内容は享保2から、中損
極月	文政4年～文政8年	天明7年正月～寛政9年2月16日	安永5年正月吉日 〔寛政7年5月〕	〔延享5年3月3日〕 〔宝暦5年10月24日〕	〔元文2年11月8日〕 〔寛保3年4月9日〕	享保13年2月25日	享保4年正月吉日 〔元文6年2月〕
	〔丹生相見右京季之〕	丹生相見式部茂勝扣書				集議中	丹生相見王計広義
堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	状	堅帳

日記

た-133	た-246	た-383	ふ-57	た-169
申渡（登山の日割り渡しにつき）	〔公事赦免について兎角言わざるよう庄中へお申し有るべき旨書状〕	〔四社神主六人供僧の夫役免除につき達〕 *日付違うも同内容	〔四社神主六人供僧の夫役免除につき達〕 *小損	日待当屋廻帳 *小損
	後11月14日	7月27日	7月21日	慶応3年
〔祝子惣代・社家惣代・宮仕惣代〕	大庵室	天野庄屋	天野庄屋	免許中
状	折紙	巻子折紙	折紙	堅帳

丹生家 丹生都比売神社(日記/争論)

争論

た-180	た-181	た-199	た-182	た-241	た-193	た-194	た-186	た-152	か-3-2	た-253	た-207	
乍恐奉願口上覚(社職入相済候様願)	乍恐証拠書之覚(惣神主新儀書上)	乍恐口上覚(惣神主方より新たに神人の代を拵えた旨)	乍恐口上覚(親死去の節の届けについて神主新法申出の旨)	奉願口上(御膳洗・大床掃除・社職入につき訴状)	申渡覚(社職入り被料減少の一札差出につき)	●(惣神主請書丹生相見へ渡置旨)	⑤指上申一札之事(惣神主学侶方支配ほか争論裁許請書)	差上申一札事(惣神主学侶方支配ほか争論裁許請書)	〔天野庄中と八幡宮遷宮夫役争論につき起請文〕	天野御大明神就御下遷宮相輪事 覚写書也	諸事留記	意得日記 他見無用
*中損	*大損		*大損	*大損	*大損	*小損	*大損	*大損	*町史、小損		*後欠、中損	*大損
享保19年11月25日	享保19年5月25日	享保18年11月25日	享保18年10月25日	子(享保17か)10月24日	享保7年2月		享保4年正月27日	享保4年正月27日	元禄16年2月15日	慶長6年9月16日	(天保14年/安政4年)	文政9年
善次郎 雲八 宇兵衛	社家十七人(印)	御太刀之職善次郎 御矢籠之職宇兵衛	社家十七人惣代	丹生宮惣神主丹生治部大輔	集議中	前檢校法印大和高位修禪院 快英(花)	高野天野惣神主丹生将監	高野学侶方惣代南院 番宝亀院 多聞院 同在	丹生相見 三之祝子 御湯太夫(全印) 四祝	天野諸社家衆中	丹生相見重治	丹生相見季之
年預代	年預代	年預代	年預代	年預代	(惣神主社家)		寺社御奉行所	寺社御奉行所				
状	状	状	状	状	卷子	卷子	卷子	状	状	状	横帳	縦帳

た-237	た-222	た-151	た-111	た-135	た-232	た-192	た-239	た-224	た-177	た-243	た-179	た-255
覚（御衆中読経の節行人方同音読経の有無お尋ねにつき返答書） *大損	〔御衆中読経の節行人方同音読経の有無お尋ねにつき返答書〕 *大損	〔衆徒行人袈裟の出入りにつき覚書〕 *小損	免許中与在所与出入之留帳 *後欠、町史	天野社家供僧中江申渡定書（請書） *表紙「丹生相見広元」、大損	〔社職入りにつき神主新法の申し出の通り請け合い仰せ付けにつき紛れ無きよう書付頂戴の旨願書〕 *大損	御膳洗彼是二付元文貳年御裁許状下ル写 *小損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *中損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *小損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *中損	乍恐口上覚（配分筋社職入まで預り願） *中損	申上覚（争論につき起請文） *中損	〔惣神主と社家中相論訴状〕 *前後欠、大損
（寛文3以前か） 8月17日	（寛文3以前か） 8月17日	正保2年11月6日 元禄元年11月16日写	明和2年2月吉日	寛延2年正月		元文2年2月5日	（元文元年9月5日）	（元文元年9月5日）	元文元年9月5日	卯（享保20か） 11月25日	享保20年11月5日	（享保19年か）
（天野宮社家中）	天野宮社家中	丹生相見式部広忠		惣神主附手長佐七郎惣神主後見四祝子天野宮惣神主丹生右近	社家	年預坊	（社家伝十郎）	（社家伝十郎）	天野社家伝十郎（印）	關職惣代宇兵衛	丹生相見 外16名	（社家）
（年預代）	年預代			年預代		惣神主 社家中	（年預代）	（年預代）	年預代	年預代	年預代	
状	状	状	堅帳	堅帳	状	卷子	状	状	状	状	状	堅帳

高野山

丹生家 丹生都比売神社（争論／高野山）

丹生家 丹生都比売神社（高野山／旧記写）

た-120	た-484	た-102	た-494	た-164	た-451	た-220	た-426	た-433	た-251	た-153	し-5	か-14
太閤秀吉公御朱印 *正保2年寺領配分お尋ねにつき返答書あり、中損	弘法大師御衣切 *赤の布地入り	経文筆勢写 *双鉤瑣墨 「遺告真然大徳等」「詠十喻詩」いろは、数字、大損	野山五役割附控へ *執政 副執政 参政 顧問 監司、小損	旧三派改革書 *中損	〔氣比大明神の積・惣神主子伊織公儀継目御目見につき役人衆とのやり取り覚書〕 *小損	〔衆議書上〕 *た1436にかかわるか、大損	天野正月十四日晚施山王堂ニ修正会之砌幣之坊火傷日記 *大損	〔神鏡ほり出しにつき寸法等覚〕 *丹生広忠書、小損	覚（元禄高野聖断成行覚書） *中損	〔行人方の同音読経により御幸の停止した経緯覚書〕 *小損	立願状（上下和睦悪臣遠離武運長久如意満足祈） 元禄元年11月吉日	覚（検校法印天野社参再興につき） 寛文11年3月11日
天正19年10月21日 天正20年8月4日			（明治）	（明治2年か）			文化15年正月14日	（元禄8年8月14日出土）	（元禄5年）	留 元禄2年2月1日書	施主 本多飛騨守重益代判 家臣 武藤六郎兵衛尉正申 （花）	寺務法印正智院有専
（豊臣秀吉）							丹生相見右京季之写之	学侶方奉行最善 行人方同 福蔵院		丹生相見広忠		
中 高野山惣寺中／金剛峰寺惣											高野山衆徒中	
縦 帳	包紙包み	巻	子	横 帳	縦 帳	状	状	縦 帳	状	状	状	状

旧記写

た-136	た-136	た-136	か-15-3	か-15-2	か-6-1	た-439	た-429	か-13-1	た-156	か-16-2	か-16-1	た-154	た-119
②「新儀の興行を改めるべき旨書状」	①「御朱印写」	旧記写 他見無用 ↓以下詳細 *中損	惣神主家二有之候書物写(資料目録)	〔惣神主家文書写〕 ↓「卷子」を見よ	〔高野山文書写〕 ↓「卷子」を見よ	丹生社々格上頼件二付宝簡集抜書目録 *小損	諸堂社法事證 壇上奥院山下 *内題「於諸堂社学侶方仏事神事相動候証文」大損	〔高野山文書写〕 ↓「卷子」を見よ *「天野四社大明神異国降伏之神影」に付風	〔高野山衆徒寺中法度定書写〕 *幕府よりの条目の写し、六点あり、大損	〔御社位階并雜記 坤 ↓「卷子」を見よ〕	丹生高野両大明神御位階記 乾 ↓「卷子」を見よ	高野山衆徒行人御条目写 是ハ学侶方二而写之候 他見無用 *大損	高野山寺領寄附状写 慶長6年5月21日 (徳川家康)
元和元年8月12日	元和元年7月日					明治15年9月21日	寛延2年2月写	宝永6年3月写	貞享4年10月18日	貞享2年秋仲月	貞享2年秋仲月写	(寛文3年)元禄8年	
衆議衆中年預	(徳川家康)	丹生相見						(前左学頭修禅院僧都快英写)	(徳川綱吉)	丹生相見	懐英		(徳川家康)
惣神主一磨									金剛峰寺衆徒中・高野山衆徒中ほか				金剛峯寺衆徒中
		縦帳	状	元縦帳	状	横半帳	写本縦帳	状	状	元縦帳	元縦帳	縦帳	卷子

丹生家 丹生都比売神社(旧記写)

丹生家 丹生都比売神社（旧記写）

た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	
⑬ 紀州天野丹生明神惣神主就訴訟相見内記召寄申渡覚	⑭ 〔吉田兼英書状の旨を伝える書状〕	⑮ 紀州天野丹生明神惣神主と相見と就訴訟申渡覚	⑯ 〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕	⑰ 〔相見新儀を改めるべき由の仰せ付けを衆議一同に申し入れる旨書状〕	⑱ 〔社家中諸事法度古法のごとくの仰せ付けは尤もである旨書状〕	⑲ 〔碩学中申渡に異義なき旨書状〕	⑳ 〔相見は装束社役等三四宮祝子のごとく申付の旨書状〕	㉑ 〔相見は諸事社役等三・四宮祝子のごとき旨書状〕	㉒ 〔誓紙遣わす旨書状〕	㉓ 天罰起請文之事	㉔ 〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	㉕ 〔御朱印写遣わし状〕	
寛文元年 8月9日	〔寛永元〕霜月24日	万治2年 6月18日	〔寛永元〕11月17日	寛永元年 5月16日	寛永元年 9月16日	寛永元年 4月28日	寛永元年 4月28日	〔寛永元〕4月28日	〔元和元〕8月21日	元和元年 8月20日	〔元和元〕8月20日	〔元和元〕8月12日	
井河内 板阿波	知足院	井河内 板阿波	吉田兼（兼英）	年預坊	無量寿院覚雄	宝性院有（有盛）	正智院心暹 西南院正曼 御庵室光祐 算	正智院心暹 西南院正曼 御庵室光祐 算	大楽院	天野二宮祝子相見	学侶年預	大楽院	年預花蔵院
	天野惣神主		知足院	天野神主一磨	天野神主一磨	天野神主一丸	天野社家供僧惣中	天野神主一磨	惣神主一丸	学侶御衆議中	天野惣神主一丸	惣神主一丸	天野惣神主一丸

た-449	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136	た-136
〔天野社位記勘状案写〕	⑲〔遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二月頃下向の旨書状〕	⑳〔遷宮につき書状〕	㉑〔遷宮につき書状〕	㉒〔職人甚七郎一代社人芳免につき書状〕	㉓〔太鼓料につき書状〕	㉔〔太鼓料につき書状〕
状						

一之宮祝子

祭祀

た-422	た-252	た-184	た-263
御鬼祭之次第覚	補忘記(祭神・社家・社堂間数・給米等覚)	丹生相見家伝授事(祝詞・木祭次第・相見宮入次第ほか)	雜記(祭文・祭礼入用物覚)
状	横半帳	縦帳	横半帳

丹生家 丹生都比売神社(旧記写) 一之宮祝子(祭祀)

祈禱

た-332	た-346	し-6	た-129	た-66	し-1	た-84	た-54	た-53	た-51
口演（御膳料納まり候かお尋）	〔祈禱依頼状〕	〔教光院参府につき祈禱依頼状〕	〔教光院参府につき祈禱依頼状〕	〔祈禱料下渡状〕	〔祈禱料下渡状〕	〔学侶衆中立願書写〕	衆中立願書	敬白学侶衆中立願書	〔学侶衆中立願書〕 *学侶行人争論にさいし学侶の勝利を願う、大損
*小損	*中損		*大損	*大損		*小損	*中損	*大損	
極月5日	11月2日	6月7日	6月7日	元禄10年10月日	元禄10年10月日	(元禄元年12月吉日)	元禄元年12月吉日	元禄元年12月吉日	元禄元年12月吉日
源左衛門	多聞院	衆議中（印）	集議中	学侶年預坊	学侶年預坊（印）		学侶	学侶	
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見				
状	状	状	状	状	状	状	状・封紙	状	状

惣神主代勤

た-240	た-205
〔仰せ付けの旨〕	一之宮二之宮相勤并祝子記 *惣神主嘉治丸社職入りまで、後欠か、大損
*大損	
丑（文化2か）8月	享和2年4月12日 （文化10年2月4日）
一家惣代狭間官太夫	丹生相見広保
天野二之祝子丹生相見（印）	
年預代	
状	横半帳

丹生家 二之宮祝子（惣神主代勤／祝詞）

た-82	祭詞（丹生家子孫繁栄守護）	（昭和）	（丹生廣良）	状
た-90	他家ヨリ頼コシ祈念乃祝詞 許々呂ひかゑ *明神謹祝詞・祈五穀豊穣・祈家内安全・祈癒病祝詞・祈平産など		丹穂廼屋	豎帳
た-88	〔祓詞〕			状
た-86	〔五穀豊穣、国家安寧祈願祝詞〕 *小損		（丹生相見広義）	状
た-83	〔朝廷守護・天下太平祈願祝詞〕			状
た-81	大祓詞 *小損		丹生相見季之謹書	豎帳
た-59-2	〔祝詞〕 *大損			状
た-87	御宝前祝言板書付（延久二年後三条天皇祭文）	（延久2年2月16日）		状
た-47	後三条院帝勅願ノ還御神入之文	延久2年2月16日		状

祝詞

た-472	御遷宮代勤 *大損	安政2年11月	丹生相見右京重治	豎帳
た-157	惣神主代勤記 *大損	天保5年（天保8年）	丹生相見季之	豎帳
た-206	惣神主神職御取上相見江代勤被仰付 *大損	文政8年8月	丹生相見右京	豎帳

丹生家 二之宮祝子(講/檀那)

講

た-219	た-172	た-445	た-371	た-370	た-363 -4	た-363 -3	た-363 -2	た-363 -1	た-358	た-359
[東家村宿よりの家並覧]	東家学文路村大谷村友瀧三ヶ村古佐布村檀中帳 *町史	月参連名帳 *内題「天野明神月参講序」、序のみ、大損	御被講人別記 *中損	[御被講人別記下書] *崩れ三枚、中損	序(月参講中加入案内) *中損 (文政12年)	御被講序 *中損	案(万人講) *中損	序(月参講中加入案内) *四点一綴、中損	天野講御人数帳 *大損	天野丹生大神参宮講人数帳 *裏表紙「宿坊丹生相見」小損
	文久2年改					文政12年		文政12年	享保17年4月2日	享保14年8月12日
	丹生相見	天野宮丹生相見	(花)天野二之宮神主丹生相見季		天野二宮祝子丹生相見	天野二宮祝子丹生相見		天野宮丹生相見	定光院納所宿丹生相見	講親喜多長左衛門
折紙	横帳	堅帳	堅帳	堅帳	綴り	状	状	綴り	堅帳	堅帳

檀那

補任・社役入

た-227	た-210	た-248	た-174	た-204	た-212	か-7-3
乍恐奉言上(先格の通り相替わらざるよう仰せ付け願) *210にかかわるか	乍恐奉懇願候(権神主職相統仰せ付け願) *大損	〔民部宮入につき親子出勤は成らざる旨申渡状〕 *大損	丹生相見右京季之社役入留記 宮引菊谷栄助 上之坊(遙見) *中損	社役入献立 *表見返「松島内膳十四歳時入」大損	丹生相見社職入萬覚帳 *中損	補任一僧祇事
(明治3年か)	(明治3年か)	寅(嘉永7)7月25日 (年預か)	文化14年2月吉辰	享和2年7月2日	寛延2年	寛永16年7月16日
二之宮神職丹生相見	丹生相見 倅同友之助				丹生広元	法印演永(花) 法印成典
状	綴り	状	堅帳	堅帳	堅帳	状
		(丹生相見)				内記(丹生広真)

配当米

た-279	た-208
二之宮神職入米日記	二之宮神職小日記 *享和2年の諸事留書あり、大損
文化8年正月吉令日	(寛政9年〜享和2年)
丹生広保	丹生相見義督
堅帳	堅帳

日御供料

た-256	か-12-2
奉願口上覚(年中日御供料現米七石二斗永代御下げ願) *小損	奉願口上(御社御米の内七石二斗永代私家影向殿に下し置か れたい旨願書) *押紙「日御膳御開濟願書」端裏あり
天野宮丹	天野宮丹生相見(印)
年預代	
綴り	状

丹生家 二之宮祝子(補任・社役入)配当米/日御供料

丹生家 二之宮祝子(日御供料)

た-244	た-436	し-7	た-377	た-101	た-100	た-78	た-77	た-76	し-2	た-391	た-392	た-134	た-424
〔御膳料現米七石二斗寄附願〕	永代日御供発趣記 *た1220がかかわるか、大損	寄附状(永代日御膳并祈禱料として現米七石二斗)	寄附状(永代日御膳并祈禱料として現米七石二斗) *中損	大明神社日御供願文 *包紙入り文書を包紙・本紙の順に軸に巻きつけ、小損	大明神社日御供願文 *錦の表紙、返り点等あり	願文(堂塔再営につき) 中損	願文(堂塔再営につき)	願文(堂塔再営につき) *天保14年焼失の堂塔再建に関して、小損	預り申永嗣堂金之事	御拝借奉申上金子之事 *中損	御借用申上候金子之事 *小損	申渡(日御供料受取書の代官所へ差出につき) *大損	日御供料之事(日御供料替わりとして新田開発につき金百両冥加として差し出す旨) *大損
(嘉永2年以降)	嘉永2年極月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	(嘉永2年正月)	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永元年12月	嘉永元年極月18日	嘉永元年極月17日	嘉永元年11月25日	嘉永元年11月25日
	丹生相見右京季之	衆議中(印)	衆議中	金剛峯寺衆徒中(印)	(学侶大衆)	衆議中	衆議中	衆議中	院 年預坊 金剛三昧院 多聞	御拝借主丹生相見(印)受人龍性院(印消)	御借用主天野丹生相見(印消)受人四之祝子(印消)	年預代	宝性院湛然 定光院 悉地院 惣持院
		丹生相見	丹生相見						丹生相見	年預坊	心南院	天野宮丹生相見	
状	堅帳	状	状	巻子	巻子	状	状	状	状	状・封紙	状	状	状

高室院御恩金

た-420	た-419	た-395	た-394	た-394
手切證文之事	本銀返田地譲り證文之事	御恩金頂戴之事	●〔表書の金子譲渡につき書付〕	●奉拜借證文之事（金五十兩）
明治3年12月19日	明治2年極月	明治2年12月	明治2年正月	慶応3年11月朔日
譲り主 笠木村政五郎 親類 仲次郎 扱人 天野村羽矢市 之丞（全印）	親類 笠木村政五郎 天野村政五郎 人市之丞 笠木村政五郎 天野村政五郎 御取次 笠木村政五郎 天野村政五郎 之丞（全印）	丹生民部（印） 同左源太 （印）	寿門主兼高室院現定（花）	借用主丹生相見（印） 證人杉本兵馬（印消）
御取次丹生相見	高室院様御納所御取次丹生相見	高室院様御取次衆中	天野二宮相見家	御門主様御取次中
状	状・封紙	状	状	状・封紙

神道説

吉田神道

か-7-6	か-7-2	か-7-1
〔裁許状遣わす旨書状〕	神道裁許状	神道裁許状
（元和9）閏8月25日	元和9年閏8月25日	慶長16年12月25日
吉田内鈴鹿采女正 治忠 （花）	神道管領長上下部朝臣（兼 治）（花）（印）	神道管領長上下部朝臣（兼 治）（花）（印）
丹生相見太夫	（丹生義繼）	（丹生義久）
折紙	状	状

三輪神道・御流神道

た-460	た-447
〔一括封紙〕	三輪流 一神道諸大事十ヶ□□
*上書〔御流神道日月庚申待大事 丹生広義〕	*表紙すれ
	元和4年3月7日授 寛永17年10月吉日授
封紙	横半帳

丹生家 一之宮祝子（高室院御恩金）／神道説―吉田神道、二輪神道・御流神道

丹生家 二之宮祝子（神道説—三輪神道・御流神道）

た-425	た-99	た-98	た-97	た-96	た-95	た-94	た-93	た-92	た-29	た-74	た-460-3	た-460-2	た-460-1
御流 幣足切様 幣加持大事 注連加持大事	御即位 *端裏「御即位 二丁八」、大損	神祇大事 *端裏「神祇大事 二丁七」、大損	太神宮秘所大事 *端裏「太神宮秘所大事 二丁六」、大損	普門品大事 *端裏「普門品大事 二重五」、大損	祝詞 *端裏「祝詞 俗二丁四」、大損	子良大事 *端裏「子良大事 二丁三」、大損	麗氣汀印信 *端裏「麗氣汀印信 二丁二」、大損	岩戸開大事 *端裏「岩戸開大事 二重一」、大損	御流神道 *中損	神拜之許札	御流申首日待大事 *小損	御流申首月待大事 *小損	庚申待大事 *小損
									安政3年9月写	天保10年2月	享保20年12月16日	享保20年12月16日	享保20年12月16日
丹生民部富道									丹生民部富道	阿闍梨鏤善（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）
										季之	丹生広義	丹生広義	丹生広義
状・封紙	状	状	状	状	状	状	状	状	写本整帳	状・封紙	状	状	状

丹生家 二之宮祝子（神道説―三輪神道・御流神道、―伊勢神道）

た-11	た-10	た-9	た-8	た-7	た-6	た-5	た-4	た-3	た-2	た-1	た-423	た-30
日本後記纂	太神宮心御柱記	神皇系図	日本書紀神代卷神名鎮座	神宮秘伝問答 *奥書「度会延佳（印）」、朱書入	神宮続秘伝問答 *奥書「度会延佳（印）」、朱書入	御鎮座次第記	御鎮座伝記 *墨書あり	豊受大神宮御鎮座本紀 *朱書入	宝基本記 *朱書入	御鎮座本縁 *朱書入	御幣大事	授神道先例控 *神道十ヶ大事を授けた記録、内容は天保9年（明治2年まで） 嘉永7年 丹生相見重治
写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	状	堅 帳

伊勢神道

丹生家 二之宮祝子(神道説—伊勢神道)

た-25	た-24	た-23	た-22	た-21	た-20	た-19	た-18	た-17	た-16	た-15	た-14	た-13	た-12
神道大意 渡会延佳	古老口実伝	皇太神宮年中行事記	行幸記	天神七代略抄	神敵吉田兼俱謀計記	〔詔刀師沙汰文〕	御遷宮沙汰文	大和本記	神令	伊勢神領内名所目録(神風小名寄)	諸神記	天照太神宮參宮神拜次第記	類聚神祇本源
*奥書「度会延佳(印)」、朱書入	*朱書入、中損	*小損	*永享9年10月21日の記事、中損	*正徳5年9月上旬丹生広義齋、中損	*奥書「度会延佳(印)」、朱書入	*中損	*内題「文永三年御遷宮沙汰文」	*「国名風土記」添付	*朱書入、小損	*小損	*小損	*中損	*天宮篇の一部、中損
写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴	写本和綴

た-106	か-8-1	た-442	か-3-5	た-463
〔八幡宮御供田寄附状〕	〔八幡宮御供田寄附状〕	定八幡宮さんき事 <small>(マツ)</small> *お供え料灯明料の払いの定、中損	〔遷宮詣入用米覚〕 *端裏「遷宮之節社人取米之事」	八幡宮上遷宮下遷宮祝儀引付覚 *か-3-5とかわるか、大損 (慶長10年)
天和2年6月5日	天和2年6月5日	慶安3年12月吉日	慶長10年11月吉日 元禄3年写	
学侶年預坊	学侶年預坊(印)	天野上下庄中(印)	天野上下年寄	
相見	相見	八幡宮神主		
状	状	状	状	状

他社奉仕

下天野八幡宮

た-455	た-454	た-453	た-452
〔神道説抜書〕	幣等切形 *包紙上書「幣等切形 五品入 丹生相見」	祝詞幣 *包紙上書「祝詞幣 社之大小ニテ見合 丹生相見」	神衣形図 附笏図 幣袋寸法 木綿纏寸法 小幣形 申幣形
	丹生相見	丹生相見	丹生相見
状	包紙包み	包紙包み	包紙包み

その他

た-27	た-26
倭姫命世記 *度会延佳識語あり、朱書入	伊勢二所皇御鎮座記 *朱書入、中損
写本和紙	写本和紙

丹生家 二之宮祝子(神道説)伊勢神道、その他/他社奉仕(下天野八幡宮)

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕―下天野八幡宮）

た-221	た-247	た-236	た-40	た-38	た-57	た-56	た-41	た-55	か-8-3	か-8-2	か-8-4	か-8-5
口上（八幡宮遷宮について庄中の意趣を承りたい旨） *小損	預り申畑之事（字折芝） *絵図あり	〔八幡宮御造宮覚〕 *た-40を見よ、小損	八幡宮御造宮覚 *た-236へ続く、小損	八幡宮御造宮覚 *中損	妙見大菩薩遷宮祭文 *八幡宮境内社、中損	八幡三所大菩薩遷宮祭文 *中損	〔八幡宮上葺きの高除キ十一人の手伝いにつき覚〕	八幡宮下遷宮祭文 *小損	〔封紙〕 *上書「天野八幡宮御供田寄附状」	下天野村古屋谷折芝両所新田之定	〔折芝大池之書物相見家に預け置く旨書付〕	申指上一札之事（新開田引水につき）
	文政7年正月28日		享保8年	享保8年7月23日	元禄14年5月28日	元禄14年5月28日	（元禄14年5月朔日）	元禄14年3月10日		貞享4年12月5日	乙丑（貞享2）3月日	貞享2年2月19日
	尾鼻村預り主嘉蔵（印） 細原村請人嘉十郎（印）			丹生相見	丹生相見広忠	丹生相見広忠		丹生相見		年預坊（印）（奥）取次宝 泉院	宝光院 宝泉院	星山村庄屋甚左衛門（印） 同村長右衛門（印）
	丹生相見									作人又之丞		法泉院 宝光院
状	状・封紙	状	状	縦帳	状	状・封紙	状	状	封紙	状	状	状

上天野岡村天満宮

た-473	た-79-2	た-79-1	た-79	た-471	た-73-2	た-73-1	た-73	た-469	た-70	た-69	た-39	た-59-1
天満宮上下遷宮	天満宮御下遷宮祭祝文次第	天満宮御上遷宮祭祝文次第	〔一括封紙〕	天満宮上下御遷宮記	天満宮御上遷宮祭祝文次第	天満宮御遷宮祭祝文	〔一括封紙〕	天満宮御遷宮(遷宮記)	天満宮御上遷宮祭祝文次第	天満宮御遷宮祭祝文	預り申天満宮造営銀之事	天神上遷宮祭文
*不開	*大損	*不開	*上書「天満宮御遷宮祭祝文」	*不開			*上書「天満宮御遷宮祭祝文」	*宝暦6・安永6・文化8の年号あり、中損	*中損	*中損	*中損	*封紙上書「遷宮祭文 丹生相見欽白」小損
安政4年9月18日	安政4年8月24日	(安政4年9月19日)		天保6年9月日	天保6年9月	天保6年9月		(文化8年)	元文2年閏11月8日	元文2年11月20日	享保19年正月25日	宝永元年8月9日 ^五
丹生相見右京重治	丹生相見季之	(丹生相見季之)		丹生相見右京季之	丹生相見季之	丹生相見季之			丹生相見広義	丹生相見広義	半兵衛(印)	丹生相見
											岡村御衆中	
堅帳	状	状	封紙	堅帳	状	状	封紙	綴り	状	状	状	状・封紙

丹生家 二之宮祝子(他社奉仕)上天野岡村天満宮

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕）下天野子聖権現、一教良寺大明神、一古佐布大明神

下天野子聖権現

た-203	た-340	た-161	た-254
〔子聖権現造営争論留書〕 *表紙・一丁はた1254のもの、大損	〔子宮御鍵返却につき書状〕	率差上預り一札之事（子聖宮御鍵二つ預書） *中損	〔大権現宮用留記〕 *後欠、中損
（寛政12年）	（寛政12）閏4月27日	寛政12年3月24日	（寛政10年霜月）
	南院内常専	天野二之宮神主丹生相見 （印）	（丹生全之助義督代）
	左近	南院御役僧中	
罫帳	状	状	罫帳

教良寺大明神

た-68	た-464	た-61	た-48	し-3
教良寺大明神上遷宮祭祝文	教良寺大明神御遷宮次第	教良寺大明神上遷宮祭文	遷宮祭文并祝言事（教良寺村氏神上遷宮）	遷宮祭文（教良寺村氏神下遷宮）
*中損	*中損	*大損	*大損	*大損
元文元年11月30日	元文元年9月21日	享保元年9月26日	寛文13年7月7日	丙寅（寛文13年）
丹生相見広義	丹生相見広義	丹生相見	丹生相見広忠	丹生相見広忠
状	状・封紙	状・封紙	状	状

古佐布大明神

た-60	た-49
古佐布大明神上遷宮祭文	遷宮祭文（古佐布大明神）
*中損	
宝永3年9月16日	（延宝3年）
丹生相見広忠	丹生相見
状	状

た-85	た-474	た-80	た-475	た-75	た-470	た-72	た-71	た-160	た-468	た-466	た-65	た-62
〔古佐布大明神上遷宮祭文〕	古佐布大明神上下遷宮記	古佐布大明神下遷宮祭祀文	古佐布大明神御遷宮記	古佐布大明神上遷宮次第	古佐布大明神上下遷宮記	古佐布大明神上遷宮祭祀文	古佐布大明神下遷宮祭祀文	乍恐奉願上口上覚(遷宮の儀は先例の通相見家が勤るよう仰せつけの旨)	古沢大明神上下遷宮記録	古佐布大明神上遷宮次第	〔古佐布大明神遷宮祭文〕	古佐布大明神下遷宮(祭文)
*不開	*中損	*大損	*表紙欠、小損	*不開	*大損	*大損	*小損	*水損	*中損	*中損	*前欠、大損	*大損
(慶応3年か)	慶応3年	慶応3年2月17日	(嘉永元年)	(嘉永元年9月8日)	天保3年5月上旬	天保3年3月晦日	天保3年2月17日	文化9年3月15日	寛政6年2月朔日	元文4年9月17日	享保4年11月4日	享保4年9月23日
(丹生相見富道)	丹生相見	丹生相見富道	丹生季之	(丹生相見季之)	丹生相見季之(花)	丹生相見季之	丹生相見季之	丹生相見(印)〔奥〕天野惣神主家名跡預り中橋嘉兵衛	丹生相見広勝	丹生相見主計広義	丹生相見主計広義	丹生相見広義
								年預代				
状・封紙	縦帳	状・封紙	縦帳	状・封紙	縦帳	状・封紙	状・封紙	状	縦帳	状	状	状・封紙

丹生家 二之宮祝子(他社奉仕―古佐布大明神)

丹生家 二之宮祝子（他社奉仕）その他／争論（吉田家裁許状一件）

その他

た-131	た-465	た-67	た-58	た-52	た-50
〔浜田村蟻通明神事執行依頼状〕	四村大明神御上遷宮次第（星川村八王子社） *標題脇に「八王子」と注記、大損	四村大明神御下遷宮次第（星川村八王子社） *大損	下村八王子上遷宮祭文 *大損	紀州天野王里村柳之沢御宝殿就遷宮奉請十方神施之他力之状 *中損	下遷宮祭文并祝言（東富貴村鎮守大明神） *中損
6月26日	元文元年11月20日	元文元年10月10日	元禄17年正月吉日	元禄7年10月10日	貞享3年今月吉日
東西浜田村地頭年番（印）	丹生相見広義	丹生相見主計広義	丹生相見	願主天野王里村中	丹生相見広忠
丹生相見					
状・封紙	状	状	状	状	状

争論

吉田家裁許状一件

た-145	た-137-3	た-137-2	た-137-1	た-137
天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損	元和・寛永・万治・寛文相見家公私留書 *後欠、大損	天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損	天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損	丹生相見家記 争論記 他見無用 *三冊合冊し新たに表紙添付、大損
元和元年より享保元年	（元和元年）寛文	元和元年より享保元年	元和元年より享保元年	
修禅院懐英扣記		修禅院懐英扣記	修禅院懐英扣記	
壱帳	壱帳	壱帳	壱帳	

か-7-6	か-7-2	た-136	た-136	た-104-6	た-104-5	た-104-4	た-136	た-136	た-104-3	た-104-2	た-136	た-7-1	た-140
〔裁許状遣わす旨書状〕	神道裁許状	⑦〔暫紙遣わす旨書状〕	⑥天罰起請文之事	〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	〔社家中へ法度・書物申付けにつき書状〕	④〔御朱印仰せ付けの様子を伝える書状〕	③〔御朱印写遣わし状〕	〔新儀の興行を改めるべき旨書状〕	〔新儀の興行を改めるべき旨書状〕	①〔御朱印写〕	神道裁許状	〔争論経過覚書〕
(元和9)閏8月25日	元和9月閏8月25日	(元和元)8月21日	元和元年8月20日	(元和元か)8月20日	(元和元か)8月20日	(元和元か)8月20日	(元和元)8月13日	(元和元)8月12日	元和元年8月12日	元和元年8月12日	元和元年7月7日	慶長16年12月25日	(慶長16年12月25日 寛文5年2月7日)
吉田内鈴鹿采女正 治忠 (花)	神道管領長上下部朝臣兼英 (花)(印)	大楽院	天野二宮祝子相見	学侶年預	学侶年預	学侶年預	大楽院	年預花藏院	衆議衆中 年預	衆議衆中 年預	(徳川家康)	道神管領長上下部朝臣(花) (印)	
丹生相見太夫	(丹生義継)	惣神主一丸	学侶御衆議中	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	天野惣神主一丸	惣神主一磨	惣神主一磨		(丹生義久)	
折紙	状			折紙	折紙	折紙			折紙	折紙		状	状

丹生家 二之宮祝子(争論—吉田家裁許状一件)

丹生家 二之宮祝子（争論—吉田家裁許状一件）

た-136	た-234	た-250	た-136	た-104 -1	か-7-5	た-136	た-104 -10	た-104 -9	た-104 -11	た-104 -12	か-7-4	た-104 -8	た-104 -7
② 「遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二十日頃下向の旨書状」	乍恐申上条々（祝詞・祓・装束停止につき申し状） *端裏「慶安〇年 相見先祖より年預へ差上候神主控之事」大損	乍恐謹而言上（惣神主の装束・社役儀式につき吟味願） *大損	⑭ 「吉田兼英書状の旨を伝える書状」	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕 *136 ⑬も同	⑪ 「社家中諸事法度古法の」とくの仰せ付けは尤もである旨書状」	〔相見新儀を改めるべき由の仰せ付けを衆議一同に申し入れる旨書状〕 *136 ⑫も同	〔碩学中申渡に異義なき旨書状〕 *136 ⑩も同	〔相見は装束社役等三四宮祝子の」とく申付の旨書状〕 *136 ⑨も同	〔相見は諸事社役等三・四宮祝子の」とき旨書状〕 *136 ⑧も同	〔相見裁許は新義ではない旨四社明神の社家以下へ仰せ聞かせる旨依頼状〕	〔二宮祝子新義非例について江戸御奉行沙汰に仕り度につき書状〕	〔二宮祝子新義非例について江戸御奉行沙汰に仕り度につき書状〕
（万治元か） 閏12月23日	（慶安年中か）	（寛永元年か）	（寛永元か）霜月24日	（寛永元か）11月18日	（寛永元か）11月18日	寛永元年9月16日	寛永元年5月16日	寛永元年4月28日	寛永元年4月28日	寛永元年4月28日	（元和9か）12月11日	（元和9か）10月22日	（元和9か）10月22日
宝性院玄（玄有か）	相見	相見太夫	知足院	吉田兼英	吉田兼英	無量寿院栄雄	年預坊	宝性院有盛	正知院 釈迦文院 西南院 如意輪院 御庵室 金剛三昧院	正知院 釈迦文院 西南院 御庵室 定祐 如意輪院 来通	吉田兼英（花）	天野惣神主秀澄	天野惣神主秀澄
天野神主	年預代	指上ル号	天野惣神主	知足院	知足院	天野神主一磨	天野神主一麻呂	天野神主一磨	天野社家供僧惣中	天野惣神主一麻呂	高野山無量寿院 宝性院 碩学之御中 御同宿中	知足院	知足院
	状	状		折紙	折紙		折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙

た-492	た-190 -2	道中駄賃帳 *不開了あり、大損	享保3年8月14日	紀州丹生相見		横半帳
		神主与相見出入之留 *二冊合冊の下、大損	享保3年3月より12月迄	丹生相見		縦帳
相統願書・木祭神役ほか一件						
た-104	た-233	【吉田家裁許状一件関係書状写貼継一括】↓ 12点 *該当年月日個所へ				巻子
		神主非例を内記受不申候覚 *内記宮入にさいし神主新義書物に対する返答書、中損	(寛文8年)			状
	た-136	⑩紀州天野丹生明神惣神主就訴訟相見内記召寄申渡覚	寛文元年8月9日	井河内 板阿波		状
	た-223	〔社家中申し状に対する返答書〕 *前欠		(丹生相見)		状
	た-226	覚(二三四之祝子以下社人継目作法) *た-148の一つ書きと同、大損				状
	た-149	覚(惣神主継目次第) *た-148の一つ書きと同、小損				状
	た-148	〔装束・祝詞幣争論につき社家中申し状〕 *大損	万治4年3月16日	三祝子利清 四祝子家澄 外社家11名 供僧6名		状
	た-144	紀州天野丹生明神惣神主と相見と就訴訟申渡覚 *136⑩も同、後欠	(万治2年6月18日)	(井上河内守・板倉阿波守)		状
	た-147	乍恐申上返答条々(惣神主訴状への相見より返答書) *大損	万治2年5月18日	高野明神之神主丹生相見	寺社御奉行所	状
	た-141	⑪〔来月中に江戸参着の旨書付〕 *小損	亥(万治2)3月27日	阿波 河内	二ノ宮祝相見	状
	た-141	⑫乍恐申上条々(相見の装束・祝詞幣の新儀について訴状) *小損	万治2年3月27日	天野惣神主丹生一磨 同丹生将監	御奉行所	状

丹生家 二之宮祝子(争論)吉田家裁許状一件、相統願書・木祭神役ほか一件

丹生家 二之宮祝子（争論）相統願書・木祭神役ほか一件

た-130	ふ-60	た-350	た-128	た-188	た-196	た-245	ふ-33	た-229	た-228	た-200	か-12-1	か-12-1	た-190-1
〔呼出状〕	〔呼出状〕	〔證文お遣わしほか近況報告書状〕	口上（社家方古目録、社役につき）	享保三戌年学侶方より御返答書之写 *196への返答書、大損	勅紀州伊都郡高野山鎮守天野丹生明神社人二宮之祝子相見式部 訴状差上返答書被為仰付奉畏乍恐言上之覚／ *中損	覚（訴状請取） *大損	〔訴状提出のさいの添え状・差紙返事書式写〕	乍恐口上覚（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *大損	乍恐口上書以申上候覚（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *大損	願書并御裏書写（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *神社奉行の裏書あり、大損	●〔対決につき呼出状〕	●乍恐口上書申上候覚（相統願書・木祭社役ほか争論につき訴状） *押紙一公儀江差上願書	御奉行所江罷出候日次 *二冊合冊の上、大損
*小損		*大損	*中損										
（享保3）11月24日	（享保3）11月2日	（享保3）閏10月14日	（享保3）閏10月14日	享保3年	享保3年10月	戊（享保3）9月晦日	（享保3年9月か）	戊（享保3）9月	戊（享保3）9月	享保3年9月	戊（享保3）9月28日	戊（享保3）9月	享保3年9月8日
土井伊予守役人	土井伊予守役人	留守中	役人		丹生惣神主丹生将監	惣神主（印）		丹生相見 同主計	丹生相見太夫 同主計	（丹生相見 同主計）	伊予 対馬 因幡 修理	（印） 丹生相見（印） 同主計	丹生相見 同主計
丹生相見 同主計	高野丹生相見 同主計	丹生主計			寺社御奉行所	二祝子主計		寺社御奉行所	寺社御奉行所御役人中	（寺社御奉行所）		寺社御奉行所	
状	状	状	状	状	卷子	状	折紙封緘	状	状	竖帳	状	状	竖帳

た-178	二宮相見社役滞之一件留 *寛延2~宝暦3の「社家覚(諸事留書)」あり、大損	延享4年6月(寛延2年正月27日)	丹生広元		縦帳
た-230	草案 乍恐奉窺口上覚(二之宮社役三祝子二相勤させ候につき) *後欠、大損	(享保7年3月28日以降)			状
二之宮代勤一件					
た-348	〔去十七日以降の主計方成行につき書状〕 *後欠	(享保3年か)	春龍	江戸相見へ	状
た-312	〔御出入筋の首尾につき書状〕 *大損	(享保3年か)	巴陵院	(相見江戸江)	状
た-146	江戸下着前高野御吟味享保三年 御公儀江籠出候日並 同日並 被仰渡書 御公儀上ル願書 中 他見無用 *後欠、大損	(享保3年)			縦帳
た-138	〔相見訴状、惣神主将監返答書写し〕 *表紙欠、将監返答書後欠、大損	(享保3年)			縦帳
た-225	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状5枚
た-218	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状
た-217	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状
た-216	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	状
た-215	指上申一札之事(争論裁許請書)	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	巻子
た-201	御裁許写(争論裁許請書) *中損	享保3年12月18日	高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	寺社御奉行所	縦帳

丹生家 二之宮祝子(争論)相続願書・木祭神役ほか一件、一之宮代勤一件、一社役滞り一件)

丹生家 一之宮祝子（争論）社役滞り一件、一南院様御供調進一件／久留里藩黒田家

た-198	た-197	た-195
差上申一札之事（隠居、社役入り争論裁許請書）	差上申一札之事（隠居、社役入り争論裁許請書）	〔惣神主へ隠居願差し出しにつき申渡寛〕
*大損	*小損	*小損
寛延2年正月	寛延2年正月	辰（延享5）7月11日
惣神主付一宮手長佐七郎 惣神主右近後見四祝子 天野惣神主丹生右近	相見一家惣代狭間惣七 天野宮二祝子丹生相見	年預代
御年預坊		丹生相見
縦帳	巻	子巻

南院様御供調進一件

た-235	た-231	た-163	た-213	た-162
乍恐奉願口上覚〔惣神主不在の際の献餞につき〕	〔惣神主不在の際の献餞につき伺い〕	乍恐奉窺口上覚（惣神主不在の際の献餞につき）	一之宮相互之留書（南院様の御供え調進に關して争論）	一之宮二之宮相互之留書（南院様のお供え調進に關して争論）
	*後欠、大損	*小損	*板状、不開	*小損
（明和8年10月）	（明和8年10月）	明和8年10月12日	明和8年10月吉日	明和8年10月吉日
		天野丹生相見	丹生茂勝書之	丹生茂勝書之
		年代 ₃		
状	状	状8枚	横半帳	横半帳

久留里藩黒田家

ふ-52	た-202-3	た-202-2	た-202-1
〔豊前守年賀礼状〕	〔年賀状ひかえ〕	〔年賀状ひかえ〕	黒田大和守殿江年頭書翰留記
*大損			*袋綴じ内文書以下へ大損
（文化3）正月28日	正月5日	正月5日	寛政11年正月5日
右衛門 森五郎兵衛 森四郎兵衛 戸川平次兵衛 宇佐美次郎 土屋市兵衛（全主化）	丹生相見茂勝（花）	丹生相見季之（花）	丹生相見重元義督代
丹生相見	黒田鶴松様御用人中	黒田豊前守様御用人	
折紙	状	状	縦帳

ふ-10	ふ-63	ふ-61	ふ-54	ふ-53	ふ-50	ふ-45	ふ-41	ふ-29	ふ-25	た-352	た-333	ふ-65	ふ-6
〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守武運長久御祈禱礼状〕	〔大和守武運長久祈禱の初穂料金二百疋遣わす旨書状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔帰着の旨の書状への豊前守返書〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔鶴松年賀礼状〕
*大損	*中損	*大損	*小損	*大損	*中損	*大損	*大損	*中損	*大損	*大損	*大損	*大損	*小損
正月29日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月28日	正月26日	正月26日
宮崎五郎左衛門 衛門 水沼寛大夫(全花)	川口良助 森四郎兵衛 衛門 土屋市兵衛(全花)	榎本十兵衛 森平太兵衛 大森弥次兵衛 村山治大夫 (全花)	宮崎五郎左衛門 岡本太郎 右衛門 土屋市兵衛 山田与一 花 右衛門 森二郎左衛門(全)	門馬九左衛門 白井字右衛 門 日比野孫兵衛(全花)	戸川孫大夫(花)	水沼寛大夫 田代多宮 宇 佐美金五右衛門(全花)	衛門 柳六郎兵衛 土屋百度兵 衛門 松村寛馬 本田源左衛 門 川口良助(全花)	宮崎五郎右衛門 岡本太郎 右衛門 土屋市兵衛 山田与一 花 右衛門 森二郎左衛門(全)	宮崎五郎左衛門 岡本太郎 右衛門 森二郎左衛門(全)	堀口善左衛門 長岡佐仲 宮本理右衛門(全花)	木本九郎兵衛(花)	岡本十郎左衛門 門馬九左 衛門 白井字右衛門(全花)	松井才兵衛 山田与一 右衛 門 木村二郎左衛門 戸川 孫太夫(全花)
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生花押	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見 同主計	丹生相見	丹生相見
折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙

丹生家 一之宮祝子(久留里藩黒田家)

ふ-36	ふ-49	ふ-59	ふ-14	ふ-62	ふ-17	ふ-8	ふ-30	た-319	た-315	ふ-7	た-335	ふ-64	ふ-56
〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔三五郎年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔社職相統の書状につき鶴松より返書〕	〔返書不着の問い合わせにつき返答書状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔鶴松年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕
*大損	*大損	*大損	*中損	*大損	*中損	*中損		*大損	*小損	*大損	*大損	*大損	*大損
2月17日	2月16日	2月15日	2月15日	2月14日	2月13日	2月13日	2月7日	2月7日	2月7日	2月6日	2月5日	正月	正月29日
出水平学 土屋市兵衛 (全花)	門馬九左衛門 日比野孫兵衛 (全花)	衛村松寛馬 衛山安左衛門 衛門大森惠助 (全花)	堀口善左衛門 岡本十郎左衛門 (全花)	村山治大夫 崎五郎左衛門 (全花)	新井浅右衛門 宇佐美金五右衛門 (全花)	新井浅右衛門 覚大夫(花)	木本九郎兵衛(花)	右衛門 森次郎左衛門 宮崎五郎右衛門 八土屋市兵衛 右衛門 森次郎左衛門	宮崎五郎左衛門 八土屋市兵衛 右衛門 森次郎左衛門	新井浅右衛門 宇佐美金五右衛門 (全花)	衛門 水沼寛大夫 宮崎五郎右衛門 新井浅右 (全花)	右衛門(全花) 石川九郎兵衛 戸川新右衛門	木本九郎兵衛(花) 宇佐美次郎 田原要人
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生李之助(義督)	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見
折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	状	折紙	折紙	折紙	折紙

ふ-18	ふ-19	ふ-38	ふ-35	ふ-48	ふ-27	ふ-20	ふ-40	ふ-23	ふ-5	ふ-15	ふ-44	ふ-2	た-320
〔亡父相見跡主計相続の報につき大和守より返書〕	〔爰元江御出之儀の日時伺につき書状〕	〔豊前守役儀就任御歎状返書〕	〔大和守娘の病氣平癒のお札受け取り礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔豊前守病氣平癒祈禱礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔豊前守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔三五郎年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕	〔大和守年賀礼状〕
*大損		*小損	*大損	*大損			*大損	*大損	*小損	*中損	*中損	*上部欠損、大損	*大損
12月2日	閏10月17日	5月25日	3月	3月15日	3月15日	3月15日	3月10日	3月2日	2月16日 ⁽²⁾	2月29日	2月28日	2月21日	2月21日
新井浅右衛門(花) 水沼 寛大夫(花)	黒田豊前守内 木本九郎兵 衛	木本九郎兵衛(花)	大森弥次兵衛 門馬九左衛 門 村山治太夫(全花)	岡本十郎左衛門(花) 宇 佐美金五右衛門(花)	岡本十郎左衛門 門馬九左 衛門 白井宇右衛門(全花)	千葉貞蔵 吉田禎蔵 杉浦 八郎左衛門 松井徒門(全 花)	土屋市兵衛 高橋壮兵衛 門馬齋 宮崎五郎左衛門	門馬九左衛門 山本丈大夫 村山治大夫 出水平学 水 沼寛大夫(全花)	松寛馬(全花) 新井五百右衛門 大森恵助 榎本十兵衛 杉原右門 村	村山治大夫 出水平学 宮 崎五郎左衛門 水沼寛大夫 (全花)	白井宇右衛門(花) 宇佐 美金五右衛門(花)	宮崎五郎左衛門(花) 水 沼寛太夫(花)	出水平学 宮崎五郎右衛門 新井浅右衛門 水沼寛太夫 (全花)
丹生主計	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見
折紙	状	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙

ふ-31	〔年賀礼状〕	*不開					折紙
ふ-26	〔大和守年賀礼状〕	*大損			村山治太夫 出水平学 宮崎五郎右衛門 水沼寛太夫 (全花)	丹生相見	折紙
た-353	〔豊前守御役付・加増の旨報告につき書状〕	*大損	□月15日		門馬九左衛門 白井宇右衛門 日比野孫兵衛 (全花)	丹生相見	折紙

書状

た-324	〔身元進上書状〕 *石見惣光寺法印、豫州公御役人矢野五郎右衛門、中損		8月	成院	丹生氏	状
た-325	〔金堂の上棟につき書状〕 *小損		8月14日	利継(花)	広義公	折紙
た-347	〔予州公御普請・行方徳蔵院青巖寺不参不屈き・公儀御祈禱につき書状〕 *丹生相見公儀祈禱丹精の旨		4月9日	釈迦文院本寂(花) 多聞院味遍(花)	青巖寺換校尊老	折紙
た-313	〔年頭加賀行出僧ほかにつき書状〕 *下部小損		3月11日	天徳院	天徳院留主居中	状
た-334	〔兵庫儀明十九日出立につき書状〕 *中損		(弘化2か)1月18日	同院	天徳院留主居中	折紙
た-327	〔組頭の御召・出立につき書状〕 *〔四日着〕とあり、中損		(天保14年5月か)21日	同院より	天徳院留主居中	状
た-323	〔行人方組頭一件相片付、今日学侶方寄合入札につき書状〕		(天保14か)4月28日	天徳院内より	天野丹生相見	状
た-354	〔行人学侶組頭入札につき書状〕 *小損		(天保14か)4月13日	同院より	天徳院留守居中	状
た-349	〔戸田日向守殿より学侶行人双方へ入札仰渡につき書状〕		(天保14か)4月11日	天徳院	丹生氏	状
た-316	〔教光院事・御祈禱・天野神主、丹生相見事はかにつき書状〕		(享保6年以前)11月19日	天徳院問津(花)	権檢校	状

丹生家 二之宮祝子(久留里藩黒田家/書状)

丹生相見家

系図

つ-25	つ-24	た-507	た-257	た-238	た-103	か-11-2	た-31	か-11-1	か-1-2	か-1-1
丹生神主系図	紀伊天野丹生家継系図 *青焼きコピー	丹生氏系図 *巻紙 万年筆書	丹生相見系図(本系帳注釈書) *鉛筆書入れ	[相見家由緒] *後欠	[丹生祝氏本系帳注釈書]	[丹生氏系図]	神職司祝之祭文 丹生相見天祖之系(本系帳注釈書)	丹生祝氏籍記 *押紙「雲石堂自筆系図」序(天和癸亥八月十六日)	丹生祝氏籍記并序 *押紙「延暦巻系図」町史	[丹生祝氏本系帳]
平成元年2月調之							(安永9年7月27日)	貞享元年8月16日	貞享元年8月16日	延暦19年9月16日
							等持院長慎	寂本	寂本	
巻子	巻子	状巻紙	縦帳	状	巻紙	状	縦帳	元縦帳	状	状

丹生家 丹生相見家(系図)

婚姻

た-407	た-405	た-406	た-159	ふ-39	た-487	た-341-3	た-488	た-493	た-344
奉願口上覚(拝借金二十年賦願)	御年預坊拝借銀を以請払帳 *裏表紙墨書「式部広勝死去之副」中損	奉差上御請書之事(金子拝借につき)	乍恐奉願口上覚(金二十両拝借につき)	目録(高室院より進物)	婚姻祝儀帳	[離別状送り状]	暇遺隙状之事	婚礼祝儀払(若山藤井唯三郎養子)	[唯三郎縁談整につき書状]
*中損	*中損	*小損	*父大損	*あり・木綿・足袋など、小損	*小損		*町史、小損	*小損	*小損
文化8年10月日	文化6年12月吉日	文化6年12月	文化6年11月日	(弘化3年5月26日)	弘化3年5月26日	(天保15か)11月4日	天保15年11月日	天保12年9月10日	(天保12か)5月28日
願主丹生相見(印)	菊谷栄助 あらみ西重太夫	天野丹生相見 一家菊谷栄助 一家西重太夫	天野村願主丹生相見(印) 安良見村一家惣代西重太夫(印)	(高室院)	丹生恵十郎	天徳院	藤井唯三郎		角田利七 山門勘兵衛 井伝左衛門 藤
年預代		歳預代	年預代	寺中清左衛門 寺中御内室 四祝子 御湯太夫 他11名		丹生相見	丹生氏 智恵丈		丹生相見
状	横帳	状	状	状	横帳	状	状・封紙	横帳	状・封紙

勸進・合力

年預拝借金

丹生家 丹生相見家(婚姻/勸進・合力)年預拝借金

丹生家 丹生相見家（勸進・合力）学侶行人相對勸化

学侶行人相對勸化

た-382	た-381	た-373	た-417 -2	た-158 -3	た-376	た-417 -1	た-158 -2	た-158 -1	た-158	た-374	た-356	た-372
勸進帳（学侶方）	勸進簿（行人方）	勸化金請取帳	覚（取替置筋受取）	乍恐奉願上口上覚（行人方勸化願）	勸進簿 全	勸銀受取覚	乍恐奉願上口上覚（学侶方勸化願）	乍恐奉願上口上覚（五ヶ年之間支分銀延引につき）	〔一括封紙〕 ↓以下詳細 *墨書「高野山行学勸化之節差出し候願書三通入」	高野勸化日並	天野大明神施講	〔合力につき勸進帳〕
*中損	*中損	*中損	*縦紐に結付	*中損	*た1382の浄写本、中損	*中損	*大損	*大損		*中損	*内題「天野丹生相見家神施講」中損	*大損
（文化14年）	（文化14年）	文化14年霜月吉祥日	文化14年霜月8日	文化14年11月5日	文化14年2月日	（文化14年2月21日） 7月24日	文化14年正月25日	文化13年11月		文化13年6月吉日	宝永8年3月日	万治3年極月21日
丹生相見		丹生相見	寺中庄藏（印）	天野丹生相見（印）	発起世話人悉地院寛応（花） 同定光院宥寂（花）		丹生相見弟同左京 一家惣 代庄藏	天野丹生相見一家惣代同所 庄藏（印）安良見村西十太 夫（印）		丹生相見右京季之		
			丹生相見	興山寺様御役人明慶院			年預代	年預代				
縦帳	縦帳	横帳	状	状	縦帳	横帳	状	状	封紙	縦帳	縦帳	縦帳

装束・神事道具等勸進

た-380	た-418	た-378-1	た-378-4	た-378-5	た-378-3	た-378-2	た-375
天野明神御鑰袋并御影向所御戸帳勸化帳	覚(装束代金受取)	勸化帳(装束神事道具調替)	勸進帳	勸化帳(神役入り・装束)	勸化帳(神役入り・装束)	乍恐口上覚(舞楽執行につき家普請・装束新調の助勢)	二之宮天野宮御装束御寄進注文
*不開了あり、大損		*合冊	*大損	*大損	*挟込文書あり、中損	*中損	*大損
	7月2日	未2月	(文化14年)	子(文化13)極月日	文化13年極月日	文化10年閏11月日	貞享3年霜月16日
丹生相見	いづみ屋平兵衛(印)	(天野二ノ宮神主丹生相見(印))	丹生相見	鳴吉左衛門(印)	天野二ノ宮神主丹生相見(印)	丹生相見	年預坊(印)
	相見						天野二之宮相見
堅帳	状	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳

明神講

た-362	た-361	た-360	た-404
明神講勸定帳	明神講請定	明神講譜定	指上申一札之事(金二十兩借用)
*中損	*中損	*中損	*大損
文政5年4月日	文政5年4月 (天保7年4月)	文政5年4月 (天保7年4月)	天明5年12月16日
丹生相見	講親丹生相見(印) 請人大 楽院(印) 同修禪院(印消)	講親丹生相見(印) 請人大 楽院(印) 同修禪院(印消)	講親天野丹生式部(印) 【奥】天野村御湯太夫(印) 同村一家代栄助(印)
			惣持院様御納所
横帳	堅帳	堅帳	状

丹生家 丹生相見家(勸進・合力・装束・神事道具等勸進、明神講)

丹生家 丹生相見家（勸進・合力・明神講／売買貸借）

た-330	〔講銀借用斡旋につき書状〕	*大損	11月21日	西良斎	丹生相見	状
た-364	率願口上覚（善集院丹生院釈迦文院へ講金返納仰付につき）	*中損	文政12年10月12日	天野二ノ祝子丹生相見	年預代	状

売買貸借

た-142	〔銀子借用証写〕	*奥書「丹生左近大夫時亨之置也」封紙再利用、大損	元和2年12月9日	天野相見甚八郎	興山寺愛 <small>（兼）</small> 院	状
た-396	売渡田之事	*大損	慶安2年12月23日	売主甚十郎（花）サハキテ 甚三郎（花）	内記	状
た-397	売渡田地之事	*奥上大損	慶安2年12月24日	売主甚三郎 庄人波砂間太 郎左衛門尉 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 屋甚十郎 （△花）	源太郎 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	状
た-398	〔銀子借用証〕	*小損	宝永4年極月23日	借主勘十郎（印） 請人平助 （印）	庫藏院内善秀坊	状
た-399	一札之事（銀子借用）	*小損	正徳5年極月28日	惣介（印）	相見	状
た-386	借用仕銀子之事	*上部やぶれ	正徳6年4月17日	庵ノ賢心（印）	相見	状
た-387	拝借銀筋覚帳	*中損	元文5年7月吉日	丹生相見主計		横帳
た-402	預り申銀子之事	*中損	元文5年8月11日	狭間惣七（印）	丹生相見	状
た-403	預り申銀子之事	*中損	安永4年極月日	杉本左円（印）	三内	状
た-388	借用申銀子之事	*た-408の添付資料、中損	文政12年7月	借り主佐兵衛（印）請人勝 右衛門（印） <small>（裏）</small> 村役人 新右衛門	磯右衛門	状
た-409	讓渡申證文之事（山林）		天保2年極月19日	讓り主庄之辻佐兵衛 藤四郎 組住屋杉本政之丞 藤四郎 村役人青垣内栄治 （全印）	丹生相見	状

た-365	た-414	た-412	た-491	た-416	た-415	た-393	た-167	た-413	た-411	た-390	た-408	た-410
差上申一札之事 (受人惣持院へ難渋かけぬ旨) *た414にかかわる、小損	預り申金子之事 *小損	預り申銀子之事 *上部中損	萬覚帳 (取納・年貢・雇入・金銀入・金銀出・貸借覚等) *不開丁あり、大損	金銀貸方扣 *表紙「乙」	本銀に返り田地返り證文之事 *小損	借用申金子之事 (大楽院用金22両借用) *嘉永4年12月金子受取の旨一乘院の追記あり、た351も見よ、小損	意得書 (金銭貸借覚) *表紙「甲」	譲り渡シ山畑之事	壳渡申山林之事 *封紙上書「湖谷山林譲状」中損	借用申金子之事	譲り渡申證文之事 (山林) *小損	譲渡申證文之事 (山林) *た411の添付資料、小損
嘉永2年3月	嘉永2年3月	天保14年霜月	文久4年正月吉辰	万延元年12月日 (明治2年4月)	嘉永5年極月	嘉永2年12月	天保15年(明治3年)	天保15年正月日	天保12年極月日	天保9年12月30日	天保2年極月	天保2年極月19日
本人丹生相見 (印) 受人御湯太夫 (印)	院請人大楽院 (印消) 同惣持院 (印消) 丹生相見 (印)	預り主 (垣か) 主西十太夫 庄屋 紋重郎 (印)	丹生相見	丹生民部	丹生相見 (印)	本人八塚正左衛門 (印) 受人丹生相見 (印)	丹生相見季之	譲り主 松谷勇治 (印) 【裏】 村役人中谷源八郎	寺中清左衛門 (印)	宇平治 (印) 源八郎 (印)	左兵衛 受人勝右衛門 (印) 【奥】	譲り主庄之辻左兵衛 (印) 【裏】 村役人栄治 (全印)
惣持院	一乘院	稲荷講御衆中			前垣内万蔵	取次一乘院		相見	丹生相見	相見	丹生相見 寺中久弥	寺中久弥
状・封紙	状・封紙	状・封紙	横半帳	横半帳	状・封紙	状	堅帳	状	状・封紙	状	状	状

頼母子

丹生家 丹生相見家 (壳買貸借/頼母子)

丹生家 丹生相見家（頼母子／普請）

た-357	た-351	た-368	た-369
〔頼母子定書〕	〔正左衛門頼母子経営、大染院用金返金につき書状〕	実助講掛金之通	永続講掛金請取帳
*前後欠	10日	慶応3年9月	慶応元年12月
	一乘院	泰治（印）	啓介（印）
	丹生相見	丹生相見	丹生相見
状	状	横半帳	横半帳

普請

た-37	た-478 -2	た-479	た-478 -1	た-480	た-486 -1	た-477	た-486 -3	た-486 -2
狩場明神上棟留記	屋根葺替日記	蔵・部屋・薪屋普請諸払覚帳	屋根葺替日記	襖張替留記	水船造作留記	天野丹生相見家内疊致替合力金目録	屋普請入用銀勘定帳	屋普請入用銀勘定帳
*中損	*二冊合冊の下、中損	*中損	*二冊合冊の上、中損	*不關丁あり、大損	*三冊合冊の上、不關丁あり、大損		*三冊合冊の下、大損	*三冊合冊の中、大損
文政5年2月12日	明治2年8月吉辰	弘化2年極月	天保2年4月吉辰	文政11年9月	文政9年7月吉辰	享保5年正月吉日	正徳3年7月吉祥日	正徳3年7月吉祥日
丹生相見季之	丹生相見民部代	丹生相見右京季之	丹生相見季之	丹生相見季之	丹生相見	（開次） 修禅院前檢校快英（花）	天野宮丹生相見	天野宮丹生相見
						天野宮権神主丹生相見		
堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	卷子	堅帳	堅帳

た-438	狩場明神上棟留記	*大損	安政5年8月晦日	丹生相見富道		帳
-------	----------	-----	----------	--------	--	---

水汲・道通し請書

た-496	一札之事（水汲許可につき請書）	*大損	寛保元年12月日	伝重郎（印）	丹生相見	状
た-497	一札之事（水汲許可につき請書）	*小損	安永3年正月日	喜内（印）	丹生相見	状
た-498	一札之事（水汲許可につき請書）	*中損	天明3年4月日	金助（印）	丹生相見	状
た-499	差入申一札之事（かけ樋にて水取込許可につき請書）	*大損	天明6年3月日	□し屋 金助（印）	相見	状
た-500	一札之事（水汲許可につき請書）	*小損	享和2年12月日	伏見屋岩助	丹生相見	状
た-501	一札之事（水汲許可につき請書）	*小損	文化14年極月日	伏見屋慶治（印）	丹生相見	状
た-502	一札之事（水汲許可につき請書）	*中損	弘化3年極月	伏見屋源兵衛（印）	丹生相見	状
た-503	一札之事（水汲許可につき請書）		嘉永7年閏7月日	半次郎（印）	丹生相見	状
た-504	〔所有地への道通し許可につき請書〕		寛文□年7月10日	勝九郎（印）	内記	状裏打ち
た-505	一札（所有地への道通し許可につき請書）	*少虫	元禄9年8月26日	五兵衛（略押）	丹生相見	状
た-506	一札之事（所有地への道通し許可につき請書）		享保3年3月9日	儀兵衛（印）	丹生相見	状裏打ち

丹生家 丹生相見家（普請／水汲・道通し請書）

丹生家 丹生相見家（争論／高野山御用―安楽川莊奥家尼岡争論）

争論

た-115	〔潮谷山林争論絵図〕				〔潮谷山林争論絵図〕	状
た-117	乍恐奉願口上覚（潮谷山林吉原屋龍景刈取につき吟味願） *封紙上書「証文 勇治」内容と合わない、「二通あり」	9月日	丹生相見（印）	年預代	状・封紙	状
た-116	乍恐奉願口上覚（潮谷山林吉原屋龍景刈取につき吟味願） *封紙上書「証文 勇治」内容と合わない、「二通あり」	9月日	丹生相見（印）	年預代	状・封紙	状
た-114	喜代八株畑当時大工貞助ト湖谷山論扣	元治元年11月日	丹生相見民部代		摺帳	摺帳
た-113	〔藪間敷絵図〕				状	状
た-143	相見藪絵図間地写	文政13年2月3日	丹生相見季之（花）		巻子	巻子
た-112	相見所持藪田人三人嘉左衛門吉兵衛慶治願ニ付記 *後欠、大損	文政12年4月（文政13年3月3日）	丹生相見季之		摺帳	摺帳
た-284	奉願口上覚（藪所刈払いにつき取り計り願） *中損	文政12年正月	天野丹生相見（印）	御年番所	状	状

高野山御用

安楽川莊奥家尼岡争論

た-107	安楽川栞之助山論暖品覚 天野丹生相見日并 *大損	宝永4年4月28日	暖人丹生相見 中橋勘之丞 金川清兵衛		摺帳	摺帳
た-108	〔暖状之事〕	宝永4年7月6日	暖人 東しふ田金 慈中 天野村丹／奥	安楽川庄中	状	状
た-118	暖状之事 *た-108へ続く、中損	（宝永4年7月6日）			状	状

た-110	た-109
御尋二付申上口上覚(尼岡争論についてお尋ねにつき返答)	覚(奥李之助山論暖日並記預かり証)
*大損	*中損
寛保2年9月19日	寛保2年9月19日
天野丹生相見(印)	證菩提院(印)
年預代	丹生相見
状	状

上州清水寺

た-43	た-42	た-401	た-400	た-495	た-46	た-462	ふ-42	た-44	た-45
〔清水寺縁起資財書付〕	〔清水寺諸筆記写し取り持参の旨清水寺へ通達願〕	残りもの覚(預証)	払物注文之覚	萬小遣帳	清水寺観音領已年貢割付	〔遺書〕(其方住職仕るべき旨)	覚(祈禱執行継続につき)	〔右京大夫所替につき一代は寄附継続の旨書状〕	〔清水寺観音御供料六十石寄附状〕
*中損、下部水損しみ	*小損	*中損	*大損	*大損	*中損		*大損	*中損	*封紙上書「観音御供料御証文 華藏山清水寺」
卯5月	天保5年3月23日	(享保2年か)	享保2年11月13日	享保2年9月26日	正徳3年10月	正徳2年8月3日	宝永7年6月17日	宝永7年6月17日	宝永2年12月17日
上州片岡郡石原村清水寺(花)	上州群馬郡上大類村安楽寺 現住良長	高崎連尺町七兵衛(印)	立会 高崎連尺町七兵衛 同町 兵衛 石原村十蔵	智海	村松惣兵衛 川手万右衛門 三嶋所左衛門(全印)	清水寺当住持 賢隆(花)	松平右京大夫内浅井勝之丞	浅井勝之丞貞真(花)	松平右京大夫家臣浅井勝之丞(花)
葛岡斎藤治						弟子 智海房	清水寺	清水寺賢隆	華藏山清水寺賢隆
状	状	綴り	横帳	横帳	状	状	状	状	状・封紙

丹生家 丹生相見家(高野山御用―上州清水寺)

丹生家 丹生相見家（高野山御用・巡見・登山、一藪庄屋、一差紙／年貢）

巡見・登山

た-489	た-123	た-122
御巡見記録 阿州様御登山二付 多田恒吉様赤川佐太郎様 林栄治郎様 上 下廿八人御泊り算用書	御巡見記録	御巡見記録之覚
*小損	*大損	*町史、大損
嘉永6年 4月18日・21日	天保9年5月	享保元年極月17日
丹生相見	丹生相見右京季之	
堅帳	堅帳	堅帳

藪庄屋

た-283
千蔵院様藪年貢高帳
*中損
文政5年
丹生相見季之
堅帳

差紙

た-127	た-132
覚（相見三祝子年預坊への呼出状）	差紙（年番所へ呼出状）
*小損	
8月晦日	寅2月24日
年預代（印）	年番所清浄心院役人
丹生相見	上天野村丹生相見
状・封紙	状

年貢

た-290	た-308	た-289	た-288
皆済	指入申一札之事（荒地年貢米納につき）	覚（皆済）	覚（皆済）
*中損	*大損	*中損	*小損
寛政元年12月日	明和9年月日	宝曆12年極月日	宝曆5年極月日
悉地院代官（印）	楽□相見 久八	悉地院代官（印）	悉地院代官（印）
相見	□ _(番) 金八	相見	相見
状	状	状	状

丹生家 丹生相見家(年貢)

た-301	た-300	た-299	た-298	た-297	た-296	た-295	た-294	た-293	た-306	た-305	た-292	た-304	た-291
収納皆済之事	覚(皆済)	覚(皆済)	覚(皆済)	覚(皆済)	年貢皆済之事	覚(皆済)	覚(皆済)	年貢皆済之事	請取申數年貢之事	請取申數年貢之事	年貢皆済之事	受取申數年貢之事	年貢皆済之事
*大損	*大損	*大損	*大損 *裏書「新分」、大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*大損	*中損	*中損	*中損	*中損	*中損
明治3年12月日	明治2年12月日	慶応3年12月日	慶応2年12月日	慶応元年12月日	慶応元年極月	元治元年12月日	元治元年12月日	元治元年極月日	嘉永7年12月	嘉永7年12月	天保15年極月	天保14年12月17日	天保11年極月
上免庄屋許(印)	天ノ村上免庄屋許(印)	心南院代官(印)	心南院代官(印)	心南院代官(印)	悉地院代官(印)	心南院代官(印)	心南院代官(印)	悉地院代官(印)	千蔵院代官(印)	千蔵院代官(印)	悉地院代官(印)	千蔵院代官(印)	悉地院代官(印)
丹生相見	丹生相見	天野勝右衛門	天野勝右衛門	天野勝右衛門	天野村相見	天野宇平 <small>(字)</small>	天野勝右衛門	相見	岡村中	相見	天野邑丹生相見	岡村中	天野村丹生相見
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状

丹生家 丹生相見家（年貢／大念仏講／書状）

た-303	た-302
貢税皆済之事	貢税皆済之事
*大損	*大損
明治4年12月日	明治4年12月日
上天野村庄屋許（印）	上天野村庄屋許（印）
丹生相見	丹生相見
状	状

大念仏講

た-265	た-166	た-165	た-183
仏説阿弥陀經	定（大念仏講證明人につき）	天野大念仏彼是二付留記	覚（大念仏講のつとめ用捨につき）
*大損	*大損	*小損	*大損
	文政2年7月15日	文政2年5月吉辰	享保14年11月15日
	時当屋狭門惣太夫の場文 右衛門（印） 岩上磯右衛 門（印）	丹生相見右京季之	心南院納所
			丹生相見
巻	紙	状	帳

書状

た-322	た-318	ふ-4	ふ-1	た-337	た-321
〔惠十郎帰山延引につき登山を勧める旨書状〕	〔畳調整の仲介書状〕	〔請人、勘定ほかにつき書状〕	〔近況報告書状〕	〔年始挨拶〕	〔江戸行き成行報告及び礼状〕
	*添書あり、中損				
3月8日	2月27日	正月17日	慶応元年4月22日	（弘化2か）正月5日	（弘化元か）12月6日
高室院内 寺中隠居 八塚 定之進	大楽院納所	天徳院	（無量寿院）玩元	天徳院	丹生兵庫
丹生相見	丹生相見	丹生相見	天野宮司丹生相見へ	丹生相見	同相見
状・封紙	状・封紙	状	状・封紙	状	状

丹生家 丹生相見家（書状）

た-342	た-338	た-328	た-343	た-341-3	た-341-2	た-341-1	た-341	た-339	ふ-51	ふ-9	た-355	た-331	た-317
〔礼状〕	〔民右衛門儀につき書状〕	〔民右衛門儀につき書状〕	〔金子三両送り状〕	〔離別状送り状〕	〔願筋差控えにつき書状〕	〔呼出状〕	〔一括封紙〕	〔呼出状〕	〔近況報告書状〕	〔安否御尋書状返書〕	〔金子送り、米相場につき書状〕	〔登山依頼状〕	〔江戸よりの書状遣につき書状〕
*封紙はた-355のもの、大損	*大損	*大損	*中損				*書状三通重ね		*作成者脇に「十左衛門事」とあり、小損	*小損	*中損		*中損
4月22日	1月21日	1月15日	極月23日	(天保15か)11月4日	11月3日	11月2日夜六つ過		11月2日朝五つ半	9月18日	7月17日	7月8日	6月28日	3月20日
民右衛門	妙音院	妙音院	(西)良斎	天徳院	天徳院	天徳院内		天徳院内	内関主水重興(花)	葛野神永正秀(花)	民部	巴陵院	惟春
丹生相見	丹生相見 金子式部	丹生相見 金子式部	丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見		丹生御氏	丹生相見	丹生主計	相見	丹生相見	丹生相見
状・封紙	状	状	状・封紙	状	状	状	封紙	状	折紙	状	状	状	状

丹生家 丹生相見家（書状／近代資料）

近代資料

つ-17	つ-14	つ-13	つ-21 -2	つ-21 -6	つ-21 -3	つ-5	つ-4	つ-3	つ-2	つ-1	た-345	た-329
〔国勢調査員任命書〕	〔臨時月手当金二円給与證書〕	〔奈良県宇智郡書記任官辞令〕	履歴書 *草稿あり	證（早稲田大学行政科終業証）	履歴書（学校関係）	〔陸軍召集諸費出納官吏任官辞令〕	〔月俸十円給与證書〕	〔伊都郡志賀村外七ヶ村戸長任官辞令〕	〔判任官十等叙位證〕	〔伊都郡書記任官辞令〕	〔民右衛門儀につき書状〕	〔民右衛門儀につき礼状〕
大正9年7月20日	大正7年6月22日	大正7年6月21日	（大正6年11月）	明治36年12月1日	（明治34年4月以降）	明治30年4月1日	明治29年9月14日	明治21年3月23日	明治20年12月26日	明治20年12月26日	□月17日	6月13日
内閣	奈良県	（奈良県）	丹生隆吉	早稲田大学	丹生隆吉	（和歌山県）	和歌山県	（和歌山県）	（和歌山県）	（和歌山県）	金子式部	野尻柳右衛門
丹生隆吉	宇智郡書記 丹生隆吉	丹生隆吉		丹生隆吉		伊都郡天野村長 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	丹生徹	丹生相見	丹生相見
状	紙	状	紙	状	紙	状	状	状	状	状	状	状

丹生家 丹生相見家（近代資料／天野村）

た-276	た-150	た-385	か-10-2	か-10-1
覚（組下入りにつき誓紙）	〔雨請の笠鉾破損につき上村・下村濱口証文〕	天野甚兵衛指引覚	〔山役水役出入り和談につき定〕	起請文之事（上天野と下天野喧嘩落着につき）
*大損		*中損		
元禄7年正月16日	貞享5年7月19日	貞享5年2月21日	慶長16年8月2日	慶長15年9月18日
本主勘兵衛 請人相見	法泉院快実	悉地院納所（花）	右衛門 惣五郎 コウタムラ新左衛門 又右	下天野老若中 喜四郎 勝 右衛門 善左衛門 甚四郎 甚 郎 善 善 善 善 善 善 善 善
心南院様御役人中		天野甚兵衛	天野庄中	上天野老若中
状	状裏打	折紙	状	状

天野村

つ-23	つ-21	つ-21-1	つ-22	つ-20	つ-19	つ-21-4	つ-21-5
〔封筒〕	〔一括封筒〕 ↓ 6点入	秘第二五二号 大札記念章送付ノ件	〔賜懸拝戴式案内状〕	感謝状（国勢調査二関シ尽力につき）	〔国勢調査員任命書〕	〔勤儉奨励隅田村委員委嘱状〕	講習證（現代哲学一般）
*上都破れ		*印刷	*出席案内状・式次第・参入証など			*ガリ版	
		昭和4年8月12日	昭和3年11月1日	大正14年12月1日	大正14年8月1日	大正13年8月29日	大正12年8月29日
東丸神社々務所	和歌山県伊都郡隅田村役場	和歌山県知事官房秘書課長	（宮内大臣 一木喜徳郎）	内閣統計局長從四位勲二等 下条康麿（印）	内閣	隅田村長北沢研祐（印）	和歌山県教育会伊都支会 （印）
丹生広義	丹生隆吉	県下大札記念章拝受者	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉
封筒	封筒	状	封筒一括	状	状	野紙	状

丹生家 丹生相見家(天野村/その他)

た-459	た-309	た-379	た-126	た-124	た-33
〔太政官達〕(神職任用・氏子調べ)	乍恐奉願上口上(寺領内統髓子植付願) *下紙〔統髓子不出来の節は点検の上補綴する旨〕	救米勸進帳	御地方より相下り候御年預御廻文之写し(領内衰微防止につき)	覚(博奕の禁につき)	天野村掟書写
*大損	*町史、大損	*町史、大損	*町史、大損		*丹生相見季之写、町史、小損
未(明治4)7月 未(明治4)8月	嘉永元年6月	天保8年8月日	文政9年10月	文化3年極月日	天明8年12月 安政5年写
〔太政官〕	伊賀 西村愛之助(印)	丹生相見右京写之	丹生相見季之写	天野地頭年番所〔奥〕同村 中源五郎(印)三之孫子 甚吉 伏見や(印)金助 (印) 年行事相見(印)	地頭年番所正智院役人〔奥〕 宝性院外12院 社領代官蓮 台院
	年預代				天野村役人
竪帳	状	竪帳	竪帳	状	竪帳

その他

た-63	た-64	た-259	た-260	た-481	た-89	た-262
〔朝鮮人使節献上物書付〕	〔吉宗復書〕	論語聞書	論語手帳俚諺	文久四甲子年方位撰	〔つば・まじない本写〕	見聞雜記
*中損	*中損	*後半レシピ・薬の調合法あり、大損	*不開、大損		*崩れ3枚	*碑文の写しか、不開ヶ所あり、大損
享保4年9月27日来朝	享保4年10月	文化12年4月吉日	文化12年4月良辰	文久4年		
	日本国源吉宗				(丹生姓)	
	朝鮮国王					
状	状	横半帳	横半帳	状	横半帳	横半帳

丹生家 丹生相見家（その他／写本・版本）

た-32	た-268	た-267	た-266	か-14 -2	た-264 -2	た-264 -1	た-264
六十騎組分姓名録 *黒江村尾崎次右衛門帳面写、大損	高野山説物語 第五 *中損	高野山説物語 第三 *中損	高野山説物語 第二 *五巻本の写、中損	皮張大明神之縁起并祭礼由来記 *丹生廣慶写、町史	六曜 *錦の表紙、表表紙はずれ、序「六曜題辞」内題「天軍六曜之巻」	〔祭事次第〕 *錦の表紙、本文前欠、表裏表紙はずれ、小損	〔箱〕 *つぶれている、「破軍巻」とあり
弘化3年7月	正徳4年仲秋下旬写	正徳4年仲秋下旬写	正徳4年仲秋下旬写	正徳3年5月吉祥日	天文元年8月望	天文元年8月15日	
丹生相見季之				高野山前左学頭修禅院僧都 懐英			
縦帳	写本和綴	写本和綴	写本和綴	状	折本	折本	

写本・版本

た-490	た-485	た-483	た-482	た-441
安中散（安中散調合法） *胃薬	浅草苔配進扣 *小損	相見（諸道具個数書上） *小損	覚（相見家弟子分書上） *中損	〔雑記帳〕 *五行ほか、中損
状	状	横半	状	横半帳

丹生家 丹生相見家（写本・版本）

た-269	た-258	た-440	た-270	た-261	た-35	た-461
紀伊国名所図会 三編 四之卷下 高野山	職原抄支流大全 卷之四	糸のゑん	秘書 古翫有	古今諷名寄	〔隨筆文写〕	葬祭略式
	*未書入	*未書入、歌あり	*生花の本、シミ	*未書入、大損	*「あさかほの・・・」	*小損
(天保9年)	(天和3年)					(明治5年9月制定)
						瓊穂能止保留（丹生徹）
和綴本	和綴本	状	写本和綴	横帳	巻紙	写本縦帳

丹生家文書目錄 編年

丹生家文書目録 編年

資料番号	標 題	年 月 日	作 成 者	宛 名	形 態
か-1-1	〔丹生祝氏本系帳〕 *押紙〔延暦巻系図〕 町史	延暦19年9月16日			状
た-47	後三条院帝勅願ノ還御神入之文	延久2年2月16日			状
た-87	御宝前祝言板書付（延久二年後三条天皇祭文）	（延久2年2月16日）			状
か-4-1	紀州いとの郡天野庄領内之事（四至定書）	保安4年3月16日	小集会衆	天野庄□□	状
か-15-1	天野明神口伝抄 信日記 附奥書秘説 *貞享年中快英追記、享保3年12月相見へ授与	嘉元3年12月日	（野山檢校兼天野社務懷英 写）		元堅帳
か-3-1	天野宮造替日記 嘉元三年乙巳始之	嘉元3年（10月15日） 4年6月15日			状
か-4-2	天野地堂日記 地下 *町史	文明8年10月22日	カノヌシセントノ比サ <small>（花）</small> キヤウセウハヤシ <small>（花）</small> ストウ春三子大リサ <small>（略押）</small> カクニ郎大リサ <small>（略押）</small>		状
か-4-3	〔ハサマエモン五郎売券〕 *町史	延徳3年16日	ハサマエモン五郎（略押）	（ニヨイリシ二郎五郎）	状
か-4-4	ウリワタシ申候タノサクノ事（又太郎作職売券） *町史	天文21年2月21日	ウリテマタ太郎（略押）	カイヌシセンフクキン	状
か-4-5	写し 売渡申候坊敷之事	天正5年5月22日	尺迦文院内長春	かい主成福院	状
か-4-6	売渡申候ちこく谷山事（せい二郎山地売券） *押紙〔天正年中山之書物〕 町史	天正6年12月27日	せい二郎（筆軸）	天野如意輪寺之内教順房	状
か-4-7	カリ申米之事（細原某借券） *町史	天正8年正月10日	アマ□□ホソワラ□□□□□□	アマノニヨ□□□□チ教順房	状

丹生家 編年 延暦19年～天正8年・800～1580

か-7-1	か-10-2	か-10-1	た-139	か-3-5	た-463	か-3-4	か-3-2	か-9	た-119	た-120	か-4-10	か-4-9	か-4-8
神道裁許状	〔山役水役出入り和談につき定〕	起請文之事（上天野と下天野喧嘩落着につき）	〔職人甚七郎一代社人芳免につき書状〕 *端裏「うつし」 136⑨も同、大損	〔遷宮諸入用米覚〕 *端裏「遷宮之節社人取米之事」	八幡宮上遷宮下遷宮祝儀引付覚 *か35とかかわるか、大損	⑨天野大明神上せん宮下せん宮之次第	天野御大明神就御下遷宮相輪事 覚写書也	御立願状之事	高野山寺領寄附状写	太閤秀吉公御朱印 *正保2年寺領配分お尋ねにつき返答書あり、中損	永代売渡申候勅阿弥かいと作之事（天野大庵室榮春作職売券） *町史	ウリワタシ申候カヤトウノ事（某作職売券） *町史	ウリワタシ申候カヤトウノ事（左衛門三郎カヤトウ売券） *町史
慶長16年12月25日	慶長16年8月2日	慶長15年9月18日	慶長15年9月16日	慶長10年11月吉日 元禄3年写	（慶長10年）	慶長8年霜月1日	慶長6年9月16日	慶長6年6月朔日	慶長6年5月21日	天正19年10月21日 天正20年8月4日	天正18年2月24日	天正15年12月7日	天正14年4月15日
神道管領長上下部朝臣（兼治）（花）（印）	コウタムラ新左衛門 又右衛門 惣五郎	下天野老若中 善四郎 善左衛門 甚四郎 甚五郎	宝性院政遍	天野上下年寄			天野諸社家衆中	三吉太郎左衛門尉元高（花） 同新兵衛尉広高（花）	（徳川家康）	（豊臣秀吉）	口入善左衛門 天野大庵室 売主榮春（花）	口入善左衛門 天野大庵室 売主榮春（花） シ□□コエモン（印） ウリヌ	口入西方院ケハラテラタ 左衛門三郎（筆軸）
（丹生義久）	天野庄中	上天野老若中	神主					高野山天野	金剛峯寺衆徒中	中 高野山惣寺中／金剛峯寺惣	天野如意輪寺教順房	天野如意輪寺教順房	アマノニオイリンシ教順房
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	帳	状	状	状

た-137-3	元和・寛永・万治・寛文相見家公私留書	*後欠、大損	(元和元年~寛文)			堅帳
た-137-2	天野一宮神主二宮相見神職争論留書	*大損	元和元年より享保元年	修禅院懐英扣記		堅帳
た-137-1	天野一宮神主二宮相見神職争論留書	*大損	元和元年より享保元年	修禅院懐英扣記		堅帳
た-137	丹生相見家記 争論記 他見無用 *三册合冊し、新たに表紙添付、最後の一册後欠、大損					
た-136	⑦ [誓紙遣わす旨書状]		元和元年8月21日	大楽院	惣神主一丸	
た-136	⑥ 天罰起請文之事		元和元年8月20日	天野二宮祝子相見	学侶御衆議中	
た-104-4	[社家中へ法度・書物申付けにつき書状] *136⑤も同		(元和元か)8月20日	学侶年預	天野惣神主一丸	折紙
た-136	④ [御朱印仰せ付けの様子を伝える書状]		(元和元)8月13日	大楽院	惣神主一丸	
た-136	③ [御朱印写遣わし状]		(元和元)8月12日	年預花蔵院	天野惣神主一丸	
た-104-2	[新儀の興行を改めるべき旨書状] *136②も同		元和元年8月12日	衆議衆中年預	惣神主一磨	折紙
た-136	① [御朱印写]		元和元年7月日	(徳川家康)		
た-136	⑮ [太鼓料につき書状]		(慶長年中)正月20日	善集院栄旻 大楽院深寛 宝亀院朝印 栄旻	天野惣神主	
た-136	⑰ [太鼓料につき書状]		(慶長年中)正月19日	遍昭光院頼(頼慶か)	天野神主	
た-140	[争論経過寛書] *義久裁許状取得から義継死去まで		(慶長16年12月25日 ~寛文5年2月7日)			状

た-136	た-104-10	た-104-9	た-104-11	た-104-12	か-7-4	た-104-7	か-7-6	か-7-2	た-121	た-105-1	た-447	た-142	た-145
⑩〔社家中諸事法度古法のここのく仰せ付けは尤もである旨書状〕	〔相見新儀を改めるべき由の仰せ付けを衆議一同に申し入れる旨書状〕 *136⑩も同	〔碩学中申渡に異義なき旨書状〕 *136⑩も同	〔相見は装束社役等三四宮祝子のここのく申付の旨書状〕 *136⑨も同	〔相見は諸事社役等三・四宮祝子のここのく旨書状〕 *136⑧も同	〔相見裁許は新義ではない旨四社明神の社家以下へ仰せ聞かせる旨依頼状〕	〔二宮祝子新義非例について江戸御奉行沙汰に仕り度につき書状〕	〔裁許状遣わす旨書状〕	神道裁許状	御公儀并高野被仰渡書 下 他見無用 *享保3・4年争論 裁許請書仰せ聞せ、享保7年破料裁許元和6年承応3年神田村書付、大損	御神主江学侶方より被差遣候地方書付写(神田村の百姓御進退あるべきにつき) *一紙に二点の文書を写す、町史	三輪流一神道諸大事十ヶ□□ *表紙すれ	〔銀子借用証写〕 *奥書「丹生左近大夫時写之置也」 封紙再利用、大損	天野一宮神主二宮相見神職争論留書 *大損
寛永元年9月16日	寛永元年5月16日	寛永元年4月28日	寛永元年4月28日	寛永元年4月28日	元和9年12月11日	(元和9か)10月22日	(元和9)閏8月25日	元和9年閏8月25日	元和6年12月6日	元和6年12月6日	元和4年3月7日授 寛永17年10月吉日授	元和2年12月9日	元和元年より享保元年
無量寿院寛雄	年預坊	宝性院宥盛	正知院 釈迦文院 西南院 如意輪院 御庵室 金剛三昧院	正知院 釈迦文院 西南院 西院 院政受 如意輪院 院来遍 御庵室 定庵 金剛三昧院 院良	吉田兼英(花)	天野惣神主秀澄	吉田内鈴鹿采女正 治忠 (花)(印)	神道管領長上卜部朝臣兼英 (花)(印)	(寺社奉行・衆議中)	年預坊賀納院実聖		天野相見甚八郎	修禅院懐英扣記
天野神主一磨	天野神主一麻呂	天野神主一磨	天野社家供僧惣中	天野惣神主一麻呂	高野山無量寿院 宝性院 碩学之御中 御同宿中	知足院	丹生相見太夫	(丹生義継)	(相見・神主・学侶・社家中など)	天野惣神主		興山寺愛□院 ^{奥書}	
	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	折紙	状	横半帳	横半帳	状	横半帳

た-136	た-105-2	た-105-1	た-234	た-442	た-397	た-396	た-151	か-7-3	た-384	た-250	か-3-4	か-3-3	か-7-5	
②③〔遷宮、出入りについて公儀よりお尋ねにつき来春二十日頃下向の旨書状〕	承応三年神田村之儀天野庄惣百姓へ申付候年預留 *奥に貼り懸ぎ	④承応三年神田村之儀天野庄惣百姓へ申付候年預留	乍恐申上条々(祝詞・赦・装束停止につき申し状) *端裏(慶安□年 相見先祖より年預へ差上候神主控之事) 大損	定八幡宮さんき事 *お供え料灯明料の払いの定、中損	売渡田地之事 *奥上大損	売渡田之事 *大損	〔衆徒行人装束の出入りにつき覚書〕 *小損	補任一僧祇事	〔天野村社家組拾四人之者両分之追立夫赦免状〕 *小損	乍恐謹而言上(惣神主の装束・社役儀式につき吟味願) *大損	⑤〔寛永元年遷宮記〕	〔寛永元年遷宮記〕	〔諸事社役先規の如き旨、相見へ遣わす裁許状写しをお目にかける旨書状〕 *136⑤も同	
(万治元か) 閏12月23日	承応3年12月9日	承応3年12月9日	(慶安年中)	慶安3年12月吉日	慶安2年12月24日	慶安2年12月23日	正保2年11月6日 元禄元年11月16日写	寛永16年7月16日	寛永12年極月8日	(寛永元年か)	寛永元年	寛永元年	(寛永元か)11月18日	
宝性院玄(玄宥か)	衆議中年預坊	衆議中年預坊	相見	天野上下庄中(印)	売主甚三郎(花) 庄人波砂間太 郎左衛門尉 (全花)	売主甚十郎(花) サハキテ 甚三郎(花)	丹生相見式部広忠	法印演永(花) 法印成典 (花)	集議中(印)	相見太夫			吉田兼英	
天野神主	天野村百姓中	天野村百姓中	年預代	八幡宮神主	源太郎□□	内記		内記(丹生広真)	内記	指上ル号			知足院	
	状	状	状	状	状	状	状	状	卷	子	状	状	状	折紙

た-233	た-154	た-222	た-136	た-223	た-226	た-149	た-148	た-136	た-136	た-372	た-144	た-147	た-141
神主非例を内記受不申候覚 *内記宮入にさいし神主新義書物に対する返答書、中損	高野山衆徒行人御条目写 是ハ学侶方ニ而写之候 他見無用 *大損	〔御衆中読経の節行人方同音読経の有無お尋ねにつき返答書〕 *大損	⑩紀州天野丹生明神惣神主就訴訟相見内記召寄申渡覚	〔社家中申し状に対する返答書〕 *前欠	覚(二三四之祝子以下社人継目作法) *た148の一つ書きと同、大損	覚(惣神主継目次第) *た148の一つ書きと同、小損	〔装束・祝詞幣争論につき社家中申し状〕 *大損	⑳〔遷宮につき書状〕	㉑〔遷宮につき書状〕	〔合力につき勸進帳〕 *大損	紀州天野丹生明神惣神主と相見と就訴訟申渡覚 *136⑯も同、後欠	乍恐申上返答条々(惣神主訴状への相見より返答書) *大損	⑨乍恐申上条々(相見の装束・祝詞幣の新儀について訴状) *小損
(寛文8年)	(寛文3年～元禄8年)	(寛文3以前か) 8月17日	寛文元年8月9日				万治4年3月16日	(万治3か)11月13日	(万治3か)11月13日	万治3年極月21日	(万治2年6月18日)	万治2年5月18日	万治2年3月27日
		天野宮社家中	井河内 板阿波	(丹生相見)			三祝子利清 四祝子家澄 外社家11名 供僧6名	無量寿院長米	宝性院朝(朝遍か)		(井上河内守・板倉阿波守)	高野明神之神主丹生相見	天野惣神主丹生一磨 同丹 生得監
		年預代						惣神主	天野惣神主			寺社御奉行所	御奉行所
状	堅帳	状		状	状	状	状			堅帳	状	状	状

か-16-2	か-16-1	か-8-4	か-8-5	か-11-1	か-1-2	か-8-1	た-34	た-49	た-504	た-48	し-3	た-467	か-14-1
□御社位階并雑記 坤 ↓ 「卷子」を見よ	丹生高野両大明神御位階記 乾 ↓ 「卷子」を見よ	〔折芝大池之書物相見家に預ケ置く旨書付〕	申指上一札之事（新開田引水につき）	丹生祝氏籍記	丹生祝氏籍記并序 *押紙「雲石堂自筆系図」序「天和癸亥八月十六日」	〔天野八幡宮御供田寄附状〕	神祇講秘式 *奥書「延宝九年西曆二月上旬南西田木清春進之」 朱書入	遷宮祭文（古佐布大明神）	〔所有地への道通し許可につき請書〕	遷宮祭文并祝言事（教良寺村氏神上遷宮） *大損	遷宮祭文（教良寺村氏神下遷宮）	御宮移残記 *大損	寛（検校法印天野社参再興につき）
貞享2年秋仲月	貞享2年秋仲月写	乙丑（貞享2）3月日	貞享2年2月19日	貞享元年8月16日	貞享元年8月16日	天和2年6月5日	延宝9年2月上旬	（延宝3年）	寛文□年7月10日	寛文13年7月7日	丙寅（寛文13年）	寛文13年3月3日	寛文11年3月11日
丹生相見	懷英	宝光院 宝泉院	同村長右衛門（印） 星山村庄屋甚左衛門（印）	寂本	寂本	学侶年預坊（印）		丹生相見	勝九郎（印）	丹生相見広忠	丹生相見広忠	丹生相見広忠（花）	寺務法印正智院有専
			法泉院 宝光院			相見			内記				
元堅帳	元堅帳	状	状	元堅帳	状	状・封紙	卷子	状	状裏打ち	状	状	堅帳	状

た-273	た-274	た-271	た-458	た-272	た-153	た-54	し-5	た-150	た-385	か-8-2	た-156	た-50	た-375
行人方より天野宮へ被附置候八木大豆目録（請取難形）	天野宮領従行人方之帳	天野宮領支配帳	〔祭礼供物等難相調につき米五石加助の旨達〕	丹生宮領支配帳	〔行人方の同音読経により御幸の停止した経緯覚書〕	衆中立願書	立願状（上下和睦悪臣遠離武運長久如意満足祈）	〔雨請笠鉢破損につき上村・下村済口証文〕	天野甚兵衛指引覚	下天野村古屋谷折芝両所新田之定	〔高野山衆徒寺中法度定書写〕 *幕府よりの条目の写し、六条あり、大損	下邊宮祭文并祝言（東富貴村鎮守大明神）	二之宮天野宮御装束御寄進注文
*中損	*不開ヶ所あり、大損	*不開	*中損	*大損	*小損	*大損			*中損		*大損	*中損	*大損
元禄3年10月27日	元禄3年5月24日	元禄2年11月28日	元禄2年10月19日	元禄2年4月日写	元禄2年2月1日書留	元禄元年12月吉日	元禄元年11月吉日	貞享5年7月19日	貞享5年2月21日	貞享4年12月5日	貞享4年10月18日	貞享3年今月吉日	貞享3年霜月16日
天野宮社家 同拜殿方 同社僧六人	相見丹生広忠	丹生相見□□		丹生相見	丹生相見広忠	学侶	施主 本多飛騨守重益代判家臣 武藤六郎兵衛尉正申(花)	法泉院快実	悉地院納所(花)	年預坊(印)【奥】取次宝泉院	(徳川綱吉)	丹生相見広忠	年預坊(印)
天野御代官 庫藏院 行事			天野惣神主并社家中				高野山衆徒中		天野甚兵衛	作人又之丞	金剛峰寺衆徒中・高野山衆徒中ほか		天野二之宮相見
状	堅帳	堅帳	状	堅帳	状	状・封紙	状	状裏打	折紙	状	状	状	堅帳

た-59 -1	た-58	た-152	た-57	た-56	た-41	た-55	し-1	た-505	た-433	た-52	た-276	た-251	た-275
天神上遷宮祭文 *封紙上書「遷宮祭文 丹生相見欽白」小損	下村八王子上遷宮祭文 *大損	〔天野庄中と八幡宮遷宮夫役争論につき起請文〕 *町史、小損	妙見大菩薩遷宮祭文 *八幡宮境内社、中損	八幡三所大菩薩遷宮祭文 *中損	〔八幡宮上葺きの高除キ十一人の手伝いにつき覚〕	八幡宮下遷宮祭文 *小損	〔祈禱料下渡状〕	一札（所有地への道通し許可につき請書） *少虫	〔神鏡ほり出しにつき寸法等覚〕 *丹生広忠書、小損	紀州天野王里村柳之沢御宝殿就遷宮奉請十方神施之他力之状 *中損	覚（組下入りにつき誓紙） *大損	覚（元禄高野聖断成行覚書） *中損	天野宮惣神主社家供僧鉢殿方印鑑 *行人方支配分、大損
宝永元年8月9日	元禄17年正月吉日	元禄16年2月15日	元禄14年5月28日	元禄14年5月28日	（元禄14年5月朔日）	元禄14年3月10日	元禄10年10月日	元禄9年8月26日	元禄8年8月14日出 土	元禄7年10月日	元禄7年正月16日	（元禄5年）	元禄5年10月10日
丹生相見	丹生相見	丹生相見 三之祝子 御湯太夫（全印） 四祝	丹生相見広忠	丹生相見広忠		丹生相見	学侶年預坊（印）	五兵衛（略押）	学侶方奉行最善 行人方同 福蔵院	願主天野王里村中	本主勘兵衛 請人相見		丹生相見広忠
							丹生相見	丹生相見			心南院様御役人中		
状・封紙	状	状	状	状・封紙	状	状	状	状	状	状	状	状	竖 帳

た-435	た-356	た-326	ふ-3	ふ-47	た-336	ふ-42	た-44	か-13 -1	た-398	た-118	た-107	た-60	た-45
天野一切経縁起	天野大明神施講 *内題「天野丹生相見家神施講」中損	〔年預坊より祝儀物・宝門主より金子差遣につき書状〕 *ふ-47関連か、小損	〔養子調いにつき白宝三枚遣わし状〕 *小損	〔祝使延引の旨天野より見舞の者へ伝言致置く旨書状〕 *端裏「丹生主計初登山之趣」後半大損	〔主計道具送り状〕 *中損	覚（祈禱執行継続につき） *大損	〔右京大夫所替につき一代は寄附継続の旨書状〕 *中損	〔高野山文書写〕 ↓「卷子」を見よ *「天野四社大明神異国降伏之神影」に付属	〔銀子借用証〕 *小損	暖状之事 *た-108へ続く、中損	安楽川奎之助山論暖品覚 天野丹生相見日并 *大損	古佐布大明神上遷宮祭文 *中損	〔清水寺観音御供料六十石寄附状〕 *封紙上書「観音御供料御証文 華藏山清水寺」
正徳2年5月10日	宝永8年3月日	(宝永7か)極月11日	宝永7年極月9日	(宝永7年12月)6日	(宝永7か)霜月17日	宝永7年6月17日	宝永7年6月17日	宝永6年3月写	宝永4年極月23日	宝永4年7月6日	宝永4年4月28日	宝永3年9月16日	宝永2年12月17日
		修禅院	年預遍照尊院 宣英(花)	宝性院	宇野仙庵	松平右京大夫内浅井勝之丞	浅井勝之丞貞真(花)	写(前左学頭修禅院僧都快英)	借主勘十郎(印) 請人平助(印)	暖人 東しふ田金 慈中 天野村丹/奥	暖人丹生相見 中橋勘之丞 金川清兵衛	丹生相見広忠	松平右京大夫家臣浅井勝之丞(花)
		丹生相見叟	丹生相見	修禅院	丹生相見	清水寺	清水寺賢隆		庫藏院内善秀坊	安楽川庄中			華藏山清水寺賢隆
巻千元整帳	整帳	状	折紙	状	折紙	状	折紙	状	状	状	整帳	状	状・封紙

た-190-2	た-506	た-401	た-400	た-495	た-122	た-61	た-386	た-399	た-46	た-486-3	た-486-2	か-14-2	た-462
神主と相見出入之留 *二冊合冊の下、大損	一札之事(所有地への道通し許可につき請書)	残りもの覚(預証) *中損	払物注文之覚 *大損	萬小遺帳 *大損	御巡見記録之覚 *町史、大損	教良寺大明神上遷宮祭文 *大損	借用仕銀子之事 *上部やぶれ	一札之事(銀子借用につき質物差入) *小損	清水寺観音領已年貢割付 *中損	屋普請入用銀勘定帳 *三冊合冊の下、大損	屋普請入用銀勘定帳 *三冊合冊の中、大損	皮張大明神之縁起并祭礼由来記 *丹生廣慶寧、町史	〔遺書〕(其方住職仕るべき旨)
享保3年3月より12月迄	享保3年3月9日	(享保2年か)	享保2年11月13日	享保2年9月26日	享保元年極月17日	享保元年9月26日	正徳6年4月17日	正徳5年極月28日	正徳3年10月	正徳3年7月吉祥日	正徳3年7月吉祥日	正徳3年5月吉祥日	正徳2年8月3日
丹生相見	儀兵衛(印)	高崎連尺町七兵衛(印)	立会 高崎連尺町七兵衛 同町 兵衛 石原村十蔵	智海		丹生相見	庵ノ賢心(印)	惣介(印)	村松惣兵衛 川手万右衛門 三嶋所左衛門(全印)	天野宮丹生相見	天野宮丹生相見	高野山前左学頭修禅院僧部 懐英	清水寺当住持 賢隆(花)
	丹生相見						相見	相見					弟子 智海房
堅帳	状裏打ち	綴り	横帳	横帳	堅帳	状・封紙	状	状	状	堅帳	堅帳	状	状

た-201	た-130	ふ-60	た-350	た-128	た-188	た-196	た-245	ふ-33	か-12-1	か-12-1	た-190-1	た-492	た-450
御裁許写 (争論裁許状請書)	〔呼出状〕	〔呼出状〕	〔證文お遣わしほか近況報告書状〕	口上 (社家方古目録、社役につき)	享保三戌年字侶方より御返答書之写 *196への返答書、大損	〔御紀州伊都郡高野山鎮守天野丹生明神社人二宮之祝子相見式部 訴状差上返答書被為仰付奉畏言上之覚〕 *中損	覚 (訴状請取) *大損	〔訴状提出のさいの添え状・差紙返事書式写〕	●〔対決につき呼出状〕	●乍恐以口上書申上候覚 (相統願書・木祭社役ほか争論につき 訴状) *押紙「公儀江差上願書」	御奉行所江罷出候日次 *二冊合冊の上、大損	道中駄賃帳 *不開丁あり、大損	〔二宮二宮三宮四宮御宝物書上〕 *巻紙、前欠
*中損	*小損		*後半大損	*中損									
享保3年12月18日	享保3年11月24日	享保3年11月2日	享保3年閏10月14日	享保3年閏10月14日	享保3年10月	享保3年10月	戊(享保3)9月晦日	享保3年9月	戊(享保3)9月28日	戊(享保3)9月	享保3年9月8日	享保3年8月14日	享保3年7月7日
高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計	土井伊予守役人	土井伊予守役人	留守中	役人		丹生惣神主丹生将監	惣神主(印)		伊予 对馬 因幡 修理	(印) 丹生相見(印) 同主計	丹生相見 同主計	紀州丹生相見	
寺社御奉行所	丹生相見 同主計	高野丹生相見 同主計	丹生主計			寺社御奉行所	二祝子主計			寺社御奉行所			
堅帳	状	状	状	状	状	卷子	状	折紙封紙	状	状	堅帳	横半帳	状

た-64	た-63	た-62	た-155 -1	た-194	た-194	た-186	た-348	た-312	た-263	た-185	た-146	た-138	た-215
〔吉宗復書〕	〔朝鮮人使節献上物書付〕	古佐布大明神下遷宮〔祭文〕	社家諸事日記 *た-187の表紙がつく、内容は享保2、中損	●〔惣神主請書丹生相見へ渡置旨〕 *小損	◎指上申一札之事〔惣神主学侶方支配ほか争論裁許請書〕 *小損	差上申一札事〔惣神主学侶方支配ほか争論裁許請書〕 *大損	〔去十七日以降の手計方成行につき書状〕 *後欠	〔御出入筋の首尾につき書状〕 *大損	雜記〔祭文・祭礼入用物覧〕 *小損	〔社家諸事日記〕 *た-155の抄本	江戸下着前高野御吟味享保三年 御公儀江罷出候日並 同日並 被仰渡書 御公儀上ル願書 中 他見無用 *大損	〔相見訴状、惣神主將監返答書写し〕 *表紙欠、將監返答書後欠、大損	指上申一札之事〔争論裁許状請書〕 *小損
*中損	*中損	*大損											
享保4年10月	朝 享保4年9月27日来	享保4年9月23日	享保4年正月吉日 (元文6年2月)		享保4年正月27日	享保4年正月27日	(享保3年か)	(享保3年か)	(享保3年以降)	(享保3年、享保10年)	(享保3年)	(享保3年)	享保3年12月18日
日本国源吉宗		丹生相見広義	丹生相見主計広義扣書	前檢校法印大和尚位修禅院 快英(花)	高野天野惣神主丹生將監	高野学侶方惣代南院 同 番宝亀院・多聞院	春龍	巴陵院	天野宮丹生主計				高野天野二之宮祝子相見 丹生式部 同主計
朝鮮国王					寺社御奉行所	寺社御奉行所	相見	(相見)					寺社御奉行所
状	状	状・封紙	縦帳	巻	子	子	状	状	横半帳	縦帳	縦帳	縦帳	巻

た-182	た-241	た-358	た-183	た-359	た-155 -2	た-40	た-38	た-184	た-230	た-193	た-316	た-477	た-65
乍恐口上覚（親死去の節の届けについて神主新法申出の旨） *大損	奉願口上（御膳洗・大床掃除・社職入につき訴状） *大損	天野講御人数帳 *大損	覚（大念仏講のつとめ用捨につき） *大損	天野丹生大神参宮講人数帳 *裏表紙「宿坊丹生相見」小損	覚（神子入供料物争論につき評議留書遺状）*袋綴内へ挟込、中損	八幡宮御造営覚 *た1236へ続く、小損	八幡宮御造営覚 *中損	丹生相見家伝授事（祝詞・木祭次第・相見宮入次第ほか）	草案 乍恐奉親口上覚（二之宮社役三祝子二相勤させ候につき） *大損	申渡覚（社職入り被料減少の一札差出につき） *大損	〔教光院事・御祈禱・天野神主、丹生相見事ほかにつき書状〕 （享保6年以前） 11月19日	天野丹生相見家内暨致替合力金目録	〔古佐布大明神遷宮祭文〕 *前欠、大損
享保18年10月25日	子（享保17か） 10月24日	享保17年4月2日	享保14年11月15日	享保14年8月12日	享保13年2月25日	享保8年	享保8年7月23日	享保8年2月穀旦	（享保7年以降）	享保7年2月	（享保6年以前） 11月19日	享保5年正月吉日	享保4年11月4日
社家十七人惣代	丹生宮惣神主丹生治部大輔	定光院納所宿丹生相見	心南院納所	講親喜多長左衛門	集議中		丹生相見	丹生相見主計広義		集議中	天徳院問津（花）	聞次 修禅院前檢校快英 （花）	丹生相見主計広義
年預代	年預代		丹生相見							（惣神主社家）	権檢校	天野宮権神主 丹生相見	
状	状	帳	状	帳	状	状	帳	帳	状	巻	子	巻	子

た-465	た-67	た-464	た-177	た-460 -3	た-460 -2	た-460 -1	た-243	た-179	た-255	た-180	た-181	た-39	た-199
四村大明神御上遷宮次第（星川村八王子社） *標題版に「八王子」と注記、大損	四村大明神御下遷宮次第（星川村八王子社） *大損	教良寺大明神御遷宮次第 *中損	乍恐口上覚（神人の代を惣神主新法に追戻した旨） *中損	御流申首日待大事 *小損	御流申首月待大事 *小損	庚申待大事 *小損	乍恐口上覚（配分筋社職入りまで預り願） *中損	申上覚（争論につき起請文） *中損	〔惣神主と社家中相論訴状〕 *前欠、大損	乍恐奉願口上覚（社職入相済候様願） *中損	乍恐証槻書之覚（惣神主新儀書上） *大損	預り申天満宮造営銀之事 *中損	乍恐口上覚（惣神主方より新たに神人の代を拵えた旨） 享保18年11月25日 御太刀之職善次郎 御矢籠 之職宇兵衛
元文元年11月20日	元文元年10月10日	元文元年9月21日	元文元年9月5日	享保20年12月16日	享保20年12月16日	享保20年12月16日	卯（享保20か） 11月25日	享保20年11月5日	（享保19年か）	享保19年11月25日	享保19年5月25日	享保19年正月25日	享保18年11月25日
丹生相見広義	丹生相見主計広義	丹生相見広義	天野社家伝十郎（印）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	伝授大阿闍梨慈仁（花）	關職惣代宇兵衛	丹生相見 外16名	（社家）	善次郎 雲八 宇兵衛	社家十七人（印）	半兵衛（印）	御太刀之職善次郎 御矢籠 之職宇兵衛
			年預代	丹生広義	丹生広義	丹生広義	年預代	年預代		年預代	年預代	岡村御衆中	年預代
状	状	状・封紙	状	状	状	状	状	状	豎 帳	状	状	状	状

た-310	た-178	た-110	た-109	た-496	た-402	た-387	た-466	た-214	た-70	た-69	た-232	た-192	た-68
宗旨寺請状之事(平馬倅斎宮丹生家へ養子につき) *現河内長野市、小損	二宮相見社役滞之一件留 *寛延2(宝暦3)の「社家覚(諸事留書)」あり、大損	御尋二付申上口上覚(尼岡争論についてお尋ねにつき返答) *大損	覚(奥李之助山論暖日並記預かり証) *中損	一札之事(水汲許可につき請書) *大損	預り申銀子之事 *中損	拝借銀筋覚帳 *中損	古佐布大明神上遷宮次第 *中損	〔社家諸事日記〕 *前後欠、中損	天満宮御上遷宮祭祝文次第 *中損	天満宮御遷宮祭祝文 *中損	〔社職入りにつき神主新法の申し出の通り請け合い仰せ付けに つき紛れ無きよう書付頂戴の旨願書〕 *大損	御膳洗彼是二付元文式年御裁許状下ル写 *小損	教良寺大御神上遷宮祭祝文 *中損
延享4年8月	延享4年6月(寛 延2年正月27日)	寛保2年9月19日	寛保2年9月19日	寛保元年12月日	元文5年8月11日	元文5年7月吉日	元文4年9月17日	(元文2年11月8日)寛保3年4月9日)	元文2年閏11月8日	元文2年11月20日	(元文2年か)	元文2年2月5日	元文元年11月30日
河内国錦部郡上田村増福寺 同村庄屋喜兵衛	丹生広元	天野丹生相見(印)	證菩提院(印)	伝重郎(印)	狭間惣七(印)	丹生相見主計	丹生相見主計広義		丹生相見広義	丹生相見広義	社家	年預坊	丹生相見広義
上天野村地藏寺 御役人中		年預代	丹生相見	丹生相見	丹生相見						年預代	惣神主 社家中	
状	縦帳	状	状	状	状	横帳	状	縦帳	状	状	状	卷子	状

た-308	た-162	た-430	た-111	た-289	た-288	た-434	た-212	た-429	た-198	た-197	た-135	た-189	た-195
指入申一札之事(荒地年貢米納につき)	一之宮二之宮相互之留書(南院様のお供え調進に關して争論)	雨乞其外何角留帳	免許中与在所与出入之留帳	寛(皆濟)	寛(皆濟)	明神講式	丹生相見社職入萬寛帳	諸堂社法事證 壇上奥院山下 *内題「於諸堂社学侶方仏事神事相動候証文」大損	差上申一札之事(隱居、社役入り争論裁許請書)	差上申一札之事(隱居、社役入り争論裁許請書)	天野社家供僧中江申渡定書 *表紙「丹生相見広元」、大損	〔社家諸事日記〕 *前欠、大損	〔惣神主へ隱居願差し出しにつき申渡寛〕 *小損
*大損	*小損	*大損	*後欠、町史	*中損	*小損	*中損	*中損	大損	*大損	*小損	大損	大損	延享5年7月11日
明和9年月日	明和8年10月吉日	明和6年7月吉祥日	明和2年2月吉日	宝曆12年極月日	宝曆5年極月日	宝曆4年8月如意日	寛延2年	寛延2年2月享	寛延2年正月	寛延2年正月	寛延2年正月	〔延享5年3月3日〕 〔宝曆5年10月24日〕	延享5年7月11日
楽□相見 久八	丹生茂勝書之	松嶋氏		悉地院代官(印)	悉地院代官(印)		丹生広元		惣神主付一宮手長佐七郎 惣神主右近後見四祝子 天野惣神主丹生右近	相見一家惣代狭間惣七 天野宮二祝子丹生相見	惣神主附手長佐七郎 惣神 主後見四祝子 天野宮惣神 主丹生右近		年預代
□□ 金八				相見	相見				御年預坊				丹生相見
状	横半帳	竖帳	竖帳	状	状	卷子	竖帳	写本竖帳	竖帳	卷子	竖帳	竖帳	卷子

た-254	た-208	た-468	た-290	た-33	た-173	た-277	た-499	た-404	た-498	た-31	た-211	た-403	た-497
〔大権現宮用留記〕	二之宮神職小日記	古沢大明神上下遷宮記録	皆済	天野村宛書写	社領受取彼是留 社家帯刀之事 御巡検之事 御年預御地方廻文写 天野輪橋之留記 舞楽之事 御遷宮之事	八月分下行帳 長谷宮下行帳	差入申一札之事 (かけ樋にて水取込許可につき請書)	指上申一札之事 (金二十両借用)	一札之事 (水汲許可につき請書)	神職司祝之祭文 丹生相見天祖之系 (本系帳注釈書)	社家諸事日記	預り申銀子之事	一札之事 (水汲許可につき請書)
*後欠、中損	*享和2年の諸事留書あり、大損	*中損	*中損	*丹生相見季之写、町史、小損	*表紙字れ、中損	*中損	*大損	*大損	*中損	(安永9年7月27日)	*中損	*中損	*小損
(寛政10年霜月)	(寛政9年)享和2年)	寛政6年2月朔日	寛政元年12月日	天明8年12月 安政5年写	(天明7年正月)寛政9年2月16日)	天明6年11月13日	天明6年3月日	天明5年12月16日	天明3年4月日	(安永9年7月27日)	(寛政7年5月)	安永5年正月吉日 安永4年極月日	安永3年正月日
(丹生李之助義督代)	丹生相見義督	丹生相見広勝	悉地院代官 (印)	地頭年番所正智院役人〔奥〕宝性院外12院 社領代官蓮台院	(丹生相見広勝代)	社家中 丹生相見	□し屋 金助 (印)	講親天野丹生式部 (印) 〔奥〕天野村御湯太夫 (印) 同村一家代栄助 (印)	金助 (印)	等持院長慎	丹生相見式部茂勝扣書	杉本左円 (印)	喜内 (印)
			相見	天野村役人			相見	惣持院様御納所	丹生相見			三内	丹生相見
堅帳	堅帳	堅帳	状	堅帳	堅帳	堅帳	状	状	状	堅帳	堅帳	状	状

た-314	ふ-58	た-124	ふ-52	た-240	た-457	た-500	た-278	た-204	た-205	た-203	た-340	た-161	た-202-1
〔豊前守年始返礼書状〕	〔年始返礼書状〕	覚（博奕の禁につき）	〔豊前守年始返礼書状〕	乍恐奉願上口上覚（三之宮祝子へ仰せつけた惣神主神役を相見へ仰せ付けの旨）	籠中入用帳 *上綴じ紐に文書くりつけるがはずせない、小損	一札之事（水汲許可につき請書）	御社領収納帳 中蔵下行帳	社役入献立 *表見返「松島内膳十四歳時入」大損	一之宮三之宮相勳并祝子記 *惣神主嘉治丸社職入りまで、後欠か、大損	〔子聖権現造営争論留書〕 *表紙、一丁はたし254のもの	〔子宮御鍵返却につき書状〕	奉差上預り一札之事（天野村子聖宮御鍵二つ預書） *中損	黒田大和守殿江年頭書翰留記 *大損
*中損	*小損		*大損	*大損		*小損	*大損						
文化6年正月25日	文化4年正月28日	文化3年極月日	文化3年正月28日	丑（文化2か）8月	文化2年2月・霜月	享和2年12月日	享和2年11月13日	享和2年7月2日	享和2年4月12日 （文化10年2月4日）	（寛政12年）	寛政12年閏月27日	寛政12年3月24日	寛政11年正月5日
川口良助 森四郎兵衛 戸 衛門次兵衛 宇佐美次郎右 衛門次兵衛 土屋市兵衛（全花）	川口良助 森四郎兵衛 戸 衛門次兵衛 宇佐美次郎右 衛門（全花）	天野地頭年番所「奥」同村 中源五郎（印）三之祝子 甚吉 伏見や（印）金助 （印）年行事相見（印）	森五郎兵衛 森四郎兵衛 右衛門次兵衛 宇佐美次郎 右衛門 土屋市兵衛（全花）	天野二之祝子丹生相見（印） 一家惣代狭間官太夫	社家中 丹生相見	伏見屋岩助	社家中 丹生相見		丹生相見広保		南院内常専	（天野二之宮神主丹生相見 印）	丹生相見重元義督代
丹生相見	丹生相見		丹生相見	年預代		丹生相見					左近	南院御役僧中	
折紙	折紙	状	折紙	状	堅帳	状	堅帳	堅帳	横半帳	堅帳	状	状	堅帳

た-374	た-281	た-431	た-378 -2	た-160	た-280	ふ-37	た-469	た-407	た-279	ふ-28	た-406	た-405	た-159
高野勸化日並	御社領収納帳 中蔵下行帳	御宮移舞楽覚帳	乍恐口上覚(舞楽執行につき家普請・装束新調の助勢)	乍恐奉願上口上覚(古佐布大明神遷宮の儀は先例の通相見家が勤るよう仰せつけの旨)	勘録之砌渡方覚 御加増之扣帳	〔豊前守年始返礼書状〕	天満宮御遷宮(遷宮記) *宝暦6・安永6・文化8の年号あり、中損	奉願口上覚(拝借金二十年賦願)	二之宮神職入米日記	〔豊前守年始返礼書状〕	奉差上御請書之事(金子拝借につき)	御年預坊拝借銀を以請払帳 *裏表紙墨書「式部広勝死去之砌」中損	乍恐奉願上口上覚(金二十両拝借につき) *父死去につき借財方整理、大借にて難波につき、大損
*中損	*不開ヶ所あり、大損	*大損	*中損	*水損	*不開ヶ所あり、大損	*大損	中損	*中損	*中損	*中損	*小損	中損	大損
文化13年6月吉日	文化11年霜月13日	文化11年3月29日	文化10年間11月日	文化9年3月15日	文化9年2月28日	文化9年正月	文化8年10月日	文化8年正月吉令日	文化8年正月吉令日	文化7年正月28日	文化6年12月	文化6年12月吉日	文化6年11月日
丹生相見右京季之	社家中	丹生要人	丹生相見	丹生相見(印)〔奥〕天野惣神主家名跡預り中橋嘉兵衛	丹生要人	松井篁 寺田源左衛門 口良助 森四郎兵衛 戸川平次兵衛(全花)	願主丹生相見(印)	丹生広保	丹生広保	大森友弥 川口良助 森四郎兵衛 戸川平次兵衛 宇佐美次郎右衛門(全花)	天野丹生相見 一家菊谷栄助 一家西重太夫	菊谷栄助 あらみ西重太夫	天野村願主丹生相見(印) 安良見村一家惣代西重太夫(印)
				年預代		丹生相見		年預代		丹生相見	歳預代		年預代
縦帳	縦帳	縦帳	縦帳	状	横半帳	折紙	縦り	状	縦帳	折紙	状	横帳	状

た-381	た-378 -4	た-501	た-373	た-417 -2	た-158 -3	た-376	た-417 -1	た-174	た-125	た-158 -2	た-378 -5	た-378 -3	た-158 -1
勸進簿 (行人方)	勸進帳	一札之事 (水汲許可につき請書)	勸化金請取帳	覚 (取替置筋受取)	乍恐奉願上口上覚 (行人方勸化願)	勸進簿 全	勸銀受取覚	丹生相見右京季之社役入留記 宮引菊谷栄助 上之坊通見	〔家督目見につき白銀三枚遣わし状〕	乍恐奉願上口上覚 (学侶方勸化願)	勸化帳 (神役入り・装束)	勸化帳 (神役入り・装束)	乍恐奉願上口上覚 (五ヶ年之間支分銀延引につき)
*中損	*大損	*小損	*中損	*縦紐に結付	*中損	*た-382の浄写本、中損	*中損	*中損	*大損	*大損	*大損	*挟み込み文書あり、中損	*大損
(文化14年)	(文化14年)	文化14年極月日	文化14年霜月吉祥日	文化14年霜月8日	文化14年11月5日	文化14年2月日	(文化14年2月21日~7月24日)	文化14年2月吉辰	文化14年2月5日	文化14年正月25日	文化13年極月日	文化13年極月日	文化13年11月
	丹生相見	伏見屋慶治 (印)	丹生相見	寺中庄蔵 (印)	天野丹生相見 (印)	發起世話人悉地院寛心 (花) 同定光院有寂 (花)			年預坊	丹生相見弟同左京 一家惣 代 庄蔵	天野二ノ宮神主丹生相見 世話人前川字兵衛 (印) 大 嶋吉左衛門 (印)	天野二ノ宮神主丹生相見 世話人卯兵衛 (印) 吉左衛 門 (印)	天野丹生相見一家惣代同所 庄蔵 (印) 安良見村西十太 夫 (印)
		丹生相見		丹生相見	興山寺様御役人明慶院				丹生右京	年預代			年預代
縦帳	縦帳	状	横帳	状	状	縦帳	横帳	縦帳	状	状	縦帳	縦帳	状

た-283	た-282	た-362	た-361	た-360	た-37	た-168	た-176 -1	ふ-34	た-166	た-165	た-36	た-426	た-382
千蔵院様数年貢高帳	八月分下行 長谷宮下行 御社領収納 中蔵下行	明神講勘定帳	明神講請定	明神講請定	狩場明神上棟留記	諸事記	御供所年中行事	〔豊前守年始返礼書状〕	定(大念仏講證明人につき)	天野大念仏彼是二付留記	天野輪橋普請橋供養之事 日記	天野正月十四日晚施山王堂二修正会之砌幣之坊火傷日記	勸進帳(学侶方)
*中損	*大損	*中損	*中損	*中損	*中損	*町吏、小損	*中損	*小損	*大損	*小損	*大損	*大損	*中損
文政5年	文政5年霜月13日	文政5年4月日	文政5年4月	文政5年4月	文政5年2月12日	極月 文政4年〜文政8年	文政4年正月日	文政3年正月27日	文政2年7月15日	文政2年5月吉辰	文政元年10月吉良日	文化15年正月14日	(文化14年)
丹生相見季之	社家中	丹生相見	講親丹生相見(印) 請人大 楽院(印) 同修禪院(印消)	講親丹生相見(印) 請人大 楽院同修禪院(印消)	丹生相見季之	(丹生相見右京季之)	丹生相見季之	杉原右門 土屋百度兵衛 村松寛馬 松井簇(全花)	時当屋狭門惣太夫の場文 右衛門(印) 岩上礪右衛 門(印)	丹生相見右京季之	丹生相見季之	丹生相見右京季之写之	丹生相見
								丹生相見					
豎帳	豎帳	横帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	折紙	状	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳

た-363 -2	た-363 -1	た-364	た-388	た-112	た-284	た-480	た-171	た-207	た-126	た-486 -1	た-206	た-175 -1	た-247
案(万人講)	序(月参講中加入案内)	奉願口上覚(善集院丹生院釈迦文院へ講金返納仰付につき)	借用申銀子之事 *た-408の添付資料、中損	相見所持藪田人三人嘉左衛門吉兵衛慶治願二付記 *後欠、大損	奉願口上覚(藪所刈払いにつき取り計り願) *中損	襖張替留記 *不開丁あり、大損	〔昨年の登山の雑用割り方につき覚書〕	意得日記 他見無用 *大損	御地方より相下り候御年預御廻文之写し *町史、大損	水船造作留記 *三冊合冊の上、不開丁あり、大損	惣神主神職御取上相見江代動被仰付 *大損	年中行事 *小損	預り申畑之事(字折芝) *絵図あり
*中損	*四点一綴、中損	*中損					(文政11年5月6日 10日)	文政9年	文政9年10月	文政9年7月吉辰	文政8年8月	文政7年2月吉	文政7年正月28日
	天野宮丹生相見	天野二ノ祝子丹生相見	借り主佐兵衛(印)請人勝 右衛門(印)〔裏〕村役人 新右衛門	丹生相見季之	天野丹生相見(印)	丹生相見季之		丹生相見季之	丹生相見季之写	丹生相見	丹生相見右京	丹生相見	尾鼻村預り主嘉蔵(印) 細原村請人嘉十郎(印)
		年預代	磯右衛門		御年番所								丹生相見
状	綴り	状	状	堅帳	状	堅帳	状2枚	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	状・封紙

た-389	た-470	た-72	た-71	た-408	た-410	た-409	た-478-1	た-311	た-444	た-113	た-143	た-363-4	た-363-3
御借用仕金子之事	古佐布大明神上下遷宮記	古佐布大明神上遷宮祭祝文	古佐布大明神下遷宮祭祝文	譲り渡申證文之事(山林)	譲渡申證文之事(山林)	譲渡申證文之事(山林)	屋根葺替日記	免許中掟書写	免許中掟書	[藪間数絵図]	相見数絵図間地写	序(月參講中加入案内)	御被講序
*小損	*大損	*大損	*小損	*小損	*た-411の添付資料、小損		*二冊合冊の上、中損		*町史、大損			*中損	*中損
天保3年11月日	天保3年5月上旬	天保3年3月晦日	天保3年2月17日	天保2年極月	天保2年極月19日	天保2年極月19日	天保2年4月吉辰	文政13年霜月 慶応3年写	文政13年霜月14日		文政13年2月3日	文政12年	文政12年
借主周之丞(印) 請人三之祝子(印)	丹生相見季之(花)	丹生相見季之	丹生相見季之	譲り主庄之辻左兵衛(印) 受人勝右衛門(印) [奥] 左兵衛	譲り主庄之辻佐兵衛(印) 藤四郎 組庄屋杉本政之丞(裏) 村役人米治(全印)	譲り主庄之辻佐兵衛一家 藤四郎 組庄屋杉本政之丞(裏) 村役人青垣内米治(全印)	丹生相見季之		幣之坊 丹生相見 三ノ祝子 柳之坊 奥ノ庵 御湯太夫 祝子 玉本坊 四ノ祝子 本坊		丹生相見季之(花)	天野二宮祝子丹生相見	天野二宮祝子丹生相見
御湯太夫三社ノ祝子□ノ御惣代四之祝子				丹生相見 寺中久弥	寺中久弥	丹生相見							
状	縦帳	状・封紙	状・封紙	状	状	状	縦帳	縦帳	縦帳	状	卷子	縦り	状

た-498	た-344	た-456	た-291	た-432	た-74	た-390	た-123	た-379	た-471	た-73-2	た-73-1	た-157	た-42
婚礼祝儀払 (若山藤井唯三郎養子)	〔唯三郎縁談整につき書状〕	御神用渡方	年貢皆済之事	舞楽雜記	神拝之許札	借用申金子之事	御巡見記録	救米勸進帳	天満宮上下御遷宮記	天満宮御上遷宮祭祝文次第	天満宮御遷宮祭祝文	惣神主代動記	〔清水寺諸筆記写し取り持参の旨清水寺へ通達願〕
*小損	*小損	*中損	*中損	*大損			*大損	*町史、大損	*不開			*大損	
天保12年9月10日	天保12年5月28日	天保12年正月吉日	天保11年極月	天保10年9月	天保10年2月	天保9年12月30日	天保9年5月	天保8年8月日	天保6年9月日	天保6年9月	天保6年9月	天保5年(天保8年)	天保5年3月23日
	角田利七 山門勘兵衛 藤井伝左衛門	社家中	悉地院代官(印)	丹生相見右京季之	阿闍梨鑲善(花)	宇平治(印)源八郎(印)	丹生相見右京季之	丹生相見右京季之	丹生相見右京季之	丹生相見季之	丹生相見季之	丹生相見季之	上州群馬郡上大類村安楽寺 現住良長
	丹生相見		天野村丹生相見		季之	相見							
横帳	状・封紙	縦帳	状	縦帳	状・封紙	状	縦帳	縦帳	縦帳	状	状	縦帳	状

た-321	た-167	た-292	た-488	た-341-3	た-413	た-253	た-304	た-412	た-327	た-323	た-354	た-349	た-411
〔江戸行きの成行報告及び礼状〕	意得書（金銭貸借覚）	年貢皆済之事	暇遣隙状之事	〔離別状送り状〕	譲り渡シ山畑之事	諸事留記	受取申越年貢之事	預り申銀子之事	〔組頭の御召・出立につき書状〕	〔行人方組頭一件相片付、今日学侶方寄合入札につき書状〕	〔行人学侶組頭入札につき書状〕	〔戸田日向守殿より学侶行人双方へ入札仰渡につき書状〕	荒渡申山林之事
	*表紙〔甲〕	*中損	*町史、小損			*後欠、中損	*中損	*上部中損	*「四日著」とあり、中損		*小損		*封紙上書「湖谷山林譲状」、中損
（弘化元か）12月6日	天保15年（明治3年）	天保15年極月	天保15年11月日	（天保15か）11月4日	天保15年正月日	（天保14年）安政4年	天保14年12月17日	天保14年霜月	（天保14年5月か）21日	（天保14か）4月28日	（天保14か）4月13日	（天保14か）4月11日	天保12年極月日
丹生兵庫	丹生相見季之	悉地院代官（印）	藤井唯三郎	天徳院	譲り主 松谷勇治（印） 〔裏〕村役人中谷源八郎	丹生相見重治	千蔵院代官（印）	預り主丹生相見（印）垣主 西十太夫 庄屋紋重郎（印）	同院より	天徳院内より	同院より	天徳院	寺中清左衛門（印）
同相見		天野邑丹生相見	丹生氏 智恵丈	丹生相見	相見		岡村中	稲荷講御衆中	天徳院留守居中	天野丹生相見	天徳院留守居中	丹生氏	丹生相見
状	半 縦	状	状・封紙	状	状	横 帳	状	状・封紙	状	状	状	状	状・封紙

た-134	た-424	た-256	か-12-2	た-75	た-309	た-502	た-32	ふ-39	た-487	た-479	た-170	た-334	た-337
申渡（日御供料受取書の代官所へ差出につき）	日御供料之事（日御供料替わりとして新田開発につき金百両冥加として差し出す旨）	奉願口上覚（年中日御供料現米七石二斗永代私家影向殿に下し置か *押紙「日御膳御清願書」端裏あり	奉願口上上（御社領米の内七石二斗永代私家影向殿に下し置かれたい旨願書）	古佐布大明神上遷宮次第	乍恐奉願口上（寺領内統髓子植付願） *下紙「統髓子不出来の節は点検の上補銀する旨」	一札之事（水汲許可につき請書）	六十騎組分姓名録 *黒江村尾崎次右衛門帳面写、大損	目録（高室院より進物） *多り・木綿・足袋など、小損	婚姻祝儀帳	蔵・部屋・薪屋普請諸払覚帳	奉願口上上（お渡し米有り来りの通りに下される旨願） *別紙「例年御渡し米覚」あり、中損	〔兵庫儀明十九日出立につき書状〕	〔年始挨拶〕
*大損	*大損	*小損		*不開		*中損			*小損	*中損		*中損	
嘉永元年11月25日	嘉永元年11月25日		嘉永元年11月25日	嘉永元年9月8日	嘉永元年6月	弘化3年極月	弘化3年7月	（弘化3年5月26日）	弘化3年5月26日	弘化2年極月	弘化2年5月24日	（弘化2か）1月18日	（弘化2か）正月5日
年預代	宝性院湛然 惣持院 定光院 悉地	天野宮丹	天野宮丹生相見（印）	（丹生相見季之）	伊賀 西村愛之助（印）	伏見屋源兵衛（印）	丹生相見季之	（高室院）	丹生恵十郎	丹生相見右京季之	天野二三四祝子惣代三之祝子	同院	天徳院
天野宮丹生相見			年預代		年預代	丹生相見		寺中清左衛門 外14名			年預代	天徳院留主居中	丹生相見
状	状	綴り	状	状・封紙	状	状	縦帳	状	横帳	縦帳	状	折紙	状

た-489	た-415	た-476	た-244	た-436	た-393	た-365	た-414	し-7	た-101	た-475	し-2	た-391	た-392
下廿八人御泊り算用書	阿州様御登山二付 多田恒吉様赤川佐太郎様 林栄治郎様 上	遺書	〔御膳料現米七石二斗寄附願〕	永代日御供免趣記	借用申金子之事 (大楽院用金22兩借用) *嘉永4年12月金子受取の旨一乗院の追記あり、小損	差上申一札之事 (受人へ難渋かけぬ旨) *た-414にかかわる、小損	預り申金子之事	寄附状 (永代日御供膳并祈禱料として現米七石二斗)	大明神社日御供願文 *包紙入り文書を包紙・本紙の順に軸に巻きつけ、小損	古佐布大明神御遷宮記 *表紙欠、小損	預り申永祠堂金之事	御拜借奉申上金子之事	御借用申上候金子之事
*小損	*小損		*前欠、中損 (嘉永2年以降)	*大損			*小損					*中損	*小損
嘉永6年 4月18日・21日	嘉永5年極月	嘉永4年6月3日		嘉永2年極月	嘉永2年12月	嘉永2年3月	嘉永2年3月	嘉永2年正月	嘉永2年正月	嘉永元年	嘉永元年12月	嘉永元年極月18日	嘉永元年極月17日
丹生相見	丹生相見 (印)	丹生相見重家 (花)		丹生相見右京季之	本人八塚正左衛門 (印) 受人丹生相見 (印)	本人丹生相見 (印) 受人御湯太夫 (印)	預り主 丹生相見 (印) 請人大楽院 (印) 同惣持院 (印)	衆議中 (印)	金剛峯寺衆徒中 (印)	丹生季之	年預坊 金剛三昧院 多聞院	御拜借主丹生相見 (印) 受人龍性院 (印)	御借用主天野丹生相見 (印) 消 (印) 受人四之祝子 (印) 消 (印)
	前垣内万蔵	丹生家内中 御湯太夫			取次一乗院	惣持院	一乗院	丹生相見			丹生相見	年預坊	心南院
縦帳	状・封紙	状	状	縦帳	状	状・封紙	状・封紙	状	卷子	縦帳	状	状・封紙	状

た-416	た-438	た-79-1	た-473	た-79-2	た-437	た-29	た-472	た-30	た-306	た-305	た-503	た-248	し-4
金銀貸方扣	狩場明神上棟留記	天満宮御上遷宮祭祀文次第	天満宮上下遷宮	天満宮御下遷宮祭祀文次第	御供所賄方輪番定書	御流神道	御遷宮代動	授神道先例控 *神道十ヶヶ大事を授けた記録、内容は天保9年~明治2年まで	請取申數年貢之事	請取申數年貢之事	一札之事(水汲許可につき請書)	〔民部宮入につき親子出勤は成らざる旨申渡状〕	〔家督目見につき白銀三枚遣わし状〕
*表紙(乙)	*大損	*不開	*不開	*大損	*大損	*中損	*大損		*中損	*中損		*大損	
万延元年12月日 (明治2年4月)	安政5年8月晦日	安政4年9月19日	安政4年9月18日	安政4年8月24日	安政3年11月吉日	安政3年9月写	安政2年11月	嘉永7年	嘉永7年12月	嘉永7年12月	嘉永7年閏7月日	寅(嘉永?)7月25日	嘉永7年5月25日
丹生相見	丹生相見富道	(丹生相見季之)	丹生相見右京重治	丹生相見季之	丹生相見重治写之	丹生民部富道	丹生相見右京重治	丹生相見重治	千藏院代官(印)	千藏院代官(印)	半次郎(印)	(年預か)	年預坊
									岡村中	相見	丹生相見	(丹生相見)	丹生民部
横半帳	縦帳	状	縦帳	状	縦帳	写本・縦帳	縦帳	縦帳	状	状	状	状	状・封紙

た-297	た-296	ふ-1	た-427	た-295	た-294	た-293	た-114	た-481	た-491	た-367	た-366	た-172	た-28
覚(皆済)	年貢皆済之事	〔近況報告書状〕	御神用年中行事	覚(皆済)	覚(皆済)	年貢皆済之事	喜代八株畑当時大工貞助卜湖谷山論扣	文久四甲子年方位撰	萬覚帳(収納・年貢・雇入・金銀入・金銀出・貸借覚等) *不開丁あり、大損	明神講加入御請印差上帳	明神講加入御請印差上帳	東家学文路村大谷村友洲三ヶ村古佐布村檀中帳	四社明神縁起
*大損	*大損		*中損	*大損	*大損	*大損						*町史	
慶応元年12月日	慶応元年極月	慶応元年4月22日	元治元年12月	元治元年12月日	元治元年12月日	元治元年極月日	元治元年11月日	文久4年	文久4年正月吉辰	文久3年2月日	文久3年2月日	文久2年改	万延元年4月享
心南院代官(印)	悉地院代官(印)	(無量寿院) 玩元	輪番丹生相見 安養坊	心南院代官(印)	心南院代官(印)	悉地院代官(印)	丹生相見民部代		丹生相見	祝子方御湯太夫	供僧方	丹生相見	高野山南紀高室院内 智定房写之 理応
天野勝右衛門	天野村相見	天野宮司丹生相見へ		天野宇平□□	天野勝右衛門	相見				明神講御懸中	明神講御懸中		
状	状	状・封紙	堅帳	状	状	状	堅帳	状	横半帳	綴り	綴り	横帳	写本和紙

た-419	た-395	た-300	た-478 -2	た-394	た-474	た-169	た-299	た-394	た-368	た-85	た-80	た-298	た-369
本銀返田地譲り證文之事	御恩金頂戴之事	覚(皆済)	屋根葺替日記	●〔表書の金子譲渡につき書付〕	古佐布大明神上下遷宮記	日待当屋廻帳	覚(皆済)	●奉拝借證文之事(金50両)	実助講掛金之通	〔古佐布大明神上遷宮祭文〕	古佐布大明神下遷宮祭祀文	覚(皆済)	永統講掛金請取帳
		*大損	*二册合冊の下、中損		*中損	*小損	*大損			*大損、不開	*大損	*裏書〔新分〕、大損	
明治2年極月	明治2年12月	明治2年12月日	明治2年8月吉辰	明治2年正月	慶応3年	慶応3年	慶応3年12月日	慶応3年11月朔日	慶応3年9月	(慶応3年か)	慶応3年2月17日	慶応2年12月日	慶応元年12月
納公親並立木村 庄市類木村 屋中代議以 森之丞神次 山奥一五郎 之木村天野 介上野村同 村役兼八邊村	丹生民部(印) 同左源太(印)	天ノ村上免庄屋許(印)	丹生相見民部代	寿門主兼高室院現定(花)	丹生相見	免許中	心南院代官(印)	借用主丹生相見(印) 證人杉本兵馬(印消)	泰治(印)	(丹生相見富道)	丹生相見富道	心南院代官(印)	啓介(印)
相見	高室院様御取次衆中	丹生相見		天野二宮相見家			天野勝右衛門	御門主様御取次中	丹生相見			天野勝右衛門	丹生相見
状・封紙	状	状	豎帳	状	豎帳	豎帳	状	状・封紙	横半帳	状・封紙	状・封紙	状	横半帳

つ-3	つ-2	つ-1	た-439	た-303	た-302	た-459	た-209	た-227	た-210	た-301	た-420	た-494	た-164
〔伊都郡志賀村外七ヶ村戸長任官辞令〕	〔判任官十等叙位證〕	〔伊都郡書記任官辞令〕	丹生社々格上頼件二付宝簡集抜書目錄	貢税皆済之事	貢税皆済之事	〔太政官達〕〔神職任用・氏子調べ〕	乍恐奉御伺申上候〔当御役所にて家督継目仰せ付けられ候か伺〕	乍恐奉言上〔先格の通り相替わらざるよう仰せ付け願〕 *210にかかわるか	乍恐奉懇願候〔権神主職相統仰せ付け願〕	収納皆済之事	手切證文之事	野山五役割附控へ *執政 副執政 参政 顧問 監司、小損	旧三派改革書 *中損
明治21年3月23日	明治20年12月26日	明治20年12月26日	明治15年9月21日	明治4年12月日	明治4年12月日	明治4年7月・8月	明治4年正月	〔明治3年か〕	〔明治3年か〕	明治3年12月日	明治3年12月19日	〔明治〕	〔明治2年か〕
〔和歌山県〕	〔和歌山県〕	〔和歌山県〕		上天野村庄屋許〔印〕	上天野村庄屋許〔印〕	〔太政官〕	丹生相見〔印〕	二之宮神職丹生相見	丹生相見 倅同友之助	上免庄屋許〔印〕	譲り主笠木村政五郎 親類 仲次郎 叔人天野村羽矢市 之丞〔全印〕		
伊都郡書記 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹	丹生徹		丹生相見	丹生相見		五条県御役所			丹生相見	御取次丹生相見		
状	状	状	横半帳	状	状	縦帳	縦帳	状	縦帳	状	状	横帳	縦帳

つ-11	つ-10	つ-15	つ-14	つ-13	つ-21-2	つ-9	つ-21-6	つ-8	つ-7	つ-6	つ-21-3	つ-5	つ-4
〔年手当七十二円支給證書〕	〔九級俸支給證書〕	祭式検定證	〔臨時月手当金二円給与證書〕	〔奈良県宇智郡書記任官辞令〕	履歷書 *草稿あり	證〔祭式会卒業証〕	證〔早稲田大学行政科終業証〕	〔東富貴・西富貴・上筒香・中筒香・下筒香各丹生神社兼務社掌任命書〕	證〔祭典作法修了証〕	〔隅田八幡神社社掌任命書〕	履歷書〔学校関係〕	〔陸軍召集諸費出納官吏任官辞令〕	〔月俸十円給与證書〕
大正8年4月1日	大正8年4月1日	大正7年7月13日	大正7年6月22日	大正7年6月21日	大正6年11月	明治40年12月24日	明治36年12月1日	明治36年9月25日	明治36年1月3日	明治34年9月10日	(明治34年4月以降)	明治30年4月1日	明治29年9月14日
和歌山県	和歌山県	和歌山県皇典講究分所長 笹井幸一郎(印)	奈良県	(奈良県)	丹生隆吉	和歌山県皇典講究分所長 佐藤孝三郎(印)	早稲田大学	(和歌山県)	和歌山県伊都郡皇典講究会 講師 中垣孝雄(印)	(和歌山県)	丹生隆吉	(和歌山県)	和歌山県
富貴村大字東富貴村社丹生神社 社掌 丹生徹	村社隅田八幡神社 社司 丹生徹	丹生隆吉	宇智郡書記 丹生隆吉	丹生隆吉		和歌山県平民 丹生徹	丹生隆吉	隅田八幡神社社掌 丹生徹	和歌山県平民 丹生徹	丹生徹		伊都郡天野村長 丹生徹	伊都郡書記 丹生徹
紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状	紙 状

た-43	た-132	た-446	た-82	つ-21-1	つ-22	つ-20	つ-19	つ-18	つ-21-4	つ-21-5	つ-12	つ-17	つ-16
〔清水寺縁起資財書付〕	差紙（年番所へ呼出状）	覚（祈禱依頼状）	祭詞（丹生家子孫繁栄守護）	秘第二五二号 大礼記念章送付ノ件	〔賜饌拝戴式案内状〕	感謝状（国勢調査ニ関シ尽力につき）	〔国勢調査員任命書〕	〔隅田八幡神社社司任命書〕	〔勤儉奨励隅田村委員委嘱状〕	講習證（現代哲学一般）	〔八級俸支給證書〕	〔国勢調査員任命書〕	〔隅田八幡神社社掌任命書〕
*中撰、下部水損しみ		*小損		*印刷	*出席案内状・式次第・参入証など				*ガリ版				
卯5月	寅2月24日	子3月朔日	（昭和）	昭和4年8月12日	昭和3年11月1日	大正14年12月1日	大正14年8月1日	大正14年7月15日	大正13年8月29日	大正12年8月29日	大正11年6月22日	大正9年7月20日	大正8年4月2日
（花）上州片岡郡石原村清水寺	年番所清浄心院役人	正智院 後見（花）	（丹生廣良）	和歌山県知事官房秘書課長	（宮内大臣 一木喜徳郎）	内閣統計局長従四位勲二等 下条康麿（印）	内閣	（和歌山県）	隅田村長北沢研祐（印）	（印）和歌山県教育会伊都支会	和歌山県	内閣	（和歌山県）
葛岡齊藤治	上天野村丹生相見	神主 相見 三祝子 四祝子 奥庵御房 御湯大夫		県下大礼記念章拝受者	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	県社隅田八幡神社々々 丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉	丹生隆吉
状	状	折紙	状	状	封筒一括	状	状	状	紙	状	紙	状	状

た-131	た-329	し-6	た-342	た-347	た-317	た-313	た-322	た-318	た-338	ふ-4	た-328	た-242	た-378 -1
〔浜田村蟻通明神事執行依頼状〕	〔民右衛門儀につき礼状〕	〔教光院参府につき祈禱依頼状〕	〔礼状〕 *封紙はた-355のもの、大損	〔予州公御普請・行方徳藏院青殿寺不参不屈き・公儀御祈禱につき書状〕 *丹生相見公儀祈禱丹精の旨	〔江戸よりの書状遣につき書状〕	〔年頭加賀行出僧ほかにつき書状〕	〔恵十郎帰山延引につき登山を勧める旨書状〕	〔畳調整の仲介書状〕 *添書あり、中損	〔民右衛門儀につき書状〕	〔請人、勘定ほかにつき書状〕	〔民右衛門儀につき書状〕	乍恐口上〔天野社家供僧方請取米八合判勘違につき〕	勸化帳〔装束神事道具調替〕
	*小損				*中損	*下部小損			*大損		*大損	*中損	*合冊
6月26日	6月13日	6月7日	4月22日	4月9日	3月20日	3月11日	3月8日	2月27日	1月21日	正月17日	1月15日	西2月17日	未2月
東西浜田村地頭年番〔印〕	野尻柳右衛門	衆議中〔印〕	民右衛門	釈迦文院本寂〔花〕多聞院味遍〔花〕	惟春	天徳院	高室院内 寺中隠居 八塚定之進	大楽院納所	妙音院	天徳院	妙音院	社家方使新之丞 供僧方使 郡七	天野二ノ宮神主丹生相見〔印〕
丹生相見	丹生相見	丹生相見	丹生相見	青巖寺檢校尊老	丹生相見	天徳院留主居中	丹生相見	丹生相見	丹生相見 金子式部	丹生相見	丹生相見 金子式部	檢校様御役人中	
状・封紙	状	状	状・封紙	折紙	状	状	状・封紙	状・封紙	状	状	状	状	堅帳

た-341 -1	た-339	ふ-12	た-116	ふ-51	た-324	た-127	た-325	た-383	ふ-57	ふ-9	た-355	た-418	た-331
〔呼出状〕	〔呼出状〕	〔恒例念仏会の神主弄敷鉢内通につき褒状〕	〔近況報告書状〕 乍恐奉願口上覚（潮谷山林吉原屋龍景刈取につき吟味願） *封紙上書「証文 勇治」 内容と合わない、一通あり	〔身元進上書状〕 *石見惣光寺法印、豫州公御役人矢野五郎右衛門、中損	〔身元進上書状〕	〔金堂の上棟につき書状〕	〔四社神主六人供僧の夫役免除につき達〕	〔四社神主六人供僧の夫役免除につき達〕	〔安否御尋書状返書〕	〔金子送り、米相場につき書状〕	〔装束代金受取〕	〔登山依頼状〕	
		*中損		*作成者脇に「十左衛門事」とあり小損		*小損	*日付違うも同内容	*小損	*小損	*中損			
11月2日夜六つ過	11月2日朝五つ半	11月朔日	9月日	9月18日	8月	8月晦日	8月14日	7月27日	7月21日	7月17日	7月8日	7月2日	6月28日
天徳院内	天徳院内	南院教栄（花）	丹生相見（印）	内関主水重興（花）	成院	年預代（印）	利継（花）	学侶 年預坊	学侶 年預坊	葛野神永正秀（花）	民部	いづみ屋平兵衛（印）	巴陵院
丹生相見	丹生御氏	丹生相見	年預代	丹生相見	丹生氏	丹生相見	広義公	天野庄屋	天野庄屋	丹生主計	相見	相見	丹生相見
状	状	折紙	状・封紙	折紙	状	状・封紙	折紙	巻子元折紙	折紙	状	状	状	状

た-59-2	か-15-3	か-15-2	か-11-2	か-6-2	か-6-1	か-5	た-345	た-343	た-332	た-246	た-330	た-341-2	た-346
〔祝詞〕	惣神主家二有之候書物写(文書目録)	〔惣神主家文書写〕↓「卷子」を見よ	〔丹生氏系図〕	丹生大明神吉門	〔高野山文書写〕↓「卷子」を見よ	丹生神社恒例勧請神名帳	〔民右衛門儀につき書状〕	〔金子三両送り状〕	口演(御膳料相納まり候かお尋)	〔公事赦免について兎角言わざるよう庄中へお申し有るべき旨書状〕	〔講銀借用幹旋につき書状〕	〔願筋差控えにつき書状〕	〔祈禱依頼状〕
*大損				*町史			*大損	*中損	*小損		*大損		*中損
							□月17日	極月23日	極月5日	後11月14日	11月21日	11月3日	11月2日
							金子式部	(西)良斎	源左衛門	補陀洛院景(カ)古	西良斎	天徳院	多聞院
							丹生相見	丹生相見	丹生相見	大庵室	丹生相見	丹生相見	丹生相見
状	状	元堅帳	状	状	状	状	状	状・封紙	状	折紙	状	状	状

た-307	た-287	た-286	た-285	た-257	た-252	た-249	た-238	た-91	た-90	た-88	た-86	た-83	た-81
中蔵下行帳	配当米員数記撰	〔配当米高書上〕	〔配当米高書上〕	丹生相見系図（本系帳注積書）	補忘記（祭神・社家・社堂間数・給米等覚）	目録（丹生相見家資料目録）	〔相見家由緒〕	丹生明神告文	他家ヨリ頼コシ祈念乃祝詞 許々呂ひかゑ *明神謹祝詞・祈五穀豊穰・祈家内安全・祈疾病祝詞・祈平産など	〔祓詞〕	〔五穀豊穰、国家安寧祈願祝詞〕	〔朝廷守護・天下太平祈願祝詞〕	大祓詞
*中損			*小損	*鉛筆書入れ		*中損	*後欠	*下とじ部水損破れ			*小損		*小損
								丹生相見季之	丹穂廼屋		（丹生相見広義）		丹生相見季之謹書
堅帳	堅帳	状	状	堅帳	状	状	状	堅帳	堅帳	状	状	状	堅帳

海
南
市
黑
江
尾
崎
家
文
書
目
錄

目次

尾崎家文書目録解題

一、伝来と受け入れの経緯	133
二、大野郷について	133
三、大野十番頭と春日社宮座について	133
四、尾崎家について	134
五、久豊寺について	139
六、文書群の状態と整理方法	139
七、尾崎家物資料について	141
八、文書群の概要と掲載項目	141
九、目録編成について	142
一〇、索引について	149
一一、これまでの調査と掲載・参考文献、不明文書	150
追加凡例	151

尾崎林太郎家文書目録

宮座	153
中世宮座	153
十番頭由緒・相統	153
年々勘定	154
田畑譲り	160
田地開作・預作	162

尾崎家

春日明神・金剛院	162
徳道院	164
禅林寺	166
粟田明神	167
観音寺	167
番頭支配出入	167
その他支配関係	169
春日境内木伐・普請	170
真言宗	174
その他	175

地主

書状	175
紀州家に関する勤め	176
納私・御蔵米	178
普請関係	182
勤め全般関係	183
他家跡	186
その他	186
尾崎家	186
中世	186
家由緒・相統関係	187
土地・家経営	189
金銭出入	191
寄付・褒状	191

尾崎家

屋敷	192
信仰と先祖供養(悲田院・久豊寺関係除く)	192
古文書調査	194
その他	194
悲田院	196
久豊寺	
近世	196
明治期	201
昭和再建	204
その他	206
作成目的別不確定文書(目的が複数考えられる)	206
その他伝来	
大野郷とその周辺関係	208
大名関係	209
書籍等	211
尾崎重光家文書目録	215
尾崎彌太郎家文書目録	217
索引	
尾崎家文書人名索引	238
尾崎家文書目録項目・整理番号対照索引	262

尾崎家文書解題

一、伝来と受け入れの経緯

尾崎家文書は、海南市黒江在住の尾崎林太郎氏所蔵文書八四七点、和歌山市毛見在住の尾崎重光氏所蔵文書二点、東京都新宿区在住の尾崎彌太郎氏所蔵文書一点からなる文書資料群の総称である。

尾崎家文書は早くからその存在が知られており、古くは近世後期（文化・天保期）の『紀伊統風土記』編纂のための調査の記録（えー91）なども残っている。和歌山県としては、昭和四〇年代初期から五〇年代にかけて県教育委員会がおこなった県下古文書調査でその存在が確認されている。県立文書館では、平成十年八月に尾崎林太郎氏より所蔵文書についての相談がよせられ、現地調査を行った。その後一時寄託をうけて燻蒸・調査・整理・公開のためのマイクロフィルム撮影をし、平成一一年三月に文書原本はご返却した。また調査過程で「尾崎家文書」と呼ばれるものの一部が親戚の尾崎重光氏・尾崎彌太郎氏宅にも保存されていることがわかり、この分も同時に調査・公開させていただくこととなった。尾崎重光家文書は林太郎家文書と同じく一時寄託をうけて、燻蒸・調査・整理・マイクロフィルム撮影をし、ご返却した。尾崎彌太郎家文書は、遠方ということで借用せず、ご自宅へ調査にうかがい、現地で調査と公開のための写真撮影をさせていただいた。

二、大野郷について

尾崎家

大野郷は平安期の『和名抄』に名草郡二一郷の一として見える。平安期以降の三上院また三上庄に属し、それに属する一二郷の内の一郷が大野郷であり、日方・名高・鳥居・藤白・冷水・井田・大野中・山田・幡川の各村が含まれていた。これは現在の海南市西部にあたる。

三、大野十番頭と春日社宮座について

大野十番頭は、中世から近世の大野郷鎮守社である春日大明神の宮座である。由緒によれば大野十番頭は、聖武天皇御宇天平三（七三二）年九月勅宣により春日大明神を南都から当国に勧請した時に供奉人として来、神社安置以後も神職として仕えた一〇の家からなる。中世には大野郷の鎮守社春日大明神祭祀と、三上庄大野郷の管理をおこなう番頭職としての役割を担うこととなる。十番頭家は、熊野落行時に春日山（資料により春日城・春日神社などもあり）に滞在した大塔宮護良親王より國名を受領し、「春日大明神」の親筆等を拝領しているが、親筆は現存していない。

十番頭家と受領國名は以下の通りである（かー18より）。

三上美作守	鳥居村住	藤田豊後守	幡川村住
宇野辺和泉守	中村住	稲井因幡守	鳥居村住
石倉石見守	名高村住	尾崎尾張守	日方村住
中山出羽守	中村住	田島丹後守	鳥居村住
井口巻岐守	井田村住	坂本讃岐守	鳥居村住

春日社祭祀他宮座の勤めは、十番頭家のうちから毎年一家が当番番頭としてあたり、中臈沙汰人（名主）五四家のうちからこれも毎年四

家が輪番で当番として出てこれを補佐していた。これは中世から近世末までおこなわれていたことであるが、戦国期を経、また養子を認めず惣領一人のみ株の相続が認められるという制度を長年守つて来たため、その血脈の者がだんだんと少なくなり、支配への影響と宮座の衰微が問題となり、近世初期寛永三三(一六三六)年には血脈が絶えた家については養子相続を認める旨の申し合わせがなされ、定書が作成されている。その後享保二(一七一七)年にも同様内容の定書が中舘沙汰人連名で残っている(文中に今は「一〇人」とあり。これは沙汰人のみのことか、あるいは番頭沙汰人合わせての数字か?しかし後ろの連名者は二十九人である)。しかしその後も構成員は減り、天保八(一八三七)年には十番頭は三人のみになってしまっている(お一三二)。そして本目錄の「年々勘定」の項中に収めた文書資料を見ると、近世後期弘化年中には、輪番制のはずの当番番頭を尾崎氏が毎年勤めていることがわかる。近世末には尾崎以外の家は、もはや番頭の勤めをなせない状況になってしまったのであろうか。そこには、番頭・名主の衰退(減少)の他に、中世的宮座「支配」から近世的な「支配」への転換にかかわる理由もあったのではないだろうか。十番頭家は中世以来の特権的「支配」を続けることを目指しているが、寺社や僧、各村などは藩・寺社奉行による近世的支配の優越を期待していたようである。そして曲折を経、近代の神仏分離令と県支配により、中世からの十番頭と宮座は崩壊してしまったのであろう。なお、十番頭の内三上氏は早い時期に専任の神職(武家や地上の道をとらず)となり、また近世後期には別当寺等の僧職となっていたことも推測されるが、明治の神仏分離により、春日社神職にもどり現在にいたっている。

春日社について

春日社は中世大野郷の鎮守社であったが、近世も中村・幡川村・井田村・鳥居浦・山田村・神田村・名高浦・日方浦の氏神であった。春日社・春日大明神と言う場合、単に中村の春日大明神そのものを指す場合もあるが、上之宮・下之宮とそれぞれの別当と奥之院までを含めた総称として使われる場合が多い。大野十番頭と名主による宮座は、これら各社寺と春日社境内山内にある年越明神・同松代王子も含めて支配をおこなっていた。

上之宮

春日大明神 大野郷産上

穀屋(別当) 金剛院(中村) 真言宗古義観修寺末

奥之院 山田村 菩提寺 真言宗古義幡川村禅林寺末

幡川村 禅林寺 真言宗古義観修寺末

下之宮

粟田大明神

穀屋(別当) 徳道院(井田村) 真言宗古義幡川村禅林寺末

奥之院 井田村 地蔵寺 浄土宗鎮西派日方浦永正寺末

鳥居浦 観音寺 真言宗古義幡川村禅林寺末

他に 年越明神

松代王子

四、尾崎家について

尾崎家については、解題最後にあげた先行諸研究(特に中世)があるので、ここでは『古文書目録』という立場上、この目録に収録され

ている古文書に書かれていることの一部を紹介するとどめる。

家譜によると尾崎家の遠祖は藤原氏である。天平三（七三一）年九月勅宣により春日大明神を南都から当国に勧請した時供奉人として来た十家のうちの一家で、神社安置後は神職として同社に仕え、中世大野郷では他の九家とともに春日社管理のほかに十番頭として庄内惣村管理（現地支配）をおこなっていたが、やがて『海南市史』によると室町中期以降、地侍として武士化してゆく。元享二（一三三二）年（または正慶年中（一三三三））の説もあり）に大塔宮護良親王の熊野落ち時に十番頭が味方したことにより、一〇家はそれぞれ受領固名を与えられたが、尾崎氏は「尾張守」の号を与えられ、その後中世末まで「尾崎尾張守」を号していた（図1の系図には、これ以前の秀国にも尾張守の号が附されているが、これは文書に書かれている通り掲載したためである）。中世後期から末期にかけては、武家として畠山氏や湯浅氏の被官となり、様々な戦いにも参戦し武功をあげている様子も複数の文書からうかがえる。たとえばうら29文書では永禄五（一五六二）年の久米田合戦に尾崎家の子弟が参戦し、その働きがrippであった様子

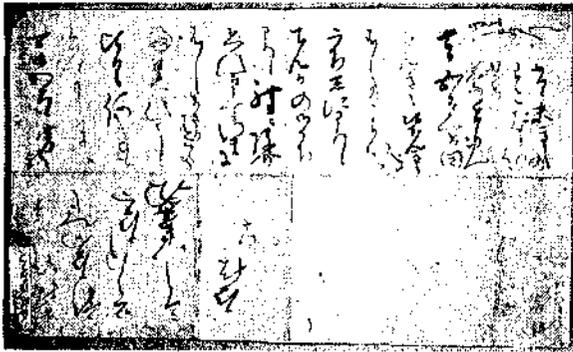


写真1 久米田合戦の弥介丞ひそうすの働き満足の旨湯河春定書状（う-29）

が書かれており（写真1）、また天正五（一五七七）年の井松原合戦では、尾崎家は織田信長側で参戦している。他にも、当時の文書としては秀吉の禁制（写真2-1、2-2）や大蔵（長束）正家の所領宛行状なども所持し、戦国末期の紀州地侍として重要な存在であったことがうかがえる。その後近世になり浅野氏支配下では用いられなかったが、元和五（一六一九）年の徳川氏入国の後、同七年には六十人者（大番頭与力、はじめは六十五人）として紀州藩に召抱えられ、久野三郎左衛門組に入り、日の丸紺地指物と馬持ち鉄砲役同心を五人付けられ、米六〇石（後五〇石）を下し置かれた。家譜の記録によると、召抱えられた後は宮崎大崎の番所勤めをしていたが、寛水一五（一六三八）年の島原の乱時には出兵用意の命をうけた。しかし、老齢であった為願い出で息子の重三郎に出兵の用意をさせていたところ落城したので出兵にはいたらなかったという。承応三（一六五四）年には御倭



写真2-1 秀吉禁制（う-64）



写真2-2 秀吉朱印部分（う-64）

江州坂本
馬場徳支
妻は
尾崎娘か

黒江村地主
馬場長右衛門
女子
久妻
死去

道悦後家
馬場長右衛門娘

*秀緑実母か
別人か?

上野村
奥全之助弟重三郎
養子願い許可伏あり
*年不明、この重三郎か?
奥家系図に記録なし

え、10
二十年前養子に入る
次左衛門
*は水野左門
京伏見宮様
家臣、家留す
道悦死後勝
手に帰る

治左衛門
尾崎久之丞
*豊久か豊親か?
碎
碎
中山留五郎

元禄の頃
家督

正徳の頃家督
明和四年三月
死去

明和頃家督
文化十一年死去

文化四年家督
嘉永元年死去

嘉永元年家督
明治十二年死去

明治八年家督
大正十一年死去

次左衛門秀重
初め駒右衛門
元禄五年萬
野山騷動出
兵、橋本詰
元禄八年日
方浦から神
田村へ引越
宝永二年額
職様逝去時
國岡山口詰
源六・長七様
被為入

次左衛門久登
享保十七年
黒江村へ引
越
延享元年
久豊寺建立
至聖山久豊
道悦
女子 龜井角兵衛妻
女子 龜多源之右衛
門妻
橋本儀左衛門
養子出
見隆
京泉涌寺弟子
悲田院住持
享保十三年死去
天嶺台通座元

次左衛門秀緑
初め十三郎
又は重三郎
十一年前御家
中遷美新藏
所縁(養介)
・浅井九左衛門
方(養介)より
実母呼良し
徳元と改名
相繼(明和七年)
安永七年香殿
院様被為入、
お目見

次左衛門豊久
(初め久之丞か)
十兵衛
文政六年死亡
(未婚)
女子 太田玄純妻
養子入れて
馬場家相続
願い出る
女子 角田半兵衛妻
女子 宇藤源七妻
女子 江州草津
女子 宇野伝三郎妻
女子 田中九郎兵衛妻
女子 泉州木積
女子 三宅九郎兵衛妻

久之丞豊親
後治左衛門
漆器始める
妻は岩橋大
字娘
女子 粉川近藤妻

浅之助豊平
後治左衛門
(嘉永二年頃生か)
加茂船鼓手
第二大隊第一
小隊勲、銃隊
第二大隊第二
小隊勲、鼓手
教授
安良見
女子 西太太侍妻

浅之助
信次郎
茂三
てい
久翁
久満
彌五郎
彌太郎
秀夫
林太郎
重吉
重光
和歌山市
毛見在住

兵庫県神戸
市在住
東京都
新宿区在住
海濱市黒江
在住
久豊寺
再建
再建

約のため六十人者は米一統召し上げとなったが、石の備えはそのままで御せ付けられた。その後明暦元（一六五五）年有田川普請奉行となり五年間勤めた後、万治二（一六五九）年勢州大杉山奉行に役替えとなったが、万治三年の有田川大洪水で再度同普請奉行に御せ付けられ、その後八年間勤めた。寛文七（一六六七）年には海士代官に役替え（納米百石に付米三石宛下し置かれ）となり、延宝二（一六七四）年まで八年間勤めた。その後は特定の役職にはなかつたようだが、六十人者地土としての勤めは幕末まで続く。元禄五（一六九二）年の高野山騷動時には橋本へ詰めて、御用勤銀を一枚頂戴しているし、宝永二（一七〇五）年の四代藩主頼職逝去時には国用いのため山口往還へ三日三夜間詰めの御用を勤めた。また寛文八（一六六八）年には藩から六十人者が呼び出されて米四石宛が下し置かれ、その翌年からは代々御継日の御行見にも参じている。その他紀州藩主光貞や頼職・吉宗が若い頃には、藤代方面にお出時に尾崎の屋敷で休憩をとったことも度々あり、近世を通じて様々な御用を務めていたようである。しかし、その後六十人者地土としてのはっきりとした勤務の記録は幕末維新期まで飛ぶ。近世末期尾崎家当主久之丞の嫡子浅之助の銃隊勤務である。

なお、近世を通して（正確には中世末から近代初めまで）尾崎家当主の多くは代々治左衛門・次左衛門を名乗っており、このため作成年代のない文書が誰の代のものであるのか、推測がより難しくなっている。しかし（後年書かれた家譜や系図ではわからないが）、文書を見ているかぎりでは、人によって治と次の文字の別があつたようにも類推でき、この分析ができれば、尾崎家文書の理解はもっと進むであろう。

また、近世の尾崎家当主個人に関して見ると、尾崎治左衛門久豊と尾崎久之丞が特に目立ち、両者に関する文書も特に多く残っている。

これは、この両当主が、かなりの個性と力を持ち合わせた人物であったためであろう。久豊は久豊寺を建立し黒江村に屋敷を建て当主を務めた期間も長く、尾崎家中興の祖というような立場にあつた人物である。久之丞は通塞しかけていた家を立て直し、中世以来の大野十番頭としての権利や機能を（良くも悪くも）守りぬこうとし、寺院勢力や各村などの近世的勢力と対立し続けた（その結果宮座滅亡後も宮座黒箱（文書）は尾崎家にそのまま伝来したので散逸をまぬがれたのである）人物である。尾崎家に残る家譜や由緒書・系図等は、この両者の時に作成されたものが多く、また、両者とも度々出入り訴訟に関係しているが、それらの事実はその存在力と影響力の大きさをよくあらわしている事象である。

近代以降の尾崎家は、久之丞豊親がはじめた漆器業（現海南市の代表的伝統産業）で成功をおさめ、現在にいたっている。

尾崎家屋敷については、元々日方浦深原（後の久世寺隣接地）にあつたが、元禄八（一六九五）年神田村へ引越し、その後享保一七（一七三二）年に黒江村の現在の屋敷地へ引越している。黒江村のこの地は、元々馬場長右衛門家であつたが、馬場家が断絶し、親類である尾崎家が双方を相続することになった関係から、大野郷外のこの地へ引越したようである。

なお、苗字の「尾崎」は「おさき」と濁らず発音する。また、「さき」の字も「崎」ではなく「崎」を使うのが正しい。余談だが、同じく大野十番頭家の田島家も「たしま」と濁らず発音するそうである。

で壁にかけられていたものには便宜上一括して「け」の符号を付した。さらにその後調査した尾崎重光氏所蔵文書を「こ」、尾崎彌太郎氏所蔵文書には「さ」の符号を付した。そして各符号の箱（又はまとまり）ごとに整理作業をおこなったが、各文書資料には、各箱符号の後ろに箱内の通し番号を付して「資料番号」としていった（一括等のものは更に枝番号を付した）。資料番号の意味は左例の通りである。

例 うー54 「う箱」の上から54番目であった文書

えー48ー3 「え箱」の上から48番目の文書の束の上から3番目の文書

尾崎家文書は、整理・公開準備作業のため一時寄託を受けたが、所蔵者宅が十分保存にたえうる環境にあり、また所蔵者も自宅で保存し子孫へ伝えていくという現地保存の重要性を十分認識されていたので、はじめから作業終了次第返却することになっていた。そのため、文書館収蔵文書類にはこれまでおこなわなかったラベル貼付をおこなうことにした。文書館収蔵文書は、複製物での公開が原則である。そのため、整理終了後は原本は公開に供さない。だから整理番号も脱落の可能性がある短冊に書き込み、原本に挟むだけの作業しかおこなっていない。これが「現状保存」としては最良の方法であるからである。しかし返却するならば、その後の利用を考えると、脱落の危険がある短冊方式よりも原本にラベルを貼ってしまいう方が有効であると考えたのである。ただし、ラベルには和紙（中性紙）を使用し、筆記用具は鉛筆、また糊も可逆性のある「セロゲン」（第一工業製薬（株））を使用し、原本裏面の文字の無い部分に貼付することとした。また、返却後の保存環境で湿気が気になったため、和紙より吸湿しやすい文書保存

袋（中性紙）にはあえて入れていない。

尾崎家文書では、あ箱・い箱・く箱に収蔵されていた書籍等については整理作業後、写真・マイクロフィルム撮影はおこなわずに返却した。これは、返却までの時間的制約にもよるが、印刷物であり決して世界に一点しか存在しないものではなく、書店や図書館で入手可能なものが大部分で、特に複製を作って文書館で公開しなければならぬ理由がみあたらなかったためもある（いー30の帳面は書籍ではないが、全面墨塗り状態のため複製を作っても意味がない。もしこれが必要なら原本を見ないとわからないものであるため）。

なお先述のように、文書館の調査時には文書類は木箱等には入っていないかったが、以前は木箱やトランクに入れて保存されていた。その容器の詳細は以下の通りである。

- ・ 儉鈍型箱 四八・八×三七×八三（cm） 木製、蓋を外すと内部は三段に分かれ、各段に引き出しが入れている。引き出しは作りから見れば後世のものである可能性もある。この箱には文書類が入れられていた。（写真4）
- ・ 被せ箱 三五・五×二五・五×一三・五（cm） 木製、この箱にも主に古文書が入れられていた。（写真5）
- ・ トランク 三六×六五×一九（cm） 皮製・内側布張、これには主に書籍類が入れられていた。（写真6）

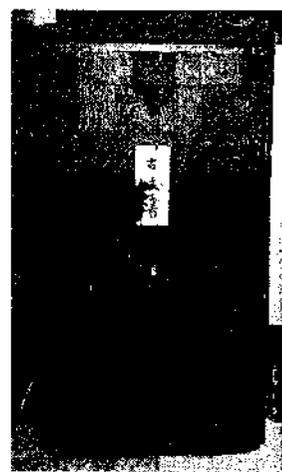


写真4 倭鈍型箱

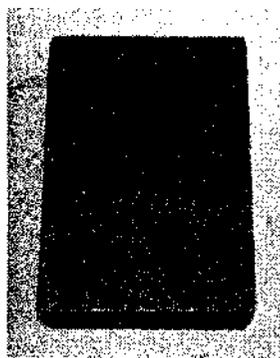


写真5 木製被せ箱



写真6 皮製トランク

七、尾崎家物資料について

尾崎家には、文書資料のほかにも武家・地上としての歴史がわかる物資料が残されている。図書館では物資料の公開はおこなっていないため、この目録本編には特に掲載していないが、まとまって残っていないので、尾崎家文書の理解の助けとして、簡単にあげておく。なお、美術工芸品については一部調査をおこなったが、ここでは触れない。

尾崎家

甲冑二両（鎧櫃入り）、刀剣七振り（有銘一振り）、槍・薙刀類九本（この内先のないもの二本〔稽古用か〕、写真7のように尾崎家槍の間天井に掛けて収納されている）。この内甲冑は資料番号おー4に「具足二両」とあるものと思われるが、刀剣については銘や特徴等がこの文書の記載にあるものとは一致しなかった。また、槍には紀州藩で盛んであった大島流鎗術用の槍が含まれている。

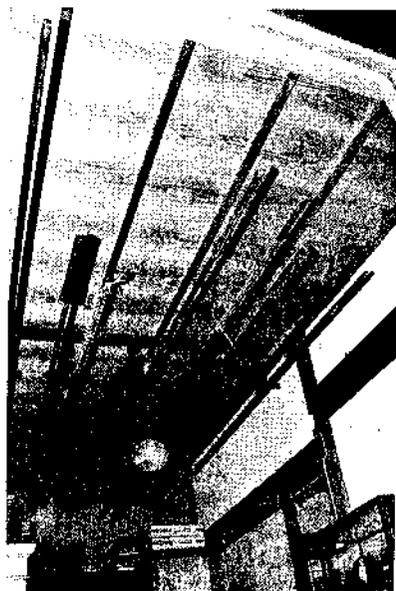
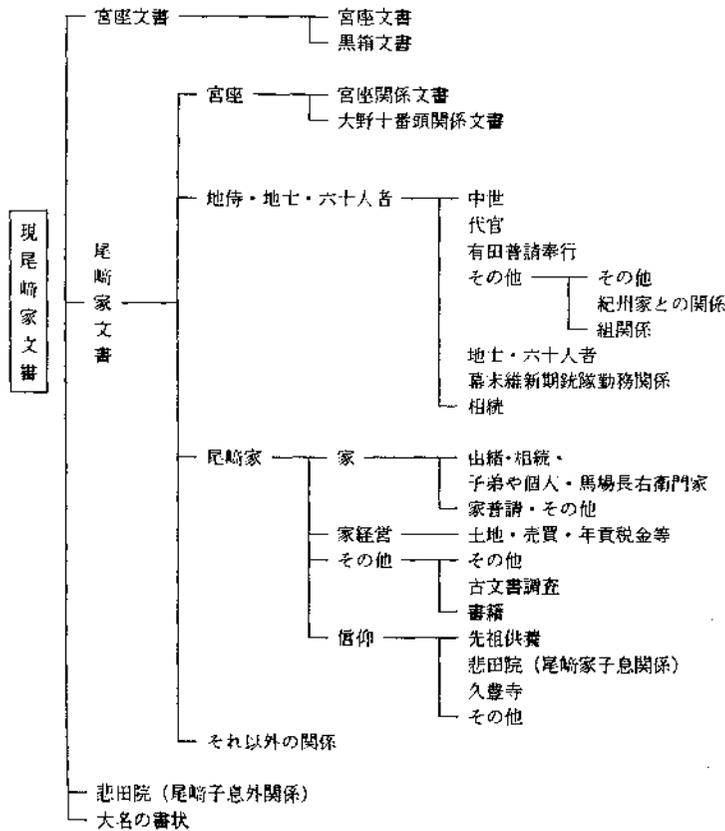


写真7 槍の間天井

八、文書群の概要と掲載項目

尾崎家は中世以来の地侍・六十人者地主の家柄であり、近世初期の代官職等藩や紀州家にかかわる職務にも携わっていたので、その関係の文書が多く残っている。また、中世以来の大野十番頭家として春日社との密接な関係から、春日社や宮座に関する文書類も大変多く、しかもその中には内容的に個人の家文書ではなく春日社宮座の「黒箱」に保存され、持ち回りになっていたと考えられる文書も混在している。それに比し地方文書によく見られる村方支配に関する文書類（庄屋・年寄家の文書）は見当たらず、家に関する文書もあまり多くはない。

図2 尾崎家文書の構造



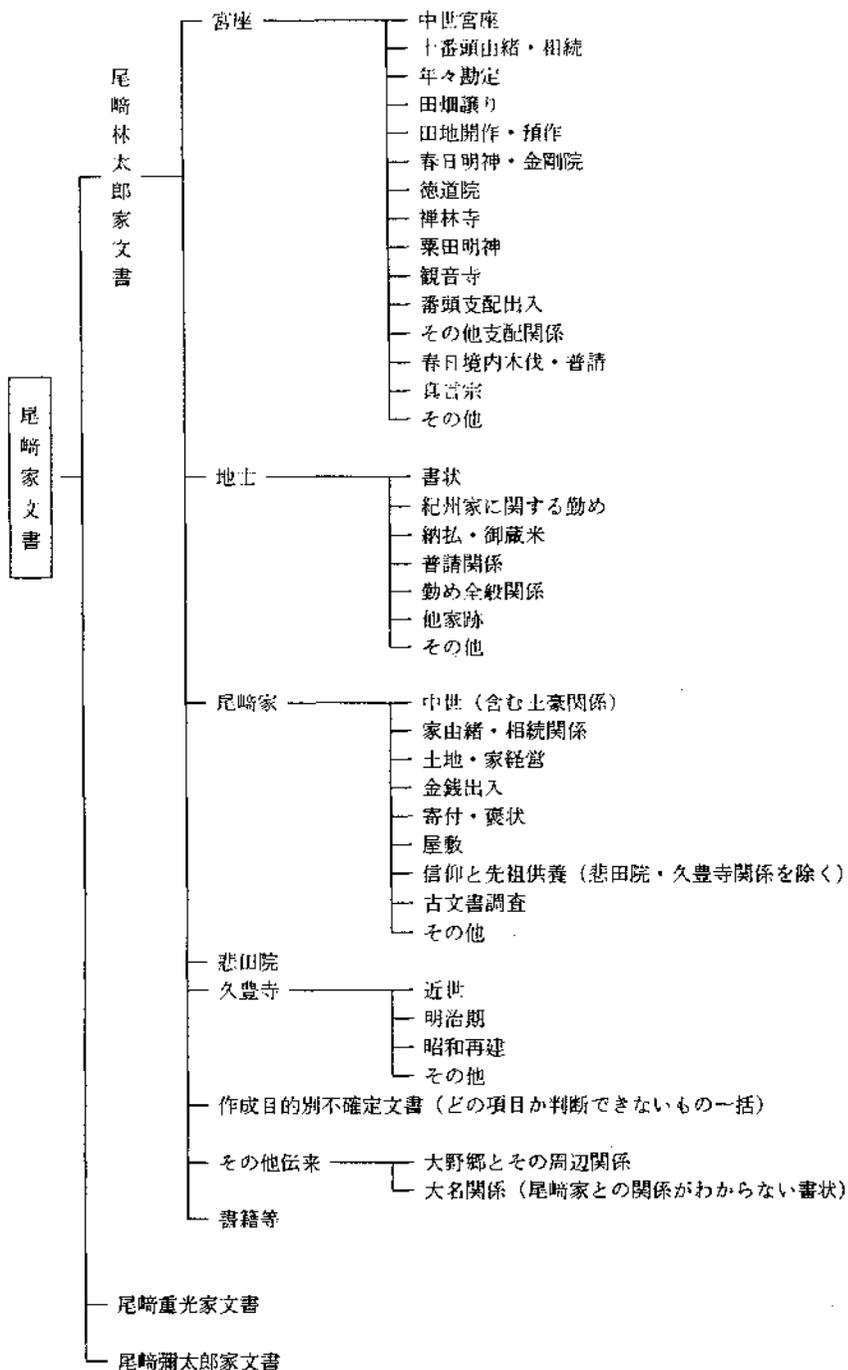
ただ、治左衛門久豊が建立した久豊寺に関する文書はかなりまとまっている。以上のように、尾崎家文書は一般によく見られる「古文書」とは違いかなり特異な性格を持ち、その内部構造は大変複雑なものである。この文書群の内部構造を分析したものが図2である。本来ならこの図2通りの内部構造に沿った項目で本目録を作成すべきであるが、そうはできなかった。つまり①どうしても①どうしても宮座に伝来した黒箱文書と

尾崎家所持の宮座・春日社関係文書の区別を付けることができないものがある。②近世の地士としての勤め関係文書のほとんどは、その性格上作成月日記載のみで元号・年の記載がない。そのためどんな職務にあった時の文書か正確に区分できない。③当主がほとんど同名（治〔次〕左衛門）なため、いつの時代の誰に関する文書かわからないものが多い。④どうしても出所の判別がつきがたい区分不明（作成宛名はわかるが、内容だけでは宮座関係か勤務関係か家関係かわからないもの）や、伝来不明のもの（今ある資料では、なぜ尾崎家に伝来しているのか、尾崎家との関係がわからないもの）がある、などの問題があったため、とてもその内部構造の完全な再構築まではいたらなかったのである。そのため、利用の便も考慮して、便宜上図3のような分け方で、本目録では掲載することとした。

九、目録編成について

尾崎家文書は、前項で述べたようになりに複雑な内部構造を持つ文書群である。そのため内的構造（図2）から、前述①④のような問題があるものも包括的に含めることができるような項目構成になおして編成している（図3）。ただし、この項目の構造もまた完全ではないので、利用にあたっては、最後に附した「尾崎家文書目録項目・整理番号対照索引（整理番号順目録）」も参照されたい。以下それぞれ項につき簡単に解説をくわえる。

図3 尾崎家文書目録項目



尾崎林太郎家文書

宮座

春日社と大野十番頭に関する文書をあつめた。この中では、中世宮

座・十番頭由緒相続・年々勘定・田畑譲り・田地開作・預作と最後のその他の項以外の文書は、ほとんどが出入り関係文書であり、内容が互いに関連しあっているものがとても多い。そのため、細かい項目分けが大変難しいものであった。細かい分類が不可能に近く、又これ以

尾崎家

が本寺（禅林寺）に断りもなく我假に後住を決めたり、尾崎の息子（久之丞）が留守居と称して徳道院に若者を集め、騒がしき指南を行ったりしているが、本当に番頭名主にこのように支配されなければならぬのか、本末寺関係と番頭名主支配はどんな関係なのかというような内容である。近世後期になると、中世的宮座支配の名残はいよいよなくなり、あらたな支配体制を求める社寺側と、衰退しつつも従来の「支配」的立場に固執しようとする「宮座」の問題が、出入りとしてしばしばあらわれる。（これについてはかゝ72も参照の事。）

禅林寺 一 二点。前項との分離が難しいものである。しかし、本末関係にあるとは言え、上之宮奥院の禅林寺と下之宮別当の徳道院では同項に分類すべきでは無いと考え別項にした。なお、内容的に分離できなかったものが、便宜上前の徳道院の項に入っている。この項のものも番頭名主と寺の間での出入り関係のものである。禅林寺は歴史も古く規模も大きく、地藏寺・金剛院以外の春日社寺院の本寺でもあるので、番頭名主支配についてはかなり対立しているようである。かゝ96の文書では、禅林寺が以前無届で置いた住持が、引越し時に宝物を持ち去った疑いがあるが、無届なので請人もいないので、今後は届ける旨吟味の上仰せ付の願を番頭四人から郡奉行所へ願ひ出ている。

栗田明神 一点。

観音寺 一点。

番頭支配出入 一 五点。これまでの項目関係以外の番頭支配に関する出入り文書を集めた。かゝ1102は一見伐木関係出入りのようだが、内容的にはこの後の番頭稲井勝手迷惑の一連文書である。稲井関係一件は、番頭稲井と名主二名が、当番年が終わっても古初をおこな

わず、持ち回りの文書もわたそうとしない、又我假に木を伐るということから起こった番頭と番頭・宮座内の出入り文書である。また日方村氏子銭不承引一件は、村対社・宮座の出入りである。日方村のみ氏子銭を出すことを不承引で出さない。金剛院と当番番頭尾崎氏が、出さないなら氏子外であると説得している。作成年代が不明であるが、近世後期には「支配」のありかたをめぐっているいろいろな立場で、それぞれ反目したり協力したりしている。

その他支配関係 一 四点。かゝ66はかゝ84にも関連文がある。

春日境内木伐・普請 四 七点。春日社山の木はむやみに伐採してはならないことになっている。たとえ枯木であっても神社奉行や代官の許可が必要であった。この項には、そのような伐木や枯木下置願いと、それらの使い道として多かつた春日社内普請に関するものを集めた。本来伐木願と普請は別項とすべきものであるが、一点でその両項目にあてはまるものが大変多いため、同一項目とした。その大方は願書であるが、中には番頭尾崎久之丞の無届伐木違背一件のものもある。久之丞は代官所から咎めを申し渡されているが、番頭職としての家の由緒にて番頭職はそのままとなされている。

真言宗 二点。元は一紙とその押紙であったと考えられる。高野山からの紀州真言宗門徒あて回状について、金剛院は本末関係寺ではないので、加印しない旨である。

その他 四点。かゝ204は明和元年に治左衛門久豊が春日社に石柱を寄進した時の記念碑で、今も本殿奥の敷石として使用されている。

地主 近世尾崎家の紀州藩での勤めに関するものである。

書状 七点。地主としての尾崎との関係から生じた書状を集めた。ただし、勤務そのものについての書状や差紙はここに入れていない。

紀州家に関する勤め 二・五・五。近世前期、尾崎家は紀州藩・紀州

徳川家に関する勤めをおこなっていたことが資料よりわかる。これは当時の地主としての勤めの一環であったのだろうが、詳細はよくわからない。日録では、この項の前半にお成りを知らせる一札や問い合わせ一札などを、後半には勘定所から物品納めを命じている一札類を集めた。ここに掲載したものは全て作成年が書かれていない。しかし前半部分は紀州家当主や子弟の名があがっていることから、その多くはおおよその年代は推定できる。また、後半部分は十二支は書かれているので、それにより、恐らく寛文七（一六六七）末年から延宝二（一六七四）寅年に治左衛門秀継が海士郡代官職にあった間のものかと推測できる。

納払・御蔵米 六六。ここに含まれる文書のほとんどは、治左

衛門秀継が海上郡代官職時のものであると考えられる。代官の勤めとしておこなった各村からの年貢納米の収納と藩上給人への知行米渡し関係文書である。給人の藩士が先に借金をした金の返済にあてられる押米（知行押）に関するものが含まれているのは興味深い。この項も前項同様十二支のみのものは、代官時代の末年から寅年までの順で並べてあるので注意されたい。

普請関係 六。家譜によると、尾崎治左衛門秀継は明暦元（一六五五）年から数年間二度にわたって有田川普請奉行に任じられている。はじめの四点はその時のものであるうか。

勤め全般関係 三五。この項には、この前までにあげた以外の

様々なものが含まれるが、そのほとんどが作成年が不詳のため、詳細分類できなかったものである。また、この項最後には、慶応三年の兵制改革以降の尾崎浅之助の勤めに関する文書をまとめた。

他家跡 三。 「地主」としての他家相続について尾崎家が関係した文書。内二点は親戚馬場家である。

その他 三。この内ウー55は磨滅が激しいが、田所と尾崎の名が見えるのでここに入れた。

尾崎家

中世 一二。この内本文が同じく尾崎家文書にある文書の写しが五点ある。いずれも中世末の地侍尾崎家の活躍をうかがわせる文書である。特に湯河春定の書状には、尾崎子弟の戦場での活躍ぶりが読み取れる。また、織田三七書状や豊臣秀吉禁制は、尾崎氏個人と言うよりも紀州や大野郷等の地侍・土豪勢力や地域などを対象としたものであるうが、本目録ではその伝来経緯等を考慮して、ここに入れた。大藏正家宛行状は、関ヶ原合戦前の勢力獲得を目的として出されたものであるう。なお、はじめにあげたえー22・おー49番文書は、尾崎重光家文書の写しである。詳細は重光家の頁に記したが、近年の研究であて先が畠山植長だとわかった。しかし林太郎家文書の中では尾崎氏が畠山氏の被官であったという関係をうかがわせる文書と考えて、「尾崎家」の中世の項に収めた。

家由緒・相続関係 二三。家の山緒書や家系図と相続に関するものをあつめた。この中で明和七（一七七〇）年の譲り証文之事二点

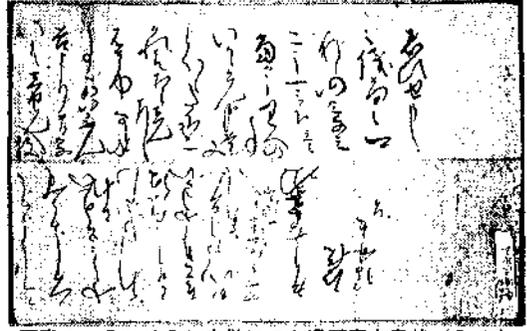


写真9 多ひせうし之儀につき湯河春定書状 (う-27)



写真10 織田三七書状 (う-26)

は、表題だけ見ると土地関係の項に入れるべきだが、内容は跡目相続に関する自家の土地・田畑相続に関するもので、治左衛門久豊死去後養子が六十人株を他人に譲り勝手に実家に帰ってしまうという一件後の跡目相続時のものである。おー15は申文だが、内容が山緒的なもの中心であるので、この項に入れた。

土地・家経営 二七点。

金銭出入 二点。

寄付・褒状 四点。

屋敷 六点。尾崎家が現在の黒江の屋敷地（元馬場長右衛門家跡）に移った後のものである。引越し後まず元文四年に屋敷新築をし、何度か手を入れた後、昭和九年に現在の屋敷を新たに建築しているが

（おー1図面はこの時のものか）、奥の座敷だけは元文の建築時のままに残され、現在に至っている。
 信仰と先祖供養（悲田院・久豊寺関係除く） 二二点。作成目的が別と考えられる悲田院と、まとまって残っている久豊寺関係を除いたものを集めた。代々子弟の中から僧侶を出していた家らしく、その庵である大高寺・洞照庵・万年寺に関するものや、子息得度についての書状などがある。

古文書調査

六点。尾崎家の古文書については古くから知られており、今まで数度の調査がおこなわれている。えー91は紀伊統風土記のための調査に関するものである。この時の調査記録は尾崎家文書中では尾崎のものではなく、藤田家文書のもの（えー11）そ

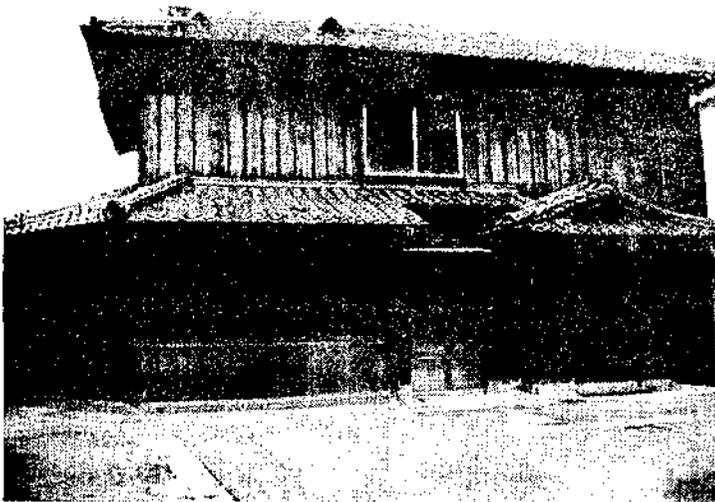


写真11 尾崎家屋敷（海南市黒江）

の他伝来の項へ)しか残っていない。しかし、県立図書館に保存されている「文化七年午九月 風土記 控」(TWA12/1(11))には、この時尾崎家が提出した古文書についての記録が残っている。なお、お168番文書は、現在の海南市史や東大史料編纂所等の調査関係のもので、内容から特にマイクロ撮影等の必要はないと判断した。調査記録はあるので、必要な場合は当館へ問い合わせいただきたい。

その他 一六点。け16とけ17文書は鑑櫃の中から出てきたものである。き190の喜久寿会は、昭和四〇年代の当主秀夫関係のものである。あ・い・く箱外にあった写本は、便宜上ここに入れた。

悲田院

一〇点。この内尾崎氏子息と直接関係がないことが明白な文書も四点含んでいる(う11・う12・う15・う10)が、いずれも治左衛門秀重子息見隆が京都泉涌寺の弟子となり、その塔頭悲田院の住職になった関係でもたらされたものであると考えられるので、この項に一緒に収めた。書状に見える高槻藩主永井氏は正保二(一六四五)年に藩主日向守直清が悲田院再興の援助して以後悲田院の檀家(菩提所)であった。

久豊寺

尾崎治左衛門久豊が建立した尾崎家菩提寺に関する文書群。

近世 三〇点。久豊寺の建立次第から近世末までの文書をあつめた。先に説明しているのでここで詳細は述べないが、久豊寺を禅宗に改めた時に開山とした跋山和尚にすべて寄附する形をとったため、そ

の後長く尾崎家との所有・支配問題出入りが続く。特に建立者である治左衛門久豊自身の葬儀をここでおこなえなかった一件(き172)は、興味深い。

明治期

四五点。この内地券二点。はっきり年代のわかる明治一八年以降の一三点は合併にかかわるものである。明治期になって荒廃の進んだ久豊寺は、和歌山市の恵運寺と合併し一旦廃寺となる。この関係のものも多い。

昭和再建

二四点。昭和三〇年代に入り当主秀夫により、久豊寺が一族の菩提寺として再建されることとなった。全てこの時の資料である。

その他

久豊の墓碑の拓本二点。この墓碑は現在も久豊寺墓地にある。

作成目的別不確定文書(目的が複数考えられるもの)

二七点。尾崎家に関する文書であることはわかっているのだが、その作成目的がどの項にあてはまるのか分析できなかつたものを一括してこの項に入れた。え153は差紙一括である。一見差出人名や宛名の書き方などから地士の項に入りそうなのだが、宮座に関するもの、もしくは尾崎家に関するものとも考えられる。特に久之丞関係のものは宮座との伏木出入もあり、どの項にいれるかの判断が大変難しいものであったので、文面だけでは作成目的が確定できない分はここに入れた。え198は封紙一括であるが、やはりえ153と同理由でこの項に入れることにした。う131は内容がよくわからないので、この項に入れたが、次項に入れるべきものであるかもしれない。また、一見かなり

古い感じがするので、近世以前のものである可能性もある。この点利用にあたっては注意されたい。

その他伝来

この目録作成までに、尾崎家との関連がわからなかった文書である。何か関連があつて尾崎家に残つたのであろうが、現在のところその理由がわからないため、別に項目を設けることとした。

大野郷とその周辺関係

五点。えー1は宮座の項の中世宮座かも

しくは尾崎家の項の古文書調査に入れることも考えたが、内容・作成とも尾崎氏ではなく藤田氏であるので、藤田氏伝来ととらえることとし、この項に入れることにした。えー50は時期的には尾崎治左衛門が海上郡地代官を勤めていた時期でありその関係か、また内容的には春日宮座関係とも考えられるが、どちらも確証をえられなかった。そのため、作成・宛名とも尾崎氏外であることから、この項に入れることとした。かー207・おー3は真性院（藤白若王子権現社別当）の文書であるが、これも尾崎氏との関係がはっきりしなかつたのでこの項に入れた。えー61の裏文書は表が尾崎氏関係文書であることから、先にこの裏文書が作成された後、その紙の裏面（現表）を使って別の文書が作成されたと考えられる。

大名関係

一〇点。このうち七点が松平伊豆守あての書状である。

うー6は少し性格が違うが、当時の老中が連署しているものである。これらの文書がなぜ尾崎家に残っているのかは不明である。京都の悲田院住持となつた千息が贈答等の理由で檀家である大名などからもたらされたものかとも考えたが、はっきりした説明がつかないため、別にこの項目をもうけることにした。

書籍等

一〇二点。特に写真撮影はしていない。この項のみ内容や年代順に關係なく、整理番号順で並べた。これも調査記録が必要な場合は、当館に問い合わせいただきたい。

尾崎重光家文書

二点。能登の守護畠山義総から紀伊守護畠山尾張守植長あての書状である。詳細は後述する。

尾崎彌太郎家文書

一点。豊臣秀吉から一牛斎あての書状である。詳細は後述する。

一〇、索引について

尾崎家文書目録には、内容理解を助けるため、最後に「尾崎家文書目録項目・整理番号対照索引」と「尾崎家文書人名索引」を付した。「尾崎家文書目録項目・整理番号対照索引」は、尾崎家文書を整理番号順にならべ、それぞれが本目録のどの項に掲載されているかを「項目」「項2」の欄に太字で記している。「尾崎家文書人名索引」は、尾崎家文書の差出・宛名・内容の主要部分に登場する人名を五〇音順に並べ、それぞれに該当資料番号を記している。尾崎家文書には、紀州藩士・地主・郡や村役人そして宮座関係者名が多数登場する。しかしその周辺資料が未整備なため、その人物がどのような立場や役職・身分にあ

るのかよくわからない場合がある。また、それがよくわからないため、その文書資料がどのような意味を持って作成されているのか判断できないものもある。そこで、登場人物関係や文書資料相互の関係を少しでも理解し、利用の便をはかるために、この索引を付すこととした。なお、編者が索引を引くまでもないと判断した人物（例えば高野騒動時の上使や藩士等、家の由緒書中の家族や先祖名、村人連印など）については、索引への掲載を省略しているので注意されたい。

・索引の利用例：本目録中他資料登場状況を知りたい特定の人物があった場合に、その人名を「人名索引」で調べ、そこで得られた登場資料番号を「整理番号対照索引」で引く。そこで得た「項目」情報により、本目録を引くと、目当ての人物のかかわる資料に行き着くことができる。

一、これまでの調査と掲載・参考文献、不明文書

1、調査

・続風土記調査（近世）

「名草郡古文書」（国立史料館蔵紀伊国和歌山本居家旧蔵紀伊

続風土記編纂史料）

『紀伊国続風土記』所収

『風土記 控』（文化七年九月 和歌山県立図書館蔵 TWA

12/1(11)）

・東京大学史料編纂所調査

影写本「尾崎文書」（一八八九年～一九五二年）

謄写本「尾崎家譜」（一九五一年）

・和歌山県教育委員会調査

『和歌山県古文書目録1』（昭和五八年）

・海南市史編纂室調査

『海南市史』

・和歌山県史編纂室調査

『和歌山県史』

・（東京都）豊島区立郷土資料館調査（ただし未掲載）

2、研究

・岩倉哲夫「紀州の宮座と祭祀―官省符庄・隅田庄・三上庄・野上庄等を中心に―」（『南紀徳川史研究5』一九九四年）

3、その他の参考資料

大野十番頭・春日宮座につき

・安藤精一「近世農村史の研究」（昭和五九年 清文堂出版株式会社）

式会社）

・池浦正春「大野郷と土豪大野十番頭について」（『海南市史研究』第2号・第3号）

・海南市鳥居田中家文書

・三上春日大明神諸色請弘目録 安永二年

・春日大明神枯木願書控 天明七年

・春日神社文書 三上秀信氏所蔵

（本目録作成にあたり平成二二年に調査）

悲田院につき

・『泉涌寺史』（昭和五九年 法蔵館）

納米と代官支配につき

納米と代官支配につき

・廣本満『紀州藩農政史の研究』（一九九二年 宇治書店）
地主と六十人者につき

・『南紀徳川史』（堀内信 明治三四年）

4、その他現在所在不明であるが、古資料にその存在がわかる文書

出典：『議状事』（尾崎家文書おー4）より

・沙弥石西（カ）書状 十月一三日（海南市史や紀伊統風
土記には沙弥道助とある文書であるが、この文書では
そう読めない）

・寛（年中御貸上ヶ家賃書上げ指上）寛政九年七月

尾崎次左衛門↓黒江村御仕入御役所

●追加凡例

本目録中において「尾崎家文書目録」は、「尾崎林太郎家文書目録」
「尾崎重光家文書目録」「尾崎彌太郎家文書目録」にわかれては、
掲載にあたっては、三者のうち調査実施日時が早いものから順に並べ
ている。

本目録の凡例（巻頭）の他に、尾崎家文書目録のみで、特に凡例と
して説明の必要なものは、以下の通りである。

・泉史……備考にこの文字があるものは、『和歌山県史』に所収の
ものである。

・海南……備考にこの文字があるものは、『海南市史』に所収のも
のである。

・名草……備考にこの文字があるものは、『名草郡古文書』（前頁参

尾崎家

照）に所収のものである。

・東大……備考にこの文字があるものは、東京大学史料編纂所影写
本「尾崎文書」、謄写本「尾崎家譜」に収録されいてい
るものである。

・重複……備考にこの文字があるものは、本目録中複数項目に重複
掲載したものである。どの項に重複掲載されているかは、
後ろに付した「尾崎家文書目録項目・整理番号対照索引」
で確認されたい。

追記

脱稿後、尾崎家が国の登録文化財に答申されることとなった。答申
されるのは尾崎家住宅主屋・座敷・三階蔵・前蔵の四件である。

* 尾崎林太郎家文書に関する現地調査は平成十年八月から平成一二年九
月までに、龍野直樹・鎌田和栄・伊藤信明・藤隆弘がおこなった。尾崎
重光家文書の現地調査は平成一二年二月と平成一三年三月に龍野・鎌田
がおこなった。尾崎彌太郎家文書に関する現地調査は平成一二年二月
に鎌田がおこなった。尾崎家文書の整理作業全般は鎌田・伊藤でおこな
った。また、尾崎家所蔵物資料の調査では、県立博物館学芸員高橋修・和
歌山市立博物館学芸員太田伸一両氏の協力をえた。
本目録の作成および解題は鎌田和栄が担当した。

尾崎林太郎家文書目錄

尾崎林太郎家文書目録

宮座

中世宮座

資料番号	標 題	年 月 日	作 成 者	宛 名	形 態
う-30	幡河寺衆徒等謹言上(幡河寺御敷地の勸料之事につき) *海南、東大	寛正2年12月11日			状
か-126	〔禅林寺領地につき大野十番頭契状写〕 *端裏書 二陽直筆 本紙坂本金大夫方二有之うつし、海南、名草	文明5年11月27日	重逸、久次、直次、重家、家次、春久、春吉、次久、忠次、直行		状
う-63	紀伊国名草郡大野庄三上郷於春日粟田両大明神座配之事(出席なきは空座たるべき旨) *美濃判、海南、東大名草	文亀3年6月日	左野、石倉才、若丸、田島秀家、田島吉、古座坂、本織久、三井直次(全花)		状
か-203	紀伊国名草郡大野庄三上郷於春日粟田両大明神座配之事(出席なきは空座たるべき旨) *後柏原院御時と書付	文亀3年6月日			状

十番頭由緒・相統

か-74	定(番頭名主養子相統認め旨) *春日社番頭10人名主50人、か1165とほぼ同文	寛永13年正月20日	大野庄十番頭字野辺新三郎、田島猪右衛門、井口善助、尾崎十三郎、中山久栄、船井佐平、坂本五郎兵衛、島居名主長三郎外各村計3名		状
お-36	紀州名草郡大野庄拾人番頭記(各人系図の写) *海南、東大	貞享元年霜冬中旬写之			堅帳
か-17-2	〔庄中社寺は番頭名主支配につき一札写〕 *か17-1綴紐にこよりで結付	元禄9年2月	番頭、稻井与兵衛、尾崎治左衛門、宇野辺又三郎、井口勘次郎兵衛	林重兵衛殿	状
か-202	定(宮座名跡養子仕り・絶家名跡仲間取立等につき) *本編中記入番頭名主(命懸けに御座り)と記入(得共)と記入(命懸けに御座り)と記入	享保2年正月	中野沙汰人、中村北村右衛門、外五平次、同村、北村、神田、方浦、加右衛門、外各村計14名		状
お-2	紀州名草郡三上庄大野郷十ヶ村十人之番頭之系図(尾崎家分写) *二丁、重複	(享保17年まであり)			堅帳

尾崎家 宮座(中世宮座/十番頭由緒・相統)

年々勘定

か-129	か-58	か-4	か-57	か-128	か-124	え-92	か-127	か-209	お-32	か-23	か-17-1	か-165
巳ノ年分御春日様萬請取私目録 *抽破損大、作成年の千支誤(未とあり)	萬弘之覺	御春日大明神勸進帳 *銀・麦・米・木綿の別あり	子ノ年分 御春日様御山手米覺	御春日様御山手ノ米出入之覺	御春日様あんちやつだんまわり作事ノ覺	渡し申庄中銀之事 *前欠カ	戌年分御春日様山手ノ出入覺	奉申上春日明神由緒 *注記、伊達藤二郎様吟味役南田辺丁瀬本源三郎様	乍恐奉願上口上(十人番頭井口勘兵衛跡へ源兵衛加え願ひ) *当時十人之内三人ならては無御座候	春日由来記 控	御調二付断書(寺社改につき書付差上げ控)	定写(番頭名主養子相統認めにつき) *番頭10人名主50人、か-74とほぼ同
寛永19年正月20日	寛永16年分 (寛永17年正月か)	寛永14年5月21日	寛永14年正月20日	寛永12年極月28日	寛永12年極月28日	寛永12年正月20日	寛永11年極月29日	(天保13年頃か)	天保8年8月	文化4年8月	寛政5年4月	寛延2年正月
田島猪右衛門(花)	宇新太郎(花)、鳥居長三郎(花)、中村三五郎(略押)、幡川長藏(略押)北村七左衛門	中村	りん番桶井重兵衛(印)、はたかわ九右衛門、中村安兵衛、井田基作、小中村与平次	りん番坂本宗久(花)(印)、長三郎、幡川左介、中村少九郎、かんた多左衛門	りん番坂本宗久(花)(印)、長三郎、幡川左介、中村少九郎、かんた多左衛門	りん番坂本宗久(花)(印)、長三郎、幡川左介、中村少九郎、かんた多左衛門	りん番田左近右衛門(印)、鳥居長兵衛、中村四郎、幡川甚右衛門、井田三之介(印)	海士郡六十人地土三上郷大野庄番頭春日明神支配尾崎次左衛門	西名草郡三上庄春日番頭尾崎次左衛門、同断差加へ者田島丹三郎	三上山大野庄春日宮別当金剛院、番頭田島堅次郎	大野庄中村春日明神別当金剛院、同井田村栗田明神別当徳道院	尾崎治左衛門
坂本五郎兵衛						坂宗久老			御代官所	御代官所		
状	状	横帳	状	状	状	状	状	縦一通	堅帳	堅帳	堅帳	状

か-25	か-12	か-136	か-135	か-134	か-133	か-143	か-59	か-92	か-132	か-131	か-130	か-91	か-90	
春日大明神鐘鑄入目帳	春日明神様萬請取払帳	春日大明神様酉ノ目録	午ノ年分 御春日大明神様萬請取払目録 *作成年の千支誤(未とあり)	御春日大明神様萬目録次第	御春日様萬小入用	御春日大明神御上ふきノ目録	丑ノ年分 御春日大明神様万請取払目録	子ノ年分 御春日大明神様萬請取払目録 *端裏書元号記載間違(慶長とあり)	御春日様萬請取払方	御春日様萬請取払方目録	御春日様之銀請取払方目録	寛永21年分阿宮様萬請取払目録 □ ^{或備米ノ心} 年分	午ノ年分 御春日様萬請取払目録	
明暦4年7月吉日	明暦4年正月吉日	明暦4年正月	承応3年正月	承応2年正月20日	慶安4年12月	慶安4年9月25日	慶安3年正月20日	慶安2年正月20日	正保4年正月20日	正保3年正月20日	正保2年正月20日	寛永21年正月20日	寛永20年正月20日	
三上庄大野之郷	大野之庄宇野辺猪左衛門	井口善大夫(印)、北村長五郎(印)、鳥居村太郎兵衛(印)、中村八兵衛(印)、幡川村又兵衛(印)	坂本五郎兵衛秀家(花)	辰ノ輪番宇野辺治兵衛、北村太左衛門、中村九右衛門、鳥居村太郎大夫、幡川左衛門	北村新右衛門、とりい惣左衛門、中村彦左衛門	井口善助、はた川庄右衛門、太夫、中村彦左衛門尉	幡川庄右衛門尉、井口善介、井田村新右衛門尉、鳥居喜	稲井左兵衛(花)、中村四郎右衛門、井田久大夫、はた川六兵衛、とりい長兵衛	坂本五郎兵衛(花)	井口善介(花)、はた川左介(印)、中村平三(略押)、とりい喜大夫(略押)、□加右衛門(花)	宇新太郎久次(花)、中村佐吉(略押)、鳥居村長兵衛(花)、幡川村理作(略押)、北村七左衛門(略押)	輪番頭尾崎十三良、太郎大夫、茂兵衛、長五郎、源次大	輪番頭稲井左兵衛(花)	坂本五郎兵衛(花)
		宇野辺猪左衛門	稲井与兵衛	大野庄沙汰人中		庄中	尾崎次左衛門	稲左兵衛		井口善助	宇新太郎	尾崎十三郎	稲井左兵衛	
横帳	横帳	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	

尾崎家 宮座(年々勘定)

か-30	か-29-2	か-29-1	か-28	か-27	か-26	か-63	か-62	か-140	か-139	か-138	か-137	か-61	か-60		
春日大明神寅ノ年諸色請弘目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	請取申米之事(春作徳米之内) *か29-1に挟み込み	春日大明神丑年諸色請弘目録 海士郡大野庄輪番中 *挟み込み一点あり1、2へ	春日大明神子ノ年諸色請弘目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	酉之年諸色請弘目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	申ノ年諸色請弘目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	春日大明神様午ノ年目録	春日大明神様巳之目録	春日大明神様辰之目録	春日大明神様卯之目録	春日大明神様寅之目録	春日大明神様子ノ年目録	春日大明神様亥ノ年目録	春日大明神様戌ノ年目録		
元禄12年正月20日	(元禄11年) 丑ノ11月20日	元禄11年正月	元禄10年正月20日	天和元年正月20日	寛文9年正月20日	寛文7年正月	寛文6年正月20日	寛文5年正月20日	寛文4年正月20日	寛文3年正月20日	万治4年正月20日	万治3年正月20日	万治2年正月20日		
尾崎治左衛門(印)、井田村 名主基四郎(印)、中村同兵衛 右衛門(印)、中村九兵衛	尾崎治左衛門(印)	井口勘兵衛(印)、中村名主 三郎兵衛(印)、日方村同長 右衛門(印)、幡川村同長四郎 (印)	尾崎治左衛門(印)、中村同兵衛 名主五平次(印)、中村同兵衛 四郎(印)、幡川村同次郎兵衛 (印)	尾崎治左衛門(印)、神田村 多右衛門(印)、中村又十郎 (印)、鳥居村宗左衛門(印)、 幡川村左次兵衛(印)	尾崎治左衛門(印)、神田村 多右衛門(印)、中村又十郎 (印)、鳥居村宗左衛門(印)、 幡川村左次兵衛(印)	稲井与兵衛(印)	中山二郎大夫(印)、せんき やう坊(印)、平太郎(印)、又 兵衛(花)、伝四郎(略押)	坂本五郎兵衛(印)、鳥居村 惣左衛門(花)、日方村加右 衛門(花)、中村伝四郎(印)、 幡川九右衛門(印)	九野辺猪左衛門(花)、中村 門(印)、幡川村左助(花)	教(印)、鳥居村太郎兵衛(印)、 中村三郎兵衛(印)、幡川村 喜左衛門(印)	井口善大夫(印)、神田村泉 左衛門(印)	幡川長兵衛(印)、北村形部 左衛門(略押)	稲井与兵衛(印)、とりい平 太郎(花)、中村浅左衛門(花)、 幡川長兵衛(印)、北村形部 左衛門(略押)	坂本五郎兵衛(花)、鳥居惣 左衛門(花)、賀田泉教(印)	宇野辺猪左衛門(花)、中村 右五郎(印)、神田村二兵衛 右衛門(略押)、北村久助(花)
	井口勘兵衛						稲井与兵衛		坂本五郎兵衛	宇野部猪左衛門	中山久兵衛	稲井与兵衛			
堅帳	状	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	状	状	状	状	状	状	状	状		

か-40	か-39	か-38	か-100	か-113	か-94	か-37	か-36	か-35	か-34	え-24	か-33	か-32	か-31
春日大明神巳年諸色請払目録 大野庄輪番中	春日大明神辰年諸色請払目録 大野庄輪番中	春日大明神丑歳諸色請払目録 大野庄輪番中	覚（春日明神御入用取かえ銀子勘定）	覚（春日明神へ取かへ銀子受取） *銀100目	借添申銀子之事 *春日明神御用のため貨物上芝崎神田清帳附証文に卯年借用の上に借り添	春日大明神丑年諸色請払目録 大野庄輪番中	春日大明神酉諸色請払目録 大野庄輪番中	春日大明神申諸色請払目録 大野庄輪番中 *表紙付箋...享保六年...同十三年未より申酉戌年同十七年共都合六冊不足	春日大明神辰年諸色請払目録 海士郡三上ノ庄大野郷輪番中	宝永八年卯正月より三年切覚（米にて書上げ） *か-33の記述と一致部分あり	春日大明神寅諸色請払目録 大野庄輪番中	春日大明神戌年諸色請払目録 大野庄輪番中	春日大明神申之年諸色請払目録 輪番中
元文3年正月20日	元文2年正月20日	享保19年正月20日	享保12年正月	享保11年7月27日	享保10年7月	享保7年正月20日	享保3年12月朔日	享保2年正月20日	正徳3年正月	(宝永8年)卯正月	宝永8年正月20日	宝永4年正月	宝永2年正月20日
田村新五郎(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神	同鳥居村(印) 同神
堅帳	堅帳	堅帳	状	状	状	堅帳	堅帳	堅帳	堅帳	状	堅帳	堅帳	堅帳

か-104	か-191	か-175	か-171	か-117	か-118	か-93	か-151	か-179	か-174	か-200	か-73	か-185	か-176
讓狀証文之事(田地につき)	覚(我等所持之田地春日明神へ永代常夜燈料に指上につき)	覚(所持田地春日社永代常夜燈料に差上につき)	讓証文之事(田地につき)	讓証文之事(田地につき)	讓渡申田地証文之事	本銀返シ証文之事	頼母子仲間へ質物ニ差入申証文之事(春日田地) * (端書書)「ひかへ」、田1ヶ所、印全て抹消、(奥書)大庄屋藤田与左衛門	本銀返シ証文之事(春日明神畑に売上)	本銀返シ証文之事(春日明神畑に売上)	永代売渡申畑之事(春日明神へ)	永代売渡申畑之事	永代売渡シ申畑之事	永代売渡申畑之事(春日様へ)
天明8年5月	天明5年12月	天明4年12月	安永10年正月	安永10年正月	安永6年8月	享保13年11月	享保11年7月	享保8年極月	享保8年極月	延宝5年2月11日	延宝5年2月11日	延宝3年12月	延宝2年11月6日
天明8年5月	天明5年12月	天明4年12月	安永10年正月	安永10年正月	安永6年8月	享保13年11月	享保11年7月	享保8年極月	享保8年極月	延宝5年2月11日	延宝5年2月11日	延宝3年12月	延宝2年11月6日
奉久保町讓主有田屋甚兵衛(印)、 同村庄屋源之丞(印)、 同村庄屋源之丞(印)、 同村庄屋源之丞(印)	外野郎2名(奥書印)橋爪 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	鳥居浦本人木村平右衛門 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	中村本人卯左衛門(印)、 同村証人善太夫(印)、 同村証人善太夫(印)、 同村証人善太夫(印)	本人鳥居浦木村平右衛門 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	本人鳥居浦木村平右衛門 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)	同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)、 同村証人屋惣四郎(印)
春日宮金剛院御支配衆中	中村春日社	春日社	大野中村金剛院	大野中村春日寺金剛院	春日寺	神田浦新五郎頼母子仲間 衆中	頼母子仲間衆中	明神支配輪番頭藤田与左衛門、同名主 輪番神田村又三郎外3ヶ村各1名	明神支配輪番藤田与左衛門、同名衆輪 番神田村又三郎外3ヶ村各1名	春日大明神様当輪番衆中	春日大明神様当輪番衆中	春日番頭衆中	番頭衆中、名衆中
狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀

尾崎家 宮座(田畑譲り)

尾崎家 宮座（田畑譲り／田地開作・預作／春日明神・金剛院）

か-101	覚（田地春日かねつき免にもらいお断につき仰上願） *大野中村猪左衛門の田地	亥ノ正月26日	大野之庄りん番鳥居村五郎兵衛（印）	日方清大夫	状
-------	--	---------	-------------------	-------	---

田地開作・預作

え-81	預り申池床田地之事 *か161の番頭・当番同名	万治2年12月8日	幡川村作人四郎右衛門（印）、同村請人形部太夫（印）	坂本五郎兵衛、鳥居惣左衛門、賈田奥教、中村安兵衛、幡川形部太夫	状
か-189	一札之事（春日明神へ下置の新田開作につき） *大野郷池之内水たまりの外に新田場所あり、願の通春日明神様へ下される	天和2年5月19日	重根村預り主龜井九郎兵衛（印）、同村証人作十郎（印）	春日明神様当番衆中	状
か-119	覚（鐘突免田地預り作の旨）	享保5年2月	井田村預り主半兵衛（印）、同村証人源之丞（略押）	井口助兵衛	状
か-147	以書付御断申上候（お尋につき春日明神地見取田書上） *端裏書「享保六年丑ノ七月十八日 ひかへ」	（享保6年） 丑ノ7月（18日）	番頭尾崎次左衛門、同鳥居村主吉門外1名、同中村九郎右衛門、同右衛門・肝煎基七外1名	日方組大庄や橋爪与惣右衛門	状
か-42-2	覚（明神神田へ預り証） *か12-1に挟み込み	享保11年2月	中村半左衛門（印）、同村権介（印）	尾崎治左衛門	状

春日明神・金剛院

か-106	請状之事（金剛院住持通玄につき）	享保6年9月	那賀郡山崎村請人伊大夫（印）、通玄（印）	尾崎治左衛門	状
か-87	一札之事（此度春日大明神之巫二罷成候につき） *美濃判、安原ノ庄代々巫、これまでの巫が不届に付	享保8年5月	巫吉吉母（筆軸印）、世倅善吉（印）	明神御支配当番頭藤田与左衛門、同断当番名主衆中	状
か-169	宗旨請之事（弟子真龍金剛院へ置につき）	元文元年12月	安原法蓮山明王院（印）	尾崎治左衛門	状
か-192	奉願覚（多田村神宮寺住持真龍を金剛院後住に仕度につき） *（端裏書）「元文元年 金剛院住持ひかへ願、挟み込み断簡一片あり」	（元文元年）辰12月	金剛院支配番頭尾崎治左衛門、名主当番中村助三郎外3名（奥書）中村庄や甚右衛門、肝煎助三郎、由右衛門	藤田与左衛門	状
か-198	請状一札之事（真龍金剛院へ入院につき）	元文元年極月	西名草多田村藤兵衛（印）	尾崎治左衛門	状
か-108	奉願口上覚（金剛院後住に多田村神宮寺泰原請待仕度につき） *春日大神別当金剛院隠居につき	天明7年正月	春日大神支那人中村兵衛、同幡川村助七、同鳥居藩増大、同支那人番頭田島藤三郎書印、支那人番頭田島藤三郎書印	郡御奉行所	状

か-20	か-22	か-163	か-168	か-78	か-183	う-12	か-180	か-21	か-160-1	か-160-1	か-160-1	か-177	か-164
糺(春日社金剛院につき願書へのお尋ねと返答書控) *か-24と同、か-19の願書に対する問いと尾崎答え	春日社別当より什物帳面一条二付及出願候 右答書之写し *金剛院住持遺族等社奉行が什物帳面新住居入院後什物不足疑となる、か-21と同	〔春日社別当金剛院後住の願書願意組歸につき返却一札〕 *か-78か-163参照 *金剛院住持遺族等社奉行が什物帳面新住居入院後什物不足疑となる、か-21と同	乍恐以書付奉願上候口上(金剛院無住につき岡田村神宮寺江寺務兼帯仰付願い) *か-78か-163参照	乍恐以書付奉願上候口上(金剛院無住につき岡田村神宮寺へ寺務兼帯仰付願い)	〔金剛院留守居置先住義運身付の品御下ケ願の成行につき一札〕 *無住金剛院神前村観音寺末敷を留守居に差置度并金剛院先住義運身付の品御下ケ被成下度・留守居願書は返却御下ケは願人共へ御達し可有	乍恐口上(金剛院無住に什神前村観音寺末敷を留守居に差置度并金剛院先住義運身付の品御下ケ被成下度・留守居願書は返却御下ケは願人共へ御達し可有) *封紙と文書あわなない(封紙上書)クロエ村地主尾崎次左衛門殿御用 〔封〕□(破損)月廿八日 寺田八郎右衛門、この封紙はえりものではないか	奉願口上(義運追放につき身附之品々御下ケ被成下候様仕度につき) *金剛院義運当正月追放仰付	春日金剛院什物帳 写し(義運追放之節)	(書類写し②) 就住職僧請之事(弟子義運義絶取消につき)	(書類写し①) 請状(金剛院住持義運仕につき)	〔社僧義運等入継一件書付見合度につき書付差出可申旨書状覚〕 *本文他に差出書類の写し二点あり(詳細以下へ、下紙あり、金剛院住持)	請状之事(金剛院住持栄賢につき) *か-164参照、那賀郡麻生津庄西之脇村成普提寺弟子	就切支丹御改一札之事(今度黄原を春日金剛院住職仕につき) *美濃判、か-177参照、西脇村木村源吉次男
(慶応3年12月)	安政3年8月	7月25日 (嘉永3年頃か)	嘉永3年6月	嘉永3年6月	9月28日 (天保14年以降)	9月8日 (天保14年)	卯8月(天保14年)	天保2年3月	天保2年3月	天保2年3月	亥3月・2月晦日 (天保10年か)	文化9年11月	文化9年霜月
西名艸大野中村春日番頭尾崎久之丞(代官または御奉行)	下和佐伴右衛門	春日社支配尾崎久之丞	春日社支配尾崎久之丞(印)	伊達藤二郎	春日社番頭尾崎次左衛門	春日社番頭尾崎次左衛門	春日明神番頭差加之者田島丹三郎(奥書)大野庄春日明神支配番頭尾崎次左衛門	春日宮隠居秀全	春日宮隠居秀全	寺領黒川村庄九郎、中村蓮華寺	勝田七郎右衛門	親請木村源吉(印)、同村庄や証人宇太八(印)	麻生津西脇村浄菩提寺(印)
大野中村春日番頭尾崎久之丞	尾崎次左衛門	海士郡御代官所	下和佐伴右衛門	海士御代官中	御代官所	御代官所	寺社御奉行所(奥書宛所)海士御代官所	春日社御支配衆中	春日社御支配衆中	春日宮御支配衆中	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	尾崎次左衛門
帳	綴	状	状	状	状	状	状	帳			状	状	状

尾崎家 宮座(春日明神・金剛院)

尾崎家 宮座（春日明神・金剛院／徳道院）

え-53 -13	か-123	か-125	か-19	か-24
〔代官所差紙〕（春日社別当金剛院後任につきお尋ねあり） *封紙に「御用早々」とあり、明後日四時	〔金剛院と出入りにつき取懸の春日社普請差控申付達〕 *金剛院と番頭名主共出入、「右八御代官所より被仰越候写し」とあり、重複	以書附奉願候（金剛院無任に付那賀郡森村毘沙門住僧請待仕度につき）	乍恐奉願上候以上（春日社私家支配再仰付と金剛院身上不宜取調上退院仰付願） *か20・か24と年号同か	札（春日社金剛院につき願書へのお尋ねと返答書控） *か20と同、代筆日方組地土年番味背藤三郎、か19の回答
7月23日 （近世後期）	2月15日	西ノ3月	（近世後期）	慶応3年12月
下和佐伴右衛門	土岐主税	春日明神支配人番頭当番藤井与兵衛、同名主支配人惣夫政右衛門、肝煎文三郎、庄大	日方組黒江村尾崎久之丞	西名草郡大野中村春日番頭尾崎久之丞、寺社御奉行衆
黒江村地土尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	橋爪庄次郎	野中村春日番頭尾崎久之丞	寺社御奉行衆、西名草郡大野中村春日番頭尾崎久之丞
状・封紙	状	状	縦	縦

徳道院

か-97	か-107	か-107	か-107	か-170	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1	か-16 -1
請状之事（教伝井田村徳道院住持に請待につき） *紀三井山瀬本坊教意弟子	〔桂岩徳道院後任就任にともなう語文書写〕 *二点写し↓詳細以下へ	①一札之事（桂岩寺請）	②請状之事（桂岩徳道院住持に請待につき）	以書付御断申上候（徳道院住に桂岩請待仕度願書） *端書「徳道院 願書ひかへ、正徳四年午三月指上申候ひかへ」、前半桂岩らの願書	幡川村禪林寺より徳道院之義願出候二付御代官所より御尋二付書付二而申上候控 *押紙「春日金剛院二件控」、写四点、詳細以下へ	①口上覚（お尋ねに対し徳道院後任の件） *か1182参照	②奉願口上覚（禪林寺無届で什物等虫干しの件お札願）	
元禄12年霜月17日	正徳4年3月	正徳4年3月	正徳4年3月	正徳4年3月	文政13年3月	（文政13年） 寅閏3月4日	文政13年9月	
紀三井寺村請人三右衛門（印）	伊都郡高野領教良寺村阿弥陀寺亮山	伊都郡高野領教良寺村請人庄右衛門	伊都郡高野領教良寺村請人庄右衛門	桂岩、井田村庄や甚四郎、肝煎与右衛門、春日当番尾崎治左衛門（全印抹消）		尾崎次左衛門	西名草三上庄番頭尾崎次左衛門	
井田村井口勘兵衛、同村庄や佐左衛門・肝煎与右衛門	井田村甚四郎、春日当番尾崎治左衛門	井田村庄や甚四郎、春日当番尾崎治左衛門	井田村庄や甚四郎、春日当番尾崎治左衛門	橋爪与惣右衛門		御代官所者寺田八郎左衛門	寺社御奉行所	
状	状	状	状	状	縦	縦	縦	縦

か-121	か-195	き-25	か-182	か-206	か-206	か-206	か-206	か-206	か-16-2	か-16-3	か-16-1	か-16-1	
〔書控〕 〔粟田明神別当徳道院後任之義願い延引につき双方和談の旨届 *出損	〔徳道院後任願延引の儀御札につき返答書〕 *無住徳道院へ金剛院弟子秀山を住持請待だが金剛院が僧請の請も不済で後任願も延引	以書附奉願上候（末寺徳道院留守居不法につき） *尾崎次左衛門俣引連留守居任、年代推定は大庄屋期間より	〔徳道院の儀に付是迄の致方委細書付達す可き旨一札〕 *本寺禅林寺よりの訴により	④口上覚（俣は徳道院留守に参っているが騒敷義はない旨） *禅林寺申上	③〔徳道院之儀に付是迄の致方委細書付早々可達旨一札〕 *か182と同、禅林寺願出候事	②以書付奉願上候（末寺徳道院支配お糺し願） *私寺末徳道院は無住、番頭名主共支配と申して尾崎わがままの旨	①〔先年通り所持仕度旨申上〕 *前欠	〔徳道院支配につき禅林寺と尾崎出入留書〕 *写し四点あり↓詳細以下へ	〔米代受取覚〕 *裏表紙に二点貼付の上	覚（金子受取につき） *裏表紙に二点貼付の下	④口上覚（春日明神義運との出入済につき願下げ願） *裏表紙に二点貼付の下	③指上申一札之事（禅林寺什物改双方立合いの旨） *往古の同様一件例	
	卯5月29日	寅3月 （天保13年か）	閏3月朔日 （文政13年か）	閏3月4日 （文政13年か）	閏3月朔日 （文政13年か）	寅3月 （文政13年か）	丑2月			丑11月6日	天保2年3月11日	天和3年11月	
（金剛院）	尾崎次左衛門、田島丹右衛門	①〔本文〕幡川村禅林寺惠曉、 ②〔を差上〕井田村庄屋新 兵衛、③〔を差上〕岡本新十郎 日方組大庄屋岡本新十郎	寺田八郎右衛門	尾崎次左衛門	寺田八郎左衛門	幡川村禅林寺両曉、（奥書） 井田村庄屋新兵衛、（奥書） 日方組大庄屋岡本新十郎	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	はた川禅林寺	井田庄屋元（印）	幡川村庄屋市之丞、同村寺 家佐・久三郎・七太夫・四郎 左衛門外7名 大野中村名主右衛門・佐平 幡川村名主久右衛門・佐平 次・権右衛門・黒江村名主六 郎兵衛・奥書・大野庄番頭 尾崎次左衛門	村井喜右衛門、丹庄兵衛	
状	状	状	状		尾崎次左衛門	寺社御奉行所、（奥書宛所）岡本新 十郎、（奥書）宛所寺田八郎左衛	御代官所		次左衛門様	尾崎次左衛門	御代官所		
								豎帳	状	状			

尾崎家 宮座(禅林寺)

禅林寺

か-150	か-193	か-153	か-88	か-196	か-110	か-109	か-96	か-89	か-89	か-89	か-212	か-162
覚(什物預り証)	覚(什物預り証)	奉願口上(禅林寺我儘いたし当番中へ不届けにつき届仰付願)	御尋二付口上(禅林寺番当支配や否やにつき) *端裏書「享保六年五月三十日 上ルひかへ」お尋ね文と返答文共あり、禅林寺も古来より五人の者番当支配来帳品か	〔禅林寺宝物改吟味願〕 *端裏書「享保五年亥ノ十一月二上ルひかへ」享保5年は子年	奉願口上(禅林寺宝物改願い) *端裏書「享保五年酉二月八日 上ルひかへ」不届に付宝物改吟味願に届帳も無届け	口上(禅林寺宝物等改吟味仰付願いにつき) *端裏書「享保五年酉二月八日 上ルひかへ」不届に付宝物改吟味願に届帳も無届け	奉願口上(禅林寺住持の置替につき御吟味願) *端裏書「正徳六年申四月五日 上ルひかへ」9年前番頭へ無届住持置替 寺家封番頭	②「訴えの件につき郡奉行から仰せ聞かせられた事承知につき一札」	①乍恐奉願候(春日番頭へ禅林寺虫干立合いと修理入用割符等出仰せ付の旨)	大野之庄三上郷幡川村禅林寺什物虫干延引并修理破損入用之儀二付庄内番頭名主中幡川村寺家中と年来及静論候処二此度双方致和談出入済証文之事 *果実、文書写二点あり、詳細以下へ	薬師再興奉加帳	乍恐申上候(禅林寺持物改仰付願いにつき) *寺家との出入りにより作成される、訂正あり
文化元年6月12日	(享保11年) 午ノ2月13日	(享保6年) 丑3月	(享保6年) 丑3月	(享保5年) 亥ノ11月	(享保4年) 亥11月	(享保2年) 酉ノ2月	(正徳6年) 申ノ4月5日	元禄16年4月	(元禄16年) 未ノ3月	(元禄16年) 未4月	貞亨5年9月9日	延宝5年極月
禅林寺(印)	禅林寺(印)	井口勘兵衛、尾崎次左衛門、 村野三郎外3村3名(全印)	井口勘兵衛、尾崎次左衛門、 村野三郎外3村3名(全印)	井口勘兵衛、坂本楠之丞、 宇野辺又三郎	井ノ口勘兵衛、尾崎次左衛門、 宇ノ辺又三郎	井口勘兵衛、尾崎次左衛門、 名主中	井口勘兵衛、坂本楠之丞、 井ノ口勘兵衛、尾崎次左衛門	井口勘兵衛、坂本楠之丞、 尾崎次左衛門	七兵衛・利兵衛、佐近右衛門、 伊兵衛・久四郎、太兵衛・忠 大夫・源四郎、伊太夫・勘兵 衛、久兵衛・長九郎、市之丞	幡川村寺家七兵衛・利兵衛、 左近右衛門、伊兵衛・久四郎、 太兵衛・忠大夫、源四郎外4 名、庄屋市之丞	幡川山禅林寺	(尾崎)
田島徳治郎、支配人衆中	尾崎治左衛門、甚助	橋爪与惣右衛門	日方組大庄や橋爪与惣右衛門	郡御奉行所	郡御奉行所	郡御奉行所	郡御奉行所	山田伝八、中尾善兵衛	山田伝八			寺社御奉行
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	帳	状

か-16	<p>幡川村禅林寺より徳道院之義願出候二付御代官所より御尋二付書付二而申上候控 猶又禅林寺虫干改之ニ付書付ヲ以御達候</p> <p><small>*押紙一春日金剛院一件控、重複</small></p>	文政13年3月		堅帳
------	--	---------	--	----

粟田明神

え-23	<p>乍恐書付ヲ以奉願口上(井田村粟田大明神の盜難湯釜一件につき)</p> <p><small>*御吟味願上</small></p>	天明6年間10月	<p>大野之庄春日明神支配人番頭 当番鳥居藤三郎同治左衛門 又鳥居藤三郎同治左衛門 又藤川村左明神同村</p>	状
------	--	----------	--	---

観音寺

き-73	<p>乍恐以書付申上候(村名主へ観音寺留主居出し仰付願)</p>	酉ノ3月	<p>番頭福井与兵衛、同藤田六夫(太脱力)、同尾崎治左衛門、同井口勘兵衛、同当番三郎、同外三郎、同中村名主彦三郎、同外2名、同名主</p>	御郡奉行	状
------	----------------------------------	------	---	------	---

番頭支配出入

か-102	<p>〔粟田社鳥居破損立替にともなう春日山神木通伐採につき吟味願い〕</p> <p><small>*福井与兵衛鳥居置置右衛門番頭仲間に断断で過分御下げ出願につき</small></p>	(宝暦元年) 未12月	尾崎次左衛門	郡御奉行所	状
か-72	<p>奉願候口上(番頭福井与兵衛名主鳥居浦甚右衛門勝手仕迷惑につき)</p> <p><small>*吉初行・徳道院在持一件・黒箱目録戻等仰付願</small></p>	(宝暦元年) 未12月	春日明神支配人番頭尾崎次左衛門	郡御奉行所	状
か-82	<p>追而奉願口上(福井与兵衛勝手迷惑の件追訴につき)</p> <p><small>*福井与兵衛が中臈老とむすび当番番頭職を渡さない</small></p>	(宝暦2年) 申10月	尾崎次左衛門	郡御奉行所	状
か-114	<p>追而奉願候(福井与兵衛一件不済につき御料簡願い)</p>	(宝暦3年) 酉3月	尾崎次左衛門	郡御奉行所	状
か-84	<p>乍恐以書付申上候(春日社寺社御役所直支配に被仰付被下度き願いの旨寺社奉行所尋ねへの返答につき)</p>	天保12年3月	大野春日十番頭尾崎次左衛門		横帳
か-208	<p>御尋二付申上候(番頭と穀屋坊主の出入一件につき)</p> <p><small>*奥誌一右伊達藤十郎様御当月瀧本源三郎様江御達し申候是ハ寺社方御吟味役衆、*下巻一奉願口上、村々庄屋共十番頭の指図に従わず普請等するので</small></p>	天保13年6月	西名草大野春日番頭共	寺社御奉行所	堅帳
か-18	<p>十番頭并社僧願書下書(春日粟田松代王子十番頭支配の旨仰せ付け願い)</p> <p><small>*下巻一奉願口上、村々庄屋共十番頭の指図に従わず普請等するので</small></p>	卯7月	海士郡日方組大野之庄春日社支配番頭、社僧	寺社方御役所	堅帳
か-105	<p>御尋二付申上候(直支配後番頭取継を以諸事御願申上候義名主仲間差支候とはいか様とのお尋につき返答書)</p>	申2月	大野庄中村春日上下両社支配名主中村又兵衛・嘉大夫・勘七・平次・又三郎		状

尾崎家 宮座(禅林寺/粟田明神/観音寺/番頭支配出入)

尾崎家 宮座（番頭支配出入）

か-173	か-173	か-173	か-173	か-173	か-173	か-173	か-173	か-83	か-123	か-144	か-65	か-194	か-64
⑦〔明神氏子銭不得心の旨につき日方村意見の御報を求め る書状写〕	⑥〔明神氏子銭不得心の旨につき日方村は氏子や否尋ね書 状写〕	⑤〔明神氏子銭不得心の旨日方村よりの御報への返書状写〕	④〔明神氏子銭日方村不承引の旨についての御報を求める 書状写〕	③〔明神氏子銭日方村のみ不同心につき再書状写〕	②〔明神氏子銭日方村のみ不集めにつき書状写〕	①〔明神氏子銭集お世話願書状写〕	〔明神氏子銭不承引につき日方村庄屋又五郎あて書状写〕 *↓写し文七点あり、詳細以下へ	〔春日明神修繕のため氏子銭集依頼につき廻状〕 *〔端書上書〕〔幡川村庄屋助棟 尾崎治左衛門〕〔帯助あり〕〔日方村庄屋以外宛名合意あり〕	〔金剛院と出入りにつき取懸の春日社普請差控申付状〕 *金剛院と番頭名主共出入、「右ハ御代官所より被仰越候写し」とあり、重複	御断申上候（春日両社願筋両別当名印形除につき御断書雜型） *今後両別当名印形除申度、名主対別当一件	乍恐奉願上候口上（春日社境内松茸山のこと他につき私支配の 旨仰付願い） *対名主出入	金剛院へ張紙之事・庄内之明神へ庄外より指出如何と可申やの事（支配輪番に 関し御料願他） *端書（寛書）（前半張紙）年番態度懐むことにつき （張り紙評議して片付けた）後半）庄外住者は支配仲間着く定めは無い	就御尋申上候（春日上下明神願筋往古より番当支配人并別当連 印を村方取継差上である旨）
9月10日	9月6日	8月18日	8月14日	7月30日	6月24日	6月15日	6月15日	5月9日	2月15日	戌3月	酉9月 （近世後期）	申9月 （近世中期以降）	申ノ3月
中	中	金剛院	金剛院	金剛院	金剛院	金剛院	金剛院	春日番頭当番尾崎治左衛門	土岐主税	春日支配人名主誰、同、同	黒江村尾崎久之丞	尾崎次左衛門	大野庄春日上下明神支配人 名主惣代中村又兵衛・喜太 夫外3名（奥書）大野中村 庄屋惣四郎・肝煎2名
中	中	中	中	中	中	中	中	幡川村庄屋助、山田村同利右衛門中村同吉 右衛門外井中神田忠房・名高各村庄屋	尾崎次左衛門		海士郡御代官所		
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
日方村庄や又五郎・肝煎衆	日方村庄や又五郎・肝煎中	日方村庄や又五郎・肝煎衆	日方村庄や又五郎	日方村庄や又五郎	日方村庄や又五郎	日方村庄や又五郎	日方村庄や又五郎						
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状

その他支配関係

え-27	え-27	か-199	え-20	か-95	え-12	え-7	か-172	か-79	か-67	か-3	か-66	か-184
②〔両制札請取る旨書面差し遣し状〕 *内容一点の後半	①〔春日明神并栗田明神制札出来につき請取を命じる一札〕 *内容二点の前半、評定所へ請取二罷出候様御勘定奉行中より申来	〔阿明神殺生禁制札建替願への下地御制札評定所に差出様勘定奉行より申来旨達〕	〔大野庄春日番頭之儀申し談じにつき差紙〕 *大野弥七宅江立書候上明日四時頃御代官所へ、え98-5はこの封紙か	覚〔春日境内松茸山当年分売上代銀受取〕 *お屋敷御売上に相成り	〔先達て奉納の宝劔相見えざる件につき書状〕	〔願書下げ遣につき一札〕 *別紙通勘定時後申より申し来う12の封紙はこの封紙か、寺田名より徳道院との出入関係か	〔春日支配人願書もどされ候につき文書送一札〕 *大野庄氏神支配人へ別紙の通寺社奉行中より申来、か1206参照	〔春日支配人願い不済文書返下しにつき一札〕 *徳道院出入関係か、か1206参照	請取覚〔銀子請取〕	心覚控〔番頭当番名書上〕 *寛永11年〜寛文7年の一部分、ほか藩主御証忌月書上	口上覚〔有徳院様御寄附の絵馬焼失につき〕 *15年前寛永8年7月7日夜書其調書に繪馬も焼ける、巻に「右書院様御寄附の絵馬焼失」とあり	口上〔春日社鐘突・掃除等諸役引受につき〕 *徳寺明神寺通掃除・金剛院御甲赤障上明神掃掃務上平ノ山見廻り山へ御書差遣人申入れな
(近世中期以降)	(近世中期以降)	(近世中期以降)	(近世中期以降)			(近世中期以降)				(写子之)		
3月9日	3月7日	10月18日	8月22日	8月18日	8月2日	5月28日	12月大晦日 (12月29日)	閏3月5日 ①②閏3月3日	(卯ノ正月20日請取)	天保6年8月25日	寛政5年正月	正徳5年3月
岡本織之助	竹内弁五郎	竹内弁五郎	勝田七郎右衛門	大野庄春日社番頭尾崎次左衛門	紀三井寺村亀五郎	寺田八郎右衛門	①小関新左衛門↓②長沢十左衛門↓藤田与左衛門	①小関新左衛門↓②長沢十左衛門↓藤田与左衛門		尾崎次左衛門豊久	西名草大野中村春日明神別当金剛院	井田村太次兵衛(印)
又右衛門	海士御代官中	海士御代官中	尾崎次左衛門	水野様御役所	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	中村庄屋甚右衛門	尾崎治左衛門				春日御支配御当番頭尾崎治左衛門
状・後半	状・前半	状	状	状	状	状	状	状	状	横帳	状	状

尾崎家 宮座(その他支配関係)

尾崎家 宮座（その他支配関係／春日境内木伐・普請）

え-47	〔ひその覚・せいた覚他書上げ〕 *御春日社たんす・小鳥居二居等の書付あり								
え-53 -4	〔日方組当宗判取差支申立の件につき申遣書〕 *封紙に「御用早々」とあり、其元のみ差支申立旨	3月17日 （近世後期）	仁井田源一郎	黒江村 尾崎久之丞	状・封紙				

春日境内木伐・普請

か-70	覚（春日大明神建立につき） *本殿天正年中氏子共2箇四面大小2箇の鳥居は殿様より木材下され寛永14年建立他	正保4年霜月6日	井田村久三郎（略押）	りんはん衆中	状
か-75	預り申御春日山之事（伐木下草荒取り等山内見張りにつき） *給分米5斗にて山見廻り引受	承応4年正月20日			状
え-6	借用申銀札之事（春日穀屋普請借銀借り替えのため） *元は元禄14年に借用	宝永2年正月13日		神田村市郎兵衛	状
か-99	以書付申上候（境内倒木にて春日社破損所繕仕度につき） *松木5本去亥月19日大風で吹倒れ、作成年確定は人名と間月より	（宝永5年） 子閏正月朔日		橋爪与惣右衛門	状
か-146	書付を以奉願候（下ノ宮屋根ふき替・社引直申度につき） *社日裏二而土地重敷、境内之宮山十間程上へ社引直申度	（正徳4年） 午8月		日方組大庄や橋爪与惣右衛門	状
か-77	以書付奉願候（下宮鳥居立直しにつき春日山木被下候様） *楠2松3	（享保4年） 亥ノ11月		橋爪与惣右衛門	状
か-178	奉願松木之事（下之宮鳥居立直木春日山内より下され度旨） *松木6本、年代確認大庄屋名より	亥ノ6月		日方組大庄屋橋爪与惣右衛門	状
か-145	以書付奉願候（下ノ宮穀屋破損并屋根ふき替仕度春日山松木お下げ願） *15本、年代推定桂岩は正徳4年着任（か170）より	辰3月 （享保9年か）		大庄や	状
か-210	大野庄春日山永代護摩講（社屋根ふき替入用のため） *月2錢5年間奇進をすれば屋根替成就する	享保11年6月	世話やき		豎帳
か-80	奉願松木之事（春日山枯木春日明神御湯新に被下願） *松木5本	（享保18年） 丑6月		大庄や藤田与左衛門	状
か-197	奉願松木之事（春日山枯木春日明神御湯新に被下願） *松木5本	（享保18年） 丑6月		大庄屋藤田与左衛門	状

か-71	え-4	え-5	か-69	か-115	か-161	か-116	か-111	か-98	か-102	か-103	か-76	か-148	か-153	
奉願上口上(境内立枯木下ノ宮修復入用に下置の旨) *槍2・杉1・松10・松11	乍恐以書付奉願上候(松代王子社大破につき御見分取り繕い願ひ下書) *金剛院か	乍恐口上覚(松代王子社大破につき御見分取り繕い願ひ下書) *え4と少し違ふ	(大鳥居修復入用木に境内立枯木下置願) *奥に下紙にて信名主よりも別紙願ある旨書付	奉願上口上覚(春日明神境内立枯木玉垣修復入用木に下置願) *先達て尾崎より願上と同様願、押紙あり、槍7・楠2・松15	乍恐奉願口上覚(春日明神山石取場所外地へ仕度につき) *手押紙2点、上押紙1点、申出候場所にて石割取難無相聞候付願書返却の旨	奉願口上覚(金剛院消失につき再建仕度社木枯木下置願) *か111と同	奉願口上覚(金剛院消失につき再建仕度社木枯木下置願) *槍3本・松7本、か116と同	奉願口上覚(春日明神境内枯木瑞垣入用并御湯木に下置願) *松木5本	「粟田社鳥居破損立替にともなう春日山神木過伐採につき吟味願ひ」 *願并多兵衛・鳥居修善寺・御湯八本書願付間に無断で過伐御下り出願につき、重覆	奉願候口上(春日社松木売払いにつき日方浦にての御口銀は御免成下され度旨) *本端裏書に「不相済也」とあり	奉願候口上(春日明神山松木売払のため数度に分け伐り度願) *松木120本	奉願候口上(借銀返済のため下され春日山立木に木印入置願) *本端裏書「享保十九辰ママ」生木印之願済不申也、松木120本お下り願済	請取申松木之事(春日山枯木) *枯松木5本御湯新に	
天保13年3月		天保10年8月	天保6年未3月	文政10年3月	文政7年閏8月	(安永8年) 亥9月	(安永8年) 亥9月	安永7年4月	(宝暦元年)未12月	(享保20年) 卯12月	(享保20年) 卯6月	(享保19年) 寅極月	(享保18年) 丑10月 (5日)	
大野中村名主惣代伊四郎、 半太郎外2村2名春日番、 頭差加江者田島丹三郎、 頭番頭当番尾崎次左衛門 (全印)	(文中に「私僧」とあり)	大野之庄松代王子支配十番 頭尾崎次左衛門	春日明神番頭藤田伴助(奥書)同社番頭当番尾崎次左衛門	大野庄番頭春日明神支配人 尾崎次左衛門(印)	海士郡大野春日明神社僧金 剛院義順(印)、同所名主当 番義四郎(印)、同所名主 當番右衛門(印)、鳥居村 名主當番右衛門(印)	大野在中村春日大明神別當 藤田六郎、同支配人日方浦 村外肝煎2名、同村庄屋惣四郎	金剛院僧頭支配人日方浦 村外肝煎2名、同村庄屋惣四郎	大野在中村春日大明神別當 藤田六郎、同支配人日方浦 村外肝煎2名、同村庄屋惣四郎	大野中村三上山金剛院、同 村名主支那人藤田兵衛、日 方浦支那人藤田庄屋惣四郎、 肝煎2名	尾崎次左衛門	春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名、 春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名、 春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名	春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名、 春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名	春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名、 春日明神支配人当番尾崎治 左衛門、中村庄屋惣四郎、 中村庄屋基七、肝煎2名	
御代官所	寺社御奉行所(奥書宛所)	寺社御奉行所(奥書宛所)	寺社御奉行所(奥書宛所)御 代官所	御代官所	寺社御奉行所	橋爪庄次郎	寺社御奉行所(奥書宛所) 橋爪庄次郎	寺社御奉行所(奥書宛所) 橋爪庄次郎	寺社御奉行所(奥書宛所) 橋爪庄次郎	郡御奉行所	日方組大庄や藤田与左衛門	藤田与左衛門	藤田与左衛門	野田与大夫、逸見清兵衛
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状

尾崎家 宮座(春日境内木伐・普請)

尾崎家 宮座 (春日境内木伐・普請)

か-156	か-157	か-154	か-81	え-26	か-112	か-149	か-85	か-160-2	お-24	か-68	か-211	か-211	か-211
〔春日社境内松浜出し出来候や伺い書状〕 *え98⑥は封紙か	〔春日社願松伐り方相済早々根伐取につき一札〕 *急々根伐り取計、本文村方へも通達のみ、え98②は封紙か	〔春日社願松伐渡し御用に明八日罷越旨一札〕 *伐方の儀は勝手に取掛候様御取計とあり、え98②は封紙か	奉願口上 (松材春日社修復料に御買上被成下度旨) *松4本	内存二而奉願口上覚 (境内雑木猥りに伐取差留願い) *年番頭名主拙備へ相談なく30本余伐	乍恐奉願口上覚 (境内立枯木下置再願) *上宮屋根玉垣修復、先に尾崎願上松7・楠2・松15、か1115か122と関連か	請取申松木之事 (春日明神下ノ宮鳥居立直入用につき) *春日明神山松木6本	覚 (木出し之節地面損料御下げ願) *押紙あり	覚 (木見分御入用金) *か160:1に巻込	〔下之宮玉垣作料他金銭差引勘定書〕	以書付奉願口上 (春日粟田両所の修復入用木に上ノ宮境内山の木下置願) *松5・松1、春日大明神修復・下之宮粟田大明神穀屋井田村徳道院建替	②覚 (春日境内立枯木修復用にお下げ願) *①の別紙にあたる	①奉願口上 (境内立枯木修復用にお下げ願)	春日社木願留控 *内容二件あり↓詳細以下へ
(近世中期以降) 9月12日	(近世中期以降) 9月7日	9月7日	8月	4月	亥10月	亥9月	戌10月	戌9月日	卯ノ2月11日	丑2月	(弘化4年) 未4月	(弘化4年) 未4月	弘化4年4月ヨリ
在方役所	高塚忠大夫、碓亀五郎、日置十兵衛	高塚忠大夫、碓亀五郎、日置十兵衛	大野庄春日社番頭年番黒江村六十人尾崎次左衛門	西名草大野中村春日社別当金剛院	四郎 大野中村名主用左衛門(邪四郎を訂正、畑川村名主権右衛門・佐平次・久右衛門、黒江村名主六郎兵衛)	坂本金太夫、大ノ(律中)中村四郎左衛門、井田村庄や萬四郎	大野中村庄屋又右衛門(印)	□□屋伊兵衛	尾崎氏	大野ノ庄中村大春日大明神別当金剛院、井田村粟田大明神別当徳道院、同支所人同、中村名主惣代新蔵外同3名	同社番頭当番尾崎次左衛門	春日番頭当番尾崎次左衛門	尾崎
黒江村地土尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門		寺社御奉行所		野村治兵衛、杉江武左衛門	岡本幾之丞	春日様御納所	田嶋		寺社御奉行所	海士御代官所	
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状			帳

え-59	え-59	え-59	え-59	え-59	か-155	え-8	え-21	か-201	か-158	え-95	か-122	か-120	え-15	
④〔天守再建用木材松山方役人見分廻につきお達し〕	③〔天守再建用木材松山方役人見分廻りにつき達し〕	②〔寺社奉行中よりのお達し廻状〕	①〔お達し書廻状〕	〔天守再建用木材見分廻につきお達し書写〕 *口六郡在之御留山を初百姓共持林且寺社境内ニ生有之筋為見分↓詳細以下へ	〔久之丞春日社御制木背伐につき代官所より各申渡書〕 *年推定は出口の大庄屋期間	申渡〔春日社境内松木伐取一件につき差紙〕 *明後二日四時御代官所へ、え98日はこの封紙か 申渡〔春日社境内松木伐取一件につき差紙〕 *本品取上吃度向置(本品無之候ハ、積り代銀を以差出候筈)	御調ニ付有躰奉申上候〔春日社境内小木無届心得違根伐の差函仕件につき〕 *申開無之、無調法奉恐入	〔春日山立木背伐一件につき申上書〕 *金剛院がやったことである旨、天保15年か	定〔竹木切り・作事・遷宮につき〕 *内容三件のみ、覚え書きか	〔春日社境内立枯木上ノ宮屋根修復入用に下置再願〕 *か1112・か115と関連か	受取申松楠松之事〔春日社境内山立枯木修復用に下置候につき〕 *立枯木屋根修復入用として願頂戴した旨、走り書き	〔春日社境内立枯木上ノ宮屋根修復入用に下置再願〕 *か1112・か115と関連か	〔春日社境内立枯木上ノ宮屋根修復入用に下置再願〕 *か1112・か115と関連か	〔春日社境内立枯木上ノ宮屋根修復入用に下置再願〕 *か1112・か115と関連か
11月9日	12月2日	12月9日	12月10日	(弘化3年以降)	(弘化3年・嘉永2年の間) 11月26日	11月 (近世後期)	3月晦日	辰8月 (近世後期)	辰8月 (近世後期)			頃か)	9月14日	
伊達藤二郎	伊達藤二郎	下和佐伴右衛門	出口宗四郎		出口宗四郎		下和佐伴右衛門	春日社番頭尾崎久之丞	春日社番頭尾崎久之丞			要左衛門、熊七、権右衛門、佐平次、久右衛門、六郎兵衛	在方役所	
海士御代官中	海士御代官中	出口宗四郎	尾崎次左衛門		尾崎久之丞	西名草大野中村春日社番頭黒江村六十人者尾崎久之丞	尾崎久之丞	吉村七左衛門、高塚清右衛門	吉村七左衛門、高塚清右衛門				尾崎次左衛門	
				状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	

尾崎家 地土(書状)紀州家に関する勤め

え-49	〔桃節祝儀お出札状〕		3月20日	戸田金左衛門清方(花)	尾崎次左衛門	状
う-40	〔御入来お礼と近々当地出発を伝える一札〕 *元何かに貼られていたか		2月13日	水野対馬守	尾崎治左衛門	状

紀州家に関する勤め

う-47	〔三月節句女院様へ御上物の納めを命じる一札〕 *元何かに貼られていたか、御代官所へ御申付中はまくり使今月27・28日御台所へ渡す旨		2月19日	丹羽郷左衛門	尾崎治左衛門	状
え-75	〔明日源六様お成りを知らせる一札〕 *吉宗、其元へ可被為成との御事		3月14日	近藤金次郎	尾崎治左衛門	状
う-44	〔明日長七様御成を知らせる一札〕 *頼職、元何かに貼られていたか、御湯之節其方所へ可被為懸御腰候間		4月6日	久世三右衛門	尾崎駒右衛門	状
う-37	〔明日長七様御成を知らせる一札〕 *元何かに貼られていたか		4月10日	久世三右衛門	尾崎駒右衛門	状
お-65	〔先刻申し達せらる冷水楊梅の儀につき一札〕		卯月14日	長坂小右衛門	尾崎治左衛門	状
う-38	〔冷水の楊梅の盛りを尋ねる書状〕 *元何かに貼られていたか、半田源太左衛門方より申来候間		卯月21日	彦坂八郎右衛門、久野八郎兵衛	中村七郎兵衛、尾崎次左衛門(中村のみ合点)	状
う-54	〔明後日長七様御成を知らせる一札〕 *其方所へ被為懸御腰御膳可被召上との御事		5月朔日	久世三右衛門	尾駒右衛門	状
う-57	〔大殿様左京様有田筋御成につき各代官所へ出頭申し付け状〕 *元何かに貼られていたか、野村新屋(合点)、南紀徳川庄にあり、初代屋と頼純	(寛文8年か)	5月4日	彦坂八郎右衛門	野村七郎兵衛、新居二郎太夫、尾崎次左衛門	状
え-57	〔御膳に上る楊梅納めを命じる一札〕 *毎日小箱二つ宛、御新宅御台所まで差越し宗方佐次右衛門へ渡		5月19日	久野八郎兵衛、彦坂八郎右衛門	野村七郎兵衛、新居次郎太夫、尾崎次左衛門、村井太兵衛、岡村市太夫、寺島孫太郎	状
う-36	〔冷水の楊梅の盛りを尋ね御成の可能性を知らせる一札〕 *元何かに貼られていたか		6月2日	戸田藤左衛門、飯島五郎右衛門	尾崎治左衛門	状
う-42	〔明日殿様広へ御成を知らせる一札〕 *元何かに貼られていたか、由良の広、道筋へも知らせる旨		6月9日	戸田藤左衛門、飯島五郎右衛門	東使孫七、佐渡又兵衛、尾崎次左衛門	状

え-70	け-4	う-19	う-53	お-29	え-63	え-60	え-73	え-72	え-56	う-39	う-43	う-22	う-35
覚 (御台所醬油御用の麦渡し代米請取る旨) *白麦他、高橋与次左衛門・小林安太夫方へ	覚 (五月節句御用の品納めを命じる) *蓬五束、服部与兵衛・立石六左衛門・小林安太夫・高橋与次左衛門方へ	覚 (御台所醬油御用の麦渡し代米請取る旨) *元何かに貼られていたか、上々白を飾、服部与兵衛・立石六左衛門へ	覚 (蓬五束御用お渡しを命じる) *お灸の御用、小林安太夫・服部与兵衛・高橋与次左衛門・立石六左衛門方へ	覚 (御台所醬油御用の麦渡し代米請取る旨) *白麦他、宗方佐次右衛門へ	覚 (五月節句御用の品納めを命じる) *蓬五把、来月二日に高橋与次左衛門・小林安太夫方へ	覚 (御新宅正月飾り御用品納めを命じる) *小松抗他、標題上貼紙「廿二日參候様可被仰付候」とあり	覚 (正月飾り御用の品納めを命じる) *小松抗他、宗方佐次右衛門へ	覚 (正月飾り御用の品納めを命じる) *付箋あり、小松抗他、服部与兵衛・新居次郎太夫・小林安太夫・立石六左衛門へ	覚 (正月飾り御用の品納めを命じる) *小松抗他、新居次郎太夫・服部与兵衛・小林安太夫・立石六左衛門へ	[長七様御用につき明日久世宅へ罷出べき旨差紙] *元何かに貼られていたか、明日八ツ時分	[明日殿様椒村へ御成につき参上を命じる一札] *元何かに貼られていたか、朝七ツに御出船被遊	[し水松茸生育の状況うかがい一札]	[明日新之助様御成を知らせる一札] *吉宗、元何かに貼られていたか、其元へ成為被可与之事
丑ノ5月14日	丑ノ卯月27日 (寛文13年か)	子ノ5月15日 (寛文12年か)	亥ノ卯月28日 (寛文11年か)	戌ノ卯月22日	戌ノ卯月24日	戌ノ極月8日 (寛文10年か)	酉ノ極月7日	酉ノ極月7日	酉ノ極月7日 (寛文9年か)	12月27日	10月13日	9月2日 <small>(寛文)</small>	8月29日
御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	御勘定所(印)	久世三右衛門	岡部太郎兵衛(印)、飯島五郎右衛門(印)	岡部太郎兵衛、飯島五郎右衛門	木村彦左衛門、田中清右衛門
尾崎治左衛門	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	猪谷伝兵衛御代官所	尾崎駒右衛門	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門
状	状(額装)	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状

尾崎家 地土(紀州家に関する勤め)

納払・御蔵米

え-16 -3	え-48 -1	え-16 -1	え-48 -4	え-78	お-26 -6	え-77	え-52	お-26 -5	お-26 -4	お-26 -3	お-26 -2	お-10
西ノ御蔵米払(上村)和田与三右衛門殿西ノ御切米) *七点巻きの3	西ノ御蔵米払(上村)三橋仁兵衛殿西ノ御切米) *五通一括重ね折りの1	西ノ御蔵米払(上村)平瀬安兵衛殿西ノ御切米) *七点巻きの1	覚(当御切米之内押伝法へ預り手形お出しの内奉行所より御断り分渡につき) *五通一括重ね折りの4	覚(米方御役人あて納め状日付違いにつき) *前半に誤日付文の写(印)あり	未之納払勘定通 *全文抹消済、一筆ごとに割印	未之納払勘定通 藤代 *全文抹消済、一筆ごとに割印	未之納払勘定通 *全文抹消済、え177お26と同形だが割印なし	未之納払勘定通 *全文抹消済、一筆ごとに割印	未之納払勘定通 *全文抹消済、一筆ごとに割印	未之納払勘定通(且来村分) *全文抹消済、一筆ごとに割印	未之納払勘定通(松原村分) *全文抹消済、一筆ごとに割印	一米摘方在打廻 米改帳(各屋敷出し知行米・御蔵入米ほか改通しにつき書上げ写) *周辺20ヶ村・各庄屋名あり
西ノ極月	寛文9年霜月	寛文9年霜月	未霜月25日	未11月4日	寛文9年7月	(寛文8年作成か) 未	(寛文8年作成か) 未	寛文8年極月	(寛文8年か)	寛文8年極月	寛文8年極月	未ノ9月吉日 (寛文8年か)
尾崎次左衛門(印)	尾崎治左衛門(印)	尾崎治左衛門(印)	深美六兵衛正次(花)、大野茂右衛門(花)	本渡村庄や助大夫(印)	尾崎次左衛門(印)			尾崎次左衛門(印)		尾崎次左衛門(印)	尾崎次左衛門(印)	尾崎治左衛門
角太夫	角太夫	角太夫	尾崎治左衛門	尾崎次左衛門	冷水村庄や次右衛門			出嶋庄や二郎右衛門		且来村庄や清右衛門	松原村庄や吉兵衛	(内容各々は評定所御仕入方あてになつてゐる)
状	状	状	状	状	横 綴	横 綴	横 綴	横 綴	横 綴	横 綴	横 綴	横 綴

え-16 -5	西ノ御蔵米払 (江南村) 寺崎与右衛門殿西ノ御切米) *七点巻きの5	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	次太夫	状
え-42	〔西納め大豆入用引残無く石高を書付お越しを命じる廻状〕 *差出宛名2つあり、宛名え128と一部重なる(同時期か)	①霜月20日 ②霜月21日	①御扶持方御蔵	①金屋次郎左衛門、太田次郎左衛門、田中七左衛門外9名 ②尾崎治左衛門	状
お-26 -1-2	覚 (向笠新八押米渡しにつき)	(寛文9年か) 西ノ極月6日	岸和田源太夫(印)、津田清兵衛(印)	尾崎次左衛門	状
え-34	覚 (朝食孫八分先借り金済み押米渡しにつき)	西ノ極月25日	岡田甚太夫(印)	尾崎治左衛門	状
え-96 -1	西ノ免付之覚 *三通一括の1、飯村下津浦上村大崎浦塩津浦中村青枝村ほか7村10新田名あり	西ノ10月	上山又右衛門		状
え-96 -2	西ノ免付覚 *横三通一括の2、塩津村大崎村飯村下津浦上村中村ほか7村名あり	西			状
え-96 -3	西ノ免付覚 *三通一括の3、冷水村藤代村鳥居村山田村且来村ほか7村名あり	西			状
お-26 -1-3	-1 西御蔵米払 (橋本村) 京銀押米之内に買納) *八通一繰の1	寛文9年極月24日	尾崎次左衛門(印)	伊左衛門・孫左衛門	状
お-26 -1-3	-2 西御蔵米払 (橋本村) 津村左太右衛門殿御切米) *八通一繰の2	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	孫左衛門	状
お-26 -1-3	-3 西御蔵米払 (橋本村) 小池七郎太夫殿御切米) *八通一繰の3	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	孫左衛門	状
お-26 -1-3	-4 西御蔵米払 (橋本村) 大崎番所竹中五郎兵衛御扶持方米) *八通一繰の4	寛文9年極月	尾崎次左衛門(印)	橋本庄や孫左衛門	状
お-26 -1-3	-5 西御蔵米払 (橋本村) 小池七郎太夫殿御切米) *八通一繰の5	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	孫左衛門	状
お-26 -1-3	-6 西御蔵米払 (橋本村) 毛利久左衛門御切米) *八通一繰の6	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	孫左衛門	状
お-26 -1-3	-7 西御蔵米払 (橋本村) 折禰布施に下され岩屋寺) *八通一繰の7	寛文9年極月	尾崎次左衛門(印)	孫左衛門	状

尾崎家 地土(納払・御蔵米)

尾崎家 地土(納払・御蔵米)

お-26 -1-5	西ノ御蔵米払(江南村(深津喜兵衛御切米))	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	治太夫	状
お-26 -1-4	-12 西御蔵米払(上村 瀧惣右衛門殿御切米) *二通一綴の12	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-11 西ノ御蔵米払(上村(佐野忠右衛門殿御切米)) *二通一綴の11	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-10 西ノ御蔵米払(上村(野中六右衛門預同心御切米)) *二通一綴の10	(寛文9年) 酉ノ極月	尾崎次左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-9 西ノ御蔵米払(上村(石川七右衛門殿御切米)) *二通一綴の9	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-8 西ノ御蔵米払(上村(庄平右衛門殿御切米)) *二通一綴の8	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-7 西ノ御蔵米払(上村(大野茂右衛門殿御切米)) *二通一綴の7	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-6 西ノ御蔵米払(上村(小池七郎太夫殿御切米)) *二通一綴の6	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-5 西ノ御蔵米払(上村(粉川九郎兵衛殿御切米)) *二通一綴の5	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-4 西ノ御蔵米払(上村(佐野清右衛門殿預り同心御切米)) *二通一綴の4	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-3 西ノ御蔵米払(上村(石河七右衛門殿御切米)) *二通一綴の3	寛文9年霜月	尾崎治左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-4	-2 西御蔵米払(上村(御扶持方へ)) *二通一綴の2	(寛文10年か) 戊正月12日	尾崎次左衛門(印)	上村角太夫	状
お-26 -1-4	-1 西御蔵米払(上村(野中六右衛門殿預同心御切米)) *二通一綴の1	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	角太夫	状
お-26 -1-3	-8 西御蔵米払(橋本村(平塚勘兵衛殿預り同心御切米)) *八通一綴の8	寛文9年霜月	尾崎次左衛門(印)	孫左衛門	状

え-86	え-85	え-28	え-67	え-44	う-23	う-59	え-55	お-26 -1-1	え-35	う-11	う-33	え-13 -2
〔有田川普請人足・役人他払い金書上丁はずれ〕 *状態悪、水損・劣化、元はえ-85の一部か、有田川普請奉行時か	〔有田川普請人足・役人他払い金書上帳〕 *状態悪、水損・劣化、有田川普請奉行時か	〔申ノ本斗中勘定目録仕立命じる一札廻状〕	〔新米改方の儀及ばざるにつき一札〕	覚(午巳年貢差引過銀渡し等につき)	〔明日免定出しの為昼頃庄屋年寄越す旨伝える廻状〕 *朝日村以外合点あり	〔当年の免極未済につき一夜帰にお戻り依頼書状〕 *荷かに貼られていた、申渡有(尾崎天野七郎左衛門殿に夜帰早、夜歸場直に郵奉行宛に出合)	〔先年代官所へ貸麦納の旨一札〕	覚(呉服番衆三人京銀済み押米御返しにつき)	覚(呉服番衆老人京銀済み押米御返しにつき)	覚(山本伝左衛門知行当年より御納所につき) *中村・鎌川村内、一先々へ御廻し可有之候以上」とあり	覚(大野中村内より花房弥次右衛門知行所へ出す旨につき) *元何かに貼られていたか、当年より	預り申米之事(京銀借用之方に丑御切米の内押置度につき) *一纏二通の下
(明暦元または万治2年頃か)	(明暦元または万治2年頃か)		12月12日	11月8日	10月22日	10月16日	正月22日	寅ノ霜月	寅ノ霜月	寅ノ8月26日	寅8月12日	丑霜月
		御勘定所	評定所御仕入方	日方浦庄屋元(印)	尾崎次左衛門	飯島五郎右衛門(印)、岡部太郎兵衛(印)	水野平之丞、丹羽郷左衛門	児玉庄左衛門(印)、衣笠久之丞(印)、岸和田源大夫(印)	児玉庄左衛門(印)、衣笠久之丞、岸和田源大夫(印)	御勘定所(印)	御勘定奉行(印)	尾崎次左衛門(印)
		左衛門、水野小三郎外13名)	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	新居次郎大夫、尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門、新居次郎大夫、橋本七兵衛、加納与次大夫(尾崎以外合点)	橋本七兵衛、加納与次大夫、尾崎次左衛門	杉浦十郎大夫
堅三丁	堅	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状

普請関係

え-87	〔有田池川樋普請入用并人足書上げ帳〕 *有田川普請奉行時か 2年頃か (明暦元または万治)			縦
え-99	〔堅帳表紙断簡〕 *〔在田郡在々御普請帳〕の文字、水損・破損、え85、え87のどれかの表紙か	明暦4年正月16日		堅断簡
う-48	〔欠落者の代人足(御扶持人足)お渡し依頼書状〕 *元何かに貼られていたか、貴殿(尾崎)御代官所朝日出島村	5月25日	高岡七兵衛正堅(花)	尾崎次左衛門
う-56	〔且来村源太良病氣にて代人足依頼書状〕 *元何かに貼られていたか、一部破損、貴棟(尾崎)御代官下且来村	10月18日	本庄勘兵衛□成(花)、村島 清兵衛是保(花)	尾崎次左衛門

勤め全般関係

え-64	寛(海士郡代官所御用罷出時に伝馬立る可き証) *伝馬一疋宛、お28参照	寛文8年	戸田藤左衛門(印)、彦坂八郎右衛門、飯島五郎右衛門(印)	(尾崎次左衛門)	状
お-28	寛(海士郡代官所御用罷出時に伝馬立てるべき証) *え64参照、伝馬一疋宛	寛文10年	彦坂八郎右衛門(印)、飯島五郎右衛門(印)	(尾崎次左衛門)	折紙
お-56	六十騎衆組分□□(姓名書上げ) *前半破損	(寛文9年5月23日以降)			状
え-82	高野山出入二付橋本村江御上使被為成候二付地侍被為召候寛書(出陣につき) *県史	(最終日付) 元禄5年8月4日	尾崎治左右衛門		横帳
お-34	〔元禄五年七月高野山騒動出陣一件他書付け帳〕 *元禄5年の騒動が中心、最後に元禄7年2月西ノ丸での能拜見一件	(元禄5年7月) 同7年	(尾崎)		縦帳
お-59	高野山一巻寛帳(山内のことにつき写) *高野騒動後のことなのでこの項に入	元禄5年(元禄6年3月14日写之)			縦帳
う-58	〔殿様頼職〕(逝去につき名草郡山口往還にて勤務を命じる書状) *昨夜御逝去、尤御務之内は御扶持方渡り申替三有之、今一人は橋本村中村喜内太夫相結候	(宝永2年) 9月9日	久村甚之右衛門、久世助八	尾崎治左衛門	状
お-52	〔鉄砲所持許可書〕 *治左衛門死去後鉄砲取上の処治部左衛門頼いに許可の旨、鉄砲10挺	正徳3年3月19日	浅井九左衛門、岸和田伊兵衛	岩橋幾右衛門、夏目金兵衛	状
お-57	六十騎組分姓名録 *丹生家文書た132にこの文書の写あり	(最終加筆明和7年)	尾崎姓		横半帳

尾崎家 地士(普請関係/勤め全般関係)

え-69	う-41	え-58	え-62	う-34	う-21	う-20	お-23	え-74	お-39	え-65	お-55	え-16 -2	お-11
〔役所差紙〕	〔御用につき差紙〕	〔役所差紙〕	〔役所差紙〕	〔冷水御茶屋たたませることを命じる一札〕	〔人留につき差紙〕	〔勢州熊野より参候状御覽のうえ吉原村佐渡又兵衛殿へ遣す旨送状〕	〔瀬戸への湯治願い許可につき一札〕	〔比較山御法事に参詣すべき旨仰せ渡し状〕	覚(尾崎次左衛門あて御用状の送り状)	覚(尾崎次左衛門あて御用状の送り状)	奉願口上覚(正月三日に年頭御礼申し上げ度き旨)	覚(尾崎治左衛門への書状村継ぎの旨) *こより紙付だが一通のみ、七点巻きの2、お-23の村継状か	諸事控書(殿様初御目見えにつき) *内容一件のみ、9月23日、九代治貞へ
*きり方請負人同道二而明四日昼迄二	*元何かに貼られていたか、明日又は明後日	*申談筋二付印形持参、え98+8は封紙か	*申談義有之明日	*元何かに貼られていたか、同心道二不及候間	*う-25と関連か、その後半部分か	*元何かに貼られていたか、有田衆よりお越	*え16+2で村継で来たのか (近世前・中期)						安永7年
9月3日	8月17日	8月4日	7月28日	7月23日 (近世前・中期)	4月30日	4月9日	3月5日 (近世前・中期)	正月25日	西9月25日 午上刻	西9月20日 申ノ下刻	子11月 (近世中期以降)	子3月5日	
御勝手方	御勘定所	御勝手方	御勝手方	大沢善右衛門	御目付中	東使孫七	岩橋幾右衛門(印)、夏目金兵衛	御目付中	岡部太郎兵衛(印)	岡部太郎兵衛(印)	黒江村六十人者尾崎次左衛門(印)	岩橋幾右衛門(印)	尾崎次左衛門
尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	和歌山より海士郡志水組迄 右伝馬次庄屋中	和歌山より海士郡口方村迄 右伝馬次庄屋中	御代官所	湊・井原町・小雑賀・三葛・内原・黒江右村継庄や中	
状	状	状	状	状	状	状	状	折紙	状	状	状	状	帳

お-46	お-62	え-53 -10-2	え-53 -10-1	え-53 -10	え-53 -11	う-24	え-53 -6	お-41	え-61	う-61	え-9	う-49
〔在統隊他任命書〕 *在統隊・第二大隊第一小隊鼓手・日方組鼓手教授兼	〔西洋太鼓求料下され一札〕 *扇子十本代銀一枚	〔第二大隊第二小隊勤を命じる達しにつき一札〕 *第一小隊・第二小隊へ・鼓手教授是迄通り	〔当分加茂組鼓手取立勤務を命じる達しにつき一札〕	【勤務命令書】 ↓ 一紙紙包一通、詳細以下へ *封紙上書「黒江村六十人者久之丞尾崎浅之助殿御用」(四月廿九日松見斧次郎)	〔役人の黒江村城山見分へ出張を命じる一札〕 *封紙に「御用急々」とあり、明日五ツ時	〔尾崎久之丞往来証〕 *「西名草黒江六十人者尾崎久之丞往来」とあり	〔六十人者地士相統申付状〕 *お-41と対か、重複	〔病氣二付六拾人者地士差し免じ一札〕 *え53-6と対か、重複	〔火事の事と納所見廻の件につき書状〕 *表裏に別文書あり、裏はその他伝来の項へ	〔御領分鷹野御供衆扶持方につき取り極め一札〕 *元何かに貼られていたか	〔御殿前ぶたいの件につき書状〕 *猪谷に合点あり	〔且来村迷子村中吟味の結果一札〕 *元何かに貼られていたか、左様之者無之 (近世前・中期)
12月25日	9月	4月29日	3月晦日 (本文2月) (近世後期)	(近世後期)	10月27日 (近世後期)	亥9月より (近世後期)	3月 (近世中期以降)	3月 (近世中期以降)	極月1日	霜月21日 (近世前・中期)	10月2日	9月15日 (近世前・中期)
		松見斧次郎	濱田莫之助、松見斧次郎		片岡又右衛門	評定所(印)			田所平左衛門	水野平之丞(印)、山下藤右衛門(印)、丹羽郷左衛門(印)	鷲巢関左衛門順鉄(花)	戸田藤左衛門、丹羽郷左衛門、水野平之丞
西名草郡黒江村六十人者久之丞伴尾崎浅之助	西名草郡黒江村地士六十人者久之丞伴尾崎浅之助	尾崎浅之助	尾崎浅之助		黒江村地士尾崎久之丞	尾崎久之丞	西名草黒江村六十人者地士次左衛門伴尾崎久之丞	西名草郡黒江村六十人者地士尾崎次左衛門	尾崎治左衛門、尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門、猪谷伝兵衛	尾崎次左衛門
状	状	状	状		状・封紙付	状	状	状	状	状	状	状

尾崎家 地士(勤め全般関係)

尾崎家 地土(他家跡/その他) 尾崎家(中世)

他家跡

え-3	乍恐奉願口上(打越藤左衛門家地土株相統願い) *文化10年不心得品有之地土株相統願い *天保6年神御赦しにつき以前の六十人地土株相統願い	子6月 (天保6年以降)	保田毛右衛門、稲井健次郎、 尾崎次左衛門、原磯三郎	御代官所	状
お-50	乍恐奉願上候口上(地土馬場長右衛門名跡相統につき) *付箋あり、お-9とほぼ同文、重複	天保2年4月	黒江村地土尾崎次左衛門 (印)	御代官所	状
お-9	乍恐奉願上候口上(地土馬場長右衛門名跡相統につき) *重複	天保2年4月	黒江村地土尾崎次左衛門 (印)	御代官所	状

その他

お-33	元禄六年戸田山城守殿御城附二御渡シ候御改服忌令(写)	(元禄6年12月21日)寅6月21日)	(戸田山城守)	(御家中へ被仰渡)	帳
う-55	〔銀子借用願状〕 *摩滅、元何かに貼られていたか、毛見浦之、カラ写真あり	2月	兵衛、左衛門	田所平左衛門、尾崎	状
う-25	〔御新宅所出火のさいの諸士の出勤について定書写(御新宅御定書)の写〕 *う-21と関連するか、もとは一点であったか				状

尾崎家

中世

え-22	〔背腸二十桶送り状〕 *こ-2の写、海南、東大、名草	8月23日	義総	尾張守	状
お-49	〔鱒・塩曳送り状〕 *こ-1の写、海南、東大、名草	12月15日	義総	尾張守	状
う-29	〔久米田寺合戦で弥介をひそすいまにはしめたるはたらき満足の旨書状〕 *去3月5日、海南、東大、名草	(永禄5年) 3月8日	左衛門尉春定(花)	道悦	紙
う-18	〔ひるいなきはたらき褒状〕 *う-32の写	(永禄5年か) 7月12日	湯河左衛門大夫春定(花)	尾崎弥介、同をいそす	紙

尾崎家 尾崎家（中世／家由緒・相統関係）

お-7	系譜	系譜	系譜	代々申伝寛（由緒につき） *（端裏書）「宝暦十年 由緒寛書」（奥張付）「元和年中六十人之頭寛」	譲状事（家訓と譲る文書・刀等の控） *黄色毛糸仮綴	紀州名草郡三上庄大野郷十ヶ村十人之番頭之系図（尾崎家分写） *二丁、重複	お-2	
お-6	系譜	系譜	宝暦10年	延享元年	尾崎久豊		お-4	
お-30	系譜	系譜	（最終日付は安永7年9月）	（最後の日付は嘉永9年頃）	尾崎次左衛門	尾崎次左衛門	お-6	
お-40	〔蒲生郡日野鎌懸村内百五拾石宛行状〕 *長東正家、海南、名草	〔近日上洛の旨書状〕 *三七は織田信孝、海南、東大、名草	〔野上之様体注進肝要他につき書状〕 *元何かに貼られていたか、う-28の写	〔野上之様体注進肝要他につき書状〕 *元何かに貼られていたか、う-27の写	〔あひせうし之儀他につき書状〕 *海南、東大、名草、あひせうしは永正寺	〔あひせうし之儀他につき書状〕 *元何かに貼られていたか、う-27の写	〔ひるいなきはたらき要状〕 *海南、東大、名草	う-32
う-64	〔豊臣秀吉朱印〕	三七信孝（花）	湯河左衛門太輔春定（花）	道悦、弥介	尾崎弥介、同あいそうす	尾崎十郎左衛門	う-45	
う-26	〔天正10年か〕 8月2日	三七信孝（花）	湯河左衛門太輔春定（花）	道悦	尾崎道悦	尾崎道悦	う-28	
う-46	天正18年8月日	（豊臣秀吉朱印）	湯河左衛門太輔春定（花）	道悦、弥介	尾崎道悦	尾崎道悦	う-46	
う-27	9月5日	左衛門尉春定（花）	左衛門尉春定（花）	道悦、弥介	尾崎道悦	尾崎道悦	う-27	
う-45	7月12日 （永禄5年か）	湯河左衛門大夫春定（花）	湯河左衛門大夫春定（花）	道悦、弥介	尾崎道悦	尾崎道悦	う-45	
う-32	折紙	状	折紙	折紙	状	折紙	う-32	

家由緒・相統関係

お-15	〔尾崎久之丞豊親の功績をたたえる申文〕 *久之丞豊親は明治12年4月3日死去、尾崎家で漆器を始めた人	明治12年4月	豊親男尾崎治左衛門	状
お-47	奉再願口上(控)(娘縁組願いにつき) *城山五季宗賢配高野寺領安良村地土西十六太檢妻へ、奉にて願願書と控札下渡の旨付奉り	(明治3年) 庚午9月13日	日方組黒江村地土六十人者 尾崎久之丞	日方組郷役所 状
え-53-6	〔六十人者地土相続申付状〕 *お-41と対か、重複	3月 (近世中期以降)		状
お-41	〔病氣に付六拾人者地土差し免じ一札〕 *え53、6と対か、重複	3月 (近世中期以降)	西名草黒江村六拾人者地土 尾崎次左衛門	状

土地・家経営

え-2	日方村新畑丑之改検地帳写シ *破損□□右衛門分	貞享2年10月	丹羽庄兵衛、村井喜右衛門、 田所長太郎	状
え-83	田屋敷畑新田新畑高帳(尾崎分) 預り申御蔵屋敷下地之事(屋敷地借りにつき) *御蔵建替申候処二屋敷地不足	元禄10年霜月改 (元禄12・14年加筆)	尾崎治左(右衛門)(元禄10) 尾崎新八(右衛門)(元禄10) 伝太夫(同前)御蔵定人村 世助八(同前)亦見新八久	尾崎治左 状
え-36	西名草郡黒江村新田畑地詰検地帳写(馬場長右衛門分) *上部破損あり	宝永元年8月	同村肝煎弥七郎(印)	尾崎治左 状
え-80	本田畑并新田畑名寄帳写シ 尾崎治左衛門分	宝永2年8月	御勘定人 島吉太夫・久村 甚之右衛門・久世助八	西名草郡黒江村庄や肝煎百 姓中 状
え-84	譲り証文之事(島譲り) *城山の畑	享保2年8月	本人 黒江村長右衛門後家 (印) 黒江村庄内兵衛清左衛門家 (印) 黒江村庄内方四郎(印) 肝煎長兵衛(印) 日方浦庄や太郎兵衛(印)	尾崎治左衛門 状
え-32	譲り証文之事(畑譲り) *城山の畑	享保18年7月	本人 日方浦助九郎、証人兵 七、五人組助五郎、日方浦 庄屋惣右衛門・肝煎善四郎	尾崎治左衛門 状
お-53	田畑新島名寄帳之写 *書紙に「享保十五年功而寄帳出来ル 享保年徳正徳六丙申年三月二村名寄帳写シ也」とあり	享保19年5月改・ 延享2年8月改	尾崎治左衛門	帳 堅
え-31	一札之事(屋敷端辻地蔵堂に借受けにつき)	天明2年7月日	借り主 中屋惣右衛門、大和 屋新吉、木地屋太郎、証人 糸我や甚左衛門、小川や伝 右衛門(全印)	尾崎治左衛門 状

尾崎家 尾崎家(家由緒・相続関係)土地・家経営)

尾崎家 尾崎家(土地・家経営)

え-18	お-17-4	お-17-1	お-17-5	お-17-6	お-17-3	お-17-2	お-17	え-17	え-45	え-41	え-30	き-53	え-100
田畑税証書一札之事(小作地につき)	地券 *黒江村字城山、山8畝27歩	地券 *黒江村字尾山、山2畝18歩	地券 *船尾浦字居村、宅地1畝12歩	地券 *黒江村字南ノ町、宅地1段5畝1歩	地券 *黒江村字南ノ町、宅地4畝15歩	地券 *黒江村字南ノ町、宅地3畝3歩	【尾崎家持ち地地券一括】↓詳細以下へ *6点重ね巻き	覚(城山見取畑境目につき) *黒江日方戸長立会之上	一札之事(屋敷地入込出入済につき) *台銀三〇〇目	一札之事(屋敷地入込出入済につき) *え-45に関連あり	一札之事(辻地蔵屋敷永代借受けにつき)	〔新畑御証文地の旨下紙の覚〕 *延宝9年の黒江池崎新畑につき	〔新畑御証文地の旨下紙の覚〕
明治13年6月	明治18年2月28日	明治18年2月28日	明治17年6月15日	明治10年7月1日	明治10年7月1日	明治10年7月1日		明治6年6月7日	天保15年7月	天保15年7月	文政3年6月8日	(文政2年2月以降)	(文政2年2月以降)
作人青木藤七・請人辻紋八	和歌山県(印)	和歌山県(印)	和歌山県(印)、主事 和歌山県収税局吉田政之丞(印)	和歌山県(印)	和歌山県(印)	和歌山県(印)		尾崎久之丞親秀、(此時村庄屋保田栄太郎)	尾崎治左衛門・同苗久之丞	雑賀栄十郎(印)	富士屋林助(印)、かどや大吉(印)、木地屋喜市(印)、はしかや庄助(印)、八わた屋吉蔵(印)		
同区内黒江村尾崎治左衛門									雑賀栄十郎	尾崎治左衛門・同苗久之丞	尾崎次左衛門		
状	状	状	状	状	状	状		状	状	状	状	状	状

お-63	建物売渡証文之事 *付略図、奥に戸長田口辨助が承知の旨書き押印、戸長役場印あり	明治14年1月16日	名草郡舟尾浦売主釜中六兵衛印、南隣谷口寅吉印、北隣坂口嘉右衛門印	同郡黒江村尾崎次左衛門	状
お-62	土地売渡証書(畑) *専用用紙、黒江村宇室山西池尻	明治17年10月21日	黒江村売渡人日野由兵衛印、証人丸尾清蔵印、(奥書印)黒江村外一ノ村戸長代理筆生松下勝太郎印	同村尾崎治左衛門	状
お-61	連名簿(共有地売渡しにつき) *中は野紙、山林	明治24年5月26日	日方村須佐神社講中松本幸助外14名、買主黒江村大字黒江尾崎治左衛門(全印)	黒江村大字黒江尾崎治左衛門	帳
お-64	地所売渡証書 *山林、最終頁登記済(和歌山区裁判所黒江出張所)印あり	明治24年5月26日	日方村須佐神社講中松本幸助外14名、代書日方村中谷友吉(全印)	黒江村大字黒江尾崎治左衛門	帳
お-67	証(植木屋借地差入書) *昭和39年1月1日、向40年12月31日まで、日方神田の宅地内約15坪	昭和39年1月1日	海南市日方井松原宮田徳松印	尾崎秀夫、外御一同	簿

金銭出入

え-38	一札之事(借用銀宛て所持えにつき) *私持庵宛所に其元銀子を丸井三太夫殿へ借用致したが	享保11年4月	小島次郎右衛門殿庄や井田村甚九郎印、同証人甚六印	尾崎治左衛門	状
お-25	受領証(仮証) *「関東学院大学」用箋	昭和38年3月9日	関東学院大学事務長池田満印	尾崎喜信	封入用紙

寄付・褒状

お-66	覚(御用金請取りにつき) *金一両	戊辰12月	勝田七郎右衛門印	海士郡日方組黒江村尾崎次左衛門	状
お-51	〔去る戌年御用金差上げ奇特につき褒状〕	3月 (近世中期以降)		黒江村六拾人者尾崎次左衛門	状
お-43	〔窮民救い褒状〕	8月 (近世中期以降)		西名草日方組黒江村尾崎次左衛門	状
お-18	〔従軍者家族扶助のため寄付奇特につき木杯下賜状〕 *明治37・38年戦役の際に金15円寄附	明治39年4月2日	和歌山県知事従三位伯爵清樓家教印	黒江町尾崎治左衛門	状

尾崎家 尾崎家(土地・家経営)金銭出入/寄付・褒状

尾崎家 尾崎家（屋敷）／信仰と先祖供養（悲田院・久豊寺除く）

屋敷

お-1	お-13	お-12	お-48	え-79	お-8
〔屋敷図面〕 *57・3cm×75cm、①平面図薄紙、②大附築及び小屋組伏図薄紙、③側面図・正面図薄紙	尾崎本家建築記録 *中身は罫紙、加筆あり、お12とはほぼ同内容	尾崎本家建築記録 *中身は罫紙、加筆あり、フォクシングあり	家由緒書（次左衛門黒江屋敷につき）	〔尾崎家持ち地絵図〕 *彩色、最大87・2cm×150・6cm	〔屋敷図面〕 *最大106・5cm×79・2cm、現在の屋敷地
（近代）	昭和9年（秋10月）	昭和9年	（安永7年9月23日以降）	寛延3年	元文4年5月建之
	尾崎秀夫	尾崎秀夫			尾崎久豊
図面三点	堅帳	堅帳	状	絵図	図面

信仰と先祖供養（悲田院・久豊寺関係除く）

き-29	き-30	う-13	き-15	き-26	き-27
〔破壊の自庵大喜寺取建願〕 *複製書「寛文十二年本御改御願二村大喜寺」□□□□日方村尾崎治左衛門子十吉	添手形之事（大喜寺の号は譲らぬ事） *在馬居村附田畑売の節	当山末寺手形之事（洞照庵は古来より当山末寺である旨） *尾崎持庵	覚（供養寄付金請取りにつき） *銀合老貫目也、実鏡常真信士日牌料他	〔了法寺へ永代灯明寄附の写〕 *施主 馬場長右衛門後室妙蓮、実鏡常真信士・真鏡妙蓮信尼	覚（真鏡妙蓮信尼日牌料受納につき） *銀合二〇目
（寛文12年） 子ノ11月	貞享4年5月	元禄3年10月13日	享保12年7月	享保12年7月	享保12年12月
日方村尾崎治左衛門（印）	日方村尾崎駒右衛門	紀州由良 奥国寺執事（印）	坂田了法寺現住亮慧（印）	坂田了法寺現住亮慧（印）	坂田了法寺現住亮慧（印）
寺社御奉行所	神田村青木泉教坊	中村洞照庵	馬場長右衛門殿後室妙蓮尼		尾崎治左衛門
状	状	状	状	状	状

尾崎家 尾崎家（信仰と先祖供養／古文書調査／その他）

か-204	〔兩社石灯籠銘写〕 *「寛永二十年五月奉造立尾崎十三郎家 文化十年西九月奉造立尾崎次左衛門兼久」、重複 *「奉寄進柱石居石世二 明和元年 尾崎道悦久豊〔花〕」、重複	春日社敷石彫附有之写	状
か-86	〔金剛寿命陀羅尼他陀羅尼真言写〕		状
き-77	〔所蔵古文書書上げ〕		状
き-9	〔展示品名書〕 *刀出品時か、時代応永約五百年前 山城信國 尾崎氏藏		状

古文書調査

え-91	〔風土記調御用差出しの軸巻本返却状〕		〔近世〕 7月20日			状
お-19	〔大蔵大書記・雇外人キヨソネ巡回につき古文書等宝物差出し 依頼書〕 *一点は「和歌山県名草海部郡役所」用箋、一点は印刷物「物品差出願書」		明治12年6月6日	名草海部郡長平田綱一郎	名草郡黒江村戸長役場	綴2点
え-93	〔所蔵古文書書上げ〕		〔近代〕			状
き-33	〔古文書持参依頼書〕		〔近代〕	〔役場〕		紙
お-14	〔現在の古文書調査等関係書類一括〕 *マイクログラフ、古文書調査者の名刺や目録複写など		〔現在〕			一括

その他

け-7	神道兵法九字大事		寛永16年9月3日	権律師宣雄	十三郎	状
け-6	〔日丸指物由来他につき覚〕		戊5月			状

尾崎家 尾崎家(その他)

き-90	お-22	え-97-4	え-97-3	え-97-2	え-97-1	き-14	お-58	え-25	お-60	う-62	え-51-1	え-90	え-94
喜久寿会南の浜会員証発行控 *44人分の名前と「尾崎受持」の書付あり、インク書、既製の商売用横書きカードに縦書	〔和歌色紙〕 *「和歌のうらや 老木の松 にふる雷の つもれるとしも 今そかひある」	〔墨蹟〕 *少年易老、四点一巻きの4	〔墨蹟〕 *四点一巻きの3	〔墨蹟〕 *四点一巻きの2、元は何かに貼られていたか	〔和歌墨蹟〕 *四点一巻きの1、元は何かに貼られていたか	地藏尊縁起 *後土御門院御宇の作俗に盜難よけの地藏尊、現屋敷外地蔵か	禁裏年中行事(写本) *習字手本か	菅原由来記 *裏表紙書付「紀州海士郡和歌山」	〔名草郡内地誌写し〕 *表紙白紙、最後に「道慶へ渡書立之留帳之写」とあり	〔島原の乱につき書きつけ・松平伊豆守書状など写〕 *裏打、2月22日の松平伊豆守書状写(島原乱関係)あり、東大	紀州大野郷領主守護代々・島山殿代々(名前寛書) *巻き込み文書一点→え51-2へ、海南、東大	謹考金性韻鏡婦納例(名前文字占い) *破損・朱筆あり、「秀營」	謹考韻鏡婦字之例(名前文字占い) *朱筆あり、「秀縁」
(昭和) 41年5月29日								明和6年初夏写之	寛永19年5月13日		(文政9年6月写)		安永3年孟夏吉日
		(印)(印)	(印)(印)	點、(印)(印)				奥州栗原郡仙台			田島丹右衛門	 (印)	三倉鎮雄(印)
											尾崎次左衛門		
カード編	色紙	状	状(縦長)	状(縦長)	状(二分離)	状	堅帳	堅写本	堅帳	状四枚	状	状	状

尾崎家 悲田院 久豊寺(近世)

悲田院

う-5	〔年状への礼状〕	正月28日	細川越中守宣紀(花)	宏天長老	折紙
う-2	〔年状への礼状〕	正月25日	永井播磨守直亮(花)	宏天和尙	状
う-10	〔年状への礼状〕	正月22日	永井飛騨守直期(花)	宏天長老	折紙
う-1	〔加増拝領祝詞礼状〕	3月28日	大久保長門守教重(花)	泉涌寺	折紙
き-75	〔悔状への礼状〕 *美濃判、細川越中守死去時	12月13日 (正徳4年か)	細川主税頭宣紀(花)	悲田院	折紙
き-8	〔年始御嘉詞へお礼書状〕	2月3日	永井飛騨守直政(花)	悲田院	折紙
き-74	〔年賀祝詞礼状〕	正月22日	立川六郎兵衛度賢(花)、沢田右門好圃(花)	院 宏天長老、大倫長老、悲田	折紙
き-34	〔飛騨守への寒中見舞いお礼書状〕	正月15日	立川六郎兵衛度賢(花)、沢田右門好圃(花)	宏天長老、悲田院	折紙
お-38	〔悲田院称号披露日時の上京を強く願う書状〕 *尾崎子、權家永井飛騨守殿より祝儀之使者給候(高規藩六代通期)享保2年12月21日(飛騨守か)	2月11日	悲田院見隆(台通(花))	尾崎治左衛門	状
お-44	〔弟松之丞泉涌寺中悲田院弟子へ出家願い許可状〕	8月13日	岩橋幾右衛門、夏目金兵衛	尾崎治左衛門	状

久豊寺

近世

き-31	久豊寺建立次第 *元文元年10月(宝暦13年までの事、き-1と内容同じ)				状
------	---	--	--	--	---

き-24	き-16	き-11	き-10	え-43	け-5	き-6	き-3	き-66	き-56	き-56	き-56	き-56	き-28
(久豊寺跋山へ寄附一件につき跋山願書并口上書写し)(尾崎治左衛門と跋山の言い分違ひお尋ねのため) *付箋あり、跋山の口上書写、以下詳細へ	(久豊寺建立当山末寺に属され候段につき一札) *き-11の写	(久豊寺建立当山末寺に属され候段につき一札) *禪宗に成し跋山和尚を開山に請度	(久豊寺建立当山末寺に属され候段につき一札) *き-11の写、禪宗に成し跋山和尚を開山に請度	覚(寿像代金差引勘定書) *金六兩老歩	御註文(御寿像老体につき) *変色、老尺六寸・下地木作り・上々水晶玉眼入	至聖山校割牒(什物簿) *中に「視雲齋始祖改写」とあり	久豊寺江田畑寄附証文之事	掟之覚(久豊寺支配に関し)	③覚(久豊寺開基につき)	②掟之覚(久豊寺支配に関し)	①覚(掟書認置事につき) *提書二通認め寺と拙宅に置く、住持替時に掟と田畑証文相改めの答	延享二丑年二月和尚江渡ス写シ 十二年九月八日和尚へ渡ス写シ ↓以下詳細 *和尚とは跋山、内容三件	一札之事(妙智庵観音堂譲り渡しにつき) *小倉庄金谷村にあり 元文元年10月 延享二丑年二月和尚江渡ス写シ 十二年九月八日和尚へ渡ス写シ ↓以下詳細 *和尚とは跋山、内容三件 宝暦十二年9月8日
(宝暦10年辰)・7月23日	宝暦9年7月	宝暦9年7月	宝暦9年7月	(異筆)「宝暦5年」 亥霜月12日	宝暦5年8月29日	延享4年2月吉祥日 (改)	延享2年3月	延享2年2月	宝暦12年9月	延享2年2月	延享2年2月	延享2年2月 宝暦12年9月8日	元文元年10月
真鍋五郎右衛門	陽松庵龍水	撰州豊島郡吉田陽松庵龍水(印)	撰州豊島郡吉田陽松庵龍水	京富小路通二条下ル町大仏 工法橋友学	京富小路通二条下ル町仏 工法橋友学(印)	久豊禪寺	本人尾崎治左衛門、証人神田村庄屋仙助、日方浦庄屋窓右衛門、同肝煎佐左衛門	尾崎次左衛門(奥請書)久豊寺開山跋山	尾崎次左衛門久豊	尾崎次左衛門(奥請書)久豊寺開山跋山	尾崎次左衛門	黒江村六十人者尾崎次左衛門	讓主金谷楠之進(印)、証人速水半右衛門(印)
浅井清太夫、夏目次郎兵衛	紀州西名草郡黒江尾崎次左衛門	紀州西名草郡黒江尾崎次左衛門	紀州西名草郡黒江尾崎次左衛門	尾崎治左衛門	紀州黒江尾崎治左衛門	神田村久豊寺		久豊寺開山跋山老大和尚禪師		跋山大和尚			尾崎治左衛門
状	状	状	状	状	状(額装)	懸	懸	状				懸	状

尾崎家 久豊寺(近世)

き-72	き-72	き-72	き-72	き-72	き-72	き-72	き-72	き-72	き-43	え-88	き-42	き-24	き-24
(写し8) 送り一札之事(治左衛門一家当寺旦那へ送りにつき)	(写し7) 「忌中見舞進上につき」	(写し6) 「葬式遣僧と寺内鳴物禁につき」	(写し5) 尾崎治左衛門殿江返答左之通り(墓所のみ承知の旨)	(写し4) 了法寺より別紙左之通(道悦葬式墓所につき)	(写し3) 「道悦葬式動願状」	(写し2) 「尾崎道悦死去時一件につき」	(写し1) 寺送り一札之事(尾崎道悦家旦那替につき)	答書(尾崎治左衛門久豊寺を持庵と申出の趣御答申上候口上寛) *写しあり↓内容詳細以下	奉願上口上(年貢の為差上銀利米の件につき久豊寺跋山より証文取り戻し願につき写)	祠堂田島諸控	久豊寺之儀御尋二付申上口上(治左衛門言い分に対し返答) *尾崎治左衛門像之事・次左衛門提書之事・法系譲と申立候事・田畑之事につき	(跋山口上写②) 口上(双方願相違対談の上)	(跋山口上写①) 奉願口上寛(久豊寺讓請度旨)
享和3年正月	3月10日	七ツ時・3月5日 3月5日	3月5日	3月4日	3月5日	九ツ時・3月4日 3月3日夜	明和3年3月		(明和3年)戊9月	(天和2年)仲春吉日 (天保10年)頃迄	(宝暦14年)申3月	宝暦10年6月	宝暦10年6月
了法寺	久鳳寺	久鳳寺納所	久鳳寺納所	了法寺	尾崎治左衛門		神田村久豊寺	恵運寺(印)	尾崎道悦、同倅次左衛門	神田浦久豊寺治左衛門預り	神田村久豊寺(印)	高松寺先住跋山	高松寺先住跋山
久豊寺御知事	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	尾崎治左衛門	久豊寺御納所		坂田村了法寺御知事	寺社御奉行所	郡御奉行所		寺社御奉行所	寺社御役所	寺社御奉行所
								懸帳	状	横帳	状		

き-44-1	⑦奉申上口上覚(久豊寺所持田地売却一件調につき) この前に尾崎の言分書付あり	天保13年2月	神田浦兼帯日方庄や藤三郎	岡本幾之丞	
き-44-1	⑥以書附奉願上候(修復のため寺境内にて軽業興行願)	天保7年9月4日	神田村久豊寺雲涯、檀中黒江村六十人者尾崎次左衛門	寺社御奉行所	
き-44-1	⑤乍恐奉願上候(修復のため寺境内にて軽業興行願)	天保7年7月	門黒江村六十人者尾崎次左衛門	水野様 佐藤六左衛門	
き-44-1	④以書付奉願上候(寺境内にて軽業興行中直お届けの願)	(天保7年) 申7月24日	久豊寺雲涯、尾崎次左衛門	寺社御奉行所	
き-44-1	③乍恐以書附奉願上候(寺境内にて軽業興行へ役人お廻り願)	(天保7年) 申7月22日	神田村久豊寺雲涯、尾崎次左衛門	寺社御奉行所	
き-44-1	②乍恐奉願上候(修復のため寺境内にて軽業興行願)	(天保7年) 申5月	門黒江村六十人者尾崎次左衛門	水野様 佐藤六左衛門	
き-44-1	①乍恐以書附奉願上候(修復のため寺境内にて軽業興行願)	天保7年4月	神田村久豊寺雲涯、且中黒江村六十人者尾崎次左衛門	寺社御奉行所	
き-44-1	久豊寺諸願之控(興行・所持地売り払い他につき) *二冊一綴の上、内容九件あり↓詳細以下へ	天保4年5月より	(久豊寺)		堅帳
き-37	久豊寺什物改帳	文政4年8月(交代)	(久豊寺)七世代		堅帳
き-21	祠堂銀請状之事(梅嶺院日供料として) *文銀百目	文化11年5月	久豊寺(印)現住古範(花)	本人尾崎次左衛門、証人川上屋文助	状
き-60	乍恐一ツ書を以尾崎次左衛門より願出候件之訳柄奉申上候覚(久豊寺持庵出入り一件につき) *き55の案か		(久豊寺)		状
き-55	(添)一札之事写(旦那掃壇にあたり) *き55に添文書	享和3年3月	尾崎次左衛門	久豊寺知事	
き-55	乍恐一ツ書を以尾崎次左衛門より願出候件々之訳柄奉申上候覚(久豊寺持庵出入り一件につき) *後ろに別文書写し添付		(久豊寺)		堅綴
き-72	(写し9)一札之事(治左衛門掃壇にあたり)	亥3月	尾崎治左衛門	久豊寺御知事	

尾崎家 久豊寺（近世）

き-5	久豊寺より願出之写 同時答書差出之案文添（久豊寺所持出入りにつき）	弘化4年（11月）	（尾崎）		堅 綴
き-4	久豊寺之儀ニ付惠運寺より願出候控（久豊寺が治左衛門持庵かどつかの出入り一件につき） *当時惠運寺は久豊寺兼帯、前半き74と同	弘化4年8月	（尾崎）		堅 綴
き-1	久豊寺建立之次第書 *写者は岩橋大守	弘化4年2月上旬写 （元文元（宝曆13））	尾崎次左衛門		堅 帳
き-46	③乍恐内存奉願上口上（寄附田地勝手売渡につき取戻し願 い）	弘化3年10月		寺社御奉所	
き-46	②乍恐内存奉願上口上（寺附金惠運寺より引き上げ役所預 置願） *百河	（弘化3年）午10月		寺社御奉行所	
き-46	①乍恐奉願上口上（後住につき） *先住雲涯は去る卯五月追放、後住龍藏院も帰り今また無住	（弘化3年）午5月			堅 帳
き-46	久豊寺願書控 *↓詳細以下へ	弘化3年5月			堅 帳
き-20	乍恐御答奉申上候（久豊寺持庵出入一件につき） *開山以来のことにつき書付あり	（天保13年か）寅5月	尾崎次左衛門（印）	勝田七郎右衛門	状
き-76	内存奉願口上（久豊寺雲涯勝手田地売り払いにつき取り戻し仰 せ付願）	（天保12年か）丑12月	尾崎次左衛門（印）	御代官所	状
き-44-2	②乍恐奉願口上（久豊寺本寺替り一件お調べ願）	天保13年2月	尾崎次左衛門	御代官所	
き-44-2	①内存奉願口上（売田地取り戻し仰せ付願）	天保12年12月	尾崎次左衛門	御代官所	
き-44-2	久豊寺一件願書控（雲涯勝手一件につき） *二冊一綴の下、内容二件あり↓詳細以下へ	（天保12年・13年）	（久豊寺）		堅 帳
き-44-1	⑨乍恐御答奉願上候（雲涯寄附田地勝手売払い・隠居願 不加判一件につき）	天保13年2月	尾崎次左衛門	御代官所	
き-44-1	⑧奉願上口上覚（隠居願控）	天保12年	神田村久豊寺雲涯、（奥書） 惠運寺（兼帯）庄屋藤三郎	寺社御奉行所 岡本幾之丞	

き-22	〔封紙〕 *中身なし、(封紙上書)「祠堂証文」 久豊寺		久豊寺	封紙
き-57	乍恐御答申上口上(久豊寺下作米持帰りの出入り一件につき) *〔端裏書〕「家文」、対恵運寺	未12月	黒江村六十人尾崎次左衛門	状

明治期

き-70	議定書(日方浦池之谷大龍精舎仏像・宝塔等を久豊寺へ合鉢の旨) *藤田姓開基が大破につき	(明治4年)		竪二丁
お-37	〔差出し・あて名書き写〕 *き70の後半か、日付と差出し宛名のみ	明治4年8月	神田浦久豊寺且中尾崎久之丞	竪一丁
き-23	祠堂銭請状之事(至聖院日供料として)	明治7年6月	神田浦久豊寺(印) 当住泰正(花)	紙
き-2	久豊寺什物簿 *中は野紙	明治10年6月 (20日改)	本寺恵運寺(印)、檀家尾崎氏(印) 立合	帳
お-16	〔久豊寺持ち地地券一括〕↓詳細以下へ *重ね巻き11点			
お-16-1	地券 *日方浦字深原、耕地2畝13歩	明治10年7月1日	和歌山県(印)	状
お-16-2	地券 *日方浦字深原、耕地3畝21歩	明治10年7月1日	和歌山県(印)	状
お-16-3	地券 *日方浦字深原、耕地7畝8歩	明治10年7月1日	和歌山県(印)	状
お-16-4	地券 *日方浦字深原、宅地5畝5歩	明治10年7月1日	和歌山県(印)	状
お-16-5	地券 *日方浦字深原、耕地1段3畝15歩	明治10年7月1日	和歌山県(印)	状
お-16-6	地券 *日方浦字深原、耕地2畝29歩	明治10年7月1日	和歌山県(印)	状

尾崎家 久豊寺(近世/明治期)

き-58	き-32	き-17	き-18	き-12	き-69	き-52	き-48	き-13	お-16 -11	お-16 -10	お-16 -9	お-16 -8	お-16 -7
記（区村入費納め依頼）	〔久豊寺租税収納書・同依頼書一括〕	証（金銭請取りにつき）	証（大教院半納分請取りにつき）	証（久豊寺よりの中教院用途金十年分請取りにつき）	記（中教院への納金依頼）	証（大教院資本金へ納につき）	久豊寺諸入用控	久豊寺明治十年丑一月分地税入費下作取上差引控	地券	地券	地券	地券	地券
*き-32と同類	*一括二点							*二丁	*日方浦字深原、耕地4畝28歩	*日方浦字深原、耕地2畝24歩	*日方浦字深原、耕地2畝18歩	*日方浦字深原、耕地2畝15歩	*日方浦字深原、耕地1畝28歩
明治11年7月	明治11年～同13年	（明治）3月7日	（明治）11年6月7日	（明治）11年2月22日 日（12日か）	明治10年	明治10年9月2日	明治10年7月 （～同13年3月分）	明治10年7月より11年5月迄勘定	明治10年7月1日	明治10年7月1日	明治10年7月1日	明治10年7月1日	明治10年7月1日
区）会議所（印）第一大区九小	（第一大区九小区）会議所（印）日方浦戸長役場（印）	中教院出納課（印）	中教院出納課（印）	中教院出納課（印）	中教院（印）	中教院出納課（印）	尾崎治左衛門	久豊寺	和歌山県（印）	和歌山県（印）	和歌山県（印）	和歌山県（印）	和歌山県（印）
久鳳寺	久豊寺、久鳳寺	久豊寺	久豊寺周旋方中	恵運寺	久豊寺（分）	久豊寺世話人衆中							
状	状	状	状	状	状	状	横	横	横	横	横	横	横

き-45-2	記(本堂・庫裡他売却金書上げ)	(明治23年以前か)			下紙
き-45-1	売渡地(元久豊寺所合地合寺恵運寺所有地につき)	(明治23年以前か)			上紙
き-41	御請(久豊寺恵運寺へ合併につき) *堂宇破壊修繕の法無につき、抹消あり	(明治23年以前か)			状
き-36	〔建物畳代他恵運寺羅漢寺渡に関する金銭書上げ覚〕	(明治)(内容に20年3月3日の記述あり)	右立合 長沢湛麟・山本益嶺・尾崎治左衛門		一丁横
き-47	買請証(久豊寺買い請けにつき) *金五一円にて	明治19年7月5日	日方浦亀井幸助(印)、三葛村森田虎吉(印)	羅漢寺住職長沢湛麟	状
き-64	日鑑 久豊寺件々在中(合併につき) *反故野紙裏面	明治18年12月	(中島文吾か)		縦
き-63	〔久豊寺合併出願をねがう書状〕 *とても相談難しいので	(明治) 12月20日	陽松□□(印)	久豊鑑寺羅漢尊堂老宗	状
き-39	〔久豊寺合併につきうかがい書下書き〕 *久豊寺荒廃で当寺と合併しようと調べたら貴寺末であった	明治18年12月18日	金□□鑑寺羅漢寺保職長 沢湛麟	陽松庵	紙
き-19	日記(久豊寺堂宇売却につき) *日付は内容より	(明治18年7月5日以降)	青木店	中野治兵衛	状
き-35	記(不納分皆納につき)	(明治) 17年2月7日	支局出納課(印)和歌山県 曹洞宗務支局出納課)	久豊寺檀中尾崎治左子門	状
き-97	〔曹洞末寺任命書(又は血脈書)〕 *原本見当たらず	明治14年7月8日	見住環溪(花)、道元(花)、懷奘(花)	久豊寺道光和尚	コピー
き-49	記(久豊寺分取替金書上げ) *き51参照	(明治) 13年7月7日改	中教院出納課(印)	山本鈴嶺	状
き-68	記(地価掛り協議費・凶荒予備費納め依頼) *き32と同類	明治13年2月日	日方浦戸長役場(印)	久豊寺	状
き-59	記(地価割税納め依頼) *き32と同類	明治12年6月	日方浦戸長役場(印)	久豊寺	状

き-78	〔久豊寺入仏式へへの参詣を伝える手紙〕 祭文（久豊寺再建にあたり）	昭和38年5月12日	至聖山久豊寺代表尾崎秀夫		状・封紙付
き-91	〔久豊寺入仏式参列の件につき手紙〕	昭和38年5月8日	川西貞一	尾崎秀夫	封筒入
き-96	〔久豊寺入仏式参列の件につき手紙〕	日（昭和38年）5月6日	尾崎シツ	尾崎秀夫（叔父）	封筒入
き-94	〔稚児行列参加案内〕	（昭和38年）			状
き-93	〔久豊寺入仏式案内〕	（昭和38年）5月3日	海南市黒江尾崎秀夫		状
き-71	訴状（久豊寺所有権確認及び所有権保存登記抹消登記手続申請） 求事件につき写し） *酸性紙少劣化、株式会社尾崎商店用箋、	昭和33年9月日	原告 恵運寺 代表役員 西山 頼了	和歌山地方裁判所御中	紙・封紙 縦
き-51	〔久豊寺取替分につき過不足計算報告依頼〕 *前に別紙等（久豊寺取替分につき報告依頼 明治19年7月取 恵運寺）尾崎治左衛門（幸44巻順）	（明治）			状
き-38	記（河本山入費内へ金銭納につき）	（近代）8月21日 ^頃	徳蔵寺住職 山本隆道	尾崎	状
お-20	売渡証書（田畑山林につき） *最後に「和歌山区裁判所黒江出張所」の登記済み未印、元は久豊寺持地	明治37年11月9日	日方町久豊寺兼務和歌山市 寺町恵運寺住職 売主 山本文 嶺（印）	黒江町大字黒江 買主 尾崎 治左衛門	縦
き-54	〔袋〕 *（袋上書）「名草郡日方村久豊寺へ同郡黒江村尾崎治左衛門ヨリ地所寄附 二箇し書類三冊及ヒ式通廿四年四月廿七日山本滴太郎氏ヨリ預ル」		第三課 戸籍係 社寺部		袋
き-61-2	預り証（久豊寺堂宇売却金預りにつき） *算紙重ね折り三枚の内内側一枚一通	明治24年8月日	尾崎治左衛門	久豊寺合併恵運寺執事	野
き-61-1	〔久豊寺を本寺恵運寺へ合併・地所売却金等保管につき手続書控〕 *算紙重ね折り三枚の内内側一枚一通	明治24年7月9日	名草郡黒江村大字黒江尾崎 治左衛門		紙 算紙二枚
き-50	久豊寺田畑売払立二付入費左記ス	明治23年（第3月10日）11月9日			横

昭和再建

き-92-3	き-92-2	き-92-1	き-92	き-89	き-88	き-87	き-86	き-85	き-84	き-82	き-81	き-80	き-79
行列の順除	〔道路略図〕	道路使用許可申請書 控 *昭和38年5月12日午後2時～午後3時	【久豊寺入仏式につき道路使用許可申請書類】 *六点一緩、↓詳細以下へ	役割（久豊寺入仏式につき）	至聖山久豊寺入仏式招待者人名録并二御供物控	〔入仏式挨拶文〕	入仏式稚児行列人員 *合計60人	祭文（久豊寺再建にあたり）	行列順除・入堂行事順除	祝表上（祝賀金目録）	上（祝賀金目録）	祝辞（久豊寺再建にあたり）	慶讃文（久豊寺再建にあたり）
（昭和38年）	（昭和38年）	（昭和38年）	（昭和38年）	（昭和38年5月12日）	昭和38年5月12日	（昭和38年5月12日）	昭和38年5月12日	昭和38年5月12日	昭和38年5月12日	（昭和38年5月12日）	（昭和38年5月12日）	昭和38年5月12日	昭和38年5月12日
		申請者 海南市黒江 尾崎秀夫（印）						至聖山久豊寺代表尾崎秀夫	至聖山久豊寺	高松寺・窓菅寺・元亨寺・法泉寺・久昌寺・林泉寺	羅漢寺	忽知三宝照鑑高松寺任職岡本隆法	天童代表
		警察署長										久豊寺代表尾崎尊公	
状	状	専用紙		横帳	横半帳	横半帳	横半帳	状	横帳	折紙	折紙	状・封紙付	状・封紙付

尾崎家 久豊寺（昭和再建）

き-95	き-83	き-92-6	き-92-5	き-92-4
〔名刺一括〕	入仏式費用	道中行列届出（稚児行列につき）	稚児乗せ車の名称	通行道順
*印刷				
（昭和38年）	昭和38年5月13日	（昭和38年）	（昭和38年）	（昭和38年）
康田益雄 ⑤赤桐隆	①黒崎兵一 ②光製鋼所馬 ③松本正 ④浜田	海南市黒江尾崎秀夫（印）		
	至聖山久豊寺	海南警察署		
名刺5点	横半帳	状	状	状

その他

け-3	け-2
〔久豊寺開基久豊墓碑裏面拓本〕	〔久豊寺開基久豊墓碑拓本〕
	*岩寺開基 至聖山久豊道場居士 桃源院本末形等大師「未詳」延享元年三月三日「昭和四十二年三月三日」
拓本軸装	拓本軸装

作成目的別不確定文書（目的が複数考えられる）

え-53-15	え-53-5	え-53	う-31	う-60
〔封紙〕	〔代官所差紙〕	〔代官所差紙等一括〕	〔今日は御出での件につき書状〕	〔銀子請取を知らせる書状〕
*え53-5の封紙か	*其許并林久之丞明徳廿日五半時麻上寺御代官所へ、え53-5はこの封紙か、え53-6・お41のことか	*枝の10のみ孫番あり、枝番中内容のわかるものはその項に掲載	*元何かに貼られていたか、この人名は差出・宛名か	*元何かに貼られていたか、出入り済み関係か
3月18日	3月18日			5月21日
下和佐伴右衛門	下和佐伴右衛門		喜三右 かい	中川加兵衛（花）
黒江村地土尾崎次左衛門	尾崎次左衛門			部右 次左、同六右 治
封紙	状		状	状

尾崎家 作成目的別不確定文書

え-98-9	え-98-5	え-98-8	え-98-14	え-98-4	え-98	え-53-14	え-53-3	え-53-2	え-53-12	え-53-9	え-53-1	え-53-8	え-53-7
〔封紙〕	〔封紙〕	〔封紙〕	〔封紙〕	〔封紙〕	〔封紙一括〕↓以下へ	〔未年払封紙〕	〔御勘定奉行所よりの差紙送り状〕 *封紙に「御用急々」とあり、明後三日四時御代官所へ	〔代官所差紙〕	〔梓浅之助への代官所差紙〕	〔代官所差紙〕	〔代官所差紙〕	〔封紙〕	〔代官所差紙〕
*「御用早々」とあり、え-69の封紙か	*「御用急々」とあり、え-20の封紙か	*「御用早々」とあり、え-58の封紙か	*内側に別の文字「坂部惣太夫様御長屋ニ而根来常蔵様 松尾善右衛門」	*「御用急々」とあり	*一括一四点		*封紙に「御用急々」とあり、明後三日四時御代官所へ			*封紙に「御用急々」とあり、明後廿一日四時頃迄二	*明日四ツ時頃代官所へ	*「御用急申」とあり、え-53-7の封紙か	*明廿九日四時御代官所へ、え-53-8は封紙か
9月3日 酉上刻	8月22日 申ノ刻	8月4日	7月29日	正月19日	(未)	11月3日	9月晦日	9月晦日	9月20日	8月19日	2月晦日	2月28日 未ノ刻	2月28日
御勝手方	勝田七郎右衛門	御勝手方	下和佐伴右衛門	勝田七郎右衛門		松原村庄や吉兵衛	下和佐伴右衛門	松見斧次郎	松見斧次郎	仁井田源一郎	松見斧次郎	下和佐伴右衛門	下和佐伴右衛門
大野春日社二而尾崎次左衛門	黒江村尾崎次左衛門	黒江村尾崎次左衛門	黒江村尾崎次左衛門	黒江村尾崎次左衛門		黒江二而尾崎久之丞	黒江村尾崎久之丞	黒江村地土尾崎久之丞	黒江村地土尾崎久之丞	黒江村地土尾崎久之丞	黒江村地土尾崎久之丞	黒江村地土尾崎久之丞	尾崎久之丞
封紙	封紙	封紙	封紙	封紙		封紙	封紙	封紙	封紙	封紙	封紙	封紙	封紙

え-98-2	〔封紙〕 *「御用急キ」[日方浦より出]とあり、か154の封紙か（か157とは筆跡合わず）	9月7日 申ノ上刻	日置十兵衛	黒江村ニて尾崎治左衛門	封紙
え-98-3	〔封紙〕 *「御用早々」とあり	9月10日	日置十兵衛	春日社年番尾崎次左衛門	封紙
え-98-6	〔封紙〕 *「急御用」とあり、か1556の封紙か	9月12日	在方役所	黒江村地土尾崎次左衛門	封紙
え-98-7	〔封紙〕 *「御用早々」とあり、え15の封紙か	9月14日	在方役所	黒江村尾崎次左衛門	封紙
え-98-1	〔封紙〕		御勘定所	尾崎治左衛門	封紙
え-98-13	〔封紙〕		久野左門使	尾崎治左衛門	封紙
え-98-11	〔封紙〕 *「御用早々」とあり、え21の封紙か別に原藏三部の名もあり	3月晦日	下和佐伴 <small>（五木）</small> 右衛門	黒江村地土尾崎久之丞	封紙
え-98-10	〔封紙〕 *「至急」「村継少も無滞」とあり	9月22日	日方組郷役所	黒江村地土尾崎久之丞	封紙
え-98-12	〔封紙〕 *「未ノ年払小手願 朝日村」とあり	(未ノ年)	朝日村		封紙
お-26-7	〔袋〕 *袋上書「古文書九枚入 尾崎」但しお26の1と6が入っていたわけでは無いと考えられる		尾崎		袋

その他伝来

大野郷とその周辺関係

え-1	口上覚（風土記調につき旧記写し差上）↓内容二点詳細以下へ *東大、統風	文化7年7月	藤田安次郎	御代官所	状
え-1	①（一戦錢別に鎧甲贈り状写し）*黒革鍔星甲、海南、東大統風	建武2年8月2日	正成	藤田左衛門尉	

え-61	お-3	か-207	え-50	え-50	え-1
書状 ②〔江戸より御廻り衆昼休所と勢州より御廻りの関船他につき書状〕 *表裏に別文書あり。表は地主の項へ	城山屋敷普請控 *2月29日~7月朔日の払、橋爪友三より屋敷買入	城山普請請松控（城山屋敷築坪普請）	（後半）預り申大池北谷池底年貢之事 *状一点の後半、追加分あり寛文12年10月21日	（前半）預り申大池南谷田地之事 *状一点の前半	②〔畠山氏河州御進免にあたり遊佐基成書状写し〕 *押紙「右基成ハ畠山尾張守家老遊佐河内守事」とあり、海南
卯月6日	延宝9年7月2日	延宝9年7月朔日	寛文12年3月18日	寛文12年3月18日	7月2日
神前半九郎、角岡仁左衛門	真性院（印）	真性院	預り主中村加平次（略押）・同加兵衛（略押）	預り主幡川村左次兵衛（印）・清吉（印）・弥兵衛（略押）・伝兵衛（略押）	基成
水野源太、前田惣太、川嶋伊八、三倉左太右衛門、岡田仁介			幡川又兵衛、中村彦三郎	中村彦三郎、幡川又兵衛	大野十番頭衆中
状 裏	堅 帳	堅 帳	状（後半）	状（後半）	

大名関係

う-9	う-7	き-7	う-14	う-8	え-68	う-4
〔年状返書〕 *東大	〔内膳逝去悔状への礼状〕 *牧野に合点あり、明暦3年12月晦日に康成没、東大	〔書簡のお礼書状〕	〔在所へ罷帰候につき書状〕 *牧野佐渡守京着にて昨日上京今朝面談、今日在所へ帰る、東大	〔書状御礼返書〕 *東大	口上（和泉守逝去悔状への礼状）	〔大坂御番所を渡し城中を出て在所参着の報告ほかにつき書状〕 *去ル四日相渡、東大
正月3日	（明暦4年）正月16日	2月9日	2月25日	5月5日	5月22日	8月9日
青山丹後守幸通（花）	牧野播磨守定成（花）	藤堂和泉守高敏（花）	岡部美濃守宣勝（花）	松平下総守清武（花）		小笠原主膳貞信（花）
松伊豆守（信綱）	松伊豆守（信綱）	元昉和尚	松平伊豆守（信綱）	松平伊豆守		松平伊豆守（信綱）
状	状	折 紙	状	折 紙	状	折 紙

尾崎家 その他伝来（大野郷とその周辺関係／大名関係）

尾崎家 その他伝来（大名関係）

う-6	〔大原三位次男岡丸養子相統認可につき老中連署奉書〕 *倉橋は陰陽道家、東大	（寛延2） 12月18日 宝暦8年	松平右近将監武元、本多伯耆守正珍、酒井左衛門尉忠（全奉花） 寄、堀田相模守正亮（全奉花）	倉橋三位	折紙
う-3	〔昨日の書状への返書〕 *東大	10月7日	山口但馬守弘隆（花）	松平伊豆守（信綱）	状
う-50	〔伊香保入湯仕度旨窺などにつき書状〕 *元何かに貼られていたか、東大	8月晦日	相馬長門守勝胤（花）	松平伊豆守（信綱）	状

書籍等

い-17	い-16	い-15	い-14	い-13 ~13	あ-17	あ-16	あ-15	あ-14	あ-13	あ-7 ~12	あ-4 ~6	あ-1 ~3
小学高等読本 岡本増太郎編述 巻二下	明治十五年十月改正 小学読本 巻二	中学修身教科書 巻一	帝国新読本 学海指針社編 巻之八	頼又二郎標註図記 校正標註日本外史 四刻 一、十三 (各一冊)	〔コピー資料一括3点〕	俳優崎人伝 初編下 (題箋より)	女大学宝箱 全 (題箋より)	唐詩選 自六至七 五七言絶句 (題箋より)	唐詩選 自三至五 五言律排律七言律 (題箋より)	増注 十八史略定本 藤沢南岳増注 巻二・四・七 (各一冊)	五十川左武郎編輯 評註統文章軌範一、三 (各一冊)	五十川左武郎編輯 評註正文章軌範一、三 (各一冊)
明治20年訂正再版	明治17年発兌、文部省刊行	明治35年三版発行、大日本図書株式会社	明治29年再版発行	明治16年4月出版、十三は附図	①『異船記 上』、②『市之瀬殿山本氏』、③『堀内家系寛』	東都立川馬馬撰	文化4年3月	寛政4年夏重刻 江戸書肆嵩山房	濟南李拳龍編選	明治19年出版、大阪書肆 岡島宝玉堂版	明治19年納本、浪速同盟書房蔵梓	明治19年納本、浪速同盟書房蔵梓

尾崎家 書籍等

い-32	い-31	い-30	い-29	い-28	い-27	い-26	い-25	い-24	い-23	い-22	い-20 -21	い-19	い-18
合本 豪俠伝	由比正雪 後編	〔習字練習帳〕	宗教法人法 和歌山県厚生課	幼学便覧	にハか節用物	〔辞書〕 (柱に「万宝」とあり)	□版改正 文化武鑑 御役人衆 巻之三	新增改正 新選正字玉篇大全	本朝古今書画便覧 (題箋欠見返より)	和漢書画早引一覽大全 (題箋欠見返より)	新纂挿画 十八史略字引大全 河村与一郎 著 上・中 (各一冊)	記事論説 作文五千題 加藤伴之編纂 □	静岡 松阪屋(納品物、数量、替金額書上帳)
書籍箱付、大正6年発兌、伊藤仁太郎著	書籍、大正2年再版、碧瑠璃園著	堅帳	印刷冊子	帳くずれ10丁	表紙破損、水損、(序)「俄いろは節用」	表紙欠、横半型	文化10年、須原屋茂兵衛蔵版	片岡賢三編、横半型	文化15年彫成	文久□年	大阪図書出版会社、明治16年夏	加藤伴之編纂、版權所有田中宋栄堂出版	近代、帳面

<-25	<-24	<-23	<-22	<-21	<-20	<-19	<-18	<-17	<-16	<-15	<-10 ~-14	<-6 ~-9	<-1 ~-5
和漢 増補繪本宝鑑式	和漢 増補繪本宝鑑 <small>(一冊)</small> (卷第二)	唐詩選 <small>(一冊)</small>	圓光大師御伝記一	大学 (内題より)	売買出世車 坤	□術中伝 體用相応之卷 完	論語 (卷之下)	漢詩 (写本)	孟子 <small>(一冊)</small>	我儘草紙卷之五 (内題より)	野山名霊集 卷第一~五 (内題より) (各一冊)	新刻改正 論語 一~四 後藤点 (各一冊)	改正音訓 学庸・論語上下・孟子上下 後藤点 (各一冊)
ほとんど日本の歴史 上の人物の話し	中国の故事の話し	江戸書肆	「得西(花)」と書付	柱「首書四書集註」	延享5年、千種屋新 右衛門開板	未生斎廣甫法眼		藤井竹外ほか	柱に「孟子下」とあり	(近世)	宝暦2年刻、高野山 青巖寺之経庫者他	16に名刺挟み込「九州 貯金合資会社 高田三次」	天保14年紀州藩御免上梓・ 發兌、和歌山書林外

<-39	<-38	<-37	<-36	<-35	<-34	<-33	<-32	<-31	<-30	<-29	<-28	<-27	<-26
増補繪本宝鑑 卷之一	実験 小学習字本 卷四 高等科第二年 級下男子用	翻刻 書牘 日用文	商業実益 郵信用文 全	小学読本 近體文 一 (内題より)	小学高等読本 卷二下	繪本宝鑑 卷第五 (内題より)	再板用文章指南 (柱より)	松亭漫筆 下	(女庭訓物)	孝経 (内題より)	黄檗山断際禅師伝心法要 (内題より)	旧書無関	小学読本 日用文 上
ほとんど中国の故事	次郎 明治28年発行、島兵	内田嘉一	明治32年発行、澤田 貞治郎著	豊三郎編 明治18年出版、三島	岡村増太郎編述 明治20年訂正再版、	仏教説話多い (跋は宝暦13年)、御 家門弟玄海覚書	保輯 東都金水道人中村定	表紙補修あり	享保17年、東都紫芝 園蔵版	川東斐休	寛文6年仲秋日、村 上勳兵衛刊行	豊三郎、和歌山層寿堂	明治13年板権免許、三島

尾崎重光家文書目錄

尾崎重光家文書目録

尾崎重光家文書について

この文書は、和歌山市毛見の尾崎重光氏所蔵文書である。来歴は、海南市黒江の尾崎浅之輔（治左衛門豊平）氏の七男であった（現当主重光氏の父）重吉氏が、昭和三〇年代に相続されたものであり、それ以前の来歴は林太郎家文書と同じである。点数は二点で、両方とも軸装されている。内容は畠山義総から尾張守にあてて出された品物の送り書状である。この差出の義総という人物であるが、『紀伊統風上記』などには畠山家臣の遊佐河内守義総と書かれており、宛所の尾張守は尾崎尾張守（尾崎家先祖）であると考えられていた。しかし近年の研究（七尾市史・弓倉氏：詳細後述）より、これは能登国守護畠山義総（一四九一年～一五四五年）であることがわかった。差出は花押でも確認できるものである。また、宛名の尾張守は紀伊国守護畠山植長（一五〇四年～一五四五年）であるということである。同研究によると、畠山氏の被官であった尾崎家の先祖が、軍功等の褒美として下賜されたのではないかとということである。

○これまでの調査と掲載書（特に150頁総合解題にあげたもの以外で）

・『加能古文書』二二九八・二二九九番

・弓倉弘年（現地調査は平成九年七月二三日）

「天文年間の畠山氏」（『和歌山県史研究』16号 平成元年）

尾崎家 尾崎重光家



写真12 一-1

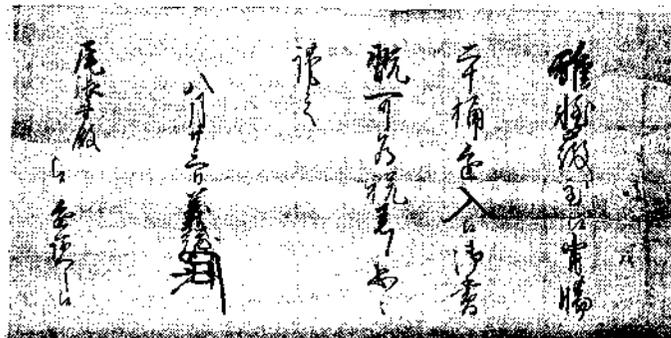


写真13 二-2

・石川県七尾市史編纂室 東四柳史明（平成九年七月二三日調査）
『図説 七尾の歴史と文化』（七尾市 平成二一年七月）

こ-1	こ-2	資料番号
*〔軸端裏書外題位置〕「義総の書」〔軸八双上書〕「墨江町 尾崎治左衛門、軸の状態感、海南、東大、名草」	〔背腸二十桶送り状〕 *〔軸八双上書〕「墨江町 尾崎治左衛門、軸の状態感、ネ22に字あり、海南、東大、名草」	標 題
12月15日	8月23日	年 月 日
義総(花)	義総(花)	作 成 者
尾張守	尾張守	宛 名
軸装卷子	軸装卷子	形 態

尾崎彌太郎家文書目錄

尾崎彌太郎家文書目録

尾崎彌太郎家文書について

この文書は、東京都新宿区下落合の尾崎彌太郎氏所蔵文書である。来歴は、海南市黒江の尾崎浅之輔（治左衛門豊平）氏の五男であった（現当主彌太郎氏の父）彌五郎氏が、昭和三〇年代に相続されたものであり、それ以前の来歴は林太郎家文書と同じである。点数は一点で、額装されている。内容は秀吉（豊臣）から尾崎家子息の一牛斎にあてた進物の礼状である。一牛斎は戦国末期の尾崎家子息であるが、豊臣秀吉との関係等詳細についてはわからない。また、尾崎家子息には同時期に栄僧都が法師として存在していたが、現存する家系図には両者とも記述がなく、一牛斎と栄僧都の関係もわからない。



写真14 さ-1



写真15 さ-1
朱印部分

資料番号	さ-1	標	題	年月日	作成者	宛名	形態
	〔天野鮎鯨蜜柑礼状〕 *49・8 cm × 15・75 cm、海南、東大、名草			卯月21日	秀吉（朱印）	一牛斎	状（額装）

尾崎家文書目録項目・整理番号対照索引

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
あ				書籍		-1~-17 【書籍一括】→目録本編書籍等の項にあり	
い				書籍		-1~-32 【書籍一括】→目録本編書籍等の項にあり	
う	1			悲田院		[泉涌寺宛て加増拝領祝詞礼状] *大久保長門守より	3月28日
う	2			悲田院		[宏天和尚宛て年状礼状] *永井播磨守より	正月25日
う	3			其他	大名	[松平伊豆守宛て病気見舞返書]	10月7日
う	4			其他	大名	[大坂御番所を渡し城中を出て在所参着報告ほか艱節差上申度旨書状] *小笠原主膳より	8月9日
う	5			悲田院		[宏天長老宛て年状返書] *細川越中守より	正月28日
う	6			其他	大名	[大原三位次男岡丸養子相統認可につき老中連署奉書]	12月18日 (1749~1758の間)
う	7			其他	大名	[松平伊豆守宛て内膳逝去梅状返書] *牧野播磨守より	(明暦4年) 正月16日
う	8			其他	大名	[書状御礼返書(公方様御機嫌之御様躰相親度旨ほか)]	5月5日
う	9			其他	大名	[松平伊豆守宛て年状返書] *青山丹後守より	正月3日
う	10			悲田院		[宏天長老宛て年状返書] *永井飛騨守より	正月22日
う	11			地土	納米	覚(山本伝左衛門知行当年より御納所につき)	寅ノ8月26日
う	12			宮座	春日	乍恐口上(金剛院無住ニ付名草郡神前村観音寺実敵を留守居ニ至し度き旨寺社奉行所へ届け出度きにつき)	卯8月
う	13			尾崎家	信仰	当山末寺手形之事(洞照庵は古来より当山末寺である旨)	元禄3年10月13日
う	14			其他	大名	[松平伊豆守宛て在所へ罷帰候につき書状] *岡部美濃守より	2月25日
う	15			地土	書状	[年賀礼状] *久野丹波守より	正月2日
う	16			地土	書状	[年賀礼状] *久野丹波守より	正月2日
う	17			地土	書状	[年賀礼状] *水野平右衛門より	正月3日
う	18			尾崎家	中世	[ひろいなきはたらき褒状] *湯河左衛門大夫より	(永禄5年か) 7月12日
う	19			地土	紀州	覚(御台所醬油御用の麦相渡し代米請取る旨)	子ノ5月15日
う	20			地土	勤め	[勢州熊野より参候状式通御覽後吉原村佐渡又兵衛へ御遣可被下旨送状]	4月9日
う	21			地土	勤め	[人留につき達] *御目付中より	4月30日
う	22			地土	紀州	[し水松茸生育の状況うかがい一礼] *岡部太郎兵衛外より	9月2日(摩滅)日
う	23			地土	納米	[明日免定出し申し候間ひる時分ニ庄屋年寄越す可き旨伝える廻状]	10月23日
う	24			地土	勤め	[尾崎久之丞往米証]	亥9月より(近世後期)

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
う	25			地土	其他	[御新宅所出火のさいの諸士の出動について定書写(御新宅御定之写)]	
う	26			尾崎家	中世	[近口上洛の旨織田三七書状] *雑賀惣擧中あて	(天正10年カ) 8月2(カ)日
う	27			尾崎家	中世	[あひせうし之儀他につき書状] *湯河左衛門太輔より	9月5日
う	28			尾崎家	中世	[野上之様体注進肝要他につき書状]	10月2日
う	29			尾崎家	中世	[久米田寺合戦で弥介あひそうすいまにはしめたる働き満足の旨書状]	(永禄5年) 3月8日
う	30			宮座	中世	幡河寺架徒等謹言上(幡河寺御敷地の勘料之事につき)	寛正2年12月11日
う	31			作成日		[今日は御出での件につき書状] *喜三右あてか?	
う	32			尾崎家	中世	[ひるいなきはたらき爽快] *湯河左衛門大夫より	(永禄5年カ) 7月12日
う	33			地土	納米	覚(大野中村内より花房弥次右衛門知行所へ出す旨につき)	寅8月12日
う	34			地土	勤め	[冷水御茶屋其元にてたたませることを命じる一札]	7月23日(近世前~中期)
う	35			地土	紀州	[明日新之助様御成を知らせる一札]	8月29日
う	36			地土	紀州	[冷水の楊梅の盛りを尋ね御成の可能性を知らせる一札]	6月2日
う	37			地土	紀州	[明日長七様御成を知らせる一札]	4月10日
う	38			地土	紀州	[冷水の楊梅の盛りを尋ねる書状]	卯月21日
う	39			地土	紀州	[長七様御用につき明日久世宅へ罷出べき旨差紙]	12月27日
う	40			地土	書状	[昨日の御入来お礼と近々当地出発を伝える一札]	2月13日
う	41			地土	勤め	[御用につき差紙] *御勘定所より	8月17日
う	42			地土	紀州	[明日殿様広へ御成を知らせる一札]	6月9日
う	43			地土	紀州	[明日殿様叔村へ御成につき参上を命じる一札]	10月13日
う	44			地土	紀州	[明日長七様御成を知らせる一札]	4月6日
う	45			尾崎家	中世	[あひせうし之儀他につき書状] *(湯河)左衛門尉より	9月5日
う	46			尾崎家	中世	[野上之様体注進肝要につき書状]	10月2日
う	47			地土	紀州	[三月節匂女院様へ御上物の納めを命じる一札]	2月19日
う	48			地土	普請	[欠落者の代人足(御扶持人足)お渡し依頼書状]	5月25日
う	49			地土	勤め	[且来村迷子村中吟味の結果一札]	9月15日(近世前~中期)
う	50			其他	大名	[公方様の様子と伊香保入湯仕度旨などにつき書状]	8月晦日
う	51			地土	納米	[小野田村扱沢村の納所の件申入状](小野田村は田所方、扱沢村は尾崎方)	亥ノ8月20日
う	52			地土	書状	[大塚清右衛門より年賀と年始祝い送り書状]	正月4日
う	53			地土	紀州	覚(蓬五束御用お渡しを命じる)	亥ノ卯月28日
う	54			地土	紀州	[長七様御成を知らせる一札]	5月朔日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
う	55			地士	其他	〔銀子借用願状〕 *摩滅注意	2月□□(摩滅)
う	56			地士	普請	〔且来村源太良病氣にて代人足御下依頼書状〕	10月18日
う	57			地士	紀州	〔大殿様左京様有田筋御成につき各代官所へ出頭申し付け状〕	(寛文8年)5月4日
う	58			地士	勤め	〔殿様(頼職)ご逝去につき名草郡山口住還にて御務を命じる書状〕	(宝永2年)9月9日
う	59			地士	納米	〔当年の免極未済につき一夜帰にお戻り依頼書状〕	10月16日
う	60			作成目		〔銀子請取を知らせる書状〕	5月21日
う	61			地士	勤め	〔御願分御鷹野御供衆御扶持方につき取り極め申入れ状〕	霜月21日
う	62			尾崎家	其他	〔鳥原の乱につき書きつけ・書状など写し〕 *計4枚	
う	63			宮座	中世	紀伊国名草郡大野庄三上郷於春日栗田両大明神座配之事	文龜3年6月日
う	64			尾崎家	中世	禁制 *豊臣秀吉朱印あり	天正18年8月日
え	1			其他	大野	口上覚(風土記調につき藤田氏旧記写し差上)→内容詳細以下	文化7年7月
え	1			其他	大野	①〔正成より一戦餞別に鎧甲贈り状写し〕	建武2年8月2日
え	1			其他	大野	②〔畠山氏河州御進発にあたり遊佐基成書状写し〕	7月2日
え	2			尾崎家	土地	日方村新畑丑之改検地帳写シ	貞享2年10月
え	3			地士	他家	乍恐奉願口上(打越藤左衛門家地士株相続願い写し)	子6月(天保6年以降)
え	4			宮座	木伐	乍恐以書付奉願上候(松代王子社大破につき御見分取り繕い願い写し)	
え	5			宮座	木伐	乍恐口上覚(松代王子社大破につき御見分取り繕い願い下書)	天保10年8月
え	6			宮座	木伐	借用申銀札之事(春日穀屋普請入用銀借り替えのため)	宝永2年正月13日
え	7			宮座	他支	〔願書下げ遣につき一札〕	5月28日(近世中期以降)
え	8			宮座	木伐	申渡(春日社境内検・根松無願い伐取り不埒につき)	11月(近世後期)
え	9			地士	勤め	〔御殿前ぶたいの件につき書状〕	10月2日
え	10			尾崎家	家由	〔ご吟味につき由緒等書き上げ〕	辰6月14日
え	11			地士	書状	〔戸田一郎右衛門より年頭御祝儀として我等宅へ御入米礼状〕	正月28日
え	12			宮座	他支	〔先達で奉納の宝剣相見えざる件につき書状〕	8月2日
え	13	1		地士	納米	丑御蔵米払(杉浦十郎太夫殿丑御切米)	丑霜月
え	13	2		地士	納米	預り申米之事(京銀借用之方に丑御切米之内押置度につき)	丑霜月
え	14			宮座	真言	〔真言門徒衆への廻状写し〕(対高野山関連他)→詳細以下へ	
え	14			宮座	真言	①〔久米寺大塔再建之勸進につき一札写〕	9月5日
え	14			宮座	真言	②〔久米寺勸進一件につき廻状写〕	寅9月
え	14			宮座	真言	③〔久米寺勸進一件につき廻状写〕	寅9月
え	14			宮座	真言	④〔寺地外地所を寺院へ譲り渡し寄附につき触写〕	2月
え	14			宮座	真言	⑤〔寺地外地所を寺院へ譲り渡し寄附他触につき廻状写〕	午4月
え	14			宮座	真言	⑥副書(⑤の副書の写)	午ノ4月
え	14			宮座	真言	⑦〔高野山廻文につき差紙写〕	8月8日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
え	14			宮座	真言	⑧〔他所他山よりの廻状は印形不仕につき一札写〕	午ノ8月12日
え	14			宮座	真言	⑨〔自今高野山廻状来時の対応につき寺社奉行所より給し 一札写〕	
え	14			宮座	真言	⑩宝曆十三未年九月高野山より廻状写 大覚寺御門跡御慈 願書 宮中正月御修法莊嚴具補闕之事(写)	宝曆12年10月27日
え	14			宮座	真言	⑪〔真言門徒中への廻文廻状写〕	未正月21日
え	14			宮座	真言	⑫讃岐国善通五重塔婆再建之事(写)	宝曆12年3月27日
え	14			宮座	真言	⑬〔善通寺一件につき廻状写〕	未正月16日
え	15			宮座	木伐	〔春日社繪一件につき役所への出頭を命じる差紙〕	9月14日
え	16	1		地土	納米	西御蔵米払(上村分/平瀬安兵衛殿西ノ御切米)	寛文9年霜月
え	16	2		地土	勤め	覚(尾崎治左衛門への書状村継ぎにつき)	予3月5日
え	16	3		地土	納米	西ノ御蔵米払(上村分/和田与三右衛門殿西ノ御切米)	西ノ極月
え	16	4		地土	納米	覚(京銀濟みにつき同心五拾老人へ押米御渡し)	亥霜月28日
え	16	5		地土	納米	西ノ御蔵米払(江南村/寺崎与右衛門殿西ノ御切米)	寛文9年西ノ霜月
え	16	6		尾崎家	信仰	証券(井松原合戦式百五十回忌回向料収納につき)	文政9年3月24日
え	16	7		尾崎家	信仰	〔去年海面開起私所持畑地このたび永正寺へ寄附につき一札〕	
え	17			尾崎家	土地	覚(城山見取畑境目につき) *黒江日方戸長立会いの上	明治6年6月7日
え	18			尾崎家	土地	田畑税証書一札之事(小作地につき)	明治13年6月
え	19			尾崎家	家由	譲り証文之事(田畑屋敷譲り・請け証文)	明和7年6月
え	20			宮座	他支	〔大野庄春日番頭之儀申し談じにつき差紙〕	8月22日(近世中期以降)
え	21			宮座	木伐	〔春日社境内松木伐取一件につき差紙〕	3月晦日
え	22			尾崎家	中世	〔背腸(カ)二十桶送り状写) *義総より	8月23日
え	23			宮座	粟田	乍恐書付ヲ以奉願口上(井田村粟田大明神の盜難湯釜一件につ き)	天明6年閏10月
え	24			宮座	年々	宝永八年卯正月より三年切覚(米にて書上げ)	卯正月(宝永8年)
え	25			尾崎家	其他	菅原由来記	明和6年初夏(写之)
え	26			宮座	木伐	内存ニ而奉願口上覚(境内雑木狼りに伐取差留願い写)	4月
え	27			宮座	他支	①〔春日明神并粟田明神制札出来につき請取を命じる一札〕	3月7日(近世中期以降)
え	27			宮座	他支	②〔兩制札請取につき差し遣し状〕	3月9日(同上)
え	28			地土	納米	〔申ノ木斗中勘定目録仕立命じる一札廻状〕	
え	29			尾崎家	家由	譲り証文之事(畑屋敷譲り・請け証文)	明和7年6月
え	30			尾崎家	土地	一札之事(辻地藏屋敷永代借受けにつき)	文政3年6月8日
え	31			尾崎家	土地	一札之事(屋敷端辻地藏堂に借受けにつき)	天明2年7月日
え	32			尾崎家	土地	譲り証文之事(畑譲り)	享保18年7月
え	33			尾崎家	家由	譲り証文之事(屋敷・畑譲り)	明和3年

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
え	34			地士	納米	覚(朝倉係八分先借り金済み押米渡しにつき)	酉ノ極月25日
え	35			地士	納米	覚(呉服番衆老人京銀済み押米返しにつき)	寅ノ霜月
え	36			尾崎家	土地	預り申御蔵屋敷下地之事(屋敷地借りにつき)	宝永元年8月
え	37			尾崎家	土地	讀証文之事(畠譲り)	享保12年8月
え	38			尾崎家	金銭	一札之事(借用銀宛て所替えにつき)	享保11年4月
え	39			尾崎家	信仰	御寄附証文之事(宝篋印塔建立祠堂銀につき)	享和2年8月
え	40			尾崎家	信仰	[一代回向料として銀子改めて請取り書]	文化11年11月
え	41			尾崎家	土地	一札之事(屋敷地入込出入済みにつき)	天保15年7月
え	42			地士	納米	[西納め大豆入用引残石高書付お越しを命じる廻状]	霜月20日・21日
え	43			久豊寺	近世	覚(寿像代金差引勘定書) *久豊像	(「宝暦5年」) 亥霜月 12日
え	44			地士	納米	覚(午己年貢差引過銀渡し等につき)	11月8日
え	45			尾崎家	土地	一札之事(屋敷地入込出入済みにつき証抛銀子受取りにつき)	天保15年7月
え	46			尾崎家	家由	[尾崎家由緒覚書と伝米文書につき書付]	(明治12年6月12日)
え	47			宮座	他支	[ひその覚・せいた(こか)覚他書上げ] *春日社の書付あり	
え	48	1		地士	納米	酉ノ御蔵米払(上村分/三橋仁兵衛殿西ノ御切米)	寛文9酉年霜月
え	48	2		地士	納米	[奉行所より米取立有るにつき押伝法へ預り手形お出し願ひ]	子極月3日
え	48	3		地士	納米	覚(石河七右衛門子御切米押断につき)	子ノ霜月26日
え	48	4		地士	納米	覚(当御切米之内御押伝法へ預り手形お出し中奉行所より御断り分につき)	米霜月25日
え	48	5		地士	納米	覚(当子御切米之内御押切伝法預り手形お出しにつき)	子霜月24日
え	49			地士	書状	[桃節祝儀の礼状] *戸田金左衛門より	3月20日
え	50			其他	大野	(前半) 預り申大池南谷田地之事	寛文12年3月18日
え	50			其他	大野	(後半) 預り申大池北谷池底年貢之事	寛文12年3月18日
え	51	1		尾崎家	其他	紀州大野郷領主守護代々・島山殿代々	(文政9年6月享)
え	51	2		尾崎家	家由	[尾崎家系図覚]	
え	52			地士	納米	末之納払勘定通	末(寛文8年作成か)
え	53					【代官所差紙等一括】→技番以下へ	
え	53	1		作成目		[代官所差紙] *尾崎久之丞あて	2月晦日
え	53	2		作成目		[代官所差紙] *尾崎久之丞あて	9月晦日
え	53	3		作成目		[御勘定奉行所よりの差紙送り状] *尾崎久之丞あて	11月3日
え	53	4		宮座	他支	[日方組当宗判取差支申立の件につき申違書] *尾崎久之丞あて	3月17日
え	53	5		作成目		[代官所差紙] *尾崎次左衛門あて	3月18日
え	53	6		地士	勤め	[尾崎久之丞六十人者地主相続申付状]	3月(近世後期)
え	53	6		尾崎家	家由	[尾崎久之丞六十人者地主相続申付状]	3月(近世後期)

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
え	53	7		作成目		〔代官所差紙〕 *尾崎久之丞あて	2月28日
え	53	8		作成目		〔封紙〕 *え53-7の封紙か	2月28日未ノ刻
え	53	9		作成目		〔代官所差紙〕 *尾崎久之丞あて	8月19日
え	53	10		地土	勤め	【勤務命令書】→封紙包二通、以下へ	(近世後期)
え	53	10	1	地土	勤め	〔当分加茂組鼓手取立勤務を命じる達しを知らせる一札〕	3月晦日(近世後期)
え	53	10	2	地土	勤め	〔第二大隊第二小隊勤を命じる達しを知らせる一札〕	4月29日(近世後期)
え	53	11		地土	勤め	〔役人の黒江村城山見分へ出張を命じる一札〕	10月27日(近世後期)
え	53	12		作成目		〔倅浅之助への代官所差紙〕	9月20日
え	53	13		宮座	春日	〔代官所差紙〕(春日社別当金剛院後継之義につきお尋ねあり)	7月23日(近世後期)
え	53	14		作成目		〔封紙〕 *松原村比や吉兵衛より	(未年払)
え	53	15		作成目		〔封紙〕 *え53-5の封紙か	3月18日
え	54			地土	納米	覚(坂井村内にて御納所を命じる)	丑ノ7月6日
え	55			地土	納米	〔先年の代官所へ貸麦渡し一札〕	正月22日(近世前~中期)
え	56			地土	紀州	覚(正月飾り御用の品納めを命じる)	酉ノ極月7日
え	57			地土	紀州	〔御膳に上る楊梅納めを命じる一札〕	5月19日
え	58			地土	勤め	〔御役所差紙〕 *御勝手方より	8月4日
え	59			宮座	木伐	〔天守再建用木材見分廻につきお達し書写〕 *焼失は弘化3年7月	(弘化3年以降)
え	59			宮座	木伐	①〔お達し書廻状〕	12月10日
え	59			宮座	木伐	②〔寺社奉行中よりのお達し廻状〕	12月9日
え	59			宮座	木伐	③〔天守再建用木材松山方役人見分廻りにつき達し〕	12月2日
え	59			宮座	木伐	④〔天守再建用木材松山方役人見分廻りにつきお達し〕	11月9日
え	60			地土	紀州	覚(御新宅正月飾り御用品納めを命じる)	戌ノ極月8日
え	61			地土	勤め	【表】〔火事の事と納所見廻の件につき書状〕 *表裏別文書	極月1日
え	61			其他	大野	【裏】〔江戸より御廻り衆昼休所と勢州より御廻りの間船他につき書状〕	卯月6日
え	62			地土	勤め	〔役所差紙〕 *御勝手方より	7月28日
え	63			地土	紀州	覚(五月節句御用の品納めにつき)	戌ノ卯月24日
え	64			地土	勤め	覚(海士郡代官所御用籠出時に伝馬立る可き証)	寛文8年
え	65			地土	勤め	覚(尾崎次左衛門あて御用状の送り状)	酉ノ9月20日申ノ下刻
え	66			地土	納米	覚(御切米の内押置払いにつき奉行衆よりの仰せ渡し)	丑11月24日
え	67			地土	納米	〔新米改方の儀及ばざるにつき一札〕	12月12日
え	68			其他	大名	口上(故和泉守へのお悔みの礼状)	5月22日
え	69			地土	勤め	〔役所差紙〕 *御勝手方より	9月3日
え	70			地土	紀州	覚(御台所醬油用の麦御用納めにつき)	丑ノ5月14日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
え	71			地士	納米	覚(借金未進者当御切り米押につき)	丑霜月24日
え	72			地士	紀州	覚(正月飾り御用の品納めにつき)	酉ノ極月7日
え	73			地士	紀州	覚(正月飾り御用の品納めにつき)	酉ノ極月7日
え	74			地士	勤め	[比叡山御法事に参詣すべき旨仰せ渡し達状]	正月25日
え	75			地士	紀州	[明日源六様お成りを知らせる一札]	3月14日
え	76			尾崎家	家由	[先祖よりの由緒を以て暮向お助け願い]	(文化5~嘉永元年の間か)
え	77			地士	納米	未之納弘助定通 藤代	未(寛文8年作成か)
え	78			地士	納米	覚(米方御役人あて納め状日付違いにつき)	未11月4日
え	79			尾崎家	屋敷	[尾崎家持ち地絵図]	寛延3年
え	80			尾崎家	土地	西名草郡黒江村新田畑地詰帳写(馬場分)	宝永2年8月
え	81			宮座	田地	預り申池床田地之事	万治2年12月8日
え	82			地士	勤め	高野山出入ニ付橋本村江御上使被為成候ニ付地侍被為召候覚書(出陣に付)	(最終:元禄5年8月4日)
え	83			尾崎家	土地	田屋敷畑新田新畑高帳(尾崎分) ((元禄12年11月より改分(加筆)、元禄14年9月(加筆))	元禄10年霜月(改)
え	84			尾崎家	土地	本田畑并新田畑名寄帳写シ 尾崎治左衛門分	享保2年8月
え	85			地士	普請	[有田川普請人足・役人他払い金書上帳]	(明暦元又は万治2年頃か)
え	86			地士	普請	[有田川普請人足・役人他払い金書上丁はずれ]	(明暦元又は万治2年頃か)
え	87			地士	普請	[有田池川樋普請入用并人足書上げ帳]	(明暦元又は万治2年頃か)
え	88			久豊寺	近世	祠堂田畠諸控 (内容は文化・文政が中心)	明和2年仲春吉旦
え	89			尾崎家	信仰	太秦塔頭十二軒・覚(人寺一年目入用他につき)	享保14年9月
え	90			尾崎家	其他	講考金性韻鏡納例(名前文字古い)	
え	91			尾崎家	古文	[風土記調御用差出しの軸を本返却状]	7月20日
え	92			宮座	年々	渡し申庄中銀之事	寛永12年正月20日
え	93			尾崎家	古文	[展示品名書] *「山城信国」につき	(近代)
え	94			尾崎家	其他	講考韻鏡掃字之例(名前文字古い)	安永3年孟夏吉旦
え	95			宮座	木伐	定(竹木切り・作事・遷宮につき)	
え	96			地士	納米	【免付覚え書一括】→詳細以下へ	
え	96	1		地士	納米	酉ノ免付之覚	酉ノ10月
え	96	2		地士	納米	酉ノ免付覚	
え	96	3		地士	納米	酉ノ免付覚	
え	97	1		尾崎家	其他	[和歌墨蹟]	
え	97	2		尾崎家	其他	[墨蹟]	

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
え	97	3		尾崎家	其他	[墨蹟]	
え	97	4		尾崎家	其他	[墨蹟]	
え	98			作成目		【封紙一括】→詳細以下へ	
え	98	1		作成目		[封紙] *御勘定所→尾崎治左衛門	
え	98	2		作成目		[封紙] *日置十兵衛→尾崎治左衛門、か154の封紙か	9月7日申ノ上刻(近世中期以降)
え	98	3		作成目		[封紙] *日置十兵衛→尾崎治左衛門	9月10日(近世中期以降)
え	98	4		作成目		[封紙] *勝田七郎右衛門→尾崎次左衛門	正月19日(近世中期以降)
え	98	5		作成目		[封紙] *勝田七郎右衛門→尾崎次左衛門、え20の封紙か	8月22日申刻(近世中期～)
え	98	6		作成目		[封紙] *在方役所→尾崎次左衛門	9月12日(近世中期以降)
え	98	7		作成目		[封紙] *在方役所→尾崎次左衛門	9月14日(近世中期以降)
え	98	8		作成目		[封紙] *御勝手方→尾崎次左衛門、え58の封紙か	8月4日(近世中期以降)
え	98	9		作成目		[封紙] *御勝手方→尾崎次左衛門、え69の封紙か	9月3日酉上刻
え	98	10		作成目		[封紙] *郷役所→尾崎久之丞	9月22日(近世後期)
え	98	11		作成目		[封紙] *下和佐伴左衛門→尾崎久之丞、え21の封紙か	3月晦日(近世後期)
え	98	12		作成目		[封紙] *朝日村、未年私小手願	(未ノ年)
え	98	13		作成目		[封紙] *久野左門→尾崎治左衛門	
え	98	14		作成目		[封紙] *下和佐伴左衛門→尾崎次左衛門	7月29日(近世中期以降)
え	99			地土	普請	[堅帳表紙断簡] *「在田郡在々御普請帳」、え85～え87の表紙か	明暦4年正月16日
え	100			尾崎家	土地	[新畑御証文地の旨につき覚書]	(文政2年2月以降)
お	1			尾崎家	屋敷	[屋敷図面]	(近代)
お	2			宮座	十番	紀州名草郡三上庄大野郷十ヶ村十人之番頭之系図(尾崎家分写)	(享保17年迄内容あり)
お	2			尾崎家	家由	紀州名草郡三上庄大野郷十ヶ村十人之番頭之系図(尾崎家分写)	(享保17年迄内容あり)
お	3			其他	大野	城山屋敷普請控 *内容は2月29日より7月朔日まで	延宝9年7月2日
お	4			尾崎家	家由	譲状事(家訓と譲る文書の写し・刀の控)	延享元年
お	5			尾崎家	家由	[尾崎尾張守につき由緒覚]	
お	6			尾崎家	家由	系譜	(日付は安永7年9月迄)
お	7			尾崎家	家由	系譜	(日付は嘉永9年頃迄)

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
お	8			尾崎家	屋敷	〔屋敷図面〕	元文4年5月(建之)
お	9			地土	他家	乍恐奉願上候口上(地主馬場長右衛門名跡相続につき)	天保2年4月
お	9			尾崎家	家由	乍恐奉願上候口上(地主馬場長右衛門名跡相続につき)	天保2年4月
お	10			地土	納米	一米揃方在打廻 米改帳(各屋敷出知行米・御蔵入米他改通しに付書上写)	未ノ9月吉日
お	11			地土	勤め	諸事控書(殿様初御目見えにつき)	安永7年
お	12			尾崎家	屋敷	尾崎本家建築記録	昭和9年
お	13			尾崎家	屋敷	尾崎本家建築記録	昭和9年(秋10月)
お	14			尾崎家	古文	〔古文書持参依頼書〕	(近代)
お	15			尾崎家	家由	〔尾崎豊親の功績をたたえる弔文〕	明治12年4月
お	16			久豊寺	明治	【久豊寺持ち地地券一括】→1～11まで11点あり	明治10年7月1日
お	17			尾崎家	土地	【尾崎家持ち地地券一括】→1～6まで6点あり	明治10年・17年・18年
お	18			尾崎家	寄付	〔従軍者家族扶助のため寄附奇特につき木杯下賜状〕	明治39年4月2日
お	19			尾崎家	古文	〔大蔵火書記・雇外国人キョソネ巡回につき古文書等宝物差出し依頼書〕	明治12年6月6日
お	20			久豊寺	明治	売渡証書(田畑山林につき)	明治37年11月9日
お	21			尾崎家	土地	土地売渡証書(畑につき)	明治17年10月21日
お	22			尾崎家	其他	〔和歌色紙〕	
お	23			地土	勤め	〔瀬戸への湯治願い許可につき一札〕	3月5日(近世前～中期)
お	24			宮座	木伐	〔下之宮玉垣作料他金銭差引勘定書〕	卯ノ2月11日
お	25			尾崎家	金銭	受領証(仮証)	昭和38年3月9日
お	26			地土	納米	【歳米払い・未納等につき一括】→詳細以下へ	
お	26	1	1	地土	納米	覚(兵服番衆三人分押米御返しにつき)	寅ノ霜月
お	26	1	2	地土	納米	覚(向笠新八押米渡しにつき)	酉ノ極月6日(寛文9年か)
お	26	1	3	地土	納米	-1西御蔵米払(橋本村/京銀押米之内に買納)	寛文9年極月24日
お	26	1	3	地土	納米	-2西御蔵米払(橋本村/津村左太右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	3	地土	納米	-3西御蔵米払(橋本村/小池七郎太夫殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	3	地土	納米	-4西御蔵米払(橋本村/大崎番所竹中五郎兵衛御扶持方米)	寛文9年霜月
お	26	1	3	地土	納米	-5西御蔵米払(橋本村/小池七郎太夫殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	3	地土	納米	-6西御蔵米払(橋本村/毛利久左衛門御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	3	地土	納米	-7西御蔵米払(橋本村/ご祈禱布施に下され岩屋寺)	寛文9年極月
お	26	1	3	地土	納米	-8西御蔵米払(橋本村/平塚勘兵衛殿預り同心御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-1西御蔵米払(上村/野中六右衛門殿預同心御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-2西御蔵米払(上村/御扶持方)	戊正月12日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
お	26	1	4	地土	納米	-3酉御蔵米払(上村/石河七右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-4酉御蔵米払(上村/佐野清右衛門殿預り同心御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-5酉御蔵米払(上村/粉川九郎兵衛殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-6酉御蔵米払(上村/小池七郎太夫殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-7酉御蔵米払(上村/大野茂右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-8酉御蔵米払(上村/庄半右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-9酉御蔵米払(上村/石川七右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-10酉御蔵米払(上村/野中六郎右衛門預り同心御切米)	(寛文9年) 酉ノ極月
お	26	1	4	地土	納米	-11酉御蔵米払(上村/佐野忠右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	4	地土	納米	-12酉御蔵米払(上村/瀧惣右衛門殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	5	地土	納米	酉ノ御蔵米払(江南村/深津喜兵衛御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	6	地土	納米	酉ノ御蔵米払(江南村/野中六右衛門殿預り同心衆御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	7	地土	納米	酉御蔵米払(江南村/藤田与次兵衛殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	8	地土	納米	酉ノ御蔵米払(江南村/井出弥八殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	9	地土	納米	酉ノ御蔵米払(江南村/佐野清右衛門殿預り同心衆御切米)	寛文9年霜月
お	26	1	10	地土	納米	酉ノ御蔵米払(江南村/山本庄太夫殿御切米)	寛文9年霜月
お	26	2		地土	納米	未之納払勘定通(松原村分)	寛文8年極月
お	26	3		地土	納米	未之納払勘定通(且来村分)	寛文8年極月
お	26	4		地土	納米	未之納払勘定通	(寛文8年か)
お	26	5		地土	納米	未之納払勘定通	寛文8年極月
お	26	6		地土	納米	未之納払勘定通	寛文9年7月
お	26	7		作成目		[袋] *「古文書九枚入 尾崎」とあり	
お	27			尾崎家	信仰	教憲(守るべき三ヶ条につき)	
お	28			地土	勤め	寛(海士郡代官所御用罷出時に伝馬立てるべき証)	寛文10年
お	29			地土	紀州	寛(御台所醬油御用の麦相渡し代米請取る旨につき)	戌ノ卯月22日
お	30			尾崎家	家由	代々申伝覚(由緒につき)	宝暦10年
お	31			尾崎家	家由	以書付御請奉申上候(由緒書写し差出しにつき写)	(お届日: 明治5年3月9日)
お	32			宮座	十番	乍忍奉願上口上(十人番頭井口勘兵衛跡へ源兵衛くわえ願い写)	天保8年8月
お	33			地土	其他	元禄六年戸田山城守殿御城附ニ御渡シ候御改服忌令(写)	(元禄6年12月21日～寅6月)
お	34			地土	勤め	[元禄五年七月高野山騒動出陣一件他書付け帳]	(元禄5年7月～同7年)
お	35			尾崎家	信仰	貴報(井松原合戦貳百五十回忌御先祖回向料受領・仏事勤につき返書)	3月24日(文政9年か)
お	36			宮座	十番	紀州名草郡大野庄捨人番頭記(各人系図の写)	貞享元年霜冬中旬(写)

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
							之)
お	37			久豊寺	明治	[差出し・あて名書き写] * 日付・差出・宛名の外特に内容なし	明治4年8月
お	38			悲田院		[悲田院称号披露日時の上京を強く願う書状]	2月11日
お	39			地土	勤め	覚(尾崎への御用状伝馬継ぎ送り状)	西9月25日午上刻
お	40			尾崎家	中世	[蒲生郡日野鎌懸村内百五拾石宛行状] * 大蔵 正家より	慶長4年10月6日
お	41			地土	勤め	[病氣ニ付六拾人者地土を差し免ずる旨一札]	3月(近世中期以降)
お	41			尾崎家	家由	[病氣ニ付六拾人者地土を差し免ずる旨一札]	3月(近世中期以降)
お	42			尾崎家	家由	[養子貰い願ひ許可状] * 奥空之助弟	5月3日
お	43			尾崎家	寄付	[窮民救い要状]	8月(近世中期以降)
お	44			悲田院		[弟松之丞泉涌寺中悲田院弟子へ出家願ひ許可状]	8月13日
お	45			尾崎家	家由	[尾崎氏名前書]	(近世後期)
お	46			地土	勤め	[在銃隊他任命書]	12月25日(近世後期)
お	47			尾崎家	家由	奉再願口上(控)(娘様組み願ひにつき)	庚午(明治3)年9月13日
お	48			尾崎家	屋敷	家由緒書(次左衛門家につき)	(安永7年9月23日以降)
お	49			尾崎家	中世	[綱・塩曳送り状写し] * こ1(重光家)の写	12月15日
お	50			地土	他家	乍恐奉願上候口上(地土馬場長右衛門名跡相続につき)	天保2年4月
お	50			尾崎家	家由	乍恐奉願上候口上(地土馬場長右衛門名跡相続につき)	天保2年4月
お	51			尾崎家	寄付	[去る戊年御用金差上げ奇特につき要状]	3月(近世中期以降)
お	52			地土	勤め	[鉄砲所持許可書]	正徳3年3月19日
お	53			尾崎家	土地	田畑新島名寄帳之写	(内容)享保19年5月改、延享2年8月改
お	54			尾崎家	信仰	稻荷大明神心念功紙之伝法	明和7寅天定立ノ旦
お	55			地土	勤め	奉願口上覚(正月三日に年頭御礼申し上げ度き旨)	子11月(近世中期以降)
お	56			地土	勤め	六十騎衆組分[] (姓名書上げ)	(寛文9年5月23日以降)
お	57			地土	勤め	六十騎組分姓名録	(明和6年以降)
お	58			尾崎家	其他	禁裏年中行事(写本)	
お	59			地土	勤め	高野山一巻覚帳(山内のことにつき写)	元禄5年(同6年3月写)
お	60			尾崎家	其他	[名草郡内地誌写し]	寛永19年5月13日
お	61			尾崎家	土地	連名簿(共有地売渡しにつき)	明治24年5月26日
お	62			地土	勤め	[西洋太鼓求料下されるにつき一札]	9月(近世後期)
お	63			尾崎家	土地	建物売渡証文之事	明治14年1月16日
お	64			尾崎家	土地	地所売渡証書	明治24年5月26日
お	65			地土	紀州	[先刻申し達せらる冷水楊梅の儀につき一札]	卯月14日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
お	66			尾崎家	寄付	覚(御用金請取りにつき)	戊12月
お	67			尾崎家	土地	証(楨木屋借地差入書)	昭和39年1月1日
お	68			尾崎家	古文	[現在の古文書調査等関係書類一括]	現在
か	1			宮座	年々	春日明神米集并諸事控	文政10年
か	2			宮座	年々	三上山春日大神勘定目録	天保2年正月吉日
か	3			宮座	他支	心覚控(番頭当番名書上)	天保6年8月25日
か	4			宮座	年々	御春日大明神勘進帳	寛永14年5月21日
か	5			宮座	年々	春日社諸人用控	天保15年正月より
か	6			宮座	年々	春日社普請諸人用控	文政10年
か	7			宮座	年々	春日社年中入諸色控覚	弘化2年正月吉日
か	8			宮座	年々	春日粟岡所諸色請払控	弘化3年正月
か	9			宮座	年々	春日大明神申儀諸色請払目録	酉正月20日
か	10			宮座	年々	春日大明神(諸事控帳)	弘化3年正月
か	11			宮座	年々	春日年貢米出入覚帳	弘化4年正月吉日
か	12			宮座	年々	春日明神様萬請取払帳	明暦4年正月吉日
か	13			宮座	年々	春日大明神様江 粟田大明神様江 年中定納者成控	
か	14			宮座	年々	春日社諸色并金銭請払控	弘化3年正月吉日
か	15			宮座	年々	春日明神米集并諸事控	文政11年
か	16	1		宮座	徳道・ 禪林	幡川村禪林寺より徳道院之義願出候ニ付御代官所より御尋ニ付書付ニ而申上候控 猶又禪林寺虫干改之ニ付書付ヲ以御達候	文政13年3月
か	16	1		宮座	徳道・ 禪林	①口上覚(お尋ねに対し徳道院後任の件)	寅閏3月4日(文政13年)
か	16	1		宮座	徳道・ 禪林	②奉願口上覚(禪林寺什物等虫干しにつきお札願)	文政13年9月
か	16	1		宮座	徳道・ 禪林	③指上申一札之事(禪林寺什物改双方立合いの旨)	天和3年11月
か	16	1		宮座	徳道・ 禪林	④口上覚(春日明神社僧との出入済につき願下げ願)	天保2年3月11日
か	16	2		宮座	徳道・ 禪林	[金・米代受取証]	
か	16	3		宮座	徳道・ 禪林	覚(金子受取につき)	丑11月6日
か	17	1		宮座	十番	御調ニ付断書(寺社改につき書付差上げ控)	寛政5年4月
か	17	2		宮座	十番	[庄中社寺は番頭名主支配につき一札写]	元禄9年2月
か	18			宮座	番頭	十番頭并社僧願書下書(春日粟田松代王子十番頭支配の旨仰せ付け願ひ)	卯7月
か	19			宮座	春日	乍恐奉願上候以上(春日社は先例通私家支配・金剛院身上不宜)	(近世後期)

群名	番号	枝番1	枝番2	項目	項2	標題	年月日
						退院仰付願)	
か	20			宮座	春日	糺(春日社金剛院につき願書へのお尋ねと返答書状控)	(慶応3年12月)
か	21			宮座	春日	春日金剛院什物帳 写し(義運追放之節)	天保14年正月25日
か	22			宮座	春日	春日社別当より什物帳面一条ニ付及出願候 右答書之写し	安政3年8月
か	23			宮座	十番	春日由来記 控	文化4年8月
か	24			宮座	春日	糺(春日社金剛院につき願書へのお尋ねと返答書状控)	慶応3年12月
か	25			宮座	年々	春日大明神鐘鐺入目帳 三上庄大野之郷	明暦4年7月吉日
か	26			宮座	年々	申ノ年諸色請私目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	寛文9年正月20日
か	27			宮座	年々	酉之年諸色請私目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	天和元年正月20日
か	28			宮座	年々	春日大明神子ノ年諸色請私目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	元禄10年正月20日
か	29	1		宮座	年々	春日大明神丑年諸色請私目録 海士郡大野庄輪番中	元禄11年正月(20日)
か	29	2		宮座	年々	請取申米之事	(元禄11年)丑11月20日
か	30			宮座	年々	春日大明神寅ノ年諸色請私目録 名草郡三上庄大野郷輪番中	元禄12年正月20日
か	31			宮座	年々	春日大明神申之年諸色請私目録 輪番中	宝永2年正月20日
か	32			宮座	年々	春日大明神戌年諸色請私目録 大野庄輪番中	宝永4年正月(20日か)
か	33			宮座	年々	春日大明神寅諸色請私目録 大野庄輪番中	宝永8年正月20日
か	34			宮座	年々	春日大明神辰年諸色請私目録 海士郡三上ノ庄大野郷輪番中	正徳3年正月(20日)
か	35			宮座	年々	春日大明神申諸色請私目録 大野庄輪番中	享保2年正月20日
か	36			宮座	年々	春日大明神酉諸色請私目録 大野庄輪番中	享保3年12月朔日
か	37			宮座	年々	春日大明神丑年諸色請私目録 大野庄輪番中	享保7年正月20日
か	38			宮座	年々	春日大明神丑歳諸色請私目録 大野庄輪番中	享保19年正月20日
か	39			宮座	年々	春日大明神辰年諸色請私目録 大野庄輪番中	元文2年孟春吉祥日
か	40			宮座	年々	春日大明神巳年諸色請私目録 大野庄輪番中	元文3年孟春吉祥日
か	41			宮座	年々	春日大明神午年諸色請私目録 大野庄輪番中	元文4年孟春吉祥日
か	42	1		宮座	年々	春日大明神未年諸色請私目録 大野庄輪番中	元文5年孟春吉祥日
か	42	2		宮座	田地	寛(大明神神田へ預り証)	享保11年2月
か	43			宮座	年々	春日大明神申年諸色請私目録 大野庄輪番中	元文6年孟春吉祥日
か	44			宮座	年々	春日大明神戌年諸色請私目録 大野庄輪番中	寛保3年孟春吉祥日
か	45			宮座	年々	春日大明神亥年諸色請私目録 大野庄輪番中	寛保4年玉春吉祥日
か	46			宮座	年々	春日大明神子年諸色請私目録 大野庄輪番中	延享2年正月吉祥日
か	47			宮座	年々	春日大明神寅年諸色請私目録 小野郷三上庄	延享4年正月吉日
か	48			宮座	年々	春日大明神卯年諸色請私目録 小野郷三上庄輪番中	延享5年孟春吉祥日
か	49			宮座	年々	春日大明神辰年諸色請私目録 小野郷三上庄輪番中	寛延2年孟春吉祥日
か	50			宮座	年々	春日大明神寅諸色請私目録 大野三上庄輪番中	宝暦8年孟春吉祥日
か	51			宮座	年々	三上山春日大明神 天明四辰年中諸色請私目録 大野庄輪番中	(天明5年正月20日か)
か	52			宮座	年々	三上山春日大明神 文化元子年諸色諸(諸の誤か)私目録 大	(文化2年正月20日か)

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
						野庄輪番中	
か	53			宮座	年々	春日大明神申年諸色請払目録	文化10年正月20日
か	54			宮座	年々	春日大明神巳辰年諸色請払目録 輪番中	文政3年己辰正月20日
か	55			宮座	年々	春日大明神酉歳諸色請払目録	文政8年12月吉日
か	56			宮座	年々	春日粟田諸色入用目録帳 兩社支配人当番中	弘化5年正月吉日
か	57			宮座	年々	子ノ年分 御春日様御山手米覚	寛永14年正月20日
か	58			宮座	年々	萬弘之覚 *寛永16年分	(寛永17年12月か)
か	59			宮座	年々	丑ノ年分 御春日大明神様万請取払目録	慶安3年正月20日
か	60			宮座	年々	春日大明神様戌ノ年目録	万治2年正月20日
か	61			宮座	年々	春日大明神様亥ノ年目録	万治3年正月20日
か	62			宮座	年々	春日大明神様巳之目録	寛文6年正月20日
か	63			宮座	年々	春日大明神様午ノ年目録	寛文7年正月
か	64			宮座	番頭	就御尋申上候(春日上下明神願筋昔より番当支配人并別当連印を村方取継差上の旨返答書)	申ノ3月
か	65			宮座	番頭	乍恐奉願上候口上(春日社境内松茸山のこと他につき私支配の旨仰付願い)	酉9月(近世後期)
か	66			宮座	他支	口上覚(有徳院様御寄附の絵馬焼失につき)	寛政5年正月
か	67			宮座	他支	請取覚(銀子請取)	(卯ノ正月20日請取)
か	68			宮座	木伐	以書付奉願口上(春日粟田兩所修復入用木に上宮境内山木被下置願)	丑2月
か	69			宮座	木伐	[大鳥居修復入用木ニ境内立枯木下置願]	(天保6年)未3月
か	70			宮座	木伐	覚(春日大明神建立につき)	正保4年霜月6日
か	71			宮座	木伐	奉願上口上(境内立枯木下ノ宮修復入用に下置の旨)	天保13年3月
か	72			宮座	番頭	奉願候口上(番頭稲井与兵衛名主鳥居浦甚右衛門勝手仕迷惑につき)	(宝暦元年)未12月
か	73			宮座	田畑	永代売渡申田地之事	延宝5年2月11日
か	74			宮座	十番	定(番頭名主養子相続認め旨)	寛永13年正月20日
か	75			宮座	木伐	預り申御春日山之事(伐木下草荒取り等見張りにつき)	承応4年正月20日
か	76			宮座	木伐	奉願候口上(春日明神山松木売払のため数度に分け伐り度願)	(享保20年)卯6月
か	77			宮座	木伐	以書付奉願候(下宮鳥居立直しにつき春日山木被下候様)	(享保4年)亥ノ11月
か	78			宮座	春日	乍恐以書付奉願上候口上(金剛院無住につき岡田村神宮寺へ寺務兼帯仰付願い)	嘉永3年6月
か	79			宮座	他支	[春日明神支配人願い不済の旨の文書返下しにつき]	閏3月5日
か	80			宮座	木伐	奉願松木之事(春日山松枯木春日明神御湯薪に被下度旨)	(享保18年)丑6月
か	81			宮座	木伐	奉願口上(檜材春日社修復料に御貢上被成下度につき)	8月
か	82			宮座	番頭	追而奉願口上(稲井与兵衛勝手迷惑の件追訴につき)	(宝暦2年)申10月
か	83			宮座	番頭	[春日明神修繕のため氏子銭集依頼につき廻状]	5月9日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
か	84			宮座	番頭	乍恐以書付申上候（春日社寺社御役所直支配に被仰付被下度き願いの旨寺社奉行所尋ねへの返答につき）	天保12年3月
か	85			宮座	木伐	覚（木出し之節地面損料御下げ願）	戊10月
か	86			宮座	其他	〔兩社石灯笼銘写し〕 *重複	
か	86			尾崎家	信仰	〔兩社石灯笼銘写し〕 *重複	
か	87			宮座	春日	一札之事（此度春日大明神之巫ニ罷成候につき）	享保8年5月
か	88			宮座	禪林	御尋ニ付口上（禪林寺番当支配や否やにつき）	（享保6年）丑3月
か	89			宮座	禪林	大野之庄三上郷幡川村禪林寺什物虫干延引并修理破損入用之儀ニ付庄内番頭名主中幡川村寺家中と年来及靜論候処ニ此度双方致和談出入済証文之事	（元禄16年未4月）
か	89			宮座	禪林	①乍恐奉願候（春日番頭へ禪林寺虫干立合と割符錢等出仰付の旨）	（元禄16年）未ノ3月
か	89			宮座	禪林	②〔訴えの件につき郡奉行から仰せ聞かせられた事承知につき一札〕	元禄16年4月
か	90			宮座	年々	午ノ年分 御春日様萬請取払目録	寛永20年正月20日
か	91			宮座	年々	□□（破損・未ノか）年分兩宮様萬請取払目録	寛永21年正月20日
か	92			宮座	年々	子ノ年分 御春日大明神様萬請取払目録	慶安2年正月20日
か	93			宮座	田畑	本銀返シ証文之事（春日明神所持田地につき）	享保13年11月
か	94			宮座	年々	借添申銀子之事（春日明神様御用につき）	享保10年7月
か	95			宮座	他支	覚（春日境内松茸山当年分売上代銀受取）	8月18日
か	96			宮座	禪林	奉願口上（禪林寺住持の匱替につき御吟味願）	（正徳6年）申ノ4月5日
か	97			宮座	徳道	請状之事（僧教伝井田村徳道院住持に御待につき）	元禄12年霜月17日
か	98			宮座	木伐	奉願口上覚（春日明神境内枯木瑞垣入用并御湯木に下置願）	安永7年4月
か	99			宮座	木伐	以書付申上候（境内倒木にて春日社破損所繕仕度につき）	（宝永5年）子閏正月朔日
か	100			宮座	年々	覚（春日明神御入用取かえ銀子勘定）	享保12年正月
か	101			宮座	田畑	覚（田地春日かねつき免にもらいお断につき仰上願）	亥ノ正月26日
か	102			宮座	番頭・木伐	〔粟田社鳥居破損立替にともなり春日山神木過伐採につき吟味願い〕	未12月
か	103			宮座	木伐	奉願候口上（春日社松木売払いにつき日方浦での御口銀御免被為成下度）	（享保20年）卯12月
か	104			宮座	田畑	讓状証文之事（田地につき） *春日宮金剛院御支配衆中あて	天明8年5月
か	105			宮座	番頭	御尋ニ付申上候（直支配後番頭取継を以諸事御願申上候義名主仲間差支候とはいか様とのお尋につき返答書）	申2月
か	106			宮座	春日	請状之事（金剛院住持通玄につき）	享保6年9月

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
か	107			宮座	徳道	〔桂岩徳道院後住就任にともなう諸文書写〕→以下詳細	(正徳4年3月)
か	107			宮座	徳道	①一札之事(桂岩寺請)	正徳4年3月
か	107			宮座	徳道	②請状之事(桂岩徳道院住持御請待につき)	正徳4年3月
か	108			宮座	春日	奉願口上覚(金剛院後住に多田村神宮寺泰原僧請待仕度につき)	天明7年正月
か	109			宮座	禪林	口上(禪林寺宝物等相改吟味仰付願いにつき)	(享保2年)西ノ2月
か	110			宮座	禪林	奉願口上(禪林寺宝物改願い)	(享保4年)亥11月
か	111			宮座	木伐	奉願口上覚(金剛院消失につき再建仕度社木枯木下置願)	(安永8年)亥9月
か	112			宮座	木伐	乍恐奉願口上覚(境内立枯木下置再願)	亥10月
か	113			宮座	年々	覚(春日明神へ取かへ銀子受取)	享保11年7月27日
か	114			宮座	番頭	追而奉願候(稻井与兵衛一件不済につき御料簡願い)	(宝暦3年)西3月
か	115			宮座	木伐	奉願口上覚(春日明神境内立枯木玉垣修復入用木に下置願)	文政10年3月
か	116			宮座	木伐	奉願口上覚(金剛院消失につき再建仕度社木枯木下置願)	(安永8年)亥9月
か	117			宮座	田畑	譲証文之事(田地につき) *大野中村金剛院あて	安永10年正月
か	118			宮座	田畑	譲渡申田地証文之事 *春日寺あて	安永6年8月
か	119			宮座	田地	覚(鏡突免田地預り作の旨)	享保5年2月
か	120			宮座	木伐	受取申松楠槍之事(春日社境内山立枯木修復用に下置候につき)	(文政10年頃か)
か	121			宮座	徳道	〔粟田明神別当徳道院後住之義願い延引につき双方和談の旨届書控〕	
か	122			宮座	木伐	〔春日社境内立枯木上ノ宮やね修復入用に下置再願〕	
か	123			宮座	番頭	〔金剛院と出入りにつき取懸の春日社普請差控申付達〕	2月15日
か	123			宮座	春日	〔金剛院と出入りにつき取懸の春日社普請差控申付達〕	2月15日
か	124			宮座	年々	御春日様あんちやつだんまわり作事ノ覚	寛永12年極月28日
か	125			宮座	春日	以書附奉願候(金剛院無住に付那賀郡森村毘沙門住僧請待仕度につき)	西ノ3月
か	126			宮座	中世	〔禪林寺領地につき大野十番頭契状写〕	文明5年11月27日
か	127			宮座	年々	戌年分御春日様山手ノ出入覚	寛永11年極月29日
か	128			宮座	年々	御春日様御山手ノ米出入之覚	寛永12年極月28日
か	129			宮座	年々	巳ノ年分御春日様萬請取払目録	寛永19年正月20日
か	130			宮座	年々	御春日様之銀請取払方目録	正保2年正月20日
か	131			宮座	年々	御春日様萬請取払方目録	正保3年正月20日
か	132			宮座	年々	御春日様萬請取払方	正保4年正月20日
か	133			宮座	年々	御春日様萬小入用	慶安4年12月
か	134			宮座	年々	御春日大明神様萬目録次第	承応2年正月20日
か	135			宮座	年々	午ノ年分 御春日大明神様萬請取払目録	承応3年正月
か	136			宮座	年々	春日大明神様西ノ目録	明暦4年正月
か	137			宮座	年々	春日大明神様子ノ年目録	万治4年正月20日
か	138			宮座	年々	春日大明神様寅之目録	寛文3年正月20日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
か	139			宮座	年々	春日大明神様卯之目録	寛文4年正月20日
か	140			宮座	年々	春日大明神様辰之目録	寛文5年正月20日
か	141			宮座	年々	春日大明神様巳年弘目録	午ノ正月20日
か	142			宮座	年々	萬弘覚	卯正月26日
か	143			宮座	年々	御春日大明神御上ふきノ目録	慶安4年9月25日
か	144			宮座	番頭	御断申上候(春日両社願筋両別当名印彫除につき御断書雛型)	戌3月
か	145			宮座	木伐	以書付奉願候(下宮殿屋破損并屋根替替仕度春日山松木お下げ願)	辰3月(享保9年か)
か	146			宮座	木伐	書付を以奉願候(下ノ宮座ねふき替・社引直申度につき)	(正徳4年)午8月
か	147			宮座	田地	以書付御断申上候(お尋につき春日明神地見取田書上)	(享保6年)7月(18日)
か	148			宮座	木伐	奉願候口上(借銀返済のため下され春日山立木に木印入置願)	(享保19年)寅極月
か	149			宮座	木伐	請取申松木之事(春日明神下ノ宮島居立直入用につき)	亥9月
か	150			宮座	禪林	覚(什物八祖八幅預り証)	文化元年6月12日
か	151			宮座	田畑	頼母子仲間へ買物ニ差入申証文之事(春日田地)	享保11年7月
か	152	1		宮座	年々	寅御年貢通(井田村下之宮分)	天明2年霜月
か	152	2		宮座	年々	寅御年貢通(春日地)	天明2年極月
か	152	3		宮座	年々	寅ノ御年貢納通(春日地)	天明2年
か	152	4		宮座	年々	寅之御年貢通(春日地)	天明2年霜月
か	152	5		宮座	年々	覚(寅年貢皆済につき)	天明2年極月27日
か	153			宮座	禪林	奉願口上(禪林寺我儘いたし当番中へ不届に付届仰付願)	(享保6年)丑3月
か	154			宮座	木伐	[春日社願絵伐渡し御用に明八日罷越旨一札]	9月7日
か	155			宮座	木伐	[久之丞春日社御制木背伐につき代官所より答申渡書]	11月26日(弘化3~嘉永2年の間)
か	156			宮座	木伐	[春日社境内絵浜出し出来候や伺い書状]	9月12日(近世中期以降)
か	157			宮座	木伐	[春日社願絵伐り方相済早々根伐取につき一札]	9月7日(近世中期以降)
か	158			宮座	木伐	[春日山立木背伐一件につき申上書]	辰8月(近世後期)
か	159			宮座	木伐	請取申松木之事(春日山枯木につき)	(享保18年)丑10月(5日)
か	160	1		宮座	春日	[社僧義運等入纏一件書付見合度につき書付差出可申旨書状]	亥3月(天保10年か)
か	160	1		宮座	春日	(写し①) 請状(金剛院住持義運につき)	天保2年3月
か	160	1		宮座	春日	(写し②) 就住職僧請之事(弟子義運義絶取消につき)	天保2年3月
か	160	2		宮座	木伐	覚(木見分御入用金)	戌9月日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
か	161			宮座	木伐	乍恐奉願口上覚(春日明神山石取場所外地へ仕度につき)	文政7年閏8月
か	162			宮座	禅林	乍恐申上候(禅林寺持物改仰付願いにつき)	延宝5年極月
か	163			宮座	春日	[春日社別当金剛院後住の願書願意齋館につき返却一札]	7月25日(嘉永3年頃か)
か	164			宮座	春日	就切支丹御改一札之事(今度春日金剛院住職仕につき)	文化9年霜月
か	165			宮座	十番	定写(番頭名主養子相統認めにつき)	寛延2年正月
か	166			宮座	田畑	永代売渡中山地之事(春日明神鑑めんへ)	万治2年正月20日
か	167			宮座	年々	覚(春日畑米代受取)	子11月16日
か	168			宮座	春日	乍恐以書付奉願上候口上(金剛院無住につき岡田村神宮寺江寺務兼帯仰付願い)	嘉永3年6月
か	169			宮座	春日	宗旨請之事(弟子金剛院へ置につき)	元文元年12月
か	170			宮座	徳道	以書付御断申上候(徳道院住に桂岩請待仕度願書)	(正徳4年)午3月
か	171			宮座	田畑	譲証文之事(田地) *大野中村金剛院あて	安永10年正月
か	172			宮座	他支	[春日支配人願書もどされ候につき文書送状]	12月大晦日
か	173			宮座	番頭	[明神氏子銭不承引に付日方村庄屋又五郎宛書状写] →以下詳細	
か	173			宮座	番頭	①[明神氏子銭集お世話願書状写]	6月15日
か	173			宮座	番頭	②[明神氏子銭日方村のみ不集めにつき書状写]	6月24日
か	173			宮座	番頭	③[明神氏子銭日方村のみ不同心につき再書状写]	7月30日
か	173			宮座	番頭	④[明神氏子銭日方村不承引の旨についての御報を求める書状写]	8月14日
か	173			宮座	番頭	⑤[明神氏子銭不得心の旨日方村よりの御報への返書状写]	8月18日
か	173			宮座	番頭	⑥[明神氏子銭不得心につき日方村は氏子や否尋書状写]	9月6日
か	173			宮座	番頭	⑦[明神氏子銭不得心の旨につき日方村意見の御報を求める書状写]	9月10日
か	174			宮座	田畑	本銀返シ証文之事(春日明神畑に売上につき)	享保8年極月
か	175			宮座	田畑	覚(所持田地春日社永代常夜燈料に差上につき)	天明4年12月
か	176			宮座	田畑	永代売渡申畑之事(春日様へ)	延宝2年11月6日
か	177			宮座	春日	請状之事(金剛院住持栄賢につき)	文化9年11月
か	178			宮座	木伐	奉願松木之事(下之宮島居立直木春日山内より下され度旨)	亥ノ6月(享保4年か)
か	179			宮座	田畑	本銀返シ証文之事(春日明神畑に売上)	享保8年極月
か	180			宮座	春日	奉願口上(義連追放につき身附之品々御下ケ被成下候様仕度につき)	卯8月(天保14年)
か	181			宮座	年々	未之御年貢通(春日地)	天明7年霜月
か	182			宮座	徳道	[徳道院之儀に付是迄之致方委細書付達す可き旨一札]	閏3月朔日(天保元年か)
か	183			宮座	春日	[金剛院留守居置先住義運身付の品御下ケ願の成行につき一札]	9月28日(天保14年以

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
							降)
か	184			宮座	他支	口上(春日社鐘突・掃除等諸役引受につき)	正徳5年3月
か	185			宮座	田畑	永代禿渡シ申知之事 *御春日番頭衆中あて	延宝3年12月
か	186			宮座	年々	丑御年貢納通(徳道院分)	丑ノ極月17日
か	187			宮座	年々	丑御歳貢通(井田下之宮分)	明和6年霜月
か	188			宮座	年々	覚(春日新田年貢)	西7月1日
か	189			宮座	田地	一札之事(春日明神へ下置の新田開作につき)	天和2年5月19日
か	190			宮座	其他	春日鐘銘	
か	191			宮座	田畑	覚(我等所持之田地春日明神へ永代常夜燈料に指上につき)	天明5年12月
か	192			宮座	春日	奉願覚(多田村神宮寺住持真龍を金剛院後住に仕度につき)	(元文元年)辰12月
か	193			宮座	禪林	覚(什物預り証)	(享保11年)午ノ2月 13日
か	194			宮座	番頭	金剛院へ張紙之事・庄内之明神へ庄外より指出如何と可申やの事(支配輪番に関し御料簡願)	申9月(近世中期以降)
か	195			宮座	徳道	[徳道院後住願延引の儀御札につき返答書]	卯5月29日
か	196			宮座	禪林	[禪林寺宝物改につき御吟味願]	(享保5年)亥ノ11月
か	197			宮座	木伐	奉願松木之事(春日山枯木春日明神御湯薪に下置願)	(享保18年)丑6月
か	198			宮座	春日	請状一札之事(真龍金剛院へ入院につき)	元文元年極月
か	199			宮座	他支	[両明神殺生禁御制札建替願につき下地御制札評定所に差出様御勘定奉行より申来候旨達]	10月18日(近世中期以降)
か	200			宮座	田畑	永代禿渡申畑之事(春日明神へ)	延宝5年2月11日
か	201			宮座	木伐	御調ニ付有駄奉申上候(春日社境内小木無届心得違根伐の差因仕件につき)	辰12月(近世後期)
か	202			宮座	十番	定(宮座名跡養子仕・絶家名跡仲間取立等につき)	享保2年正月
か	203			宮座	中世	紀伊国名草郡大野庄三上郷於春日粟田両大明神座配之事(写)(出席なきは空座たるべき旨)	文亀3年6月日
か	204			宮座	其他	春日社敷石彫附有之写 *重複	(銘は 明和元申年)
か	204			尾崎家	信仰	春日社敷石彫附有之写 *重複	(銘は 明和元申年)
か	205			宮座	真言	[廻状付紙](寺継へは加印断につき)	
か	206			宮座	徳道	[徳道院支配につき禪林寺と尾崎出入留書]→以下詳細	
か	206			宮座	徳道	①[先年通り所持仕度旨申上]	丑2月
か	206			宮座	徳道	②[以書付奉願上候(末寺徳道院支配お糺し願)]	寅3月(文政13年か)
か	206			宮座	徳道	③[徳道院之儀に付是迄之致方委細書付早々可達旨一札]	閏3月朔日(文政13年か)
か	206			宮座	徳道	④口上覚(枠は徳道院留守に参っているが騒敷義はない旨)	閏3月4日(文政13年か)
か	207			其他	大野	城山普請請私控(城山屋敷築坪普請)	延宝9年7月朔日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
か	208			宮座	番頭	御尋ニ付申上候(番頭と穀屋坊主の出入一件につき)	天保13年6月
か	209			宮座	十番	奉申上春日明神由緒	(天保13年頃か)
か	210			宮座	木伐	大野庄春日山永代護摩講(社屋根葺替のため)	享保11年6月
か	211			宮座	木伐	春日社木願留控	弘化4年4月ヨリ
か	211			宮座	木伐	①奉願口上(境内立枯木修復用にお下げ願)	未4月(弘化4年)
か	211			宮座	木伐	②寛(春日境内立枯木修復用にお下げ願)	未4月(弘化4年)
か	212			宮座	禪林	茶師再興奉加帳	貞享5年9月日
か	213			宮座	其他	[春日大明神軸]	
き	1			久豊寺	近世	久豊寺建立之次第書 *内容は元文元~宝暦13年のこと	弘化4年2月上旬(写)
き	2			久豊寺	明治	久豊寺什物簿	明治10年6月(20日改)
き	3			久豊寺	近世	久豊寺江田畑寄附証文之事	延享2年3月
き	4			久豊寺	近世	久豊寺之儀ニ付恵運寺より願出候控(久豊寺が治左衛門持庵か否か出入一件)	弘化4年8月
き	5			久豊寺	近世	久豊寺より願出之写 同時答書差出之案文添(久豊寺所持出入に付)	弘化4年
き	6			久豊寺	近世	至聖山校割牒(什物簿)	延享4年2月吉祥日(改)
き	7			其他	大名	[藤堂和泉守より書簡のお礼書状] *元昉和尚あて	2月9日
き	8			悲田院		[年始御嘉詞へお礼書状]	2月3日
き	9			尾崎家	信仰	扱彼(真百につき)	
き	10			久豊寺	近世	[久豊寺建立当山末寺に属され候段につき一札]	宝暦9年7月
き	11			久豊寺	近世	[久豊寺建立当山末寺に属され候段につき一札]	宝暦9年7月
き	12			久豊寺	明治	証(久豊寺よりの中教院用途金十年分請取りにつき)	11年2月22日(明治)
き	13			久豊寺	明治	久豊寺明治十年丑一月分地税入費下作取上差引控	明治10年7月~11年5月迄
き	14			尾崎家	其他	地藏尊縁起 *盗難よけ地藏	
き	15			尾崎家	信仰	寛(供養寄付金請取りにつき)	享保12年7月
き	16			久豊寺	近世	[久豊寺建立当山末寺に属され候段につき一札写し]	宝暦9年7月
き	17			久豊寺	明治	証(金銭請取りにつき) *中教院出納課より	3月7日(近代)
き	18			久豊寺	明治	証(大教院半納分請取りにつき)	11年6月7日(近代)
き	19			久豊寺	明治	日記(久豊寺堂宇売却につき)	(明治18年7月5日以降)
き	20			久豊寺	近世	乍恐御答奉申上候(久豊寺持庵出入一件につき)	寅5月(天保13年カ)
き	21			久豊寺	近世	祠堂銀請状之事(梅嶺院日供料として)	文化11年5月
き	22			久豊寺	近世	[封紙] *「詞堂証文」久宝寺	
き	23			久豊寺	明治	祠堂銭請状之事(至聖院日供料として)	明治7年6月
き	24			久豊寺	近世	[久豊寺跋山へ寄附一件につき跋山願書并口上書写し](尾崎治)	(宝暦10年辰)・7月23

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
						左衛門と跋山の言い分違ひお尋ねのため)	日
き	24			久豊寺	近世	(跋山口上写①) 奉願口上覚 (久豊寺譲請度旨)	宝暦10年6月
き	24			久豊寺	近世	(跋山口上写②) 口上 (双方願相違対談の上)	宝暦10年6月
き	25			宮座	徳道	以書附奉願上候 (末寺徳道院留主居不法につき)	寅3月 (天保13年か)
き	26			尾崎家	信仰	[了法寺へ永代灯明寄附の孝]	享保12年7月
き	27			尾崎家	信仰	覚 (真鏡妙蓮信尼永代回向料受給につき)	享保12年12月
き	28			久豊寺	近世	一札之事 (妙智庵観音堂譲り渡しにつき)	元文元年10月
き	29			尾崎家	信仰	[自庵大喜寺繕い取建願]	(寛文12年) 予ノ1月
き	30			尾崎家	信仰	添手形之事 (附田畑売りにつき大喜寺の号は譲らぬ事)	貞享4年5月
き	31			久豊寺	近世	久豊寺建立次第	
き	32			久豊寺	明治	[久豊寺租税収納書一括]	明治11年~同13年
き	33			尾崎家	古文	[所蔵古文書書上げ]	(近代)
き	34			悲田院		[飛騨守への寒中見舞いお礼書状]	正月15日
き	35			久豊寺	明治	記 (不納分皆納につき) * 泉曹洞宗務支局出納課より	17年2月7日
き	36			久豊寺	明治	[建物畷代他恵運寺羅漢寺渡に関する金銭書上げ覚]	(20年3月3日の記述あり)
き	37			久豊寺	近世	久豊寺什物改帳	文政4年8月 (交代)
き	38			久豊寺	明治	記 (阿本山入費内へ金銭納につき)	8月21(28か)日
き	39			久豊寺	明治	[久豊寺合併につきうかがい書下書き]	明治18年12月18日
き	40			尾崎家	信仰	[御子息得度の件につき書状]	臘月12日
き	41			久豊寺	明治	御請 (久豊寺恵運寺へ合併につき)	(近代)
き	42			久豊寺	近世	久豊寺之儀御尋ニ付申上口上 (治左衛門言い分に対し返答)	申3月
き	43			久豊寺	近世	奉願口上上 (年貢の為差上銀利米の件で久豊寺跋山より証文取戻し願写)	戌9月
き	44	1		久豊寺	近世	久豊寺諸願之控 (興行・所持地売り払い他につき) → 詳細以下	天保4年5月~ (内容合わず)
き	44	1		久豊寺	近世	① 乍恐以書附奉願上候 (修復のため寺境内にて軽業興行願)	天保7年4月
き	44	1		久豊寺	近世	② 乍恐奉願上候 (修復のため寺境内にて軽業興行願)	(天保7年) 申5月
き	44	1		久豊寺	近世	③ 乍恐以書附奉願上候 (寺境内軽業興行へ役人廻り願)	(天保7年) 申7月22日
き	44	1		久豊寺	近世	④ 以書付奉願上候 (寺境内にて軽業興行中直お届け願)	(天保7年) 申7月24日
き	44	1		久豊寺	近世	⑤ 乍恐奉願上候 (修復のため寺境内にて軽業興行願)	天保7年7月
き	44	1		久豊寺	近世	⑥ 以書附奉願上候 (修復のため寺境内にて軽業興行願)	天保7年9月4日
き	44	1		久豊寺	近世	⑦ 奉申上口上覚 (久豊寺所持田地売払い一件調につき)	天保13年2月
き	44	1		久豊寺	近世	⑧ 奉願口上上覚 (隠居願控)	天保12年
き	44	1		久豊寺	近世	⑨ 乍恐御答旁奉願上候 (雲涯寄附田地勝手売払い・隠居願不加判一件につき)	天保13年2月
き	44	2		久豊寺	近世	久豊寺一件願書控 (雲涯勝手一件につき)	(天保12年・13年)

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
き	44	2		久豊寺	近世	①内存奉願口上(売田地取り戻し仰せ付願)	天保12年12月
き	44	2		久豊寺	近世	②乍恐奉願口上(久豊寺本寺替り一件お調べ願)	天保13年2月
き	45	1		久豊寺	明治	売渡地(元久豊寺所合(ママ)地合寺恵運寺所有地につき)	(近代)
き	45	2		久豊寺	明治	記(本堂・庫裡他売却金書上げ)	(近代)
き	46			久豊寺	近世	久豊寺願書控	弘化3年5月
き	46			久豊寺	近世	①乍恐奉願上口上(後住につき)	(弘化3年)午5月
き	46			久豊寺	近世	②乍恐内存奉願上口上(寺附金恵運寺より引き上げ願)	(弘化3年)午10月
き	46			久豊寺	近世	③乍恐名存奉願上口上(寄附田地勝手売渡に付取戻し願)	弘化3年10月
き	47			久豊寺	明治	買請証(久豊寺買い請けにつき)	明治19年7月5日
き	48			久豊寺	明治	久豊寺諸入用控	明治10年7月(～13年3月迄)
き	49			久豊寺	明治	記(久豊寺分取替金書上げ)	(明治)13年7月7日
き	50			久豊寺	明治	久豊寺田畑売払立ニ付入費左記ス	明治23年(3月～11月)
き	51			久豊寺	明治	[久豊寺取替分につき過不足計算報告依頼]	(明治)
き	52			久豊寺	明治	証(大法院資本金へ納につき)	明治10年9月2日
き	53			尾崎家	土地	[新畑御証文地の旨下紙の覚]	(文政2年2月以降)
き	54			久豊寺	明治	[袋] *尾崎より久豊寺へ地所寄進書類入、今中身なし	近代
き	55			久豊寺	近世	乍恐一ツ書を以尾崎次左衛門より願出候件々之訳柄奉申上覚 (久豊寺持庵出入り一件につき写) *添文書あり	
き	56			久豊寺	近世	延享二丑年二月和尚江渡ス写シ 延享二丑年二月寺掟書 宝暦 十二年午九月八日和尚へ渡ス写シ	延享2年2月・宝暦12 年9月8日
き	56			久豊寺	近世	①覚(掟書認置事につき)	延享2年2月
き	56			久豊寺	近世	②掟之覚(久豊寺支配に関し)	延享2年2月
き	56			久豊寺	近世	③覚(久豊寺開基につき)	宝暦12年9月
き	57			久豊寺	近世	乍恐御答奉申上口上(久豊寺下作米他の出入り一件につき)	未12月
き	58			久豊寺	明治	記(区村入費納め依頼) *久鳳寺あて	明治11年7月
き	59			久豊寺	明治	記(地価割税納め依頼) *久豊寺あて	明治12年6月
き	60			久豊寺	近世	乍恐一ツ書を以尾崎次左衛門より願出候件之訳柄奉申上候覚 (久豊寺持庵出入り一件につき)	
き	61	1		久豊寺	明治	[久豊寺を本寺恵運寺へ合併・地所売払金等保管につき手続書 控]	明治24年7月9日
き	61	2		久豊寺	明治	預り証(久豊寺堂宇売却金預りにつき)	明治24年8月日
き	62			尾崎家	信仰	[奉願上口上写し送り一札](万念寺他へ譲り渡しにつき)	(文久2年)3月28日
き	62			尾崎家	信仰	①(内容)奉願上口上(永正寺末万念寺他へ譲り渡しにつ き)	(文久2年)戊正月
き	62			尾崎家	信仰	②(付紙)[譲り渡し後方丈様への挨拶につき書状写し]	文久2年3月27日

群名	番号	技番1	技番2	項目	項2	標題	年月日
き	63			久豊寺	明治	[久豊寺合併出願をねがう書状]	12月20日(明治)
き	64			久豊寺	明治	日鑑 久豊寺件々在中(合併につき)	明治18年12月
き	65			尾崎家	信仰	[各寺門跡書上げ]	
き	66			久豊寺	近世	掟之覚(久豊寺支配につき)	延享2年2月
き	67			尾崎家	信仰	[梵字読み方覚書]	
き	68			久豊寺	明治	記(地価掛り協議費・凶荒予備費納め依頼) *久豊寺宛	明治13年2月日
き	69			久豊寺	明治	記(中教院への納金依頼) *久豊寺あて	明治10年
き	70			久豊寺	明治	議定書(日方洞池之谷大龍精舎大破に付仏像・宝塔等を久豊寺へ合鉢の旨)	(明治4年)
き	71			久豊寺	昭和	訴状(久豊寺所有権確認及び所有権保存登記抹消登記手続き請求事件写)	昭和33年9月日
き	72			久豊寺	近世	答書(尾崎治左衛門久豊寺を持庵と申上の趣御答申上候口上覚)	
き	72			久豊寺	近世	①(写1)寺送り一札之事(尾崎道悦家旦那替につき)	明和3年3月
き	72			久豊寺	近世	②(写2)[尾崎道悦死去時一件につき]	3月3日~5日
き	72			久豊寺	近世	③(写3)[道悦葬式動願状]	3月5日
き	72			久豊寺	近世	④(写4)了法寺より別紙左之通(葬式墓所の件)	3月4日
き	72			久豊寺	近世	⑤(写5)尾崎治左衛門殿江返答左之通(同上)	3月5日
き	72			久豊寺	近世	⑥(写6)[久豊葬式一件につき]	3月5日七ツ時
き	72			久豊寺	近世	⑦(写7)[忌中見舞進上につき]	3月10日
き	72			久豊寺	近世	⑧(写8)送り一札之事(治左衛門一家当寺旦那へ送りにつき)	享和3年正月
き	72			久豊寺	近世	⑨(写9)一札之事(治左衛門掃壇にあたり)	亥3月
き	73			宮座	観音	乍恐以書付申上候(村名主へ観音寺留主居出し仰付願)	西ノ3月
き	74			悲田院		[年賀祝詞礼状] *差出は飛騨守家来か	正月22日
き	75			悲田院		[細川主税頭より悔状への礼状]	12月13日(正徳4年か)
き	76			久豊寺	近世	内存奉願口上(久豊寺雲涯勝手田地売払につき取り戻し願ひ)	丑12月(天保12年か)
き	77			尾崎家	信仰	[金剛寿命陀羅尼他陀羅尼真言写し]	
き	78			久豊寺	昭和	祭文(久豊寺再建にあたり)	昭和38年5月12日
き	79			久豊寺	昭和	慶讃文(久豊寺再建にあたり)	昭和38年5月12日
き	80			久豊寺	昭和	祝辞(久豊寺再建にあたり)	昭和38年5月12日
き	81			久豊寺	昭和	上(祝賀金目録)	(昭和38年5月12日)
き	82			久豊寺	昭和	祝表上(祝賀金目録)	(昭和38年5月12日)
き	83			久豊寺	昭和	入仏式費用	昭和38年5月13日
き	84			久豊寺	昭和	行列願除・入堂行事願除	昭和38年5月12日
き	85			久豊寺	昭和	祭文(久豊寺再建にあたり)	昭和38年5月12日
き	86			久豊寺	昭和	入仏式稚児行列人員	昭和38年5月12日
き	87			久豊寺	昭和	[入仏式挨拶文]	(昭和38年5月12日)

群名	番号	枝番1	枝番2	項目	項2	標題	年月日
き	88			久豊寺	昭和	至聖山久豊寺入仏式招待者人名録并ニ御供物控	昭和38年5月12日
き	89			久豊寺	昭和	役割(久豊寺入仏式につき)	(昭和38年5月12日)
き	90			尾崎家	其他	喜久寿会南の浜会員証発行控	(昭和)41年5月29日
き	91			久豊寺	昭和	[久豊寺入仏式への参詣を伝える手紙]	昭和38年5月8日
き	92			久豊寺	昭和	【久豊寺入仏式につき道路使用許可申請書類綴】→1～6まであり	(昭和38年)
き	93			久豊寺	昭和	[久豊寺入仏式案内]	(昭和38年)
き	94			久豊寺	昭和	[稚児行列参加案内]	(昭和38年)
き	95			久豊寺	昭和	[名刺一括]	
き	96			久豊寺	昭和	[久豊寺入仏式参列の件につき手紙]	(昭和38年)5月6日
き	97			久豊寺	明治	[曹洞末寺任命書](又は血脈書か)	明治14年7月8日
く				書籍		-1～53【書籍一括】→目録本編書籍等の項にあり	
け	1			尾崎家	家由	[尾崎家家譜]	(昭和38年以降)
け	2			久豊寺	其他	[久豊寺開基久豊墓碑拓本]	
け	3			久豊寺	其他	[久豊寺開基久豊墓碑裏面拓本]	
け	4			地土	紀州	覚(五月節句御用品納めを命じる)	丑ノ卯月27日
け	5			久豊寺	近世	御註文(御寿像壺体につき)	宝暦5年8月29日
け	6			尾崎家	其他	[南龍院様御先日丸指物由来他につき覚] *綴の中にあり	戊5月
け	7			尾崎家	其他	神道兵法九字大事 *綴櫃中にあり	寛永16年9月3日
こ	1			重光家		[鱒・塩曳送り状] *義総	12月15日
こ	2			重光家		[背腸(カ)二十桶送り状] *義総	8月23日
さ	1			彌太郎 家		[天野鮎鮎蜜柑札状] *豊臣秀吉朱印あり	卯月21日

凡例： ここには、尾崎家文書を整理番号順に配列した。はじめの「群名・番号・枝番1・枝番2」が本目録本編の「資料番号」である。その次の「項目」の欄は、目録本編での掲載項目(大項目)を示すもので、この欄に入りきらない項目名は、それぞれ初めの三文字のみを入れている(例：作成目＝作成目的別不確定文書 など)。同じく「項2」(項目2の略)の欄は、大きな項目中でさらに細かく分けた項目(小項目)を示している。「項2」欄も原則としては初めの二文字を入れているのだが、初めの二文字が他項目と同じになってしまう場合やわかりにくい場合などは、他の省略した言葉を入れている(例：他支＝その他支配関係、木伐＝春日境内木伐・普請、納米＝納払・御蔵米 など)

なお、この索引の「標題」「年月日」の項では、紙面の都合で内容表記を一部省略したり追加したりしており、目録本編の記載と同じではない。正確を期するためにも、文書資料の利用や他への掲載などに際しては、必ず目録本編の方の記述を確認され、そちらの記述でお使いいただきたい。本索引の記述は、あくまで利用を助けるためのものである。

尾崎家文書人名索引

人名	所属	資料番号	参考
あ行			
青木泉教坊・泉教	春日・根来同心	か138、き30、→せんきやう坊、→賀田泉教あり	神田村
青木又四郎	春日名主	か14、→鳥居村 又四郎あり	
青山丹後守幸通	幕	う9、	
赤桐隆	昭和	き95、	
赤庭二郎八	地?・藩?	う51、	
赤見新八	藩	え83、	元禄同14御勘定人
浅井九左衛門	藩	お52、	分
浅井清太夫	藩	き24、	分
朝倉孫八	藩?	え34、	
芦川権太夫	藩	お30、お56、お57、	元和年中六十人之頭
芦川甚五兵衛	藩	お30、お56、お57、	元和年中六十人之頭
且来村 庄屋 清右衛門	村	え13、お26-3、	
阿部善雄	昭和	お68、	水産庁資料整備委員、 名刺
海士代官・海士御代官中・ 海士郡代官所	藩	え27、え59、え64、お28、か65、か168、か180、 か183、か199、か211、→海士地代官あり、→ 御代官あり	
海士地代官	藩	え76、→海士代官あり、→御代官あり	寛文7年尾崎当主
天野七郎右衛門	地?・藩?	う59、	分
阿弥陀寺 亮山・阿弥陀 寺	徳道	か107、か170、	伊都郡高野領教良寺 村
新居次郎太夫	地?・藩?	う11、う57、え55、え56、え57、え72、	分で「荒井」なら郡 奉行
有田屋 甚兵衛	その他	か104、	
栗田明神	春日	う63、え23、え27、かの項全て	井田村
飯島五郎右衛門	藩	う22、う36、う42、う43、う59、え64、お28	分
家次	中世・春日番頭	か126、	
井口	春日番頭	お36、	
井口勘兵衛	春日番頭・六十	え6、お32、か17-2、か29、か31、か33、か88、 か89、か96、か97、か109、か110、か153、 か188、か196、き73、	井田村、お4による と享保年中出入後江 戸罷越端宅後賀田御 番所勤
井口勘兵衛	?	か119、	
井口善助	春日番頭	か74、か131、か133、	
井口善介	春日番頭?	か132、か143、	
井口善大夫	春日番頭・六十	お34、か136、か138、か142、	
井之口春逸	中世・春日番頭	う63、	文亀3
伊沢哲二	昭和	お68、	海南市歴史民俗資料 館館長、借用証
石川七右衛門・石河七右 衛門	藩	え48-3、-5、お26-1-4、	
石倉	春日番頭・地	お36、	地七、十番頭筆頭
石倉才若丸	中世・春日番頭	う63、	文亀3
石倉甚右衛門	春日番頭	か68、か82、	

人名	所 属	資料番号	参 考
和泉守	幕	え68、	故和泉守
猪谷伝兵衛	代官・地	え9、え28、え42、え56、	
井田 三之介(カ)	組?	え92、か127、	
井田村 勘右衛門	春日名主	か202、	
井田村 肝煎 半右衛門	肝煎	か171、	
井田村 肝煎 与右衛門	肝煎	か97、か170、か178、	
井田村 肝煎 与七郎	肝煎	か146、	
井田村 久右衛門	春日名主	か202、	
井田村 久三郎	春日?・肝煎	か75、か77、か145、か174、か176、か179、	
井田村 久大夫	春日名主	か59、	
井田村 久太郎後家	その他	か185、	
井田村 源太郎	その他	か185、	
井田 庄屋	村	か16-3、か167、	
井田村 庄屋 喜兵衛	庄屋	か152-4、か181、	
井田村 源助	庄屋・年寄	か171、か200、	
井田村 庄屋 佐左衛門	庄屋	か97、	
井田村 庄屋 新兵衛	庄屋	か206、き25、	
井田村 庄屋 甚九郎	庄屋	え38、か179、	小島次郎右衛門殿庄屋
井田村 新右衛門尉	春日名主	か143、	
井田村 新藏	春日名主	か52、	
井田村 次郎作	その他	か200、	
井田村 甚作	春日名主	か57、	
井田村 甚四郎・庄屋 甚四郎	春日名主・庄屋	え6、か30、か31、か36、か77、か83、か93、 か107、か145、か146、か149、か170、か174、 か178、か179、か185、か186、か200、か202、	小島次郎右衛門様御 給人井田村庄屋
井田村 仁助	その他	か176、	
井田村 甚之丞	春日名主	か202、	
井田村 甚六	村	え38、か174、か179、	証人のもの多い
井田村 善六	春日名主	か202、	
井田村 太次兵衛	その他	か184、	
井田村 長四郎	春日名主	か202、	
井田村 藤太夫	年寄・その他	か176、か185、	
井田村 半兵衛	その他	か119、	
井田村 又兵衛	春日名主	か202、	
市川善左衛門伴玄能 一牛斎	尾崎・馬場・地 中世・尾崎	お9、お50、 さ1(彌太郎家文書)、	尾崎家子息
逸見清兵衛	藩?地?	か159、	
井出弥八	藩	お26-1-8、	分
稲井	春日番頭	お36、か34、	
稲井健次郎	地	え3、	続
稲井左兵衛	春日番頭・六十	か50、か59、か90、か91、か92、	
稲井佐平	春日番頭	か74、	
稲井重兵衛	春日番頭	か57、	
稲井直次	中世・春日番頭	う63、	文亀3
稲井平二良	春日?	か118	鳥居浦
稲井与一右衛門	春日	え19、え29、	鳥居浦
稲井与平太	春日?	か117、か171、か191、	鳥居浦
稲井与兵衛	春日・番頭・六十	お34、か17-2、か61、か62、か63、か72、か82、 か88、か93、か94、か96、か102、か109、か110、 か114、か125、か135、か137、か153、か196、	番頭、迷惑一件

人名	所属	資料番号	参考
		き73、	
稲垣	春日？	お36、	
稲垣安兵衛	地	う21、え28、え42、え74、	分
井上武大夫	藩	え71、	井上預同心、分
妹背藤三郎	他	か24、	日方組
岩橋幾右衛門	藩	え16-2、お23、お44、お52、か96、	郡奉行
岩橋大学		き1、	
岩橋虎男	昭和	お68、	司法書士、名刺
植田長火夫	奉行？	え66、	
上山又右衛門		え96-1、	
打越藤左衛門	地・六十	え3、	
有徳院様	藩主	か66、か84、	5代徳川吉宗
宇野辺	春日番頭	お36、	
宇野辺猪左衛門	春日番頭	か12、か60、か136、か138、か139、か166、	
宇野辺和泉守貞久	春日・番頭	か213、	
宇野辺新三郎	春日番頭	か74、	
宇 新太郎（宇野辺新太郎）	春日	か58、か130、か131、	
宇野辺治兵衛	春日番頭	か134、	
宇野辺長兵衛	春日	か27、か73、	
宇野辺又三郎	春日番頭・地	お34、か17-2、か77、か88、か89、か110、 か153、か196、き73、	六十人外採用、中村
宇野辺与右衛門	春日番頭	か145、	
卯野辺善行	中世・春日番頭	う63、	文亀3
雲涯	久豊	き20、き44、き46、き76、	久豊寺僧・天保7年住、天保14追放
雲蓋院一代宗海僧正・五世宗海僧正	久豊	え100、お9、お48、き53、	延宝9
榮賢(黄原の事か)	金剛	か177、→黄原あり	金剛院住持・麻生津西脇村成菩提寺弟子
ゑひせうし	中世・永正	う27、う45、→永正寺あり	
永正寺	近世・永正	え16-6、え16-7、お35、(き20)、き62、→ゑひせうしあり	お4、き20にかかわり説明あり
ゑひそりす・ゑいさりす	中世・尾崎	→尾崎ゑいそりすへ	
追田久右衛門	春日名主	か14、→幡川村 久右衛門あり	幡川村か、追田の誤か
黄原	金剛	か164、→榮賢参照	金剛院住職へ・麻生津西脇村成菩提寺弟子
大久保四郎右衛門	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
大久保長門守教重	幕	う1、	若年寄教寛か
大藏 正家	中世	お40、	長束正家、近江水口領主鎌掛領主
大崎御番所	藩	お6、お26-1-3、外に家由緒関係にあり	
大沢善右衛門	藩	う34、	分
大庄屋・大仕や	組	か80、か88、か103、か145、か146、か147、 か151、か153、か155、か178、か197、か206、 き25、き53、	
太田二郎左衛門・次郎左衛門	地・六十	う21、え28、え42、え74、	大田村
大塚久左衛門	藩	え66、	分は御晴方

人名	所属	資料番号	参考
大塚清部(カ)右衛門		う52、	
大殿様	藩主	う57、	初代頼宣カ
大野十番頭衆	中世・春日番頭	え1、	
*大野中村〇〇		→中村 〇〇の項も参照せよ	
大野中村 猪左衛門	その他	か101、	
大野中村 肝煎 為右衛門	村	か64、か98、か111、か116、か117、か118、 か175、か191、	
大野中村 庄屋 惣四郎 (中村同)	庄屋	か64、か98、か111、か116、か117、か118、 か152-5、か175、か191、	
大野中村 庄屋 又右衛門	村	か21、か85、	
大野村 肝煎 甚七郎	村	か151、	
大野村 庄屋 安右衛門	庄屋	か151、→中村庄屋安右衛門、→安右衛門(村不明)あり	
大野庄 沙汰人中	春日	か134、	
大野茂右衛門	藩	え48-4、お26-1-4、	
大野弥七		え20、	
大原三位次男岡丸	その他	う6、	
小笠原主膳貞信	幕	う4、	
小笠原本右衛門	藩	え71、	
岡田吟介(カ)竹介(カ)		え61、	分は岡田段助ならあり
岡田二郎左衛門	組	え66、	分、大庄屋
岡田甚太夫	藩?	え34、	分
御勝手方	藩	え58、え62、え69、え98、	
岡部太郎兵衛	藩	う22、う43、う59、え65、お39、	分
岡部美濃守宣勝	幕	う14、	
岡村市太夫	地	え57、	分
岡本幾之丞	地・組	か85、き44、	文政8～天保13日方 組大庄屋・名高浦
岡本伊四郎	春日名主	か14、→中村 伊四郎あり	中村カ
岡本織之助		え27、	
岡本新十郎	組	か206、き25、	日方組大庄屋
岡本隆法	久豊・その他	き80、	高松寺住職
御勘定所	藩	う11、う19、う41、う51、う53、え28、え54、 え56、え60、え63、え70、え72、え73、え98、 お29、け4、	
御勘定奉行所・御勘定奉 行中・御勘定奉行	藩	う33、え27、え53-3、か199、	
荻野独園		お27、	相国寺大教正
奥李之助 弟重三郎	地・尾崎	お42、	高野山領上野村地土、 弟養子に望
御郡奉行	藩	→郡御奉行所へ	
尾崎浅之助	尾崎	え53-10、お46、お62、く41、	近世末～、久之丞伴
尾崎家継	中世・尾崎	う63、	文亀3
尾崎尾張守	尾崎	お2、お5、→尾張守あり	
尾崎久之丞	尾崎	う24、え8、え17、え21、え41、え45、え53-1 ～え53-9、え53-11～13、え98、お31、お37、 お45、お47、か19、か20、か24、か65、か78、 か155、か158、か168、か201、き23、き62、	近世後期～
尾崎駒右衛門	尾崎	う37、う39、う44、う54、き30、	

人名	所属	資料番号	参考
尾崎シヅ	尾崎	き96、	
尾崎治左衛門・次左衛門	尾崎	全て	大野十番頭、六十人者、春日番頭、分
尾崎重三郎・十三郎 秀家	尾崎	え10、え19、え29、え33、か74、か86、か91、か130、→十三郎あり	尾崎道悦の家督後次左衛門
尾崎甚助	尾崎	か193、	
尾崎徳玄・徳元	尾崎	お48、お54、え10、	次左衛門久豊再縁伴
尾崎豊親	尾崎	お15、	明治12年4月3日死去
尾崎豊久	尾崎	か3、か86、(え76か)、	
尾崎道悦	中世・尾崎	う27、う28、う29、う45、う46、	中世道悦は近世の久豊道悦とは別人
尾崎道悦(久豊)	近世・尾崎	え10、え33、き43、→尾崎久豊あり	中世道悦とは別人
尾崎道悦後家 御母人	尾崎	え10、え19、え29、	
尾崎久豊・治左衛門尉久豊・道悦久豊	尾崎	お4、お8、お12、か204、き4、→至聖院久豊道悦居士、→尾崎道悦あり	
尾崎秀夫	昭和・尾崎	お12、お13、お67、き78、(き80)、き85、き91、き92、き93、き96、	至聖山久豊寺代表(昭和再建者)
尾崎ふさ	明治・尾崎	お47、	西十太夫妻へ
尾崎弥介	中世・尾崎	う18、う27、う28、う29、う32、う45、う46、	中世尾崎道悦子息
尾崎喜信	昭和・尾崎	お25、	
尾崎あいそ(栄僧部)	中世・尾崎	う18、う28、う29、う32、う46、	中世尾崎弥介弟
納庄屋 加兵衛	納庄屋	か152-3、	
御仕入御役所	藩	お4、→評定所御仕入方あり	在黑江村
御地頭庄屋 勘四郎	庄屋	か151、	
御代官所・代官・御代官中	藩	う12、う47、う48、う56、う57、え1、え3、え5、え20、え21、え53-1、-2、-5、-7、-9、-12、-13、え55、え56、お9、お32、お50、お55、か16-1、か20、か23、か69、か71、か115、か123、か155、か206、き44-1、-2、き76、→海士郡御代官あり	
御扶持方・同 御蔵	藩	う58、う61、え42、え48-2、-3、-5、お26-1-3、お26-1-4、	
御目付中	藩	う21、え74、	
尾張守	中世	え1、え22、お49、こ1、こ2(こ=重光家文書)、→尾崎尾張守あり	畠山尾張守
か行			
かい	?	う31、	人名か?
懐装	その他	き97、	
海津一郎	昭和	お68、	名刺
海南警察署	昭和	き92、	
加右衛門	春日	か93、か132、→日方村加右衛門あり	
角太夫		え16-1、-3、え48-1、お26-1-4、	
蔭山土佐守	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
春日寺	春日	か117、か118、	
春日明神・春日大明神	春日	う63、え23、え27、き73、かの項全て	
片岡又右衛門	藩?、組?	え53-11、	
嘉大夫	春日名士	か64、→中村 嘉大夫あり	中村か?
賀田泉教・賀田村泉教	春日	え81、か61、か166、→青木泉教、→せんきゅう坊あり	

人名	所属	資料番号	参考
勝田七郎右衛門	藩・代官他	え20、え98、お66、か160-1、き20、き46、	
厩清軒	その他	う63、	
金谷桶之進		き28、	金谷村
金屋二郎左衛門・次郎左衛門	地	う21、え28、え42、	
金谷次郎左衛門	地？	え74、	金谷孫次郎子孫なら 地士
加納数馬	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
加納与次大夫	地？・藩？	う11、う33、	分
釜中六兵衛	その他	お63、	
上之宮・上宮	春日	か34、か37、か38、か68、か112、か122、き73、	春日社上之宮
亀井九郎兵衛	六十	お34、か189、	重根村
亀井幸助	明治	き47、	日方浦人、久豊寺売
亀井六左衛門		え53-3、	
掃部	春日番頭？	お36、	
河井刑部	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
川上屋文助		き21、	
川島伊八	地？・六十？	え61、	
川西貞一	昭和	き91、	
神田浦兼帯日方 庄屋 藤三郎	庄屋	き44-1、	
神田浦 新五郎頼母子	村	か93、か151、→神田村新五郎あり	
神田 健蔵	春日名主	か53、	
神田村 五平次	春日名主	か17-2、か28、か202、	
神田村 庄屋 仙助	庄屋	き3	
神田村 庄屋 善右衛門	庄屋	か83、	
神田村 庄屋 太郎右衛門	庄屋	え36、	
神田村 庄屋 弥七郎	庄屋	え36、	
神田村 新五郎	春日名主	か40、か42-1、か43、か76、か103、か148、	
神田村 甚之丞	春日名主・肝煎	か45、か47、か48、か49、か50、か77、か145、 か178、か202、き5、	
神田村 多右衛門	春日名主	か26、	
神田村 多左衛門	春日名主	か124、か128、	
神田村 太八郎	春日名主	か34、か202、	
神田村 平吉	春日名主	か32、か39、か151、か192、か202、	
神田村 又三郎	春日名主	え23、か51、か68、か108、か174、か179、	
神田村 理左衛門	春日名主	か27、き73	
神田村 利左衛門	春日名主	か41、	
関東学院大学	現代	お25、	
観音寺	春日	き73、→実厳参照	鳥居村
勘七	春日名主	か64、か105、	中村か？
喜久寿会	昭和	き90、	
岸和田伊兵衛	藩？	お52、	
岸和田源太夫	藩	え35、お26-1-1、お26-1-2、	分
喜三右	？	う31、	
北村 加右衛門	春日名主	か93、	
北村 久助	春日名主	か60、	
北村 形部左衛門	春日名主	か137、	
北村 新右衛門	春日名主	か133、	
北村 太左衛門	春日名主	か134、か139、	
北村 長五郎	春日名主	か136、	

人名	所属	資料番号	参考
北村 七左衛門	春日名主	か58、か74、か131、	
橋本村 庄屋 孫左衛門	庄屋	お26-1-3、	
衣笠久之丞	藩	え35、お26-1-1、	分
紀三井寺村 亀五郎	その他	え12、	
紀三井寺村 三右衛門	その他	か97、	僧教伝請け人
木村熊藏	藩?	か21、	
木村源吉	その他	か164、か177	黄原親
木村彦左衛門	藩?	う35、	
木村平右衛門	地	か117、か118、か171、か191、	木村平左衛門子孫なら60人だが?、続
久昌寺	現代・久豊	き82、	
久次	中世・春日番頭	か126、	
久太郎	春日名主	か142、	
久豊寺	久豊・尾崎	え88、お16、お20、お37、きの項全て、	神田浦
教伝	徳道	か97、	三井山龍本坊教意弟子、徳道院住持へ
キョソネ	明治	お19、	雇外国人
義運	金剛	か19、か21、か22、か160-1、か180、か183、	金剛院当住、天保14追放
義順	金剛	か161、	金剛院僧、文政7・同8
京銀奉行衆		え13、	
久世三右衛門	藩	う37、う39、う44、う54、	分は大番300石
久世助八	藩	う58、え80、え83、	え80・え83は御勘定人、分
久野三郎左衛門	藩	お30、お56、お57、	元和年中六十人之頭(尾崎属す)
久野左門		え98、	
久野月波守宗俊	藩	う15、う16、	紀州家老、慶安2～元禄3まで丹波守
久野八郎兵衛	藩?	う38、え57、	
公方様	幕	う4、う8、う14、う50、	
久保田茂兵衛	藩?	か21、	
久村甚之右衛門	藩?	う58、え80、	え80は御勘定人
倉橋三位	その他	う6、	陰陽道家
黒江村戸長役場・黒江町役場	近代・村	お14、お19、お21、	
黒江村 冷水屋 与助	その他	え19、え29、	
黒江村 庄屋 万四郎	庄屋	え37、	
黒江村 島居屋 六郎兵衛	春日名主他	え19、え29、か55、	
黒江村 平十郎	春日名主	か151、	
黒江村 六郎兵衛	春日名主	か1、か6、か9、か15、か16-1、か53、か54、か71、か112、(か120)、	
黒川村 庄九郎	その他	か160-1、	
黒崎兵一	昭和	き95、	
桑原角兵衛	藩?地?	か82、	
桑山五右衛門	藩・寺社奉行?	き4、き5、	
桑山与三右衛門	地?・藩?	え28、	分
恵運寺	久豊	お20、き2、き4、き12、き36、き41、き44、き45-1、き46、き51、き57、き61-1、-2、き71、き72、	近世久豊寺兼帯、明治久豊寺本寺・台併

人名	所属	資料番号	参考
桂岩	徳道	か77、か107、か145、か146、か170、	徳道院住持へ、高野山金光院祐慶弟子・日方村阿弥陀寺住持
恵暁	禅林	か21、き25、→両暁参照	禅林寺僧
見住環溪	その他	き97、	
県知事 清棲家教	明治	お18、	明治後期(36・6・29~40・1)
源次大夫	存目名主	か130、	
源兵衛	存目	お32、	井口越兵衛跡加願人
元肋(カ)和尚	?	き7	
元亨寺	現代・久豊	き82、	
源六様	藩主	え75、え76、	5代徳川吉宗
小池七郎太夫	藩	お26-1-3、お26-1-4、	分
香殿院様(殿様)	藩主	え76、お11、	9代徳川治貞
神前中務	地	う21、え28、え42、え74、	
神前半九郎	地	う21、え61、え74、	
宏天和尚・宏天長老	悲田	う2、う5、う10、き34、き74、	悲田院住持、泉涌寺96代住持
高野山 学侶		え14、	
郡御奉行所・御郡奉行	藩	う59、か72、か82、か89、か96、か102、か108、か109、か110、か114、か196、き43、き73、	
粉川九郎兵衛	藩	お26-1-4、	
数屋坊工	春日	か208、	
小雑貫村 喜右衛門	その他	か161、	
小島次郎右衛門	藩	え38、か186、	井田村給人
小関新左衛門	藩?地?	か79、か172、	分
児玉庄左衛門	藩	え35、お26-1-1、	
後藤幸重郎	藩	か66、	
小中村 又四郎	春日名主	か56、	
小中村 与平次	春日名主	か57、	
古範	久豊	き21、	久豊寺僧・文化11年現住
小橋英世	昭和	お68、	海南市史編纂室調査員
小林安太夫・安大夫	藩	う53、え56、え63、え70、え72、け4、	分は御賄頭
米方御役人	藩?	え78、	
金剛院	金剛	う12、え14、え26、え53-13、か17-1、か19、か20、か21、か22、か23、か24、か66、か68、か78、か98、か99、か104、か106、か108、か111、か116、か117、か123、か125、か158、か160-1、か161、か163、か164、か168、か169、か171、か173、か177、か180、か183、か192、か194、か196、か198、か199、か205、	春日社別当、大野中村三上山金剛院
近藤金次郎	藩?	え75、	
権右衛門	春日名主	か120、	幡川村・中村・神田村にいる誰か確定できず
権律師 宣雄		け7、	

人名	所属	資料番号	参考
さ行			
雑賀 惣搦中	中世	う26、	
雑賀栄十郎	地	え41、え45、	黒江村、続
在方役所	藩	え15、え69、え98、か156、	
斎藤勘左衛門	藩?・地?	え14、	
酒井左衛門尉忠寄	幕	う6、	在老中1749・9・28~1764・5・16
坂宗久老	春日番頭	え92、→坂本宗久あり	
坂部惣太夫		え98、	
坂本	春日番頭	お36、か32、	
坂本金太夫	春日番頭・地	お34、か34、か89、か99、か126、か149、か178、	六十人外採用、在鳥井村
坂本楠之丞	春日番頭	か88、か96、か109、か110、か153、か196、	
坂本五郎兵衛	春日番頭	え81、か61、か74、か90、か92、か101、か129、か135、か139、か140、か166、	
坂本継久	中世・春日番頭	う63、	文亀3
坂本宗久	春日番頭	か124、か128、→坂宗久あり	え92と年代同じ
左京様	藩主	う57、	西条藩初代頼純
佐津川勘六	奉行?	え66、	
佐藤進一	昭和	お68、	東京大学史料編纂所、名刺他
佐藤六左衛門	藩?	き44-1、	水野家家臣か?脇に水野様とあり
佐渡又兵衛	地?	う20、う42、	
佐之右衛門	春日名主	か145、	
佐野清右衛門	藩	お26-1-4、お26-1-9、	佐野預り同心、分
佐野忠右衛門	藩	お26-1-4、	
沢田右門好圓		き34、き74、	飛騨守家来か
三太郎	春日名主	か142、	
三七 信孝	中世	う26、	織田三七信孝
重家	中世・春日番頭	か126、	
寺社御奉行所・寺社御奉行・同奉行所・同奉行中	藩	う12、え5、え14、え26、え59、か16-1、か22、か24、か69、か71、か84、か98、か111、か116、か161、か162、か172、か180、か192、か206、か208、か211、き4、き24、き25、き29、き42、き44-1、き46、き72、	
寺社御役所・寺社方御役所	藩	か18、か64、か84、き24、	
至聖院久豊道悦居士	尾崎	け2	久豊寺開基
次太夫		え16-5、お26-1-6、お26-1-7、お26-1-8、お26-1-9、お26-1-10、	
実敬	金剛	う12、か183、→観音寺参照	神前村観音寺、金剛院留守居願
渋谷伯耆守	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
島吉太夫	藩	え80、	御勘定人
冷水村庄屋 次右衛門	村	お26-6、	
下之宮・下宮	春日	お24、か68、か71、か77、か145、か146、か149、か152-1、か178、か187、き73、	
下和佐伴右衛門	藩・代官	え21、え53-2、え53-5、え53-7、え53-8、え53-13、え53-15、え59、え98、か78、か163、	嘉永頃
釈迦寺	金剛	え14、か205、	

人名	所属	資料番号	参考
寂円	金剛	か22、(か19、か20、か24、)	金剛院当住、安政3入院か
重逸	中世・春日番頭	か126、	
十三郎	尾崎	け7→尾崎十三郎あり	
秀山	金剛・徳道	か195、	金剛院弟子・徳道院後住へ請待だが
秀全	金剛	か160-1、	春日隠居
常観・澁賀郡藤尾 常観	尾崎	え39、え40、	江州草津宿神宮寺
庄中	春日	か143、	
庄半右衛門	藩	え48-2、-5、お26-1-4、	分
成善提寺・浄菩提寺	金剛	か164、か177、	麻生津西脇村
鏡前 孫八		え71、	
勝鬘院 僧正 亨	寺	き40、	
庄屋 伊兵衛	庄屋	か187、	井田村か
庄屋 忠右衛門	庄屋	か152-1、	井田村か
真海	金剛	か21、	大野中村蓮花寺僧
(岡田村) 神宮寺	金剛	か78、か163、か168、	無住金剛院兼帯を願
(多田村) 神宮寺	金剛	か108、か192、	住持真龍を金剛院後住に願
神宮寺	金剛	か205、	
真性院		お3、か207、	藤白若一王子権現社別当(統風より)
新蔵	春日名主	か142、か152-2、か152-3、か152-5、	か152-3は「春日地支配人」
甚蔵	春日	か11、	
甚之右衛門	春日名主	か77、	
新之助様	藩主	う35、	5代徳川吉宗
真龍	金剛	か169、か192、か198、	金剛院後住へ・多田村神宮寺住持・安原明王院弟子、元文元
菅沢文左衛門	藩?・地?	え14、	
菅沼平兵衛	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
杉浦十郎太夫	藩	え13、	分
杉江武左衛門	藩?地?	か149、	
杉田一郎左衛門	藩	え71、	杉田預同心、分
須佐神社講中	尾崎	お61、お64、	
鈴木三之丞	藩	え83、	分
須田五兵衛	地?・藩?	え28、え42、	分
角岡仁左衛門	藩	え61、	分
静(教か)香庵		え38、	井田村庄屋甚九郎庵
静菴	永正	お35、	永正寺僧
千賀市左衛門	藩?	え54、	分
せんきやう坊	春日	か62、→青木泉教、→賀田泉教あり	
泉涌寺	悲田	う1、お44、	
泉良	金剛	か99、	金剛院当住、宝永5か
禅林寺	禅林	か16-1、か16-2、か21、か88、か89、か96、か109、か110、か126、か150、か153、か162、か182、か193、か196、か206、か212、き25、	中村春日明神之奥院 幡川村
窓養寺	現代・久豊	き82、	
相馬長門守勝胤(カ)	幕	う50、	

人名	所属	資料番号	参考
た行			
代官・代官所	藩	→御代官へ、→海士御代官へ	
大喜寺	尾崎	き29、き30、	鳥居村、尾崎先祖自庵、寛文12建直し願
泰原	金剛	か108、	金剛院後住へ・多田村神宮寺僧、天明7
泰正	明治・久豊	き23、	久豊寺僧・明治7年現住
大龍精舎	明治・久豊	き70、	日方浦池之谷、藤田姓開基、久豊寺に合併
大倫長老	悲田	き74、	悲田院住持、泉涌寺100代住持
高岡七兵衛正堅	藩?	う48、	分
高塚清右衛門	藩?地?	か201、	
高塚忠大夫	藩?地?	か154、か157、	
高橋与次左衛門	藩	う53、え63、え70、け4、	分は御暗頭
高松寺・住職岡本隆法	現代・久豊	き24、き80、き82、	
龍惣右衛門	藩	お26-1-4、	
龍本源三郎	藩	か208、か209、	寺社奉行伊達の吟味役
田口辨助	戸長	お63、	明治14
竹内弁五郎		え27、か199、	
竹中五郎兵衛	藩	お26-1-3、	
田左近右衛門(尉)	春日輪番	え92、か127、	田島か
田島	春日番頭	お24、お36、	
田島猪右衛門	春日番頭	か74、か129、	
田島堅次郎	春日番頭	か23、か52、	
田島丹右衛門		え51-1、か195、	
田島丹三郎	春日番頭	お32、か71、か180、	
田島藤三郎	春日番頭	え23、か51、か105、か108、	番頭当番
田島徳治郎	藩?春?	か150、	
田島秀家	中世・春日番頭	う63、	文亀3
多田村 藤兵衛	その他	か198、	
立川六郎兵衛度賢		き34、き74、	飛騨守家米か
立石六左衛門	藩	う19、う53、え56、え72、け4、	分
伊達源左衛門	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
伊達藤十郎	藩	か208、	藤二郎の誤記か?
伊達藤二郎	藩	き4、え59、か183、か209、	天保13寺社御吟味役
田所長太郎	藩?	え2、	
田所平左衛門	地・藩?	う21、う51、う55、え42、え61、え74、	初期は代官または郡奉行
田中清右衛門	藩?	う35、	
田中七左衛門	地?・藩?	え28、え42、	分
田中了敬	春日名主	→鳥居村 田中了敬へ	
太郎大夫	春日名主	か130、	
丹沢茂左衛門	藩	え71、	
治太夫		お26-1-5、	
中教院	久豊	き12、き17、き18、き49、き52、き69、	
忠次	中世・春日番頭	か126、	
長五郎	春日名主	か130、→北村と中村に長五郎あり	

人名	所属	資料番号	参考
長七様	藩主	う37、う39、う44、う54、(う58)、え76、	4代徳川頼職、う58の殿様は頼職
通玄	金剛	か106、	金剛院当住、享保6
次久	中世・春日番頭	か126、	
津田清兵衛	藩	え16-4、お26-1-2、	分
津村左太右衛門	藩	お26-1-3、	
出口宗四郎	地・組	え59、か155、き5、	弘化3～嘉永2日方組大庄屋、中村
山島 庄屋 二郎右衛門	庄屋	お26-5、	
寺崎与右衛門	藩?	え16-5、	
寺島孫右衛門	地?・藩?	え28、	分
寺島孫太郎	地?	え57、	
寺島六郎兵衛	藩?	え54、	
寺田八郎右衛門	藩・寺社奉行? 代官	う-12、え7、か182、き25、寺田八郎左衛門あり	大保後半頃の人
寺田八郎左衛門	藩	か16-1、か206、	八郎右衛門の誤記
伝四郎	春日	か62、→中村 伝四郎あり	中村か
道悦	中世	→尾崎道悦へ	
道慶	その他	お60、	
道元	その他	き97、	
東京大学史料編纂所	近現代	お68、	昭和25～27、借用・返却
道光	明治・久豊	き97、	久豊寺和尚
東使孫七	藩	う20、う42、	
洞照庵		う13、	人野庄中村、由良興国寺末寺
藤堂和泉守高敏	幕	き7	
土岐主税	代官	か123、	
徳道院	徳道	か16-1、か17-1、か68、か72、か97、か107、か121、か170、か182、か186、か195、か206、き25、	井田村、禅林寺末寺、粟田明神別当
得能弥五兵衛	藩	お42、	
得能良介	明治	お19、	大蔵大書記官
戸田一郎右衛門清方	藩	え11、	分は市郎右衛門
戸田金左衛門清方	藩・六十頭	え49、	
戸田十郎左衛門	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
戸田藤左衛門	藩?	う36、う42、う49、え64、	分
戸田山城守		お33、	
殿様	藩主	う42、う43、う58、お11、か70、	う58は9月8日死去の4代頼職
(豊臣秀吉:朱印)	中世	う64、き1(彌太郎家文書)、	
鳥居浦(村) 市大夫	春日名主	か41、か42-1、か44、か45、か48、か76、か103、か148、	
鳥居浦 木村平右衛門	地	→木村平右衛門へ	
鳥居浦 平次	春日名主	え23、	
鳥居浦(村) 又三郎	春日名主	か54、か68、	
鳥居浦 六郎兵衛	春日名主	か56、	
鳥居 喜大夫	春日名主	か132、か143、	
鳥居 田中	春日名主	か8、→鳥居村 田中増太夫・了敬あり	
鳥居村 楠大夫	春日名主	か202、	
鳥居村 源吉	春日名主	か50、	

人名	所属	資料番号	参考
鳥居村 小三郎	春日名主	か202、	
鳥居村 庄屋 五郎右衛門	庄屋	か83、	
鳥居村 次郎右衛門	春日名主	か34、か139、か178、(か192)、か202、	か192訂正前
鳥居村 二郎右衛門	春日名主	か60、	
鳥居村 甚右衛門	春日名主	か40、か43、か47、か49、か72、か102、	迷惑一件
鳥居村 善右衛門	春日名主	か27、か35、か77、か93、か174、か179、か202、	
鳥居村 宗左衛門	春日名主	か26、	
鳥居村 惣左衛門	春日名主	え81、か61、か133、か140、	
鳥居村 太五郎	春日名主	か32、	
鳥居村 田中増太夫	春日名主・帯刀人	か33、か52、	続は旧家帯刀人
鳥居村 田中了敬	春日名主	か2、か14、→鳥居 田中あり	増太夫子、医師
鳥居村 太郎五郎・庄屋 太郎五郎	春日名主・庄屋	か36、か37、か88、か117、か118、か145、か147、か153、か171、か202、	
鳥居村 太郎大夫	春日名主	か134、	
鳥居村 太郎兵衛	春日名主	か136、か138、	
鳥居村 長右衛門	春日名主	か38、か39、か94、か192、	
鳥居村 長三郎	春日名主	か58、か74、(か124、か128)、	
鳥居村 長兵衛	春日名主	え92、か59、か127、か131、	
鳥居村 平太郎	春日名主	え6、か31、か137、か202、→平太郎(村不明)	
鳥居村 増太夫	春日名主	か51、か108、	
鳥居村 亦三郎	春日名主	か161、	
鳥居村 又四郎	春日名主	か8、か10、→青木又四郎あり	
な行			
直次	中世・谷口番頭	か126、	
直行	中世・春日番頭	か126、	
永井伝太夫	藩	え83、	
永井播磨守直亮	幕	う2、	
永井飛騨守直期	幕	う10、	
永井飛騨守・飛騨守	幕	お38、き34、	悲山院檀家
永井飛騨守直政	幕	き8	
中尾善兵衛	藩	お34、か89、	
中川加兵衛	地?・藩?	う60、	
長坂小右衛門	藩?	お65、	分
長坂左大夫	地	え54、	分
長沢十左衛門	藩?組?	か79、か172、	
長沢湛麟	明治・久豊	き36、き39、き47、	羅漢寺住持
中島文吾	明治・久豊	き64、	
中野治兵衛	明治	き19、	
中平武左衛門	奉行?	え66、	
長丸	寺	き40、	尾崎息子か?、勝鬨院後住
*中村 ○○		→大野中村 ○○の項も参照せよ	
中村 伊四郎	春日名主	か8、か11、か71、→岡本伊四郎あり	岡本伊四郎か
中村 卯左衛門	春日	か175、	
中村 嘉次夫	春日名主	か105、→嘉次夫(村不明)あり	
中村喜内太夫	地・六十	う58、	楠本村
中村 肝煎 吉左衛門	肝煎	か147、	
中村 肝煎 五右衛門	肝煎	か99、	
中村 肝煎 権右衛門	肝煎	か21、か98、か111、か116、か118、	

人名	所属	資料番号	参考
中村 肝煎 庄大夫	肝煎	か125、	
中村 肝煎 甚七	肝煎	か147、	
中村 肝煎 伴藏	肝煎	か64、か175、か191、	
中村 肝煎 文三郎	肝煎	か125、	
中村 肝煎 又右衛門	肝煎	か99、	
中村 肝煎 由右衛門	肝煎	か76、か103、か148、か192、	
中村 九右衛門	春日名主	か134、	
中村 九郎右衛門	春日名主	か37、か88、か139、か147、か153、か202、	
中村 九郎兵衛	藩	き4、	
中村 権介	春日	か42-2、	
中村 左吉	春日名主	か131、	
中村 左助	春日名主	か27、	
中村 三郎兵衛	春日名主・年寄	か29、か33、か73、か138、	
中村 三五郎	春日名主	か58、か74、か202、	
中村 庄屋 吉右衛門	庄屋	か83、か147、	
中村 庄屋 久右衛門	庄屋	か188、	
中村 庄屋 甚右衛門	庄屋	か172、か192、	
中村 庄屋 甚七	村・春日名主	か76、か103、か105、	
中村 庄屋 政右衛門	庄屋	か125、	
中村 庄屋 安右衛門	庄屋	か80、か159、か197、→大野村庄屋安右衛門、 →安右衛門(村不明)あり	
中村 庄屋 柳右衛門	庄屋	か148、	
中村 四郎右衛門	春日名主・年寄	か30、か59、か73、	
中村 四郎左衛門	春日名主	か149、か178、	
中村 四郎兵衛	春日名主	え92、か127、	
中村 新藏	春日名主	か68、	
中村 治右衛門	?	か100、	
中村 次右衛門	?	か113、	
中村 甚五郎	春日名主	か202、	
中村 助三郎・肝煎 助三郎	春日名主・肝煎	か39、か40、か43、か76、か80、か103、か148、 か159、か192、か197、	
中村 浅左衛門	春日名主	か137、	
中村 善太夫	その他	か175、	
中村 善兵衛	春日名主	か94、	
中村 善六	春日名主	か42-1、か48、	
中村 長五郎		か94、→長五郎あり	
中村 伝右衛門	春日名主	か32、か202、	
中村 伝四郎	春日名主	か17-2、か28、か140、→伝四郎(村不明)あり	
中村 八兵衛	春日名主	か136、	
中村 半左衛門	春日	か42-2、	
中村 半太郎	春日名主	か10、か21、か38、か41、か56、か71、か80、 か93、か197、か202、	
中村 彦吉	春日名主	か51、か111、か116、	
中村 彦左衛門	春日名主	か133、	
中村 彦左衛門尉	春日名主	か143、	
中村 彦三郎	その他	え50、	
中村 七五郎	春日名主	か31、か60、	
中村 七兵衛	春日名主	え6、か31、か202、	
中村 七郎兵衛	地?	う38、	
中村 武兵衛	春日名主	か34、か98、か151、か202、	
中村 平次	春日名主	か64、か105、	

人名	所属	資料番号	参考
中村 平次郎	春日名主	か52、か53、	
中村 平三	春日名主	か132、	
中村 又吉	春日名主	か35、	
中村 又三郎	春日名主	か64、か105、	
中村 又十郎・中村庄屋 又十郎	春日名主	か26、か73、	
中村 又兵衛	春日名主	か49、か64、か105、か108、か202、→又兵衛 (村不明)あり	
中村 弥四郎・庄屋 弥 四郎	春日名主庄屋・ 肝煎	か1、か6、か9、か15、か21、か77、か99、 (か112)、か161、か202、	か112訂正
中村 弥介・弥助	春日名主	か36、か50、か145、か174、か179、か202、	
中村 安兵衛	春日名主	え81、か57、	
中村 要左衛門 (大野中村 同)	春日名主	か1、か2、か6、か9、か15、か16-1、か54、 (か120)、	
中村 用左衛門	春日名主	か112、	
中村 少九郎	春日名主	か124、か128、	
中山	春日番頭	お36、	
中山久兵衛	春日番頭	か137、	
中山二郎大夫	春日番頭?	か62、	
中山留五郎	尾崎	お45、	尾崎治左衛門件
中山久栄	春日番頭	か74、か141、	
中山久清	中世・春日番頭	う63、	文龜3
名高村 庄屋 太郎兵衛	庄屋	か83、	
名高村 庄屋 半六	庄屋	か83、	
夏目金兵衛	藩・郡奉行	お23、お44、お52、か96、	郡奉行、分
夏目次郎兵衛	藩・寺社奉行?	き24、	
成河三郎右衛門尉	中世	う28、う46、	
仁井田源一郎	藩?、組?	え53-4、え53-9、	
西十太夫・同 伴源之進	明治・地	お47、	高野寺領安良見村地 土
西村清左	藩?・組?	え57、	分は清左衛門
西山頼了	昭和・久豊	き71、	恵雲寺代表
西山与七郎	藩?	き4、	
女院様	宮	う47、	
丹羽郷左衛門	藩	う47、う49、う61、え55、	分
丹羽庄兵衛・丹 庄兵衛	藩	え2、か16-1、	
根来常蔵		え98、	
野田与大夫	藩?地?	か159、	
野中甚兵衛	藩?	え71、	
野中六右衛門	藩	お26-1-4、お26-1-6、	野中預同心、分
野村治兵衛	藩?地?	か149、	
野村七郎兵衛	地・藩?	う57、え57、	分
は 行			
孫亀五郎	藩?地?	か154、か157、か201、	
橋爪庄次郎	組・地	か98、か111、か116、か117、か118、か125、 か171、か175、か191、	宝曆3~明和5・天 明7~寛政3日方組 大庄屋
橋爪友三	その他	お3、か207、	
橋爪与惣右衛門	組・地	か77、か88、か99、か146、か147、か153、か1 70、か174、か178、か179、	宝永7~享保8日方 組大庄屋、代々独礼 格地主

人名	所属	資料番号	参考
橋本七兵衛	地?・藩?	う11、う33、う51、	日方浦か?、分
幡川 形部太夫	春日?	え81、	
幡川 甚右衛門尉	春日名主	え92、か127、	
幡河寺	春日	う30、	
幡川村 勘右衛門	春日名主	か40、か151、	
幡川村 勘七	春日名主	か51、か108、	
幡川村 喜左衛門	春日名主	か138、	
幡川村 久右衛門	春日名主	か1、か6、か8、か9、か15、か16-1、か35、 か41、か44、か45、か47、か50、か54、か55、 か93、か112、(か120)、か148、→追田久右衛門	追田久右衛門か
幡川村 九兵衛	春日名主	か30、き73、	
幡川村 九右衛門	春日名主	か57、か140、	
幡川村 小三郎	春日名主	か174、か179、	
幡川村 権右衛門	春日名主	か1、か2、か6、か9、か15、か16-1、か39、 か43、か46、か49、か52、か55、か68、か71、 か94、か112、か161、か192、	
幡川村 左衛門	春日名主	か134、	
幡川村 作十郎	春日名主	か31、	
幡川村 佐左衛門	春日名主	か42-1、か48、か76、か103、	
幡川村 左介	春日名主	か124、か128、か132、	
幡川村 左助	春日名主	え23、か139、	
幡川村 左次兵衛	春日名主	え50、か26、	
幡川村 左平次	春日名主	か1、か6、か9、か15、か55、	
幡川村 佐平次	春日名主	か16-1、か53、か112、(か120)、	
幡川村 庄右衛門	春日名主	か133、	
幡川村 庄右衛門尉	春日名主	か143、	
幡川村 庄屋 市之丞	庄屋	か16-1、か89、	
幡川村 庄屋 源之丞	庄屋	か104、	
幡川村 庄屋 甚助	庄屋	か83、	
幡川村 次郎兵衛	春日名主	か17-2、か28、	
幡川村 甚蔵	春日名主	か56、	
幡川村 清八郎	春日名主	か34、	
幡川村 長四郎	春日名主	か27、か29、か178、	
幡川村 長蔵	春日名主	か58、	
幡川村 長兵衛	春日名主	か74、か137、	
幡川村 半九郎	春日名主	か33、	
幡川村 又兵衛	春日名主	え50、か32、か36、か37、か38、か60、か80、 か88、か136、か147、か153、か197、	
幡川村 理作	春日名主	か131、	
幡川村 六兵衛	春日名主	か59、(か142)、	
波田作蔵	藩	え48-5、	
跋山	久豊	き10、き11、き24、き43、(き55)、き56、 (き60)、き66、	河州丈六寺隠居・高松寺先住→久豊寺開山に
服部与兵衛	藩	う19、う53、え56、え72、け4、	分
花房弥次右衛門	藩	う33、	分
馬場長右衛門	地・尾崎	お9、(お12)、お34、お48、お50、お53、	黒江村地土、尾崎次左衛門外曾祖父
馬場長右衛門後室妙蓮尼・長右衛門後家	地・尾崎	え37、き15、き26、(き27)、	
馬場徳玄	馬場・尾崎	お9、お50、	近江坂本山王権現社

人名	所属	資料番号	参考
			家、馬場長右衛門父
浜田(カ)莫之助	藩?	え53-10-1、	
浜田康	昭和	き95、	
林重兵衛	大庄屋	お34、か17-2、	貞享5～元禄11大庄屋
速水半右衛門	藩?	き28、	分
原磯三郎	地	え3	黒江村
春吉	中世・春日番頭	か126、藤田春吉あり	
春久	中世・春日番頭	か126、	
半田源太左衛門	藩	う38、	分
日方浦 肝煎 善四郎	肝煎	え32、	
日方浦 肝煎 長兵衛	肝煎	え37、	
日方浦戸長役場	近代・村	き32、き59、き68、	
日方浦 米屋 文助	その他	え19、え29、	
日方浦 庄屋	庄屋	え44、	
日方浦 庄屋 佐五吉	庄屋	き5、	神田村兼帯
日方浦 庄屋 惣右衛門	庄屋	え32、き3、	
日方浦 庄屋 太郎兵衛	庄屋	え37、	
日方浦 庄屋 又五郎	庄屋	か83、か173、	
日方浦 甚右衛門	春日名主	か46、	
日方浦 弁之助	春日名主	か44、	
日方浦 了閑	春日名主	か94、	
日方組 郷役所		え98、お47、	
日方村 嘉右衛門	春日名主	か29、	
日方村 加右衛門	春日名主	か33、か35、か140、か202、	
日方村 加平次	春日名主	か38、か80、か197、	
日方 清大夫	?	か101、	
日方村 彦三郎	春日名主	か37、か88、か147、か153、か202、	
光製綱所 馬田益雄	昭和	き95、	
日置十兵衛	藩?	え98、か154、か157、	
毘沙門住僧	金剛	か125、	金剛院後住へ、那賀郡森村
彦坂八郎右衛門	藩	う38、う57、え57、え64、お28、	
悲田院	悲田・尾崎	お44、き8、き34、き74、き75、	
悲田院見隆 台通	悲田・尾崎	お38、	尾崎子、悲田院住持、享保13没、天嶺台通座元
日根権八	藩?	お42、	
評定所・評定所 御仕入方	藩	う24、え27、え53-3、え67、お10、か199、	
平塚勘兵衛	藩	お26-1-3、	分
深津喜兵衛	藩	お26-1-5、	分
深美六兵衛	藩?	え48-4、	
藤田	春日番頭・地	お36、き70、	日方浦
藤田伊助		お37、	
藤田左衛門尉	中世・春日番頭?	え1、	
藤田春吉	中世・春日番頭	う63、	文龜3
藤田伴助	春日番頭・地	か69、か82、か152-4、	日方浦
藤田安次郎	春日番頭	え1、	風上記調
藤田与左衛門	春日番頭・日方浦大庄屋	か32、か38、か76、か79、か80、か87、か89、か98、か103、か148、か151、か172、か174、	日方浦、享保13～延享4大庄屋

人名	所属	資料番号	参考
		か179、か192、か197、	
藤田与次兵衛	藩	お26-1-7	
藤田六太夫・六夫	春日・地	お34、き73、	番頭・高野出兵
藤田六郎	春日番頭	か111、か116、	番頭
船尾浦 平十郎	春日名主	か46、	
奉行・奉行衆・奉行所	藩	え48、え66、か20、	
仏工 法橋友学	その他	え43、け5、	京都富小路通二条下ル町、1755年注文請ける
平太郎	春日名主	か62、→鳥居村 平太郎あり	鳥居村か
別所加右衛門	地・六十?	う21、え28、え42、え74、	別所嘉右衛門なら六十人
弁良	徳道	か206、	蓮花寺弟子徳道院留守居
法泉寺	現代・久豊	き82、	
鳳林蘭瑞納子	その他	お54、	
細川越中守宣紀・主税頭宣紀	幕	う5、き75、	き75は父越中の守死去
堀田相模守正亮	幕	う6、	在老中1745・11・13～1761・2・8
堀部松斎	藩	え48-2、-5、	分は堀辺正斎ならあり
本庄勘兵衛	藩?	う56、	
本多伯耆守正珍	幕	う6、	在老中1746・10・25～1758・9・2
本間彦十郎	地?・藩?	え28、え42、	分
ま行			
前田惣太	地?・六十?	え61、	
牧野佐渡守	幕	う14、	
牧野内膳	幕	う7、	兄康成か
牧野播磨守定成	幕	う7、	
正成	中世	え1、	楠木正成
又右衛門		え27、→大野中村庄屋又右衛門あり	
又四郎	春日名主	か11、→青木・小中村・鳥居村に各々あり	
又兵衛	春日名主	か62、か125、→中村 又兵衛あり、→幡川村 又兵衛あり	か125は名主、中村か
松尾善右衛門		え98、	
松尾藤蔵	藩・代官	え53-3、	
松代王子社	春日	え4、え5、か18、	
松平伊豆守	幕	う3、う4、う7、う8、う9、う14、う50、う62	
松平右近将監武元	幕	う6、	在老中1747・9・3～1779・7・25
松平下総守清武	幕	う8、	
松之丞	悲田・尾崎	お44、	尾崎子息悲田院弟子
松原村 庄屋 吉兵衛	村	え53-14、お26-2、	
松見斧次郎	藩?・組?	え53-1、え53-10、え53-12、	
松本正	昭和	き95、	
真鍋五郎右衛門		き24、	分
丸井三太夫		え38、	分
万念寺	永正・尾崎	き62、	永正寺末日方浦在を

人名	所属	資料番号	参考
			名手組上村江引寺再建願
三浦長門守	藩	え16-4、	
三上	春日番頭	お36、	
三上秀次	中世・春日番頭	う63、	文集3
三倉左太右衛門	地?・六十?	え61、	
三倉鎮雄		え94、	
巫 善吉母	春日	か87、	安原庄ノ者、春日巫願
水野源太	地?・六十?	え61、	
水野小三郎	地?・藩?	え28、え42、	分
水野様	藩	き44-1、	
水野様 御役所	藩	か95、	寺社奉行?
水野左門	尾崎	え10、	伏見宮様家臣水野左門、尾崎道悦養子家督後次左衛門と改がその後不縁
水野対馬守	藩・新宮藩主	う40、	対馬守は初代・3代・5代・7代・8代
水野平右衛門重之		う17、	
水野平之丞	藩?	う49、う61、え55、	分
三橋仁兵衛	藩	え48-1、	分
宮田徳松	昭和	お67、	植木屋借地
宮地一郎左衛門	藩	え28、	分
宮地三郎大夫	藩	え71、	宮地預同心
明王院	金剛	か169、か198、	安原法蓮山、金剛院住へ、真龍
妙智庵・明智庵	久豊	き28、き61-1、	小倉庄金谷村、観音堂を譲・久豊寺へ
向笠新八	藩?	お26-1-2	分
宗方佐次右衛門	藩?	え57、え73、お29、	分
村井喜右衛門	藩?	え2、か16-1、	
村井太兵衛	地・藩?	え28、え57、	分
村上□右衛門		え66、	
村垣与次左衛門	藩	え83、	元禄14御勘定人
村島清兵衛	藩?	う56、	
村本九大夫	奉行?	え66、	分は村井久大夫ならいる
毛利久左衛門	藩	お26-1-3、	分は九左衛門
基成	中世	え1、	崩山家老遊佐河内守基成
本渡村 庄屋 助大夫	庄屋	え78、	
茂兵衛	春日名主	か130、	
森角左衛門	藩	え71、	分
森川寅吉	明治・久豊	き47、	三葛村人、久豊寺宛
や行			
安右衛門	春日	か152-2・大野中村庄屋安右衛門あり	大野中村庄屋の安右衛門と同一か?
弥介	中世・尾崎	・尾崎弥介へ	
保田栄太郎	明治・村	え17、	明治6庄屋
保田毛右衛門	地	え3、	黒江村、統

人名	所属	資料番号	参考
柳原惣八	藩	え71、	
山口但馬守弘隆	幕	う3、	
山下藤右衛門	地?・藩?	う59、う61、	分
山城信国	刀	え93、	
山田伝八	藩	か89、	
山田村 庄屋 二郎三郎	庄屋	か188、	
山田村 庄屋 利右衛門	庄屋	か83、	
山中尊之助	藩	え53-3、	
山名八左衛門	藩	お30、お56、お57	元和年中六十人之頭
山葉仁右衛門		え66、	岡田二郎左衛門組
山本益嶺	明治・久豊	き36、	
山本庄太夫	藩	お26-1-10、	
山本滴(カ)太郎	明治・久豊	き54、	
山本伝左衛門	藩	う11、	
山本文嶺	近代・久豊	お20	明治後期惠運寺住職
山本隆道	久豊	き38、	徳蔵寺住職
山本鈴嶺	明治・久豊	き49、	
雄尊	金剛	か163、	金剛院後住へ願、嘉永3か
湯河左衛門大夫春定・左衛門尉春定・左衛門大輔春定	中世・土豪	う18、う27、う28、う29、う32、う45、う46、	
陽松庵 龍水・陽松庵	久豊	き10、き11、き16、き39、き63、	摂津豊島郡吉田、久豊寺禅宗にし跋山和尚開山へ
義総	中世	え22、お49、こ1、こ2 (こ=重光家文書)、	畠山義総
吉村七左衛門	藩?組?	か201、	
ら行			
羅漢寺	近現代・久豊	き36、き39、き47、(き63か)、き81、	
龍蔵	久豊	き46、	久豊寺住(雲涯後)
両暁	禅林	か206、→恵暁あり	恵暁の誤記か
了法寺	尾崎・馬場	き4、き15、き20、き26、き27、き72、	坂田村
林泉寺	現代・久豊	き82、	
蓮華寺	金剛	か160-1、	中村
わ行			
和歌山区裁判所黒江出張所	明治	お20、お64、	
和歌山県史編さん室	昭和	お68、	たんざく
和歌山県曹洞宗務支局	明治	き35、	
和歌山地方裁判所	昭和	き71、	
渡辺伝四郎	藩?	え16-4、	分は渡部伝四郎
和田与三右衛門	藩	え16-3、	分
読不明			
□浦 庄屋 甚右衛門	春日・庄屋	か93、	
□□□ 伊兵衛	春日	か160-2、	酒店か

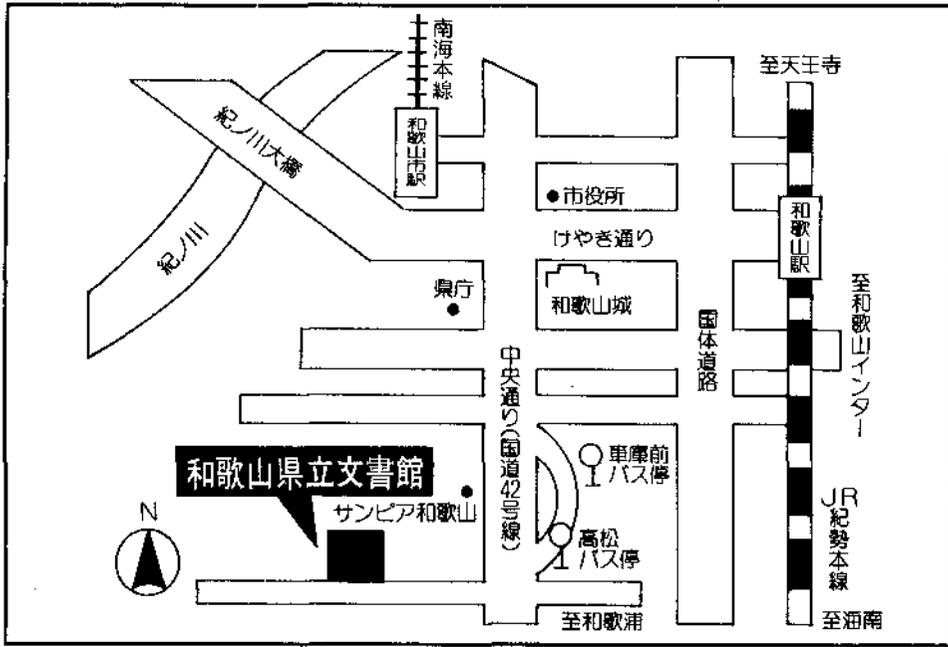
凡例： ここには、「尾崎家文書」に登場する人名を五十音順に配列した。ただし、姓のない人名（僧侶除く）は、姓のかわりに居住村名を名前の前に入れて配列している。姓も村名もわからない場合のみ名前だけで配列している（例：神田村平吉は「か」の項にあり）。

本索引には、標題・作成・宛名以外の部分（文章中等）に登場した人物名でも、編者が必要と考えたものは収録している。また逆に、不要と考えられるものは収録していない（例：家の系図や由緒書等に登場する人名・高野騒動時の帳面記載の人名〔人数が多くその帳面を見ればわかるものである〕など）。

「所属」の欄には、各人物が何に関係する存在かを、わかる範囲で記した。また、この欄で使用している用語は、1～4文字に省略しているので注意されたい（例：春日＝春日社関係、地＝地土、藩＝藩士や藩関係者、六十＝六十人者、馬場＝馬場長右衛門家関係、幕＝幕府関係、組＝日方組等組関係、永正＝永正寺、徳道＝徳道院、金剛＝金剛院、久豊＝久豊寺関係など）。

「参考」の欄で「分」とあるものは、『和歌山県史 近世史料一』掲載の「和歌山分限帳」（延宝5～6年頃）に記載されている人名であることを示している。同じく「統」は『紀伊国統風土記』に記載されているということである。

なお、文書中に居住村名が「大野中村」「中村」の両方出てくる人名は、便宜上どちらか一方の村名の項に入れた。「大野中村」もしくは「中村」の住人を検索される場合には、必ずこの両項をご覧ください。



〈利用案内〉

- ・古文書の一般利用は、原本保護のため、写真版またはマイクロフィルムとします。
- ・一般利用に供している資料は、写真版等から複写できます(有料)。
- ・どうしても原本の閲覧が必要な場合には特別閲覧制度があります。事前に、文書館所定の用紙に申請の目的など必要事項を記入し、捺印のうえ申請してください。
- ・利用の際に資料破損のおそれがある場合など、特別閲覧できないことがあります。
- ・資料原本からの複写は一切できません。

所在地

〒641-0051 和歌山市西高松一丁目三八

(TEL) 073-436-9540

開館時間

平日 午前10時～午後6時

土・日曜日 午前10時～午後5時(5月5日・11月3日を含む)

休館日

月曜日・国民の祝日(5月5日・11月3日)をのぞく

年末年始(12月28日～1月4日)

館内整理日(1月5日・2月から12月は月の初日)

特別整理期間(毎年6月中旬に1日間)

交通

和歌山バス高松バス停下車徒歩約三分

JR和歌山駅・南海電鉄和歌山市駅より約二〇分

収蔵史料目録五

丹生家文書目録

尾崎家文書目録

編集 和歌山県立文書館

発行 和歌山県

印刷 西岡総合印刷株式会社

平成十三年三月三十一日発行